

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第180集

滝 町 古 窯

2013

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛 知 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第180集

た き ち ょ う こ よ う
滝 町 古 窯

2013

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛 知 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

序

今回調査が行われた滝町古窯は、岡崎城などのある市街中心部からは少し離れた、北東部の丘陵地帯に入ったところに立地しています。矢作川の支流の一つである青木川が流れ、この谷筋に沿って集落がつくられてきました。ここにある天台宗瀧山寺は、保安年間（1120～1124）には史料に記録が残る古刹であり、現在でも2月の寒い時期、独特な様式を伝える「鬼祭り」の祭礼が行われる場所としてよく知られています。

岡崎方面からこの滝町へ向かうとまず、街道を跨ぐようにそびえる瀧山寺仁王門が姿を現します。室町時代の様式を伝える建造物であり、重要文化財に指定されています。そこから遺跡を左手に見つつ通り過ぎ、数百メートルほど進み山腹に向かうと、本尊薬師如来を祀る本堂と江戸時代初めに勧請された瀧山東照宮に辿り着きます。現在は静閑な山中にたたずむ旧跡といった趣ではありますが、かつて瀧山寺の寺勢が最も盛んであった時代には、伽藍の中心部はこれらのさらに奥まった処にあり、仁王門との間には数多くの子院塔頭が建ち並び、人々の行き交う賑やかな風景が広がっていたとも想像されます。

滝町古窯は江戸時代に操業した窯跡遺跡であり、当時の磁器焼成技術を検証する上で良好な資料が得られました。窯業とは全く縁のなかったこの土地が選ばれた理由には、やはり瀧山寺の存在が重要な意味をもつと考えられます。

このたびの調査では、地域の皆様とともに新たな知見を加える機会に恵まれました。こうした調査成果が今後も広く共有され、かつ様々な面で活用されることを期待しております。

最後に、調査および報告書作成におきまして協力をいただきました方々にはここに厚く御礼を申し上げます。

平成 25 年 3 月

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長 加藤 高明

例 言

1. 本書は愛知県岡崎市滝町地内に所在する滝町古窯(県遺跡番号 510330)の発掘調査報告書である。
2. 調査は急傾斜地崩壊対策事業に伴う事前調査として、愛知県建設部砂防課から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターが実施した。調査期間は平成 20 年 4 月から 10 月であり、調査面積は 400m²である。
3. 発掘調査は、公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター調査課 池本正明(調査研究専門員)、武部真木(調査研究主任)が担当し、株式会社アーキジオ、株式会社磯貝組、玉野総合コンサルタント株式会社の支援を受けて行った。
(株)アーキジオ 伊東孝次(現場代理人) 伊藤雅和(調査補助員)
(株)磯貝組 鈴木弘明
4. 調査にあたっては以下の諸氏、関係機関の協力を得た。
愛知県建設部 岡崎市教育委員会 愛知県教育委員会文化財保護室 愛知県埋蔵文化財調査センター 瀧山寺 山田亮盛 大久保正五 渡辺喜八郎 中根つゆ子 柴田義明
5. 調査・報告書の作成にあたっては以下の方々のご指導・ご助言を賜った。
青木 修 荒井信貴 井上喜久男 江崎 猛 岡本直久 金子健一 柴垣勇夫 高橋健太郎
竹内弘光 仲野泰裕 服部 郁 福岡猛志 藤澤良祐 松澤和人 森本伊知郎 山下峰司
6. 本書の執筆は、4 章を堀木真美子、その他および編集を武部真木が行った。
7. 報告書に関わる整理作業は、株式会社文化財サービスの支援を得て武部が担当し、平成 23 年 4 月から平成 24 年 2 月にかけて実施した。また、自然科学分析は、株式会社パレオ・ラボ、株式会社古澤地質に依頼した。なお、遺物写真撮影については有限会社 写真工房 遊に依頼した。
8. 出土遺物の登録については、本書図版の掲載番号を元に整理を行った。
9. 本書に示す座標値は国土交通省に定められた平面直角座標第 VII 系に準拠する。海拔表記は東京湾平均海面(T.P.)の数値である。表記は世界測地系を用いている。
10. 写真および図面などの調査記録については、公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターで保管している。
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 (0567-67-4163)
11. 出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 (0567-67-4161)

目 次

第1章 調査の概要

1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	2
3. 調査の経緯・経過	7

第2章 遺 構

1. 概要	9
2. 窯体および関連する遺構	10
3. その他の遺構	17

第3章 遺 物

1. 滝町古窯で焼成された磁器製品	18
2. 滝町古窯 磁器染付文様の分類	21
3. 磁器類の器種・器形と文様の関係	26
4. その他の滝町古窯焼成品	29
5. 窯道具と窯体部材	46
6. その他の出土遺物	64

第4章 自然科学分析

染付の呉須の分析	74
----------	----

第5章 総 括

1. 滝町古窯の焼成技術	87
2. 瀧山寺の関与について	91

[登録遺物一覧表](#)

[写真図版](#)

< CD-ROM 収納データ >

- ・ 報告書 PDF
- ・ 登録遺物一覧表
- ・ 調査・整理関連 画像データ

挿図 目次

図 1	遺跡の位置	1
図 2	岡崎城と朱印寺社の分布 (S=1/50,000)	3
図 3	瀧山寺鬼まつり	6
図 4	調査地点 (S=1/2,500)	7
図 5	調査区全体図 (S=1/200)	9
図 6	滝町古窯 窯体平面図 (S=1/50)	11
図 7	狭間 見通し図 (S=1/50)	12
図 8	滝町古窯 主軸方向断面 (j-j' ライン, S=1/50)	13
図 9	狭間柱部材の組合せ	14
図 10	物原 (001SX) 土層断面図 (S=1/50)	15
図 11	滝町古窯 遺構全体図 (S=1/100)	16
図 12	碗類・蓋の分類	20
図 13	染付文様のパターン (1)	22
図 14	染付文様のパターン (2)	23
図 15	磁器碗類・蓋の内面中央の文様	25
図 16	磁器碗類の外表面・内面文様の組み合わせ	28
図 17	滝町古窯焼成品 1 (S=1/3)	31
図 18	滝町古窯焼成品 2 (S=1/3)	32
図 19	滝町古窯焼成品 3 (S=1/3)	33
図 20	滝町古窯焼成品 4 (S=1/3)	34
図 21	滝町古窯焼成品 5 (S=1/3)	35
図 22	滝町古窯焼成品 6 (S=1/3)	36
図 23	滝町古窯焼成品 7 (S=1/3)	37
図 24	滝町古窯焼成品 8 (S=1/3)	38
図 25	滝町古窯焼成品 9 (S=1/3)	39
図 26	滝町古窯焼成品 10 (S=1/3)	40
図 27	滝町古窯焼成品 11 (S=1/3)	41
図 28	滝町古窯焼成品 12 (S=1/3)	42
図 29	滝町古窯焼成品 13 (S=1/3)	43
図 30	滝町古窯焼成品 14 (S=1/3)	44
図 31	滝町古窯焼成品 15 (S=1/3)	45
図 32	物原 (004SX) 出土の箱グレ	47
図 33	エブタの計測値分布	48
図 34	窯道具 1 (S=1/3)	50
図 35	窯道具 2 (S=1/3)	51

図 36	窯道具 3 (S=1/3)	52
図 37	窯道具 4 (S=1/3)	53
図 38	窯道具 5 (S=1/2)	54
図 39	窯道具 6 (S=1/3)	55
図 40	窯道具 7 (S=1/3)	56
図 41	窯道具 8 (S=1/3)	57
図 42	窯道具 9 (S=1/3)	58
図 43	窯道具 10 (S=1/3)	59
図 44	窯道具 11 (S=1/3)	60
図 45	窯道具 12 (S=1/3)	61
図 46	窯道具 13 (S=1/3)	62
図 47	窯道具 14 (S=1/3)	63
図 48	窯道具 14 (S=1/3)	64
図 49	窯道具 15 (S=1/3)	65
図 50	その他出土遺物 1 (S=1/3)	67
図 51	その他出土遺物 2 (S=1/3)	68
図 52	その他出土遺物 3 (S=1/3)	69
図 53	その他出土遺物 4 (S=1/3)	70
図 54	その他出土遺物 5 (S=1/3)	71
図 55	その他出土遺物 6 (S=1/3)	72
図 56	その他出土遺物 7 (S=1/3)	73
図 57	青色部における $\text{Mn}_2\text{O}_3\text{-CoO-Fe}_2\text{O}_3$ 図	84
図 58	経塚山南窯の試料と近代試料の $\text{Mn}_2\text{O}_3\text{-CoO-Fe}_2\text{O}_3$ 図	85
図 59	白色部における $\text{Al}_2\text{O}_3\text{-CaO-K}_2\text{O}$ 図	85
図 60	分析用資料 経塚山西窯・経塚山南窯出土品 (S = 1/3)	86
図 61	美濃市西南部古窯址群 近世末の連房式登窯	88
図 62	洗馬焼 和兵衛窯跡 (長野県塩尻市, 報告書図版を一部改変)	89

挿表 目次

表 1	瀧山寺関連年表 (1)	4
表 2	瀧山寺関連年表 (2)	5
表 3	外面の文様と器種 (器形) の関係	26
表 4	内面の文様と器種 (器形) の関係	27
表 5	文様 (外面・内面) の対応関係	27
表 6	試料一覧	74
表 7	試料断面の釉 (青色部分) で確認できた元素	75
表 8	試料断面の釉 (白色部分) で確認できた元素	76
表 9	試料表面の釉 (青色部分) で確認できた元素	77
表 10	試料表面の釉 (白色部分) で確認できた元素	78
表 11	試料断面 (素地部分) で確認できた元素	79
表 12	試料断面の釉 (青色部分) の組成値 (1)	80
表 13	試料断面の釉 (青色部分) の組成値 (2)	81
表 14	試料断面の釉 (白色部分) の化学組成 (1)	82
表 15	試料断面の釉 (白色部分) の化学組成 (2)	83
表 16	滝町古窯 窯体各房の計測値と特徴	87

第1章 調査の概要

1. 地理的環境

滝町古窯（たきちょうこよう）の所在する愛知県岡崎市は、県のほぼ中央に近い西三河地区にあり、地形は矢作川の流れる市域の西部を除くほとんどの地域が台地・丘陵地・山地に属する。市街地は主に沖積面である岡崎平野と矢作川左岸の段丘上にかけて発達している。また主要な交通路である東海道や岡崎城とその城下町は、安定した台地上を選地してつくられている。市域の広い範囲が領家花崗岩帯に属しており、良質の花崗岩を産出し、かつすぐれた加工を行う地域として知られている。

滝町は市街中心部から北東方向に5km程度の距離にあり、矢作川の支流の一つである青木川が西流する狭い盆地状の地形に集落が形成されている。この谷筋を通る道は、岡崎城下能見口から稲熊を通り滝に達する滝道、さらに東へは現在の豊田市下山方面を経て遠く鳳来寺へと通じる通称「大沼街道」があり、瀧山寺仁王門（国指定重要文化財）付近の県道脇には常夜灯の石塔が残っている。

遺跡はこの青木川右岸にあり、青木川の方へ南に張出した丘陵の先端部付近に立地している。窯体は標高は50m前後の西向き斜面を利用して築かれていた。



図1 遺跡の位置

2. 歴史的環境

滝の集落へ近づくとまもなく室町時代の建築である滝山寺仁王門が偉容を現す。瀧山寺門柱(石柱)は仁王門より青木川に沿って更に東へ約 600m の距離にあり、かつての間には数多くの子院塔頭が建ち並ぶ景観であったことが想像される。今回の調査地点はこの三門と本堂の間に位置している。ここでは瀧山寺の近世の動向を中心に記述していくことにする。

岡崎市域には朱印寺社が多く分布した(図 2)。瀧山寺は、滝・米河内両村に 612 石もの朱印寺領をもち、616 石の大樹寺(浄土宗)、352 石の真福寺(天台宗)、250 石の甲山寺(天台宗)などとともに岡崎藩内に広大な領地を有する大寺の一つであった。滝村は近世を通じて瀧山寺と曹洞宗万松寺の寺領(20 石)であった。万松寺は慈応山と号し、永享 12(1440)年創建とされる。

瀧山寺は山号を吉祥陀羅尼山きつしょうだらにさん、院号を薬樹王院やくじゅおういんとする天台宗延暦寺派の寺院である。鎌倉時代には熱田大宮司と足利氏との繋がりから、また江戸時代も東照宮造営などを背景に寺勢が最も盛んであった。それらは、運慶・湛慶作とされる瀧山寺観音菩薩、梵天、帝釈天の三尊仏(重要文化財)の存在と『瀧山寺縁起』(註 1)(以下『縁起』)をはじめとする中世・近世えんの史料(瀧山寺文書)などから知られている。この『縁起』によれば、寺の創建は天武天皇の御代に役行者小角おづぬが滝壺より薬師如来像を得て、その機縁により堂を建てた(吉祥寺)のが始まりとされている。その後、保安年間(1120～1124)に比叡山の僧仏泉上人えいぐ(永救)が荒廃していた瀧山寺を再建したことにより霊場として栄え、この中興の時に天台宗寺院となったと考えられている。

堂宇等の記録についてみると、本堂建立は保安 3 年(1122)が最初であり、仁平元年(1151)に東峰から中峰へ移転、三間四面のこけら葺きの堂とした。貞応元年(1222)にはさらに西峰へ移り、五間四面の桧皮葺きとなり、嘉禄元年(1225)に供養が行われている。現存する本堂は三間四面堂であり、禅宗様の特徴がみられることから南北朝期の建築と考えられている。仁王門(三門、惣門)は『縁起』に記述された時点で再建(三度目)を経ており、文永四年(1267)に建造、同七年に供養が執り行われたとある。正面に懸かる「瀧山寺」の扁額は裏面に「文永十二」年の銘が認められるものであり、現存する本堂・仁王門はそれぞれ明治 37,34 年に重要文化財に指定されている。

中世後半は衰退期であったためか記録は少なく詳細は不明である。『縁起』の「諸堂年記」によれば、天正 7 年(1579)に鐘楼堂と常行堂三間四面を再建とある。

近世最初の記録は、慶長 6 年(1601)伊奈備前黒印安堵状があり、瀧山寺は額田郡滝村内で寺領 412 石が与えられている。慶長 9 年(1604)米津清右衛門奉行検地「三州額田郡滝村内滝山寺領御検地帳」では、実際には不足分が生じていたとの記録が残る。家光朱印の発給は、寛永 18 年(1641)になってからである。

寛永 18 年(1641)に比叡山行学坊の住持であったりょうせい亮盛が瀧山寺住職となり青龍院と号した。江戸の東叡山寛永寺の開基、天海の弟子であった亮盛が瀧山寺へ迎えられたことにより寺は近世の隆盛期を迎える。正保元年(1644)寛永寺の塔頭のひとつとして「青龍院」が建てられた際にこちらの住持職も兼任となり、瀧山寺は寛永寺の末寺となっている。同年、将軍家光より徳川家菩提寺である大樹寺に東照宮造営の命が発せられたが、実際には大樹寺ではなく瀧山寺にて翌正保 2 年(1645)より造営が開始された。瀧山寺でもこれに併せて総修理が行われている。翌正保 3 年(1646)に青龍院亮盛が東照宮別当職となり、正遷宮、法会が営まれた。また東照宮御領として滝村と米河内村内で併せて 200 石が新たに加増され、寺領は合計 612 石となった。



- | | | | | | | | | |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|----------|
| 1 瀧山寺 | 5 信光明寺 | 9 松応寺 | 13 随念寺 | 17 満性寺 | 21 大林寺 | 25 上宮寺 | 29 岡崎城 | 33 八剣神社 |
| 2 万松寺 | 6 西林院 | 10 永泉寺 | 14 極楽寺 | 18 成就院 | 22 光明寺 | 26 大聖寺 | 30 能見神明 | 34 長瀬八幡宮 |
| 3 大樹寺 | 7 大円寺 | 11 甲山寺 | 15 大泉寺 | 19 龍海院 | 23 善国寺 | 27 松林寺 | 31 伊賀八幡宮 | 35 犬頭社 |
| 4 真福寺 | 8 観音寺 | 12 誓願寺 | 16 善立寺 | 20 安養院 | 24 妙源寺 | 28 浄珠院 | 32 鴨田天神 | 36 六所大明神 |
- (現在まで残るか、位置がほぼ比定できたもの)

図2 岡崎城と朱印寺社の分布 (S=1/50,000)

表 1 瀧山寺関連年表 (1)

年号	主なできごと・記録	◆瀧山寺 ○東照宮関連	◇瀧山寺周辺 ・その他
保安 3 (1122)	◇本堂建立, 檀那は物部朝臣伴氏の女 (市史 18)		
仁平元 (1151)	◇本堂中峰に移転再建, 檀那は熱田大宮司季範の子、従四位上内匠頭藤原範忠 (市史 18)		
貞応元 (1222)	◇本堂を西峰に移転再建, 三河守護左馬頭足利義氏 (市史 18)		
嘉禄元 (1225)	◇供養執行 (市史 18)		
建長 6 (1254)	◇本堂屋根葺替 (市史 18)		
文永 4 (1267)	◆瀧山寺惣門、柱立・棟上		
正安 3 (1301)	(瀧山寺縁起 最下限の年紀)		
天正 7 (1579)	◇鐘楼堂、常行堂を再建 (諸堂年記, 市史 18)		
慶長 6 (1601)	◆伊奈備前黒印安堵状, 寺領 412 石 (市史 3)		
慶長 9 (1604)	◆米津清右衛門奉行検地「三州額田郡滝村内滝山寺領御検地帳」では全体で 34 石不足 (市史 3, 滝山寺文書市史 6)		
慶長 13 (1608)	◇家康により山王七社が再建される (市史 18)		
寛永 2 (1625)	・家光, 寛永寺建立 (開基 天海)		
寛永 17 (1640)	◆瀧山寺領四百拾貳石之御朱印拝領頂戴仕候 (市史 8)		
寛永 18 (1641)	◆当寺領参河国額田郡滝村之内、四百拾貳石事、(市史 8) /9.27 朱印発給, 拝領高 412 石余 (市史 3)		
	◆比叡山行学坊の住持亮盛が亀井坊住職となり青龍院 (柳上坊) と号して学頭に (市史 3)		
	◆亀井坊・菩提坊の旧号を廃し新たに青龍院の称号に (市史 8)		
正保元 (1644)	・寛永寺に青龍院が建立され、亮盛が住持職を兼ねる (市史 3)		
	○家光、大老酒井讃岐守忠勝、老中阿部豊後守忠秋、老中阿部対馬守重次を召し大樹寺に東照宮造営を命じる『徳川実記』(市史 3)		
正保 2 (1645)	○竹中左京亮重常が造営奉行に任じられ、東照宮普請工事始まる (市史 3)		
	◆亮盛、家光より銀十枚を拝領 (市史 3)		
	◆東照宮造営に伴い総修復が行われる (市史 3)		
正保 3 (1646)	◆東照宮御領新加貳百石之御判物於御前、亮盛頂戴之仕候 (市史 8) / 御宮御勸請御由緒書 (市史 8) / 一 百七拾六石貳斗八合 滝村之内 一 貳拾三石七斗九升貳合 米河内村之内 (市史 8)		
	612 石余の配分は年中行事料 234 石, 修理工料 54 石, 学頭領 172 石, 寺僧配当領 149 石 (市史 3)		
	◆青龍院亮盛が別当職となる (市史 3), 寺社奉行上総国佐貫藩主松平出雲守勝隆が家光の名代として、品川内膳正高如が家綱の名代として代参し、正遷宮、法会が営まれた。		
	警固役は岡崎藩主水野観監物忠善 (市史 3)		
慶安元 (1648)	○銅灯籠刻銘 (市史 18)		
明暦 2 (1656)	◆瀧山寺薬師領滝村免状 (市史 8)		
寛文 4 (1664)	◆滝村・米河内村に寺領 (市史 7)		
寛文 10 (1670)	◆巡礼コース、三河三三観音のうち 20 番に滝山寺常心院の十一面観音 (享保期には整備されていた, 市史 3)		
寛文 11 (1671)	○修復の記録あり (市史 3)		

表 2 瀧山寺関連年表 (2)

年号	主なできごと・記録	◆瀧山寺 ○東照宮関連	◇瀧山寺周辺 ・その他
元禄 10 (1697)	○修復の記録あり (市史 3)		
元禄 11 (1698)	・綱吉、寛永寺根本中堂 (別名瑠璃殿) 建立、この頃最盛期		
元文元 (1736)	○修復の記録あり (市史 3)		
宝暦 11 (1761)	◇一 慶長十三戊申より宝暦十一年迄百六拾四年、山王七社、 征夷大將軍源家康公為御立願御成就、御建立、 一 正保二乙酉年より宝暦十一年迄百十七年、東照宮家光公御建立、其砌諸堂社御修覆、 (『瀧山寺諸堂年記覚』抜粋 市史 18)		
明和元 (1764)	○修復の記録あり (市史 3)		
安永 5 (1776)	◆天台宗瀧山寺分限帳 (市史 8)		
天明元 (1781)	○修復の記録あり (市史 3)		
寛政元 (1789)	◆滝村・米河内村に寺領 (市史 7)		
寛政 12 (1800)	○本殿金具墨書 (市史 18)、修復の記録あり (市史 3)		
文化 4 (1807)	◆瀧山寺領滝村幸七水車取立願 (市史 8)		
天保 4 (1833)	○瀧山寺東照宮棟札 (市史 18)、本殿金具墨書 (市史 18)、本殿懸魚墨書 (市史 18) 修復の記録あり (市史 3)		
天保 5 (1834)	◆滝村・米河内村に寺領 (市史 7)		
天保 8 (1837)	◆瀧山寺常心院領年貢勘定帳 (市史 8)		
明治元 (1868)	◆滝村 638.846 石・米河内村 35.041 石の寺領 (市史 7)		
明治 2 (1869)	◆岡崎藩からの通達 (五か条からなる、市史 3) により、地頭としての行政的権限が消滅		
明治 3 (1870)	◆瀧山寺領高 取納書上 (市史 8)		
明治 4 (1871)	・1. 寺社領上地令 / 10. 宗門人別帳の廃止		
明治 7 (1874)	・10. 甲山寺東門院廃寺 (東叡山内東門院住職が兼務、近世甲山寺一山を統括、市史 3)		
明治 8 (1875)	・6. 寺社領上地令		

* (市史) は『新編 岡崎市史』を、数字は巻次をしめす

その後の東照宮修復に関するものでは、寛文 11 年 (1671)、元禄 10 年 (1697)、元文元年 (1736)、明和元年 (1764)、天明元年 (1781)、寛政 12 年 (1800)、天保 4 年 (1833) の計 7 回の記録がみえ、天保四年の修復が記された棟札と本殿には紀年銘のある金具、懸魚が遺存している。

明治 2 年まず岡崎藩からの通達により行政的権限を消失、寺領を失った。現在残るのは本堂・仁王門・浄蓮院・観音堂・鐘楼のみである。

現在の瀧山寺は伝統的な祭り「鬼祭り」(県無形民俗文化財第 1 号) が行われる場所として著名である。これは旧暦元旦から 7 日間本堂にて行われる修正会の結願日、旧暦一月七日の晩に行われる。少なくとも近世以降は幕府の行事として続けられており、明治期に入り一旦断絶したものの明治 21 年の再開から以来現在まで継続している。祭礼の項目を進行の順に挙げると、行列・十二人衆の供応・仏前法会・鬼塚供養・庭祭り (田遊び祭り)・火祭りとなる (註 2)。

平成 23 年の「鬼祭り」は 2 月 12 日（土）に行われた。午後 3 時を過ぎた頃に仁王門より瀧山寺に向かって行列が進みはじめる（下写真 1,2）。本堂にて天下太平・五穀豊穰を祈年する法要、境内での祭礼などを経て、午後 7 時半頃東次郎・西次郎の薙刀の合図と共に、本堂縁を祖父面・祖母面・孫面の三鬼と松明が巡る祭りのクライマックスを迎える（下写真 4）。本報告との関連で特に注目したいのは、祭礼最初の行列の場である。これは仁王門において江戸（寛永寺）からの使者を迎えるという形をとっており、寺領支配の一環として田遊び・鬼祭りが執り行われたという指摘もなされている（註 3）。祭りの度に学頭（上野寛永寺青龍院）が絶えず意識されていた、そのような情景が想像される。

【註・参考文献】

（註 1）成立は 14 世紀初頭、鎌倉時代末期か。現存するものは寛永 20 年（1642）常心坊円海が写した「円海本」で内容は正安 3 年（1301）を縁起中の再下限の年紀とする。瀧山寺草創説話、諸堂・諸社の修造の記録、温室番帳の構成からなる。（『新編 岡崎市史 2』中世）

（註 2）蓬左文庫所蔵「瀧山寺^{じんじつ}人日法会記」に天明 2 年（1782）の祭礼の様子を伝える記事がある。祭りの概要に関して大きな変化はなく、現在まで概ね踏襲されてきている。（『新編 岡崎市史 12 民俗』）

（註 3）第 3 編 第 4 章 第 1 節 瀧山寺の田遊び（『新編 岡崎市史 12 民俗』）

1981, 『日本歴史地名体系 愛知県の地名』平凡社

1989, 『新編 岡崎市史 2 中世』 1992, 『新編 岡崎市史 3 近世』

1983, 『新編 岡崎市史 7 史料 近世上』 1985, 『新編 岡崎市史 8 史料 近世下』

1988, 『新編 岡崎市史 12 民俗』 1983, 『新編 岡崎市史 18 建造物』

1993, 『新編 岡崎市史 20 総集編』



図 3 瀧山寺鬼まつり（平成 23 年 2 月 11 日 柴田義明氏撮影）

3. 調査の経緯・経過

調査は、急傾斜地崩壊対策事業に伴う事前調査として、愛知県建設部砂防課から愛知県教育委員会を通じて委託を受けて行った。調査期間は平成 20 年 4 月～7 月と 8 月～10 月、調査面積は 400㎡である。

試掘調査では周辺に大量の窯道具類の散布が認められたものの窯体は確認されず、遺構は既に滅失したとの認識であった。そのため当初計画では捨て場である物原の調査を主な目標とした。調査を開始してまもなく狭小な調査範囲内の予想外の位置に窯体が遺存することが判明した。窯体の遺存状態や立地環境等を考慮して重要な資料となることが予測されたこともあり、全体を一括して調査する必要が認められた。その後は各関係機関の連携により早急に事業計画の修正が行われ、物原周辺部に続き窯体も含めて発掘調査を完了することができた。

結果的には異なる体制で 2 段階に分けて調査を実施した。まず初めに（株）アーキジオの支援を受けて物原を中心とした範囲について、後半は（株）磯貝組および（株）玉野コンサルの支援をうけて窯体部分の調査を行った。

調査日誌抄

5 月 19 日

- ・物原部分より遺構検出を開始する。
- ・中根薫岡崎市議来訪。

5 月 28 日

- ・「木田」刻書のある匣鉢が出土。

6 月 5 日

- ・「栗田」刻書のあるエブタが出土。

6 月 6 日

- ・物原検出レベルで窯体の一部を確認。

6 月 9 日

- ・窯体の検出部分は胴木間であることが判明。
- ・遺物洗浄作業中に「せと画」の文字のある色見片が出土。

6 月 12 日

- ・洗浄作業で人面刻画のエブタみつかる。

6 月 13 日

- ・東海愛知新聞社（大津氏）、中日新聞社（中野氏）取材来訪。

6 月 15 日（日）

- ・藤澤良祐氏（愛知学院大学）調査指導・遺物鑑定。
- ・「月方画」刻書のエブタが出土。



図 4 調査地点 (S=1/2,500)

6月17日

- ・井上喜久男氏（愛知県陶磁資料館）来訪。
- ・「東叡山…」刻書エブタが出土。

6月18日

- ・仲野泰裕氏（愛知県陶磁資料館）来訪。

6月24日

- ・ラジコンヘリにて全景撮影。

6月29日

- ・現場付近の集会所にて成果報告会。（参加者 60 名）

7月2日

- ・現場を一旦埋め戻し、終了する。

8月19日

- ・調査を再開し、石垣の撤去にとりかかる。

8月20日

- ・石垣の裏側に窯体の一部（狭間柱）を確認する。

8月21日

- ・ベルトコンベアーを設置し、排土を場外へ搬出する。

8月28日

- ・突然の集中豪雨により午前中に作業を中止する。

8月29日

- ・岡崎市全世帯に避難勧告
（岡崎豪雨「平成 20 年 8 月末豪雨」）

9月5日

- ・仲野泰裕氏（愛知県陶磁資料館）調査指導・遺物鑑定。

9月5日

- ・井上喜久男氏（愛知県陶磁資料館）調査指導・遺物鑑定。

9月8日

- ・窯体を完掘し、写真撮影を行う。

9月11日

- ・ラジコンヘリにて全景撮影。

前半の調査を終了したのち、6月29日に成果報告会を開催した。安全等を考慮して調査地点の公開は見合わせ、その代わりに常磐学区市民ホーム 2F を会場としてスライドの上映、写真パネルと出土遺物の展示などを行った。参加は 60 名であった。

出土遺物は、試掘調査において採集された分と合わせて 27 ℓ コンテナにして 538 箱となった。

報告書作成のための整理作業は武部が管理・担当した。期間は平成 23 年 4 月～平成 24 年 2 月である。自然科学分析は、株式会社パレオ・ラボ、株式会社 古澤地質に依頼した。陶磁器などの遺物の実測・トレースは株式会社 文化財サービスに委託して行った。また、遺物の写真撮影は有限会社写真工房 遊に依頼した。



（前半調査協力）小林恵津子 宮下美和子 福井米子 小林幸子 柴田義明 中根秀子 渡辺和子 颯田江理子 山本晃己
尾崎 操 長坂 進 柴田 壇 三城五男 木村和彦 宮本 齊 宇野秀夫 伊東孝次 伊藤雅和 近藤弘記
（後半調査協力）鈴木弘明 新家 章 角 正則 大沢 潤 坂本正浩 山本裕紀 吐合隆喜 上銘秀雄 那須昌俊 小沢幸雄
児玉五市

第2章 遺 構

1. 概要

調査前の現況地形は、丘陵の西向き斜面に形成された2段の平坦面と尾根へとつながる傾斜地からなる。下位の平坦面の形状は概ね長方形であり面積は約90㎡、調査直前には畑として利用されていた。西側に隣接する民家の地表面とは約2.6mの比高差があり、西縁と北縁の斜面は石垣で覆われている。こちらの石垣は安全に考慮し現状を維持する形で調査区を設定することになった。上位の平坦面は約80㎡の面積があり、下位の平坦面との比高差は約3.8mを測る。両者の間の斜面は石垣で覆われていたが、内部に窯体の遺存が確認されたことから除去して調査を行うことになった。平坦面の北と東側は花崗岩の岩盤が切立った壁面をなし、南側は民家敷地の形状に削平された斜面となっている。調査区より北東方向、弘願寺の北側となる尾根上は墓地となっており、近世瀧山寺の歴代の無縫塔が並ぶ。上位平坦面の南端付近は参道として利用されていた。

検出された主な遺構は、窯体1基（007SY）とこれに関連する遺物集積層5カ所、近代以降の土坑などである。ここでは窯体および関連する遺構を中心に記述する。その他の遺構については主なものを補足的に記すにとどめる。



図5 調査区全体図（S=1/200）

2. 窯体および関連する遺構

【窯体 007SY】

検出された窯体は横室型縦狭間構造をもつ連房式登窯 1 基である。主軸方向 N-69-E, 西向きの窯である。平面形は後方に向かって扇形に横幅の広がる形状であり、基盤層である花崗岩を階段状に造成してつくられている。主軸方向の残存長は 11.0m、検出範囲での最大幅は 4.1m、焚口と最上段の床面との比高差は 3.9m を測る。天井部は崩落して遺存しておらず、一部の側壁の下部と胴木間・捨間と 6 房の焼成室床面を検出しており、滅失した二の間を復元すると最大 7 房の焼成室をもち、最大幅約 5.5m 程の規模であったと推定される。狭間穴の幅は 20cm 前後であり、狭間柱は幅約 15cm の直方体あるいは立方体のレンガ（箱グレ）を積み上げたものであり、横一列にほぼ等間隔に配列される。側壁と窯壁は小口積みしたニギリグレを芯材にしてその上に粘土を貼りつけ築かれている。

出入口は窯体の左側にあり、物原も左前方にかけて広がることが確認された。

窯体前方は既に削平されており、前庭部などは不明である。また窯体後方の煙道部（コクド）の構造についても明瞭に捉えることはできなかった。

1) 焚口

調査区西壁にかかり、窯体内側で確認した。燃焼室の正面に 1 カ所あり幅は約 50cm である。ニギリグレが充填された閉塞の状態で検出した。

2) 胴木間（燃焼室）

焚口から後方狭間穴奥までの距離は 1.6m を測る。床面の勾配は胴木間が最も大きく、28 度を測る。床面は側壁側が高く中央にかけて若干下がる曲面をなし、焚口に近い側の床面は 1.5×0.8m、深さ 20cm 程度が大きく破壊されており、分焰柱の有無は不明である。後方の床表面は凸凹の少ない平坦な状態を保ち、厚さ約 3.0cm の部分は黒色で特に硬く焼き締まっている。奥壁の狭間穴は 6 個あり、狭間穴内の床面は水平から直角に折れるのではなく、胴木間床面の傾斜から連続するように曲面で斜めに立ち上がっている。

3) 捨間

内幅は 2.2m、奥行（前方狭間穴の後ろから後方狭間柱前までの距離）は狭く 45cm である。検出された床面は完全な水平ではなく若干前傾がみられる。狭間穴は推定 6 個であり、狭間穴内部の床面は水平で、奥でほぼ直角に立ち上がる。残存する部分の表面に付着物は比較的少なく、黒色～暗灰色に硬く焼き締まっている。床断面では厚さ 3.0cm 程度の白色砂粒の堆積を確認した。基盤層の風化花崗岩と比べても粒子が非常に細かく、掘削時には一部が塊状となる部分も認められた。砂床として選択的に用いられた素材と思われる。この白色砂粒を分析した結果、長石類の組成に特徴のある土壌であることが分かった（註 1）。

4) 一の間

横方向に砂質の基盤層が赤く変色している範囲があり、その上面で白色の砂が多く入る凹みを狭間穴の痕跡とした。6 カ所を確認しており、推定で奥行は約 50cm 程度、両側壁の復元位置から本来の狭間穴の数は 7 個と考えられる。

5) 二の間

全体が滅失しており不明。

6) 三の間

石垣構築の際に前方は大きく破壊されていたが、床面後方から狭間にかけての部分が遺存していた。

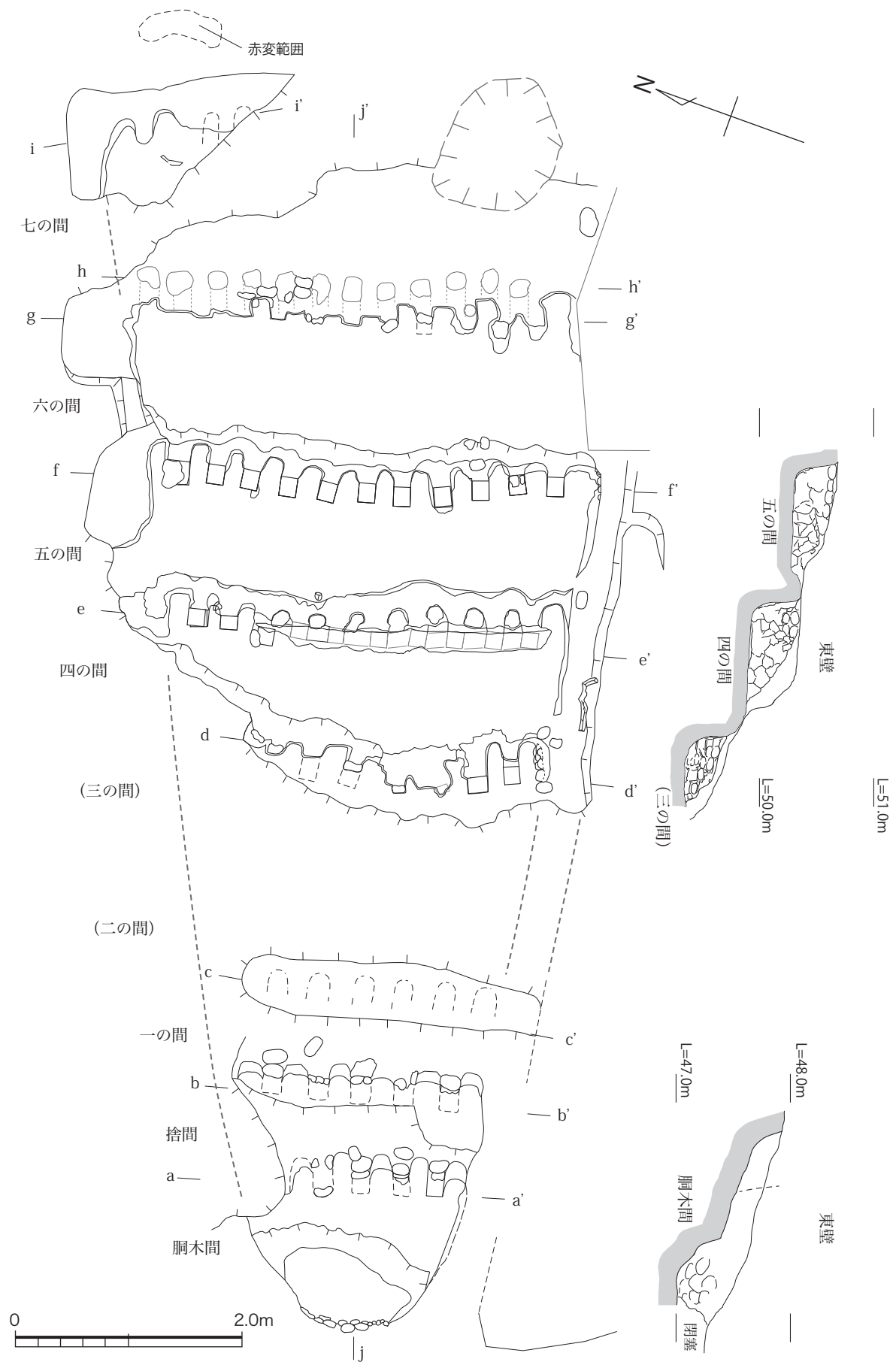


図6 滝町古窯 窯体平面図 (S=1/50)

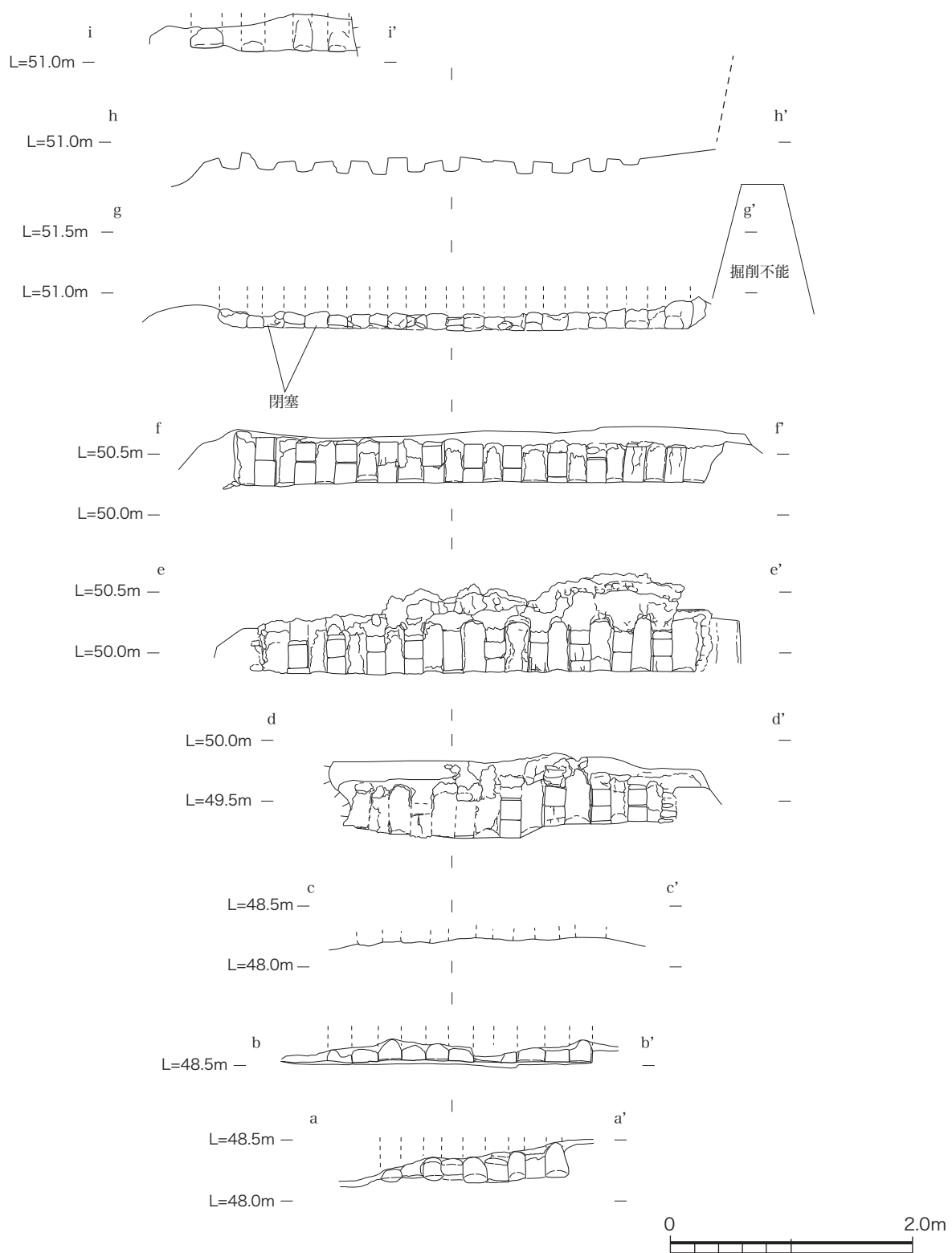


図7 狭間 見通し図 (S=1/50)

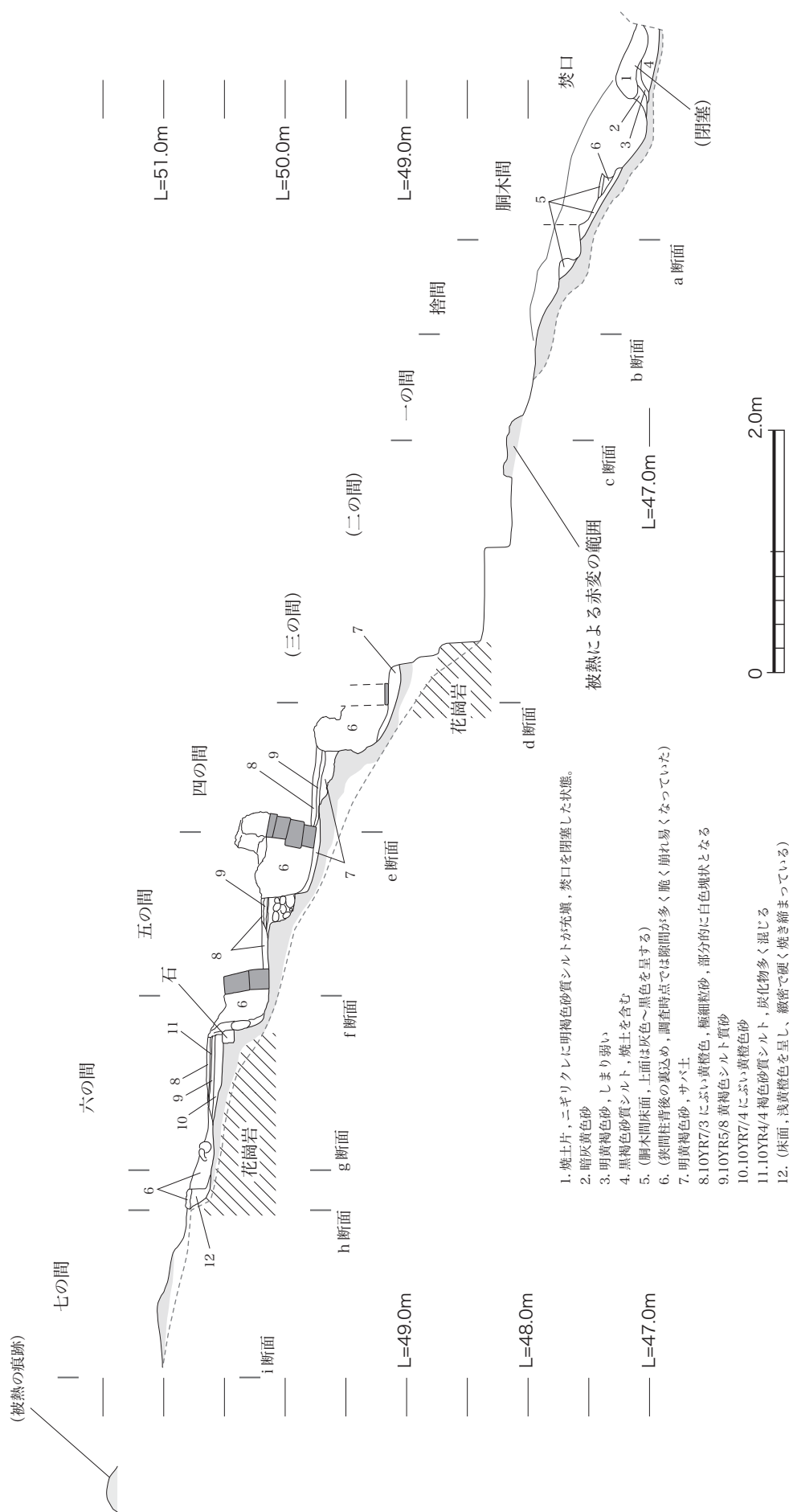


図 8 滝町古窯 主軸方向断面 (j-j' ライン, S=1/50)

奥壁の狭間穴は8個以上と推定される。床面には白色砂粒の堆積が認められた。

7) 四の間

内幅 3.6m、奥行約 80 ～ 85cm を測る。奥壁の狭間穴は 11 個あり、狭間上部に窯壁の一部が残る。三の間奥壁の狭間穴より後方では、床面のほぼ全体に白色砂粒の堆積が認められた。断面では狭間穴の位置を前方に改造した改築の痕跡が認められる。

8) 五の間

内幅 4.0m、外幅 4.7m、奥行 90 ～ 95cm を測る。左手前の側壁が途切れているのが確認でき、出入口と思われる。奥壁の狭間穴は 12 個。床表面には白色砂粒の堆積が認められた。左側壁の厚さは床面付近で最大約 50cm である。

9) 六の間

奥行は約 115cm である。奥壁の狭間穴改築が認められ、2 時期の形態が確認できた。改築前の狭間穴は 14 個以上、最終段階は 13 個以上と推定される。狭間柱レンガは他の房のものよりも小型となっており規格が異なる。また他の房の狭間穴内部は多くが黒く煤けていたが、ここでは付着部はほとんどみられず赤褐色を呈している。床表面には白色砂粒の堆積が認められた。断面でも複数の床面が認められた。左側壁の厚さは床面付近で最大約 60cm である。

10) 七の間

左後方の側壁と狭間穴の痕跡を確認した。奥行は約 100cm と推定される。

11) その他

七の間の後方のやや高い位置で基盤層が熱を受け赤く変色している範囲を確認している。

狭間柱の遺存状況の良い部分について、柱材の構成を記録した。図 9 は検出状況での観察である。その後破損したものの再利用品が随所に確認でき、高さについての規格はさほど整ったものではない

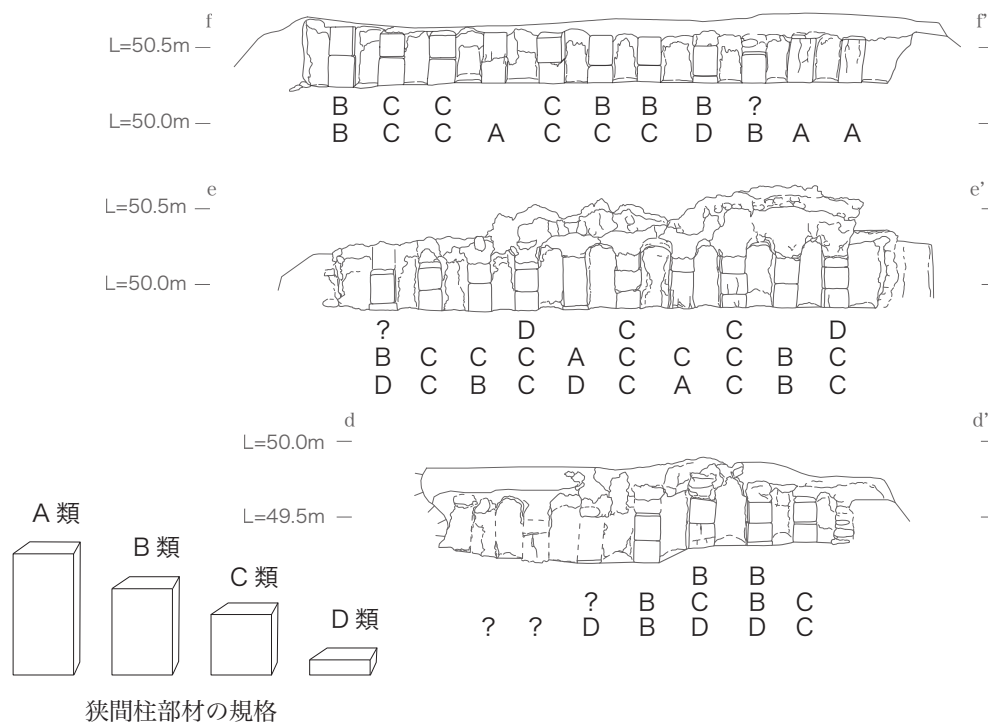


図 9 狭間柱部材の組合せ

ことが分かった。

A 類；高さ 30cm 以上の直方体

B 類；高さ 18 ～ 20cm 程度のもので、幅＜高さの直方体

C 類；高さ 15.0cm 前後のもので、幅＝高さの立方体

D 類；高さ 5.0cm 以下のもので、幅＞高さの板状直方体、破損品など転用したもの

【物原 001SX】

下位平坦面、窯体焚口からみて左手に位置する範囲でとらえた物原の一部である。東側は花崗岩の岩盤が壁面をなし、西側は現在の民家の方へ傾斜しているが底面は確認できていない。ほとんど土を含まない窯道具類からなる堆積層であり、安全面を考慮して東西 2.8m、南北 4.5m、検出面から 2.4m の深さまでの範囲で調査を行った。東西方向の断面でみる限りでは下方ほど堆積層は大きく西へ傾き、堆積層の上位ほど水平に近づいてゆく傾向が認められる。検出面から約 40cm までは土で覆われた整地層があり、そのすぐ下は破片の大きい匣鉢を主体とした厚さ約 50cm 程度の水平に近い堆積(no.2 層)が認められる。更にその下 no.3 層は土をやや多く含む細かく砕かれた窯道具類の斜行堆積が認められ、確認された範囲では厚さ 55cm を測る。その下の no.4 層はまた窯道具類で構成される堆積物となっている。no.3 層、no.4 層とでは堆積物の内容が大きく異なり、断絶が生じるような何らかの工程があったと考えられる。

下位平坦面で遺物を大量に含む整地層と物原の一部を 006SX として取り扱った。胴木間のすぐ北側にかけての範囲である。

【通路および作業場の遺構 004SX・005SX・008SU とピット (010SK,011SK,013SK)】

004SX は上位の平坦面西縁付近で窯体の北側に当たる範囲とした。基盤層の岩盤は西に傾斜しているため、窯体を覆う整地層は厚いところで 1.0m 程度となった。窯体北側の側壁に近い位置の最下層で、それぞれ厚さ 20cm 程度の炭化物と焼土層が認められた。窯体の出入口付近であることを示

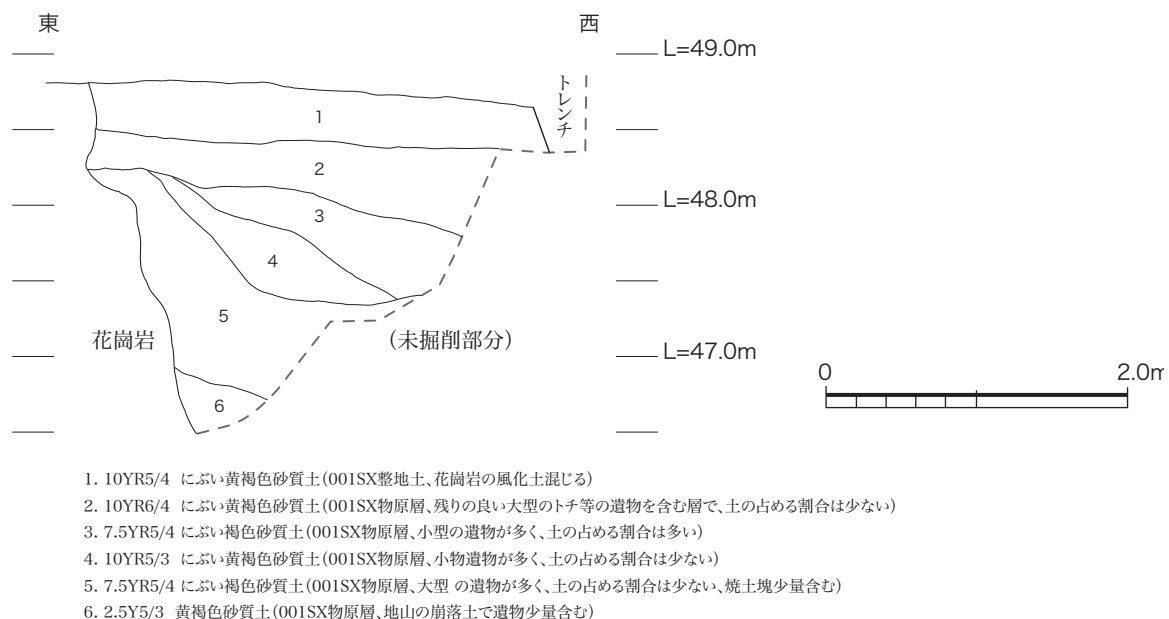


図 10 物原 (001SX) 土層断面図 (S=1/50)



図 11 滝町古窯 遺構全体図 (S=1/100)

すもので、北側へ少し離れると窯道具類や製品の小片を多く含む堆積層を確認した。作業時も廃棄物の多くはここから崖下の 001SX に落下するようになっていたと思われる。なお、遺物に棚板の支脚やエブタ類、廃窯後に取り出されたと思われる箱グレがこの付近で集積した状態で見つかっている。

008SU も上位の平坦面の中央付近、窯体の後方の北東側にあたる基盤層岩盤の上で検出された。焼土と炭化物を多く含む土が充填物となる遺物の集中地点であり、2.8×1.4m 程度の範囲を確認した。

005SX は窯体の後方にて検出された遺物を多く含む堆積物である。上位の平坦面の南東の花崗岩が垂直に立ち上がる付近を埋めているものであり、その上に現在の墓地への参道が作られている。堆積物南側はニギリグレなどが無造作に積まれた部分があり、その内側に匣鉢ほか窯道具類が多数混在する堆積物がみられた。ただし砂と土を多く含み、特に灰、炭化物が大量に混入するなど他の場所とは若干異なる点が認められる。また灰に混じりトチばかりが大量に集中する層位もみられ、製品選別などの作業が付近で行われていたと考えられる。なお、「東叡山」刻書のあるエブタ (417) はここから出土した。

そのほか上位の平坦面の 004SX と 008SU 付近では、岩盤表面に穿たれた小規模な凹みを 3 カ所で確認している (写真図版 10)。010SK, 011SK, 013SK はほぼ同規模のピットであり、直径 15cm、深さ 5.0 ～ 9.0cm 程度の隅丸方形を呈する。時期を判断する材料はないものの、これらは窯体を囲むように北側と後方に位置しており、作業時には何らかの施設の支柱であった可能性も考えられる。

以上により、出入口と通路は窯体の北側に設けられたと考えられる。また周辺の地形から作業時の平坦面も、現状と同じ窯体の北側と背後となる東側にかけての狭い範囲に限定されたことが予測される。004SX, 005SX, 008SX などの範囲が作業場であったと考えられる。

3. その他の遺構

【002SX】

窯体を埋めている整地層の上で検出された現代の便所跡である。常滑産赤焼の甕の底部 1 基と漆喰を貼った 1.2×0.5m の部分が残る。一段高い主要部分を画するように小型の石材が約 2m にわたり直線状に設置されている。

【003SK】

002SX 東に隣接する長さ 2.2m 程度の不整形の浅い土坑である。棧瓦を含み上部は平坦に整地されている。

【009SK・012SK】

上位平坦面で検出された土坑である。前者は 008SU と中央トレンチの間に、後者は 008SU 北側に位置する。窯体との関連は見いだせない。

【註・参考文献】

(註 1) 床面で検出された白色堆積物について分析を行っている。

試料は岩片と風化粒を主体とする石英と長石類を含む土壌であり、火山灰に由来する粒子は含まれていないことを確認した。また、含まれる無色鉱物の主成分化学組成を分析した結果、石英約 84%、長石類約 16% であり、長石類は Ca をほとんど含まない正長石 (アルカリ長石) の組成を示すことが分かった。試料は花崗岩起源である可能性が高く、しかも一般的な花崗岩 (および風化物) とは異なり、斜長石を含まず正長石のみを含む。長石類に産地の特定に有効と思われる特徴的な組成がみられるが、天然、あるいは人工的に混合したものかは両者の可能性が考えられる。

(株式会社 古澤地質「滝町古窯 自然科学分析 (火山灰分析)」)

第3章 遺物

滝町古窯の調査で出土した遺物は27ℓコンテナにして538箱である。これらの内容は製品や窯道具、窯体の部材など窯の操業に直接関連するものと遺跡に搬入されたもの等到大別できる。出土遺物全体では窯道具類の割合が8割以上を占める。

ここで焼成された製品には磁器と陶器があり、焼成不良品・未成品も含まれる。主要な器種は広東碗・端反碗・碗蓋を主体とした小型の染付磁器碗類であり、これに少量の陶器小型碗が加わるという構成である。その他には磁器湯呑、小杯、鉢・皿、陶器急須、行平などがあるがいずれもごく少量であり、直径で最大20cmを超えるものは確認されていない。

1. 滝町古窯で焼成された磁器製品

小型碗類を中心に、以下のように分類を行った。(図12)

【広東碗】(図17～20, E-1～59)

内面底部が丸みをもち、八の字状に開く体部をもつ。高台内はほぼ水平につくり、器壁は底部中央が最も薄くなる。高台はほぼ直立するものが多い。体部外面の高台との境に浅く削りの段がめぐる。口径10.0～12.0cmのものとそれ以下の小型品がある。出土量は端反碗に次いで多い。

ここでは主に体部と高台の形状について分類を行なった。ただし、物原に廃棄された焼成不良品を扱うため、本来の形状を推定して図化したものを多く含んでいる。

A類：体部は直線的に開く。外面の体部と高台の境がやや高い位置にあり、高台は比較的高い。

B類：体部は直線的に開くものが多い。高台上部の内側・外側の差が比較的小さく、高台の断面は長方形に近い。

C類：体部全体が若干丸みを帯びるもの。高台はA類と比べやや低いものが多い。

D類：口径が10cm以下の小型品をこれに含める。

【端反碗】(図20～25, E-60～64,66,68,69,73～203)

出土磁器類に占める割合が最も高い器種であり、滝町古窯の主力生産品である。

口縁端部が外反する碗類であり、削り出し成形による輪高台をもつ。口径7.2～11.8cmのものがあり、小杯に近い7.0cm前後のSサイズのものかわずかにみられ、10cm以上をLサイズとすると、全体ではMサイズが主体となる。体部から口縁端部にかけての形状、および高台の形状からMサイズで分類を行なった。

A類：口縁端部の外反が明瞭であり、断面逆三角形の高台がつくもの。器壁全体が比較的に薄い。

B類：口縁端部に外反が認められ、高台部上端の内側と外側の高さがほぼ同じとなるもの。高台断面は逆三角形に近い。器高が抑えられやや扁平となるもの(B1類)、逆に器高と高台がやや

高くなるもの（B2 類）がある。

C 類：口縁端部に外反が認められるもので、高台内が削り込まれて内側が高くなり、高台断面がやや細長い形状となるもの。高台脇に器壁の厚い部分が生じる。

D 類：口縁端部の外反は弱く体部上方が直線的になり、高台上端の内側と外側の高さがほぼ同じとなるもの。高台断面は逆三角形に近い。

E 類：口縁端部の外反が弱く、体部上方が直線的になるもの。高台内が削り込まれて内側が高くなり、高台脇に器壁の厚い部分が生じる。

【碗蓋】（図 27 ～ 29, E-233 ～ 275）

環状の摘みをもつ。体部の形状から以下の 3 つに大別できる。B 類の占める割合が高く、A, C 類はごく少量である。

A 類：体部は丸みをもち、端部にかけて内彎気味になるもの

B 類：体部は丸みをもち、端部が外反するもの

C 類：体部が直線的に開くもの

【丸碗】（図 20, E-67,70,71,72, 図 26, E-229 ～ 232）

出土量全体に占める割合は小さい。腰がやや張る形状で、口縁がほぼ直立するか、または少し開く。体部が直線的な形状の碗類であり、端反碗よりも器壁がやや厚い。口径も端反碗より少し大きく 10.0 ～ 11.0cm のものが多い。高台は内側がやや高い。

A 類：体部がほぼ真つすぐに立ち上がるもの。

B 類：腰が張り、体部はやや開き気味に立ち上がるもの。

C 類：腰が張り、体部は直線的に立ち上がり、端部がやや外反するもの。

【湯呑】（図 26, E-212 ～ 215, 218 ～ 224）

A 類：体部は高台脇から丸みをもってほぼ直立して立ち上がる。やや高く幅の狭い削り出し高台がつくもの。筒形湯呑。

B 類：体部は腰が丸みをもってほぼ直立して立ち上がる。A 類に比べて高台径がやや大きく、器高はやや低くなるもの。

【小杯類】（図 26, E-226, 228, 図 29, E-276 ～ 281）

A 類：腰が丸い体部をもち、やや高い高台がつくもの。

B 類：体部が直線的に開き、径の小さい高台がつくもの。

C 類：体部が丸みをもって開き、低い高台がつく皿に近いもの。

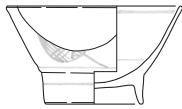
【鉢・皿類】（図 26, E-204 ～ 211, 図 29 E-282 ～ 287, 290 ～ 297）

鉢 A 類：端反碗に近い形態のもの。端反碗よりも腰が張り、口縁端部を波状につくるものがある。断面が逆三角形を呈する低い削り出し高台がつく。

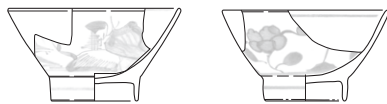
鉢 B 類：腰が丸く体部が短く立ち上がる形状で、低い削り出し高台がつく。高台内中央を丸く削り込む。口縁部先端が細く窄まるもの（B1 類）、口縁先端付近まで器壁が厚く、端部が丸く収まるもの（B2 類）がある。

磁器 広東碗

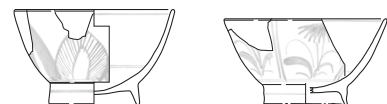
A 類



B 類



C 類



D 類



磁器 蓋

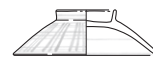
A 類



B 類



C 類



磁器 端反碗

M サイズ

A 類



B 類



C 類



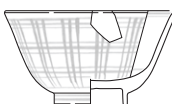
D 類



E 類



(L サイズ)



陶器 (小型) 碗

面取碗



A 類

端反碗



B 類

稜碗



C 類

箱形湯呑



D 類

図 12 碗類・蓋の分類

鉢 C 類：体部がやや開き気味に立ち上がるもの。端部が外反するもの（C1 類）と、段をもちながらも体部が比較的直線的に開くもの（C2 類）がある。

鉢 D 類：腰が折れるもの。

皿 A 類：円形で腰が丸みをもって開くもの。削り出し高台がつく。丸皿。

皿 B 類：円形で高台脇から折れて体部が開くもの。低い削り出し高台がつく。端部を波状につくる。

皿 C 類：円形以外の形状の型打ち皿。

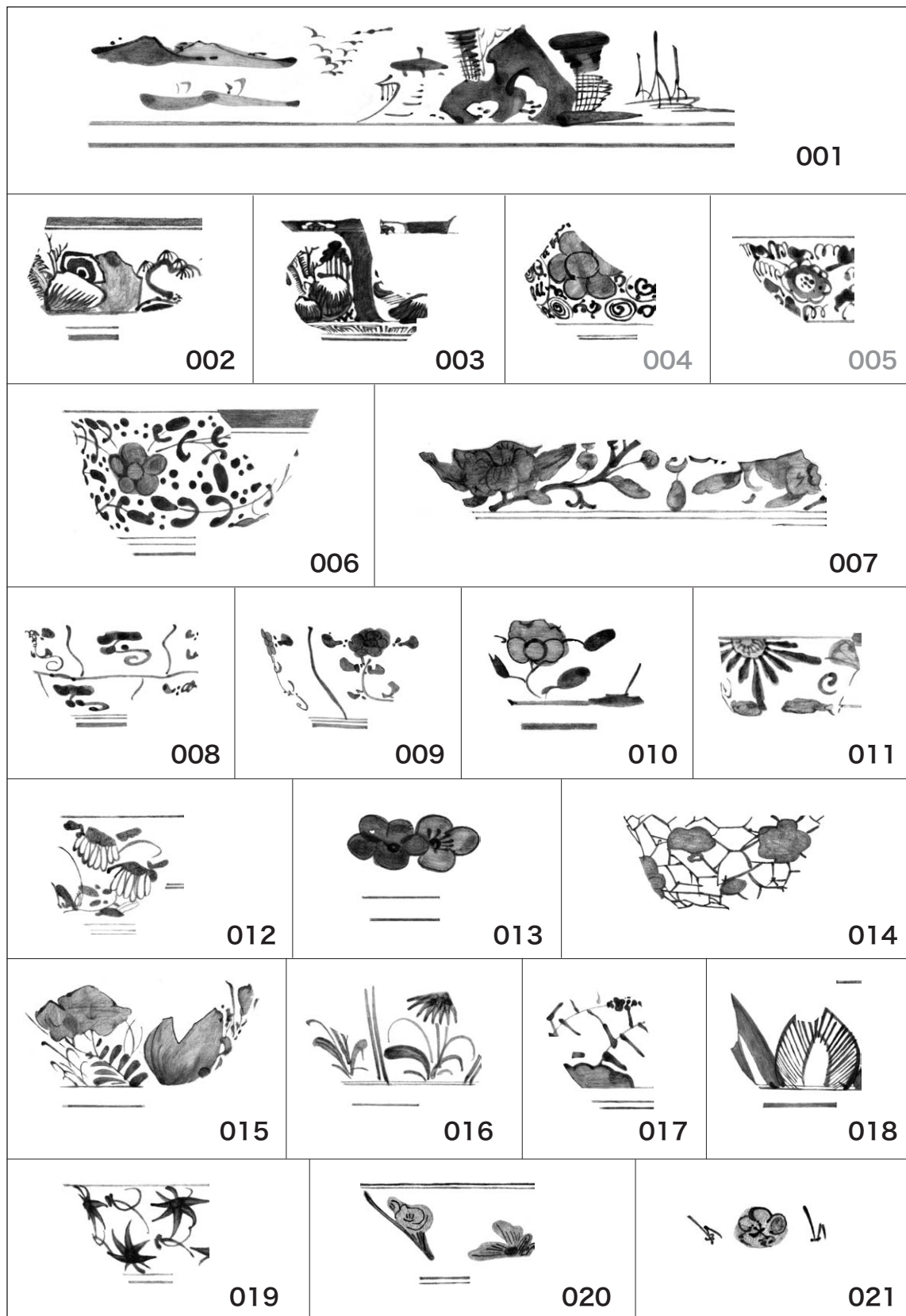
2. 滝町古窯 磁器染付文様の分類

本窯の出土遺物のほとんどが失敗品として物原に廃棄されたものである。焼成不良の資料の多くは歪みが大きく、図化の際に一部補正を行ったものの本来の形状を正しく復元できなかったものが含まれている。器形に追加する情報として、染付文様を扱うことにする。ここでは（1）外面／（2）内面の中央部分、または蓋裏の中央部分に施される文様パターンをそれぞれ図 13～15 のように分類した。（1）では地文様の 38 種をとりあげ、これに含まれないものはすべて「その他」として括っている。（2）はモチーフで大別し、次いで可能なものは更に細分を行った。端部付近の縁描や圏線、高台内の銘款については個別に一覧表に記す。

（1）外面に施される文様パターン（図 13, 14）

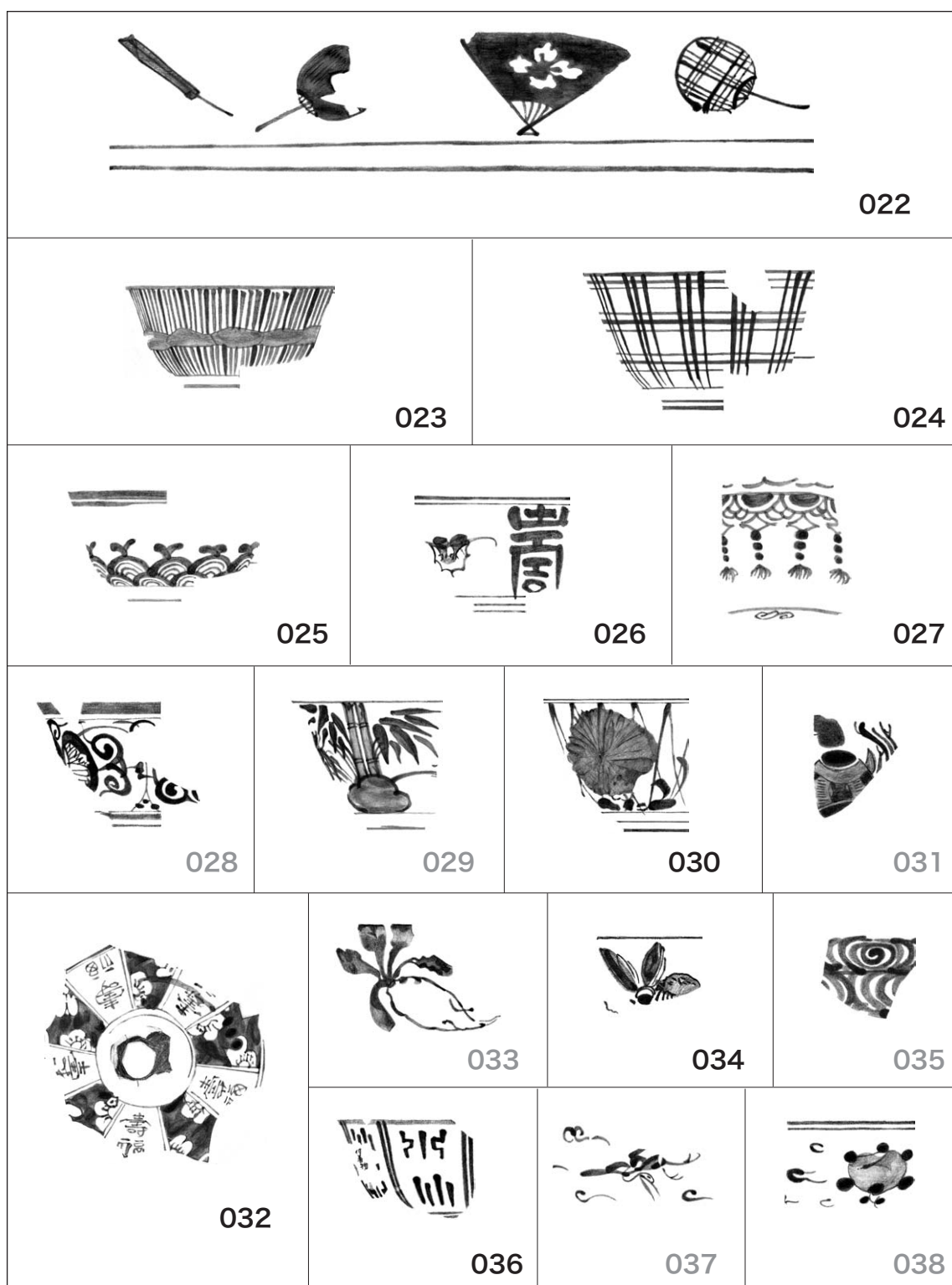
外面の文様（地文様）を以下のように大別した。

001：海浜風景 a	021：花・折松葉
002：海浜風景 b	022：扇子と団扇
003：山水文	023：縦縞
004：花唐草文 a	024：格子目
005：草花文 a	025：波頭
006：草花文 b	026：福壽・蝙蝠
006：草花文 c	027：宝珠つなぎ（瓔珞）
007：花文 a	028：蔓草
008：仙芝祝寿文（2 段） a	029：松竹梅文
009：仙芝祝寿文 b	030：菊花・垣
010：花文 b	031：宝物
011：花唐草文 2	032：福壽・梅花
012：草花文 d	033：大根
013：花文 b	034：昆虫
014：花・氷割文	035：渦卷文
015：草花文 e	036：簗
016：草花文 f	037：鳳凰・雲文
017：秋草	038：花・雲文
018：木葉文	039：その他（／算本文，図示なし）
019：楓・折松葉	
020：草花文 g	



* パターン番号の文字の薄いものは1点のみ確認

図 13 染付文様のパターン (1)



* パターン番号の文字の薄いものは1点のみ確認

図 14 染付文様のパターン (2)

(2) 内面の中央部分および蓋裏の中央部分に施される文様については、7 類と「その他」に分類した。
(図 15)

A 類 (花文) 側面からみた花・茎・葉を表現するもの

A1 類：比較的丁寧に描くもので、細い筆を用いて茎葉の表現に強弱がみえる

A2 類：やや太い筆を用いた筆致であり、太さの強弱の差が小さく全体に雑である。

B 類 (荒磯文) 上半分に岩、下半分に平行する横線で海面を表現する

B1 類：2つの岩（塗りつぶし、白抜きまたは斜線）を配し、周囲に飛沫を斑点で表現する。

B2 類：2つの岩を配し、飛沫の表現がない。

B3 類：岩は大きめ1つであり、塗りつぶしで表現する。飛沫の表現あり。

B4 類：1つの岩を輪郭で示すが、内半分を塗りつぶして白黒で表現する。飛沫の表現はない。

B5 類：岩を1つの形状で示し、内を斜線で埋める。飛沫の表現あり。

B6 類：岩を1つの形状で示し、内を斜線で埋める。飛沫の表現はない。

B7 類：岩の輪郭と波を釘彫りで描き、太筆で塗りつぶすもの。

C 類 (帆掛船) 上半分に帆掛船、下半分に平行する横線で海面を表現する

C1 類：帆掛船の帆の形状がほぼ三角形で表現され、比較的整っているもの

C2 類：帆の形状は三角形を保っておらず、多様な表現がみられる

D 類 (花卉) 花卉を表現するもの

D1 類：五弁花を表現するもの。花卉を塗るもの、簡略化された細い筆描きの表現とがある。

D2 類：横からみた梅花、花芯などを描き分け表現するもの。

D3 類：簡略化して横からみた花卉を三つ葉のように表現するもの。

D4 類：菊花を表現するもの。

D5 類：花を表現するもの。

D6 類：横からみた花卉を釘彫りで描き、太筆で塗るもの。

D7 類：花卉？を釘彫りで描き、太筆で塗るもの。

E 類 (壽) 「壽」一字を書くもの。

F 類 (蝶) 上からみた蝶を表現するもの。詳細に描くものと、やや簡略化された表現とがある。

G 類 (紅葉) 楓の葉を表現するもの。

H 類 (その他) 以上に属さないその他のもの。

分類	文様パターン例	分類	文様パターン例
A1		D1	
A2		D2	
B1		D3	
B2		D4	
B3		D5	
B4		D6	
B5		D7	
B6		E	
B7		F	
C1		G	
C2		H	 / 文字など

図 15 磁器碗類・蓋の内面中央の文様

3. 磁器類の器種・器形と文様の関係

文様と器種（器形）の関係を整理したものが表3～5、[図16](#)である。以下は分類名を[]（カッコ）内の数字、記号で記す。

文様の描画の方法は、基本的に細筆で輪郭をワリガキして内側を太筆で塗るダミ手法が用いられるものが多く、外面の地文様では細かく複雑なものから簡略化された表現までがみられる。複雑な文様は出土点数も少なく、Lサイズの端反碗などに偏る傾向がみられる。また、釘彫りで描いたのち輪郭の表現も含めて太筆で塗る手法をとる [020]、[B7]、[D6]、[D7] は端反碗の小型化した D・E 類でみられる。

外面の文様と器種の対応関係からみると、広東碗にのみ認められるものは7パターン、端反碗にのみ認められるものは24パターンあり、広東碗と端反碗に共通するものは2パターンがみられる。出土量などから量産品と考えられるものは、両者に共通する [009]、[024] やそれぞれに対応する海浜風景 [001]、[002] のほか、端反碗 [006]、[020]、[023] があり、広東碗では [022] は歪み・溶着の著しい焼成不良品ばかりが目立つ。碗蓋 A 類(249～251)も激しく変形した資料が多く、文様は [001]

表3 外面の文様と器種（器形）の関係

器種・器形 外面文様	広東碗						端反碗									蓋				外面文様別 計	その他の 器種
	A類	B類	C類	D類	不明	広東碗計	Lサイズ	A類	B1類	B2類	C類	D類	E類	不明	端反碗計	A類	B類	C類	蓋計		
001	9	3			7	19										5			5	24	
002							11	1	2		2		1	5	22		16	2	18	40	
003																					鉢A
004															1					1	
005							1								1					1	
006							4				2	3	2	1	12		4		4	16	
007															2					2	丸碗
008												1	2		3					3	
009	2					2					2		7	1	10					12	
010		5				5														5	
011							2							4	6		7		7	13	
012												2	2	2	6					6	
013		3		1		4														4	
014									2					2	4					4	
015			2			2														2	
016			2			2														2	
017																					丸碗B
018			2		1	3														3	
019										5				2	7					7	
020												5	5		10					10	
021														1	1					1	
022	6					6														6	
023									7		1			1	9					9	
024		3		6	3	12	3						4		7		4	4		23	
025											1	1		2	4					4	
026												2	1	1	4					4	
027																					鉢A
028								1							1					1	
029							1								1					1	
030							1								1			2	2	3	
031																					丸碗A
032							1								1		1		1	2	
033									1						1					1	
034														2	2					2	
035									1						1					1	
036														1	2					2	
037													1		1					1	
038															1					1	
039	1	1	1	2		5	3	1	4			1		6	15		2		2	22	
なし			1		1	2					1		1		2					4	
計	18	16	7	9	12	62	27	3	17	5	9	15	26	31	138	5	30	8	43	243	

表 4 内面の文様と器種（器形）の関係

器種・器形 内面文様	広東碗						端反碗								蓋				文様別 計	その他の 器種	
	A類	B類	C類	D類	不明	広東 碗計	L サイズ	A類	B1類	B2類	C類	D類	E類	不明	端反 碗計	A類	B類	C類			蓋計
A1	1	1				2	1		4		3	3	6	1	18		6		6	26	
A2	2	2	1	2		7			1				1		2					9	
B1		1	2		1	4	2		2		1			5	10		5		5	19	
B2		2				2							1		1					3	
B3							1								1		4		4	5	
B4				1		1														1	
B5	3					3														3	丸碗B
B6	2			2		4														4	
B7														1	1					1	
C1	2				1	3							2	1	3	2			2	8	
C2			1	2	2	5										2			2	7	
D1													2		2					2	湯呑
D2		3				3			1						1					4	湯呑
D3							2								2			2	2	4	
D4												2	2		4					4	
D5																		1	1	1	
D6				1		1														1	
D7												4	3		7					7	
E	6					6														6	
F			2			2			1					1	2					4	
G										1				1	2					2	
H (その他)		2				2	1	1	1				1	1	5					7	小杯,鉢A
計	16	11	6	8	4	45	7	1	10	1	4	9	18	11	61	4	15	3	22	128	

表 5 文様（外面・内面）の対応関係

内面文様 外面文様	A1	A2	B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	C1	C2	D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7	E	F	G	H (その他)	計
001			1	2			3	2		2	2												12
002			7	2	4																	1	14
003																							
004																							
005			8	4	4		3	2		2	2											1	26
006	5																						5
007																							
008	3																						3
009	3	3																					6
010	1	1																					2
011	5																						5
012															4								4
013													3				1						4
014												1											1
015																			2				2
016			1																				1
017																							
018			1							1													2
019																					1		1
020																		7				1	8
021																							
022																			6				6
023	5	2																					7
024	1	4						2				2		5									14
025										2	1												3
026																							
027																							
028																							
029																							
030																1							1
031																							
032																						1	1
033																							
034																							
035																							
036																							
037																							
038																							
039 (その他)	2	1	2		1	1			1		1								1			2	12
計	25	11	20	8	9	1	6	6	1	6	7	2	4	5	4	1	1	7	6	3	1	6	140

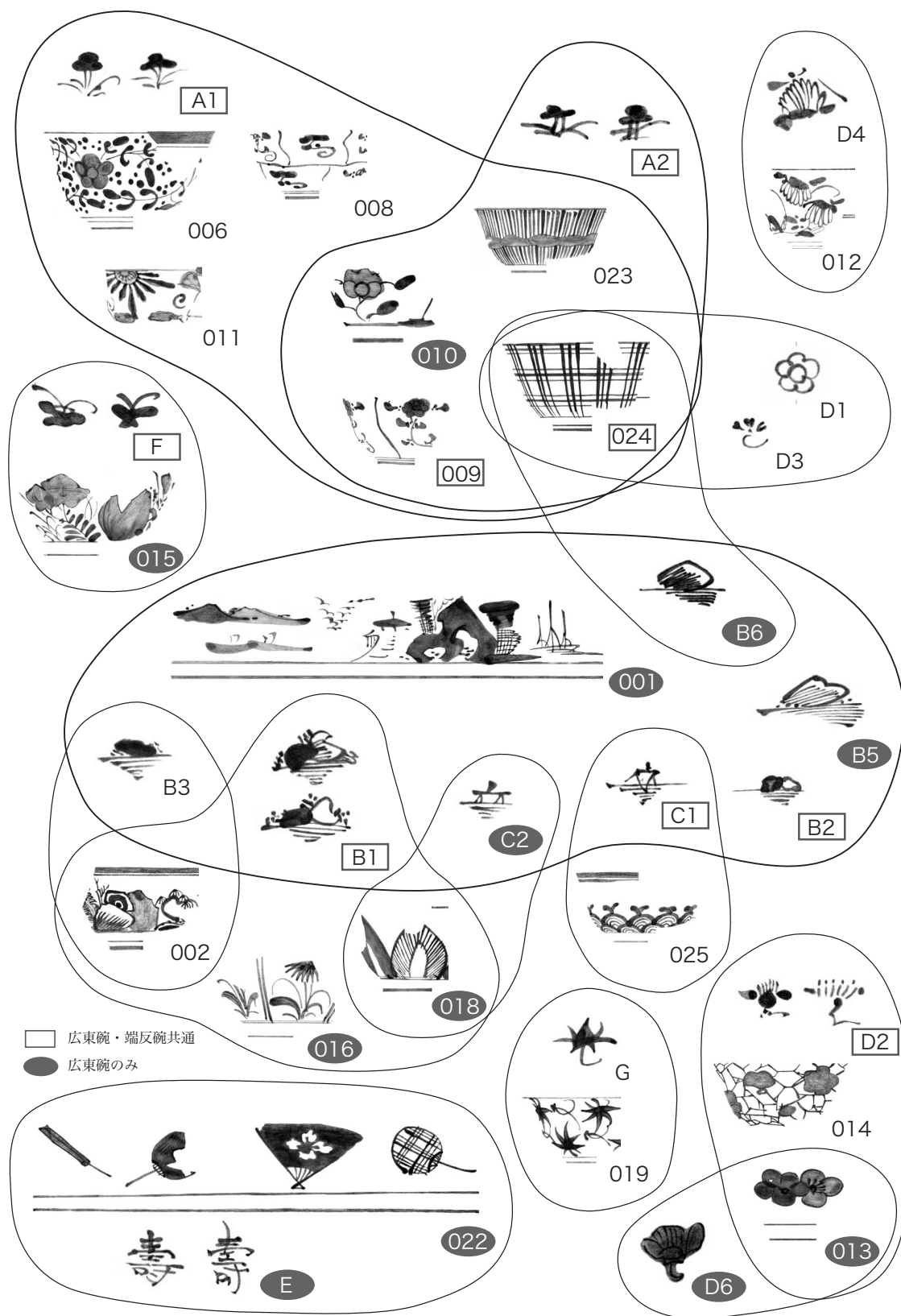


図 16 磁器碗類の外・内面文様の組み合わせ

とは異なる海浜風景で外面の縁描がなく、銘款をもつ。なお文様の共通性から、蓋 A 類は広東碗に、蓋 B 類と蓋 C 類は端反碗に対応するものと考えられる。

内面の文様では広東碗のみでみられるもの 6 パターン、端反碗のみでは 7 パターン、広東碗と端反碗に共通して認められるものが 6 パターンである。両者に共通する文様のうち [A1]、[A2]、[B1]、[B2]、[C1] などの花文、荒磯文、帆掛船が用いられている器形は多様であり、出土点数も多く最盛期の量産体制を示すものかと想像される。

その他の特殊な文様、およびその他器形との関係について補足しておく。広東碗 B 類とした資料 50 は外面に呉須で薄い筆書きがあり、このうち右方向に首を向けた馬が判別できる。内面には口縁部側から縦に数行にわたり文字があり、「第カ 九月 十三日初也 十四日 十五日 十六日 (不明)

十七日やすみ (不明) 十八 十九日与奈べ 廿日 廿一日 (不明) 廿二日 廿三日」と判読できる。「左馬」の絵もありこれらが窯焚きに関連する記述と考えられることから、縁起物として初窯の際に焼成された製品であった可能性が高い。63 は端反碗 A 類で高台内を除く外面に瑠璃釉が施され、一部に円形の白抜きをつくり内部に「栗」の一文字を書く。エブタ (417) などに刻まれた「栗田」なる人物が関係する特注品であったと思われる。同様に高台内を除く外面に瑠璃釉を施したものでは、湯呑 A 類 (212～215)、丸碗に近い形状のやや大ぶりの碗 (216,217) がある。そのほか文字の書かれた製品では、端反碗 (66) は内面見込に呉須で「秋」、外面には「(奉) 納」「三州矢作 岩善」と書かれている。湯呑 B 類 (220) は外面に呉須で「青」「龍」とあり、瀧山寺「青龍院」に関連するものであろう。湯呑 A 類 (219) は高台内に「保久」とあり、滝村より北東方向の現在の豊田市保久町の旧村名を指すものと思われるが、旧額田郡に属し瀧山寺との直接の関係は不明である。[003][027] は鉢 A 類に限定される文様であり、前者 (204～207) はやや複雑な文様構成で装飾のある縁描と高台内に銘款をもつ。[007][017][031] はやや大ぶりの丸碗に認められ文様であり、[007] は製品片ではあまり見られず、色見 (67,70,72) で多くを確認している。[031] はやや複雑な文様が描かれ、丸碗 A 類 (229) の縁描にはカキオトシ技法の装飾もみられる。体部の器壁は薄く、これは端反碗 A 類 (60,61,62) などカキオトシ技法がみられる資料に共通する特徴である。

瀬戸窯の製品と比較すると、まず経塚山西窯資料で共通する文様には、木葉文 [018]、海浜風景 [001,002] に見込に帆掛船または荒磯文、草花文 [005,006]、紅葉と折松葉 [019]、仙芝祝寿文 [008,009]、連続円弧文 [035] などがあり、[019] 文様の端反碗の器形には類似するものがみられ、[008,009] の端反碗では高台内に銘款をもつものが多くみられる。見込に花文も多く使われるが滝町古窯のものとは異なる。経塚山南窯資料で共通する文様には、主に端反碗で木葉文 [018]、海浜風景 [001,002]、紅葉と折松葉 [019]、草花文 [006]、仙芝祝寿文 [008,009]、瓔珞文 [027]、蔓草 [028]、秋草 [017] に見込に帆掛船の組合せがあり、ただ広東碗が少ないためか [001] は目立たない。[027,028] や見込の花文は簡略化されたものであり、滝町古窯のものとは少し異なる。瑠璃釉の端反碗、筒形湯呑もみられる。幸右衛門窯資料では仙芝祝寿文 [008]、簡略化された瓔珞文 [027] があり、見込の花文や荒磯文は簡略化されたものであり、滝町古窯のものとは少し異なる。

4. その他の滝町古窯焼成品

出土点数が少なく抽出が容易であるため、資料の大半を図化・報告する (図 30,31, E-298～353)。陶器類は、胎土が瀬戸・美濃窯産陶器と類似する黄白色を呈するやや軟質の焼成のもの、

それらと異なり暗褐色を呈する硬質の焼成の一群とに大別できる。

緻密な胎土をもつ資料は京・信楽系陶器の器形を模した小型碗類が中心であり、器壁を薄くつくる。器形は図 12 に示すように面取碗、端反碗、筒形湯呑、稜碗がある。出土遺物では素焼に近い未成品・焼成不良品がほとんどであり、断面は赤褐色を呈するものが多い。ただし筒形湯呑は器壁がやや厚手となりこちらの胎土は瀬戸・美濃窯産資料に近い。瀬戸・美濃窯産陶器に類する一群では丸碗、蕎麦猪口、広東碗、染付皿がある。そのほか外面が無釉で磁器に近い焼成の資料に皿、蓋、行平、急須、筒型容器などがある。

図 30 の面取碗 (298～302) は、口径 8.3～8.7cm、器高約 4.9～5.3cm である。やや高い高台をもち、体部に六角形の面取りを 2 段、高台脇に縦方向の溝を削り入れる。301 は白化粧土の上に高台端部を除き透明釉を施す。端反碗 (303～310) は、口径約 8.8cm、器高 5.3～5.8cm である。やや高い高台をもち、体部は腰が丸みをもって立ち上がる。端部は短く外反し小さな玉縁状となる。体部には鉄釉とイッチンで梅花文、303 には「乾山」銘がみられる。稜碗 (312,313) は 2 点とも素焼である。やや高い高台をもち、高台脇で屈接して体部が開く。箱形湯呑 (311) は口径 7.4cm、器高 5.0cm。低い高台がつき、体部は腰部で屈折して垂直に立ち上がり、筒状となる。呉須で描かれた圈線の痕跡が残る。小型碗類は窯体内でいくつか検出されており、これらの焼成は操業の最終段階に近い時期と考えられる。

皿 (314,315) の胎土は緻密であり、焼成不良のため断面では赤褐色から灰色を呈する。短い体部がほぼ垂直立ち上がり、断面逆台形の低い削り出し輪高台が付く。内面には 314 は鉄釉で扇を、315 は呉須で馬の文様が筆描きされる。316 は焼締陶器で体部の中程より少し上が折れ、口縁部はまた鋭く屈曲する器形である。胴部に装飾的な削りがみられる。

317～320 は磁器質であり、肩部など一部に施釉がみられるが、露胎の範囲が広い。317 は環状の紐がつき、体部は丸く端部にかけて緩やかに開く形状の蓋とした。外面は回転方向の匏ケズリが明瞭である。内側の一部に灰釉（透明釉）がかかる。319,320 と 318 は行平と蓋であり、外面の飛び匏風の凹凸装飾部分と行平内面に施釉がみられる。320 は底部外面に墨書がみられる。321,323 は焼締陶器の急須把手である。323 は磁器質で行平の把手か。

広東碗 (324～329) は呉須で文様が筆描きされるほか、灰釉または鉄釉の流し掛けがみられる。329 は硬質の工具で細い線が釘彫りで描かれ、さらに呉須が塗られている。文様構成は磁器広東碗の場合と一致するものはない。丸碗では口径 10～11cm のもの (330,331) は鉄釉の筆描きに灰釉が掛けられる。それよりやや小振の 333 や、口径が 7.7cm 前後で腰が張る形状の碗 (334～336) などがあり、332,334 も文様は釘彫りの技法で細かく描かれている。337 は小杯か稜碗。338 蕎麦猪口は底部外面中央は円形の浅い削り込みがみられ、外面には呉須で蟹などが描かれる。339,340 は陶胎染付の皿である。341 は透明釉がかかるもので薄手ではあるが、皿とした。

342 は素焼で白色を呈する。端部に短く突起する環状の部分のある形状である。盃台の一部であろうか。343～349 は無釉で表面は黄褐色～赤褐色を呈する。344～347 は筒形の容器であり、347 は底部に穿孔、外面に墨書がみられる。348 は磁化した破損品で器種は不明。349 は肩部から胴部にかけて丸みをもつ焼締陶器の小型の壺で、肩部、胴部などに装飾がみられる。350～352 は薄手で胎土は緻密で白色を呈する。磁器土瓶か。353 の天地・器種は不明。同一個体とみられる素焼片と焼締の陶器片を接合・合成して作図した。外面にへう書きが認められる。

歪みや窯ゴミが認められる資料を滝町古窯の焼成品として扱ったが、炆器質の製品はごく少量でもあり、搬入品の可能性も考えられる。

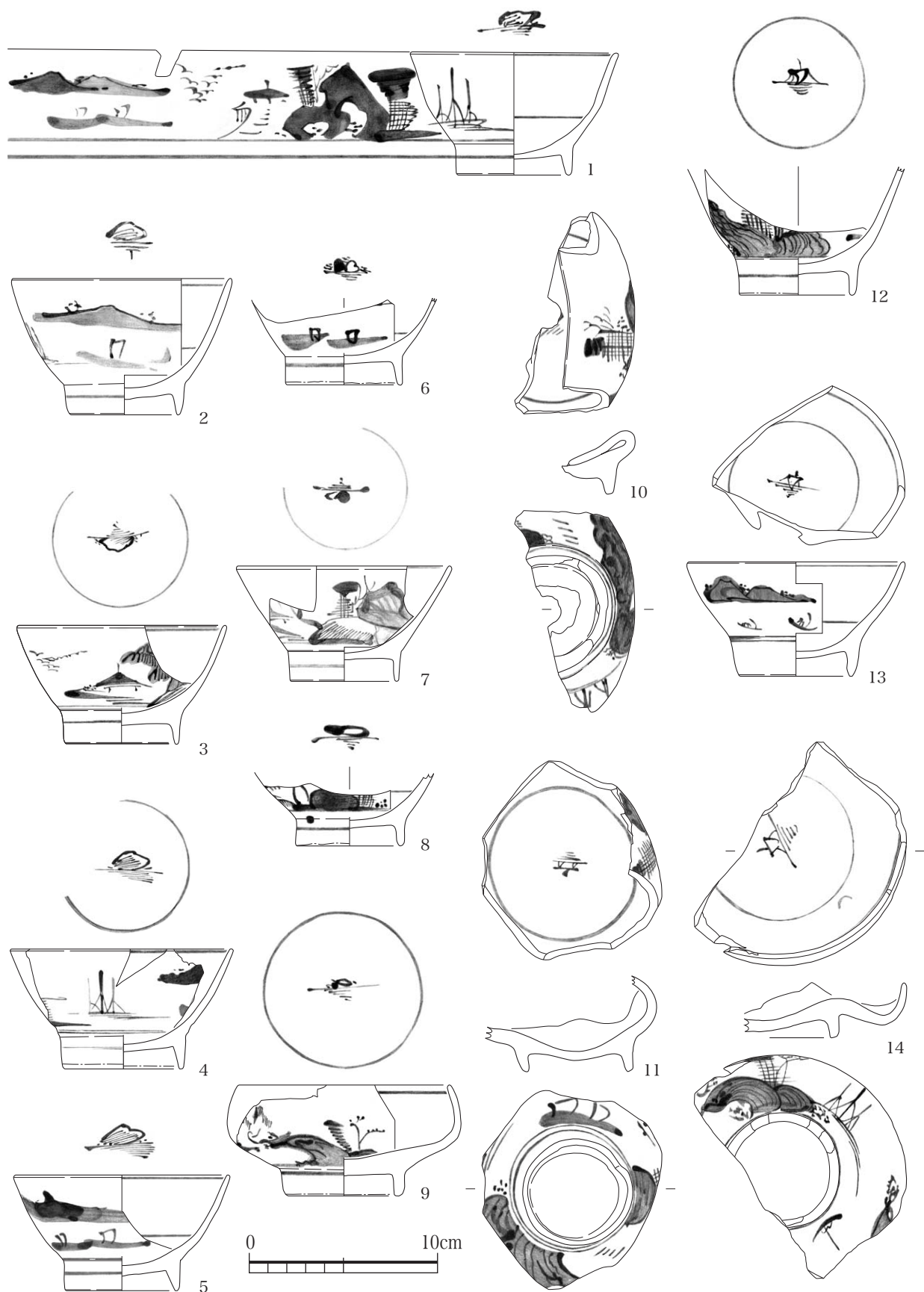


図 17 滝町古窯焼成品 1 (S=1/3)

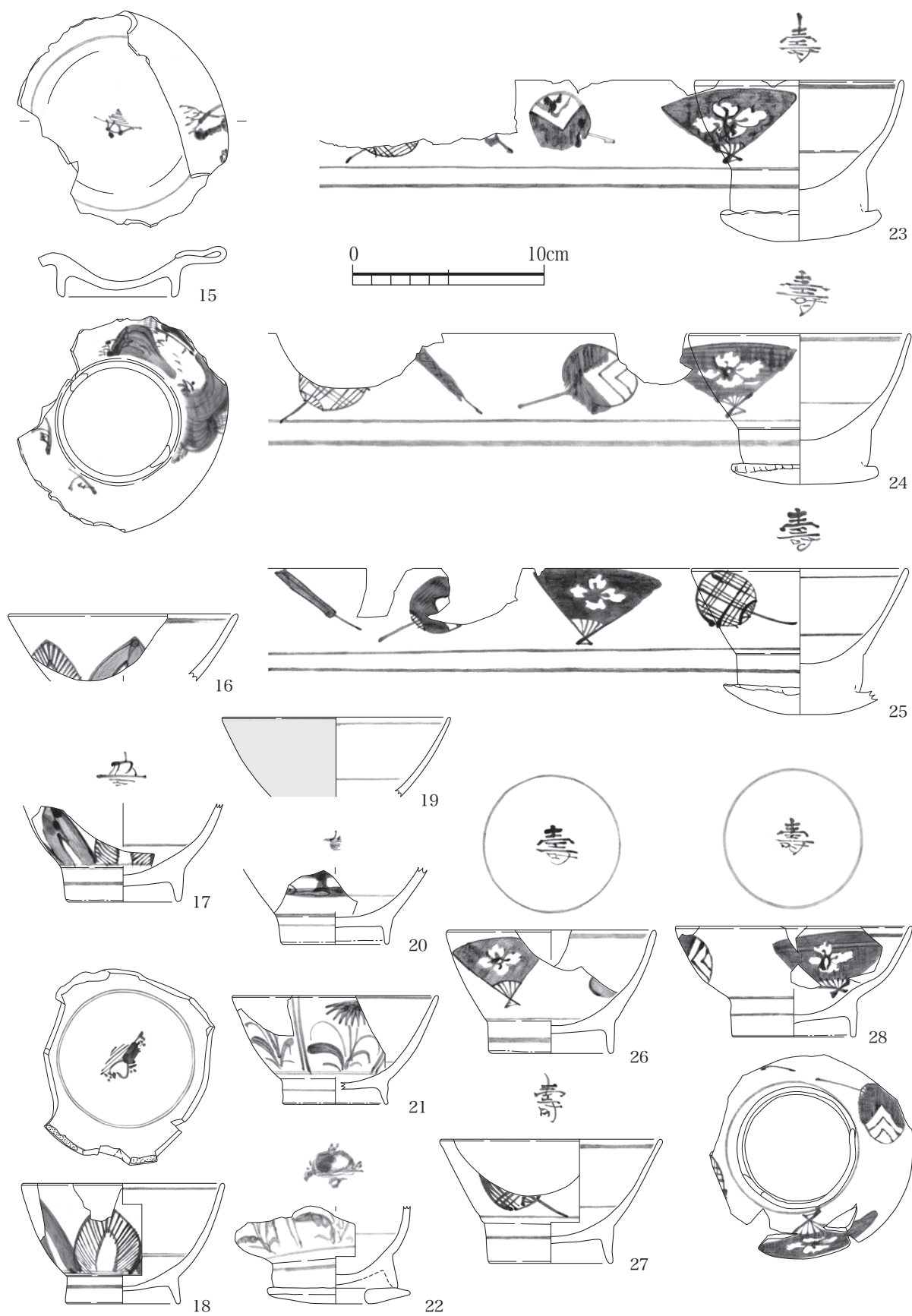


図 18 滝町古窯焼成品 2 (S=1/3)

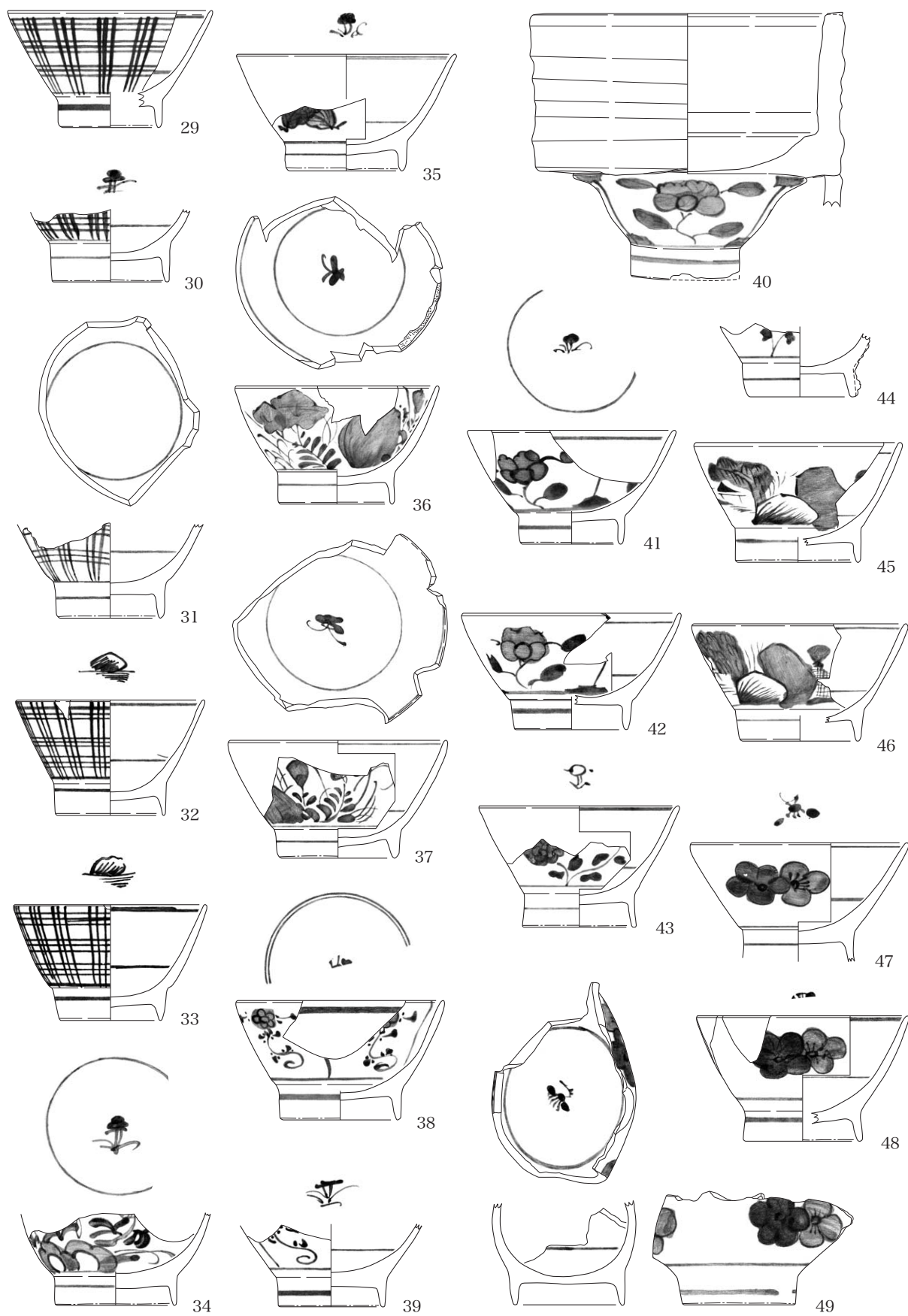


図 19 滝町古窯焼成品 3 (S=1/3)

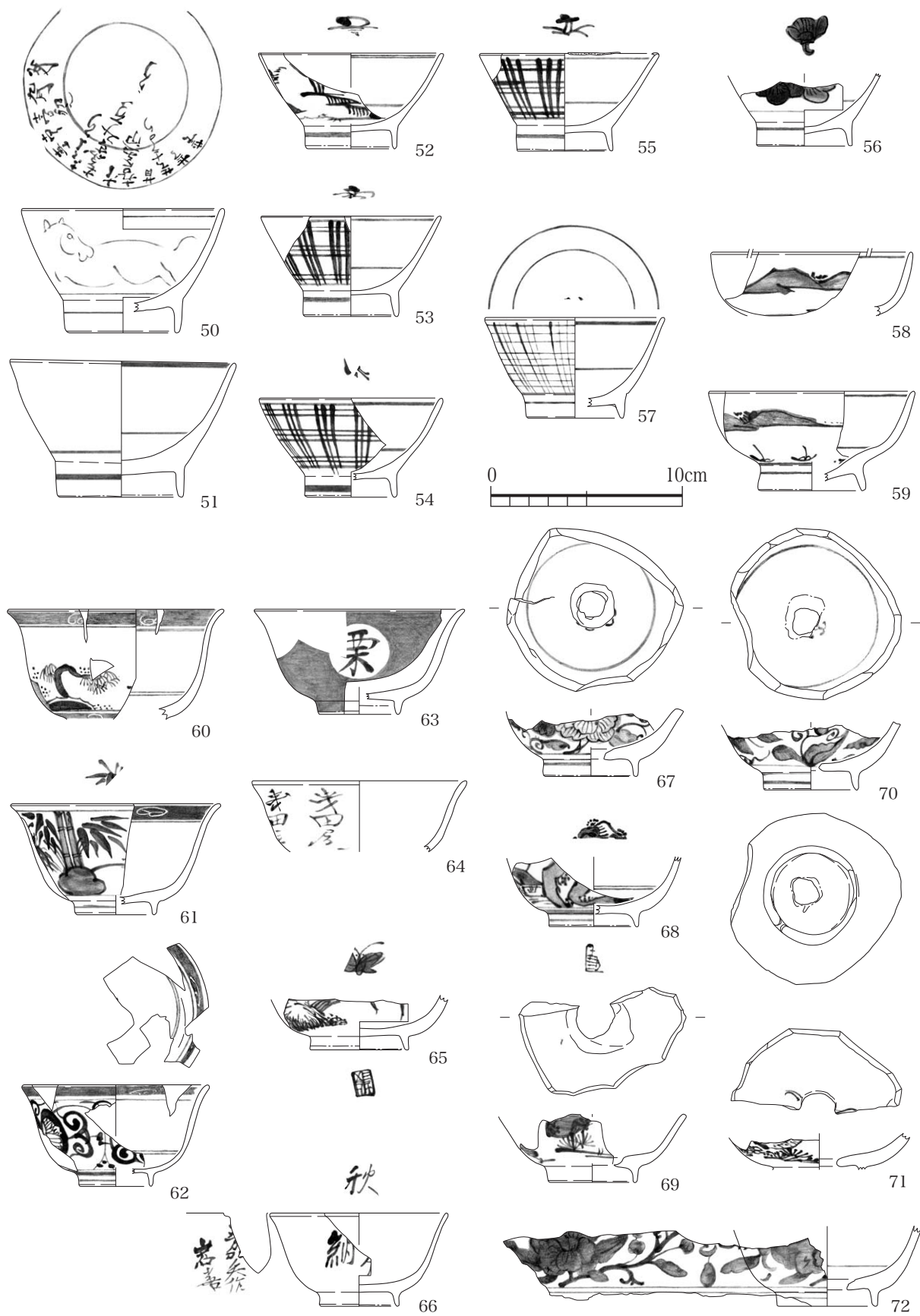


図 20 滝町古窯焼成品 4 (S=1/3)

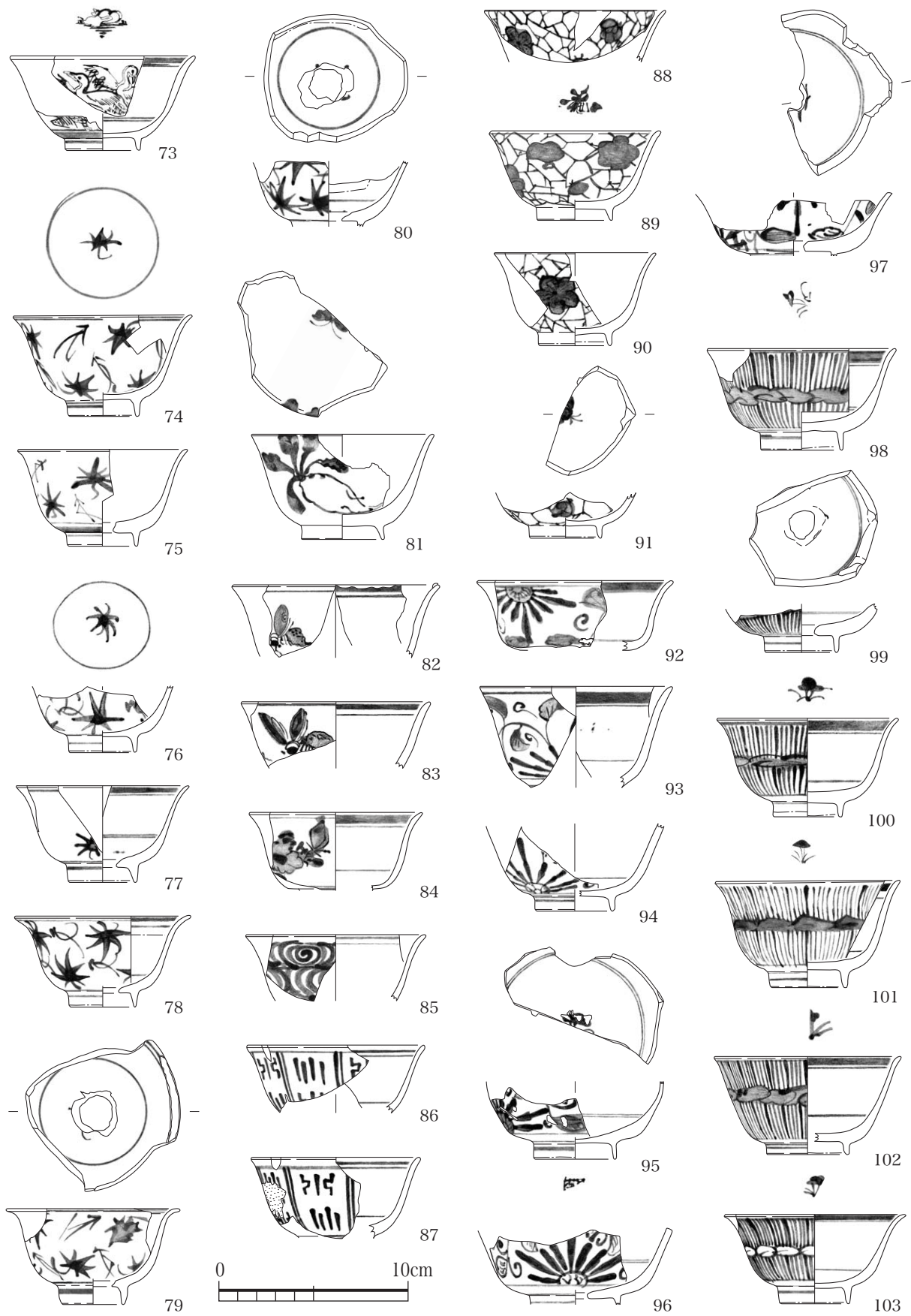


図 21 滝町古窯焼成品 5 (S=1/3)



図 22 滝町古窯焼成品 6 (S=1/3)

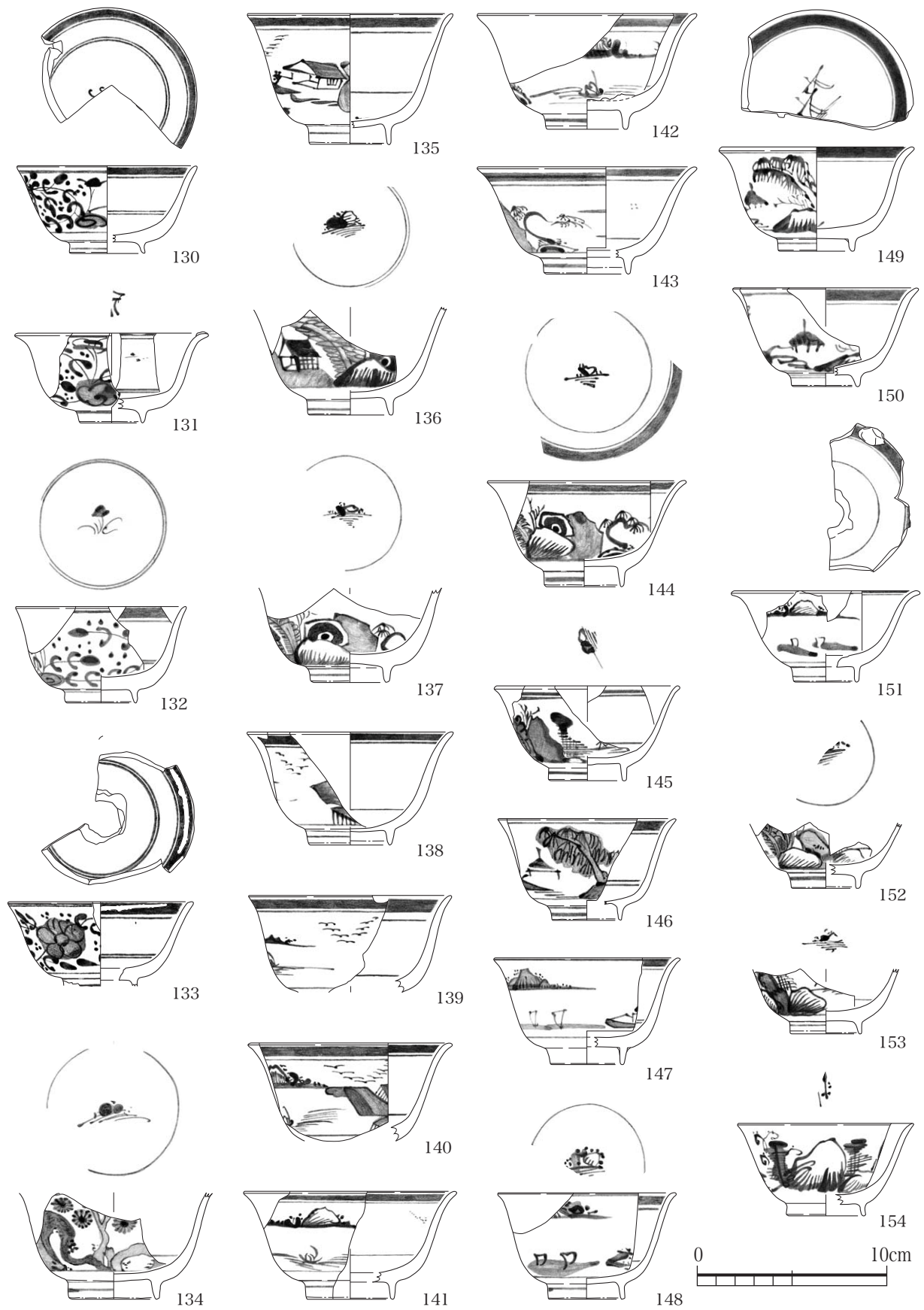


図 23 滝町古窯焼成品 7 (S=1/3)

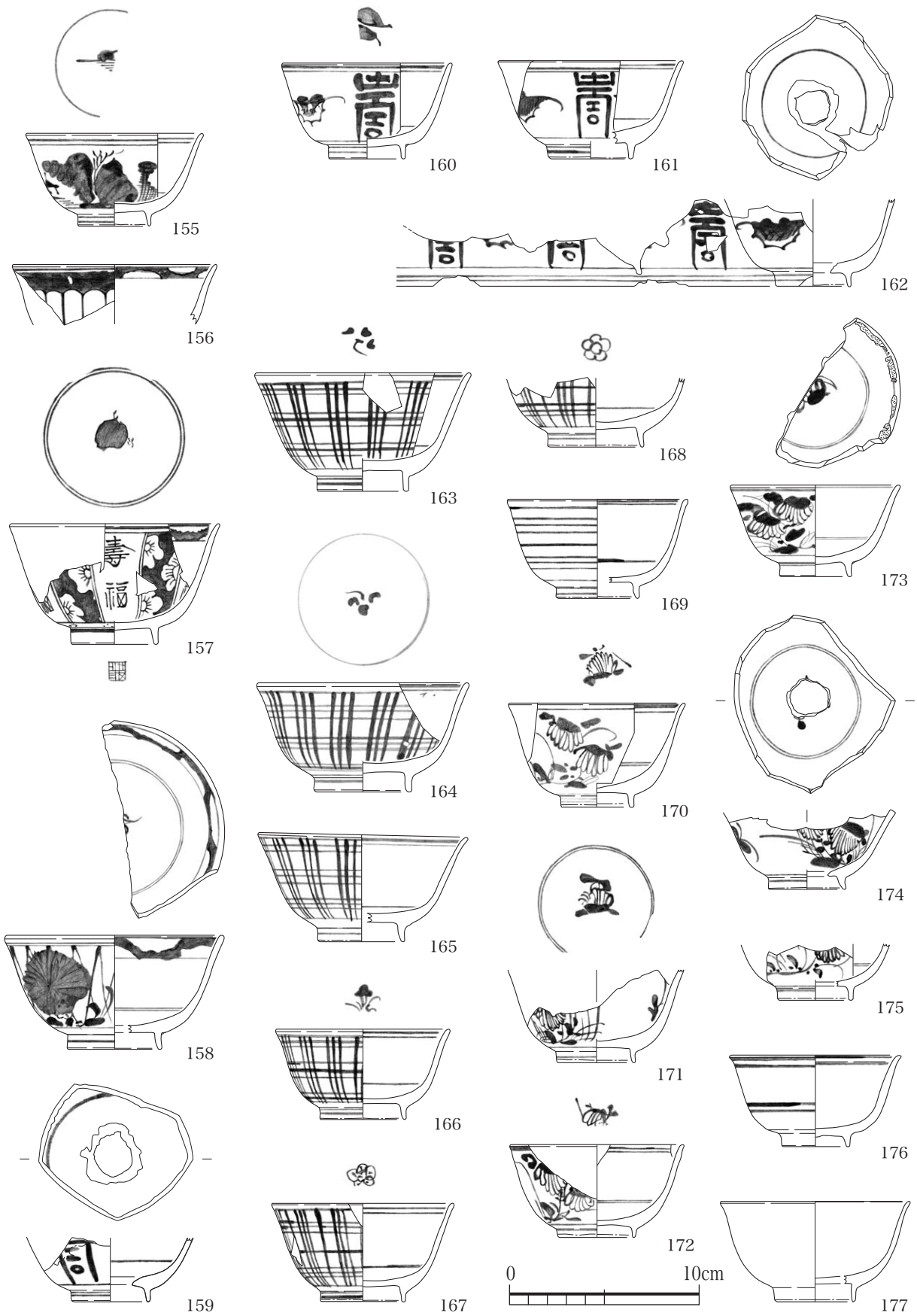


図 24 滝町古窯焼成品 8 (S=1/3)

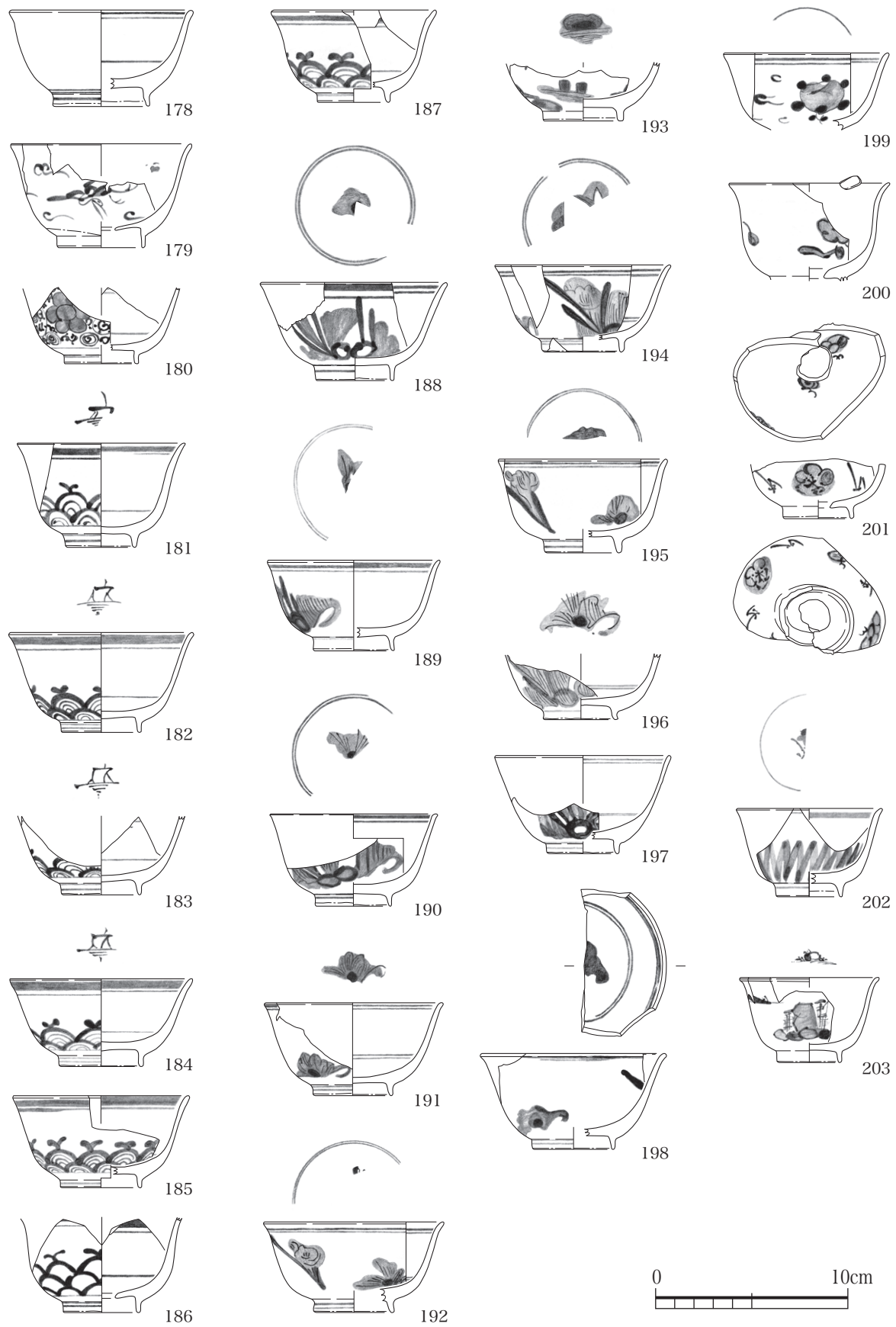


図 25 滝町古窯焼成品 9 (S=1/3)

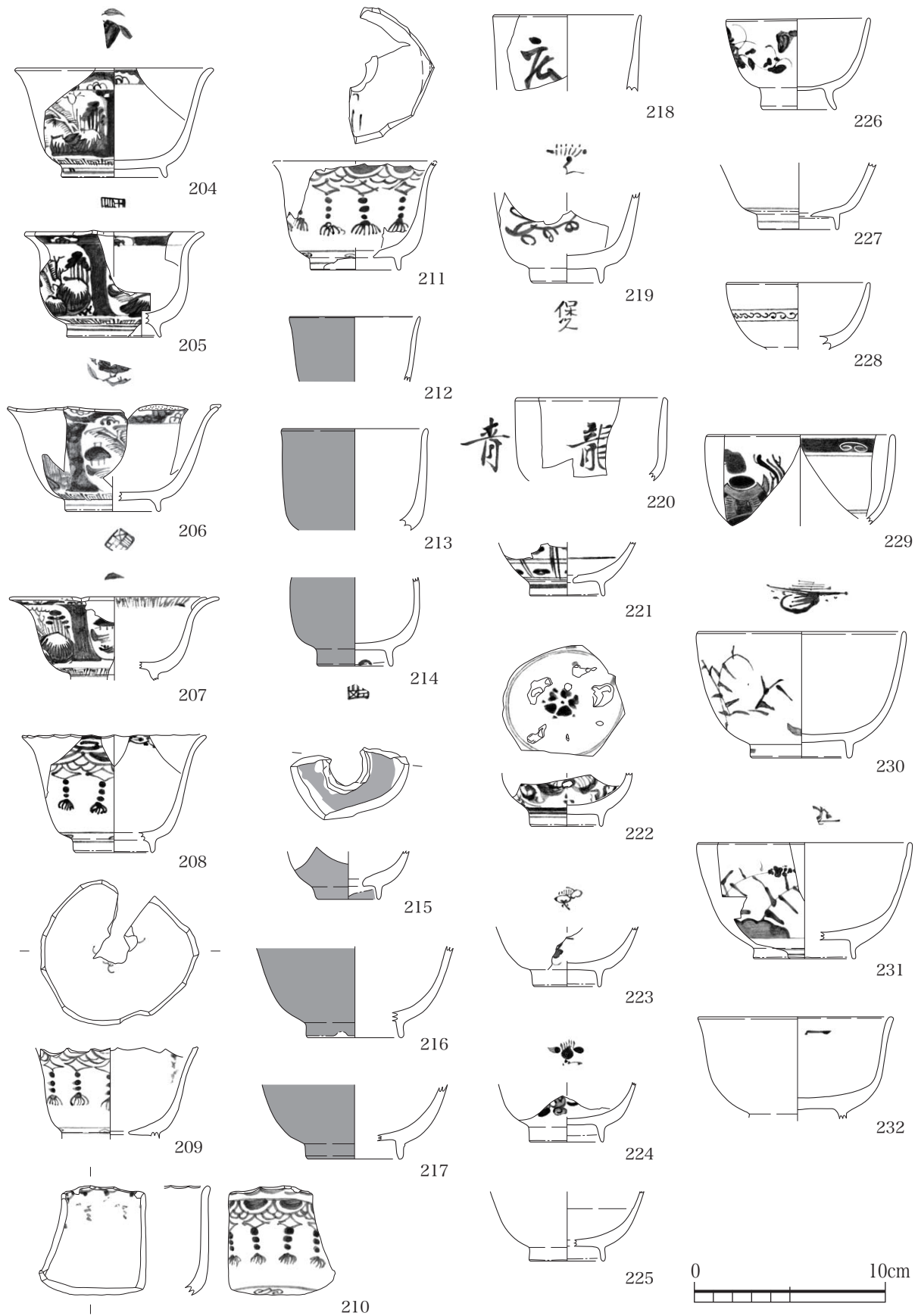


図 26 滝町古窯焼成品 10 (S=1/3)

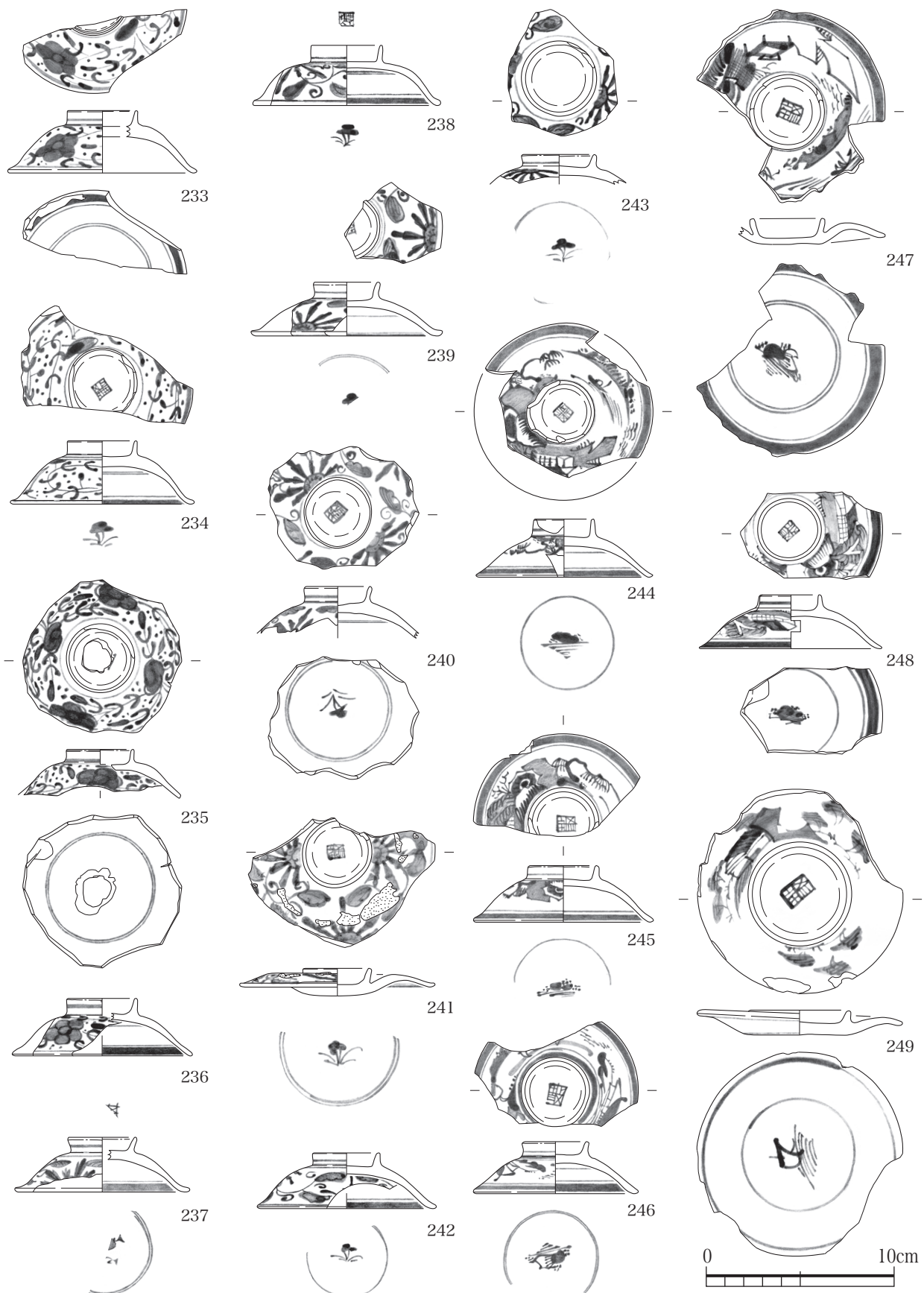


図 27 滝町古窯焼成品 11 (S=1/3)

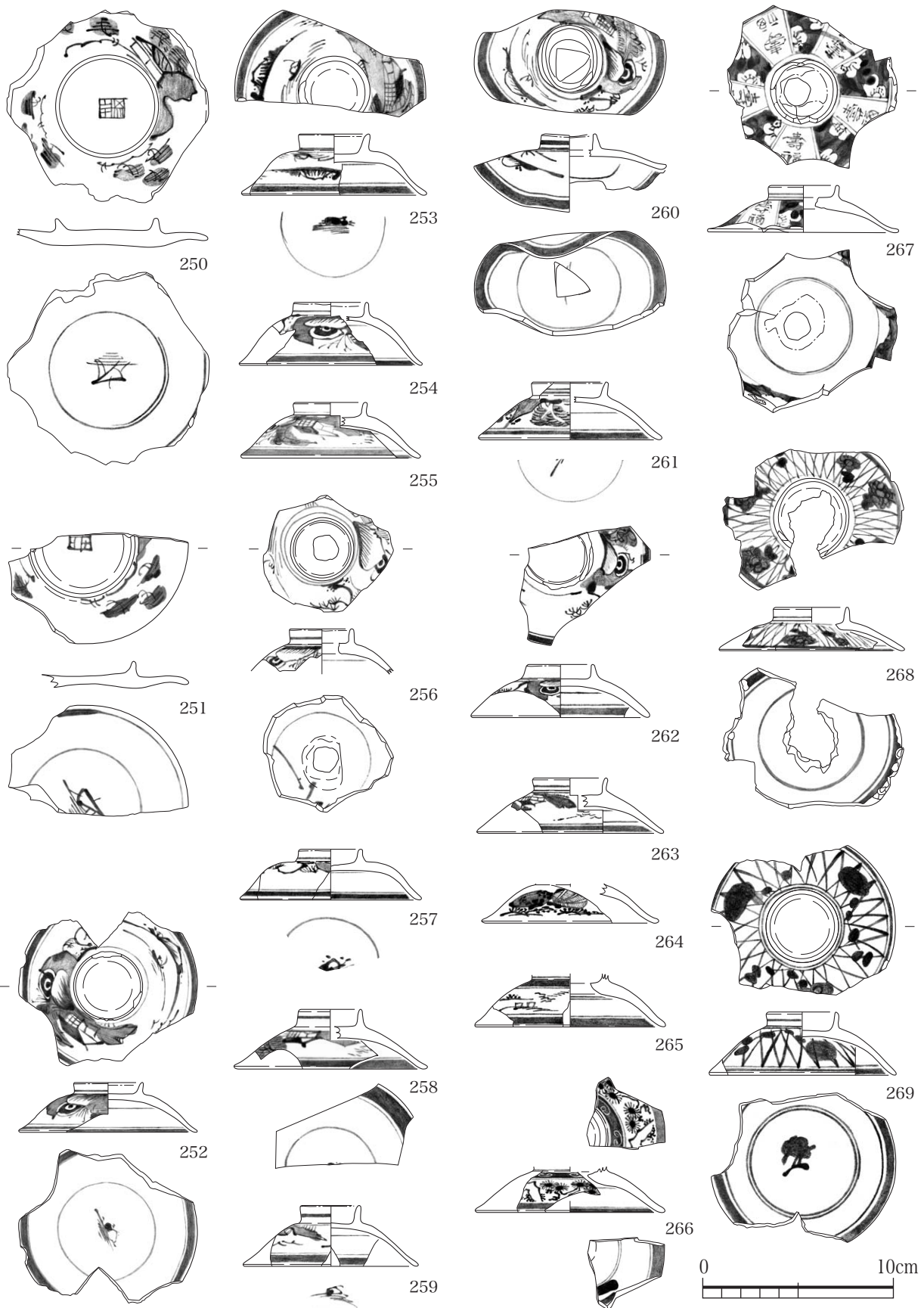


図 28 滝町古窯焼成品 12 (S=1/3)

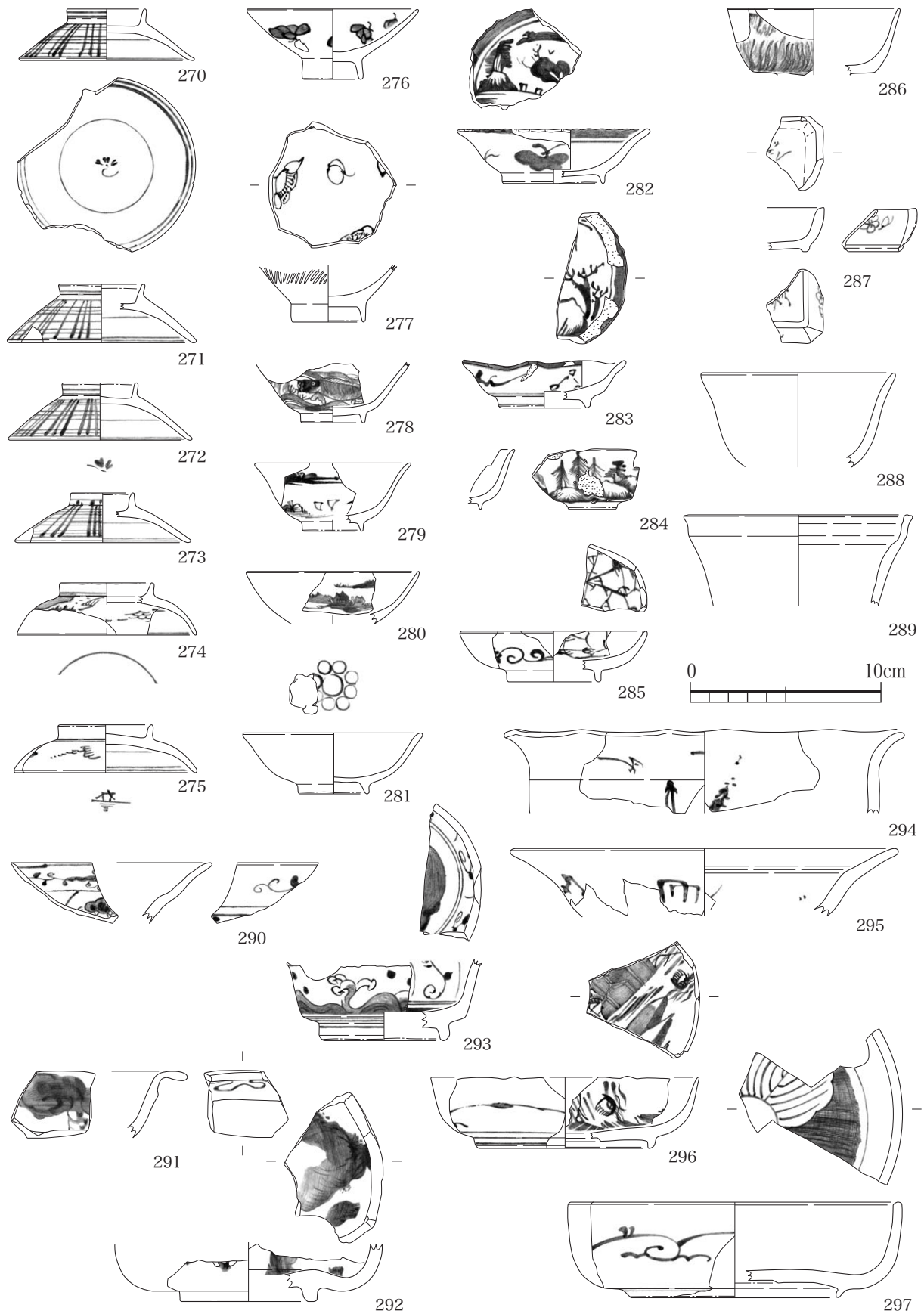


図 29 滝町古窯焼成品 13 (S=1/3)

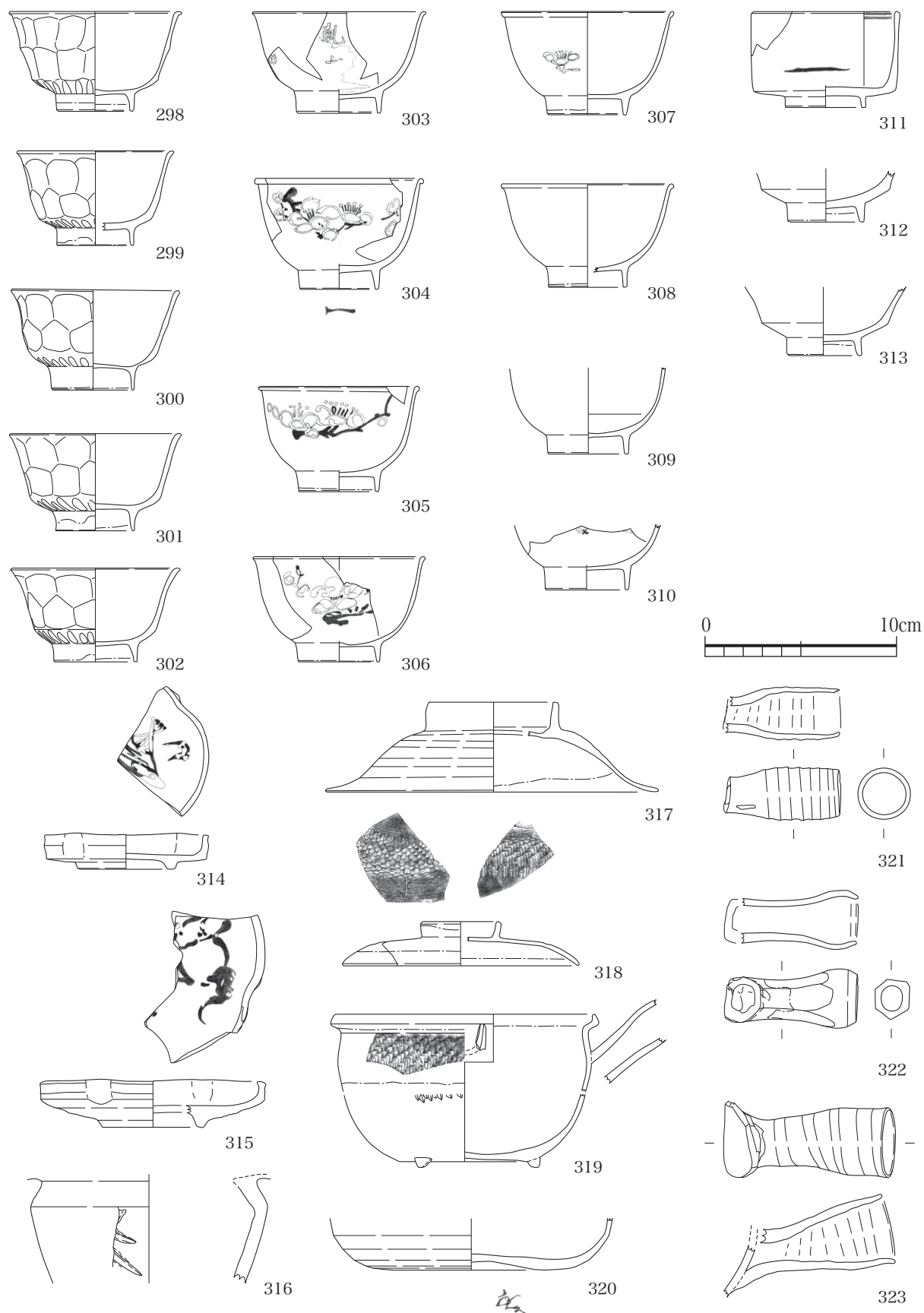


図 30 滝町古窯焼成品 14 (S=1/3)

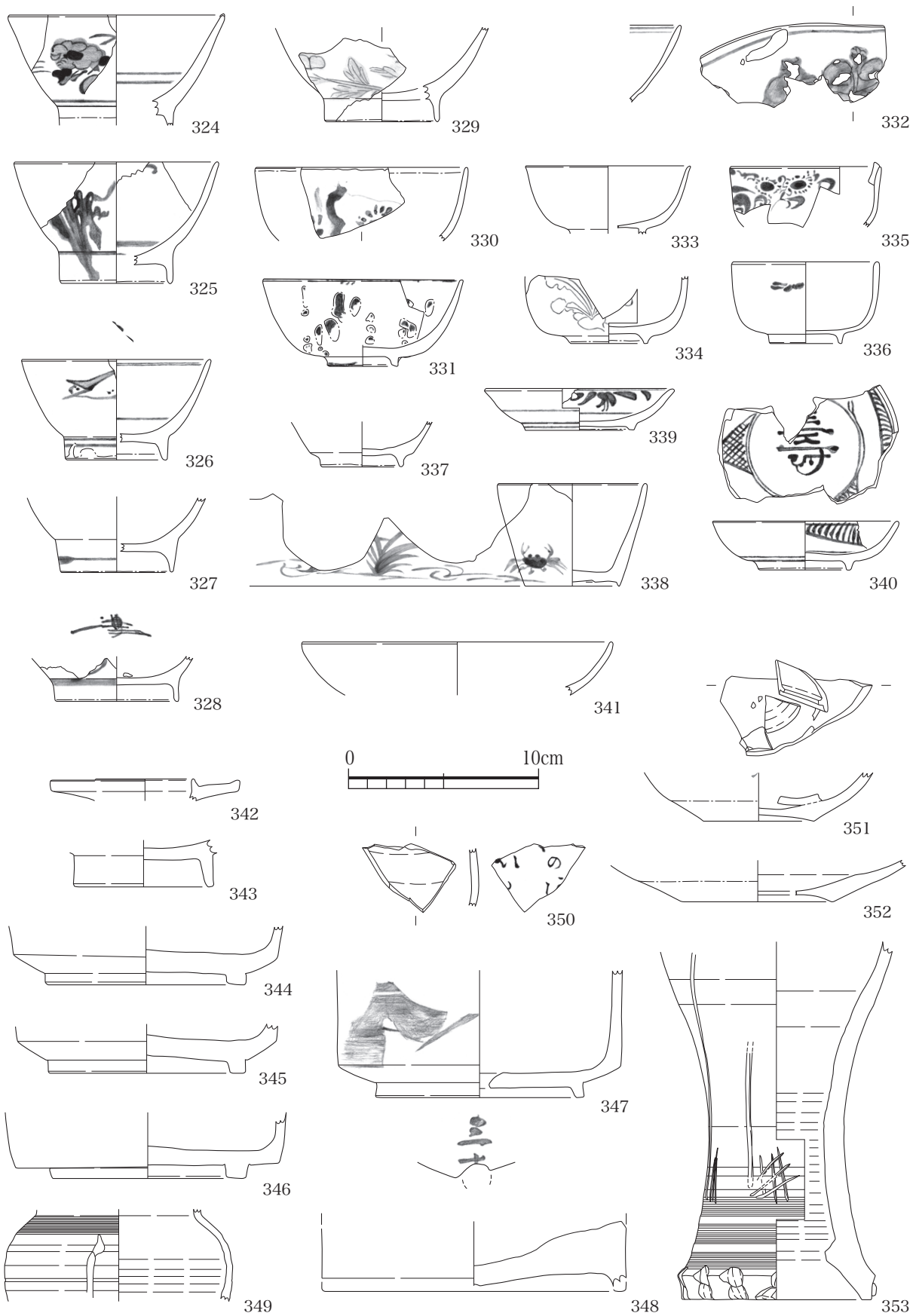


図 31 滝町古窯焼成品 15 (S=1/3)

5. 窯道具と窯体部材

実際に出土遺物の大半を占めるものは、窯詰の際に用いる匣鉢、エブタ、トチ、撚り土、匣鉢列の固定に用いるニギリ（ハリ）である。そのほかに色見片、乳鉢、乳棒の先、トチオサエ、棚板と支柱、栓、窯体壁面や天井、狭間柱を構成するクレなどの築窯材を採取した。再利用をしないトチ、撚り土、ニギリなどは膨大な量が使用・廃棄されており、匣鉢片とともに物原の大部分を占める。

【色見】（図 34,E-354 ～図 36,E-399 ほか）

焼成の途中段階に窯体内部から引き出される「試し焼き」片、いわゆるテストピースである。多くが磁器製品（端反碗・蓋・広東碗・湯呑）を転用したものであり、軟質の焼成のものが目立つ。底部に直径 1.0 ～ 2.0cm 程度の穿孔があり、カギ状の道具で掛けて取り出されたものと思われる。口縁部周辺に付けられるヨリ土は肌理の細かい土を使用した小さな団子状を呈する。また口縁や高台を打ち欠くなどして接地面の面積を小さくしている。底部を上にして逆さに置くため、焼成中の溶着を防止し、取り出し易くするための工夫がみられる。

製品から色見へ転用したものをⅠ類、当初から色見として製作されたものをⅡ類として、次のように分類を行なった。

Ⅰ類：製品を転用したもの。多くに口縁部付近を打ち欠いたり、底部穿孔などの加工がみられる。

底部の穿孔は、透明釉の施釉以前に行なわれたと思われる。

I-A 類：絵付を完了した製品を利用したもの。

I-B 類：絵付なし、あるいは不完全な製品を利用したもの。呉須で書かれた文様以外の記号、文字などがみられる。

Ⅱ類：製品の形状をとらないもの

I-A 類は絵付けまで行われていることから製品の一部として扱い、製品図版の頁に掲載している。器種では端反碗が最も多い。広東碗では 1 点（10）のみであり、広東碗からの転用は少ないと考えられる。量産品の端反碗（99,133,151）と蓋（235,256）の転用品もあるが、文様がやや複雑な丸碗（67,69,70 ～ 72,96,97,125）や鉢 A（209,211）や、小杯（201）などの器種、端反碗（159,162）は同じ文様の製品破片があまりみられず、相対的に色見の割合が目立つ。各種文様の色見の点数は必ずしも製品の量を反映していないと思われる。

I-B 類は無地、または圏線のみが描かれて文様部分が欠けているもので、主に内面に文字や粗雑な文様などが描かれている。354 ～ 374 は文字でもやや複雑なものであり、「大極上金□」（354）のような吉祥句や「せと画」（356）、「せと□」（369）、そして試し書きであろうか「浅田屋」（64）、「柿」（359）や「新」（373）を書き連ねるものなどがある。376 ～ 390 は漢数字が含まれるもので、「三」「三半」「四」「（よこぼうを 4 本たてに並べる）」が数多くみられる。素地あるいは釉薬の調合割合などの覚書であろうか。ほか「上」（383）などがある。391 ～ 399 は文様や圏線を試し描きしたもの、あるいは無地のものである。転用される器形は端反碗が最も多く、碗蓋、湯呑、広東碗（367）、小型広東碗（361）がある。

I-A 類は、素焼き・絵付工程の後に色見に転用したものであり、おそらく対応する製品と同時に焼

成されたと推定される。IB 類は、絵付工程の前に色見に転用したものであり、焼成不良や絵付の失敗品などが含まれていると思われる。

II 類としたものは 1 点 (375) のみである。掛け穴をつくるよう帯状の粘土を環状につないだ形状をとる。輪の内側となる部分に呉須で文字が書かれているが、判読できない。焼成は良好であり、残存部分では溶着の痕跡が認められない。

【乳棒の先・乳鉢】(図 36,E-400 ～ 404)

400 ～ 403 の磁器乳棒の先はいずれも使用による変形が著しい。このうち 402 の内側に残る暗灰色の粉状の付着物の成分を分析したところ、呉須であることが判明した(註 1)。404 は磁器乳鉢である。底部にかけて体部下位を厚くつくり、外面は下部を除いてロクロナデ整形、外面・内面の上部のみ透明釉が掛かる。内面は使用により摩滅している。

【その他の道具】(図 36,E-405 ～ 408)

405 は底径 4.9cm、高さ 4.8cm の手捏ね成形の陶器であり、底面を除き灰釉が掛かる。瀬戸市・杵兵衛窯で同様の資料が出土している。用途は不明。407 は素焼であるが、408 と同じくトチオサエと思われる。

【築窯材】(図 36,E-409 ～ 図 37,E-416, 図 47,E-499 ～ 図 49,E-508)

414 ～ 416 は窯壁の構築に用いられたニギリグレである。長軸方向で長さ 13.2 ～ 16.8cm あり、手で握った指跡が明瞭に残る。やや方形に近いもの (415)、楕円形のもの (414,416) があり、撚り土と同じやや粗い胎土の粘土の状態の生ぐれを小口積みにして窯壁を構成している。窯体側壁と狭間柱上部から連続する天井壁で確認した。

499 ～ 503 は棚板の脚や狭間柱に用いられたと思われる厚さ 3.3 ～ 5.7cm の板状、正方形のクレである。一辺は 15.0cm 前後であり、方形エブタとは異なり四隅の稜線は鋭く整った面をなしている。エブタや匣鉢などよりも精良な土を用いて表面は平滑に仕上げられている。硬く焼き締まり変形は小さい(註 2)。506 の棚板は 30.5×15.0cm、厚さ 2.8cm であり、胎土は先の板状のクレと同様である。上下面端部に脚を固定した痕跡と撚り土が残る。



図 32 物原 (004SX) 出土の箱グレ
(下部約 10cm は床下に埋まった状態で使われた。下部 3 ～ 4cm 辺りには帯状に白色部分が形成されている。)

507,508 は遺構の頁でも述べた狭間柱の部材となる方形の煉瓦、箱グレである。幅は約 15.0cm を基本として、奥行きは 14.5 ～ 20cm、高さは数種あり、複数個を組み合わせる最終的には 30cm 前後の高さを確保している。立方体の表面は平滑に仕上げられ、側縁の稜が明瞭なもの、面取りのあるもの、丸くナデ仕上げしたものがあり、一本の狭間柱でこれらは混合して使われている。物原で採取した最も大きなものでは 19.0×16.0cm、高さ 34.8cm、重量 17.1kg のものがあり、下部数 cm は床面下となったか赤変していない（図 32）。424 は箱グレの一部と思われるが、焼成前の表面に染付文様と同じ海浜風景が薄く落書きされている。456 は箱グレの一部であり、組合せの印であろうか側面に線刻がみられる。

409 ～ 413 は栓である。色見穴を塞ぐ円形の突出部と背面に棒状の木柄を差し込む円形凹みをもつ。凸部を中心に被熱による変色が著しい。全体の形状が不明瞭な資料がほとんどであるが、直径 16.0cm 前後と 11.6cm の大小 2 つのサイズがあり、大型のものでは表面を比較的平滑に仕上げ、薄く作るもの（412,413）がみられる。

【エブタ】（図 38,E-417,418、図 39,E-421 ～図 44,E-460）

厚さ 1.0 ～ 2.0cm の板状のもので、円形と方形のものがある。1/2 以上残存する資料を採集し、計測・観察等を行なった。図 33 に計測値の分布を示す。

円形では直径が 10cm 前後から約 22cm のものまであり、極小型（427,428）は特に薄い。小型

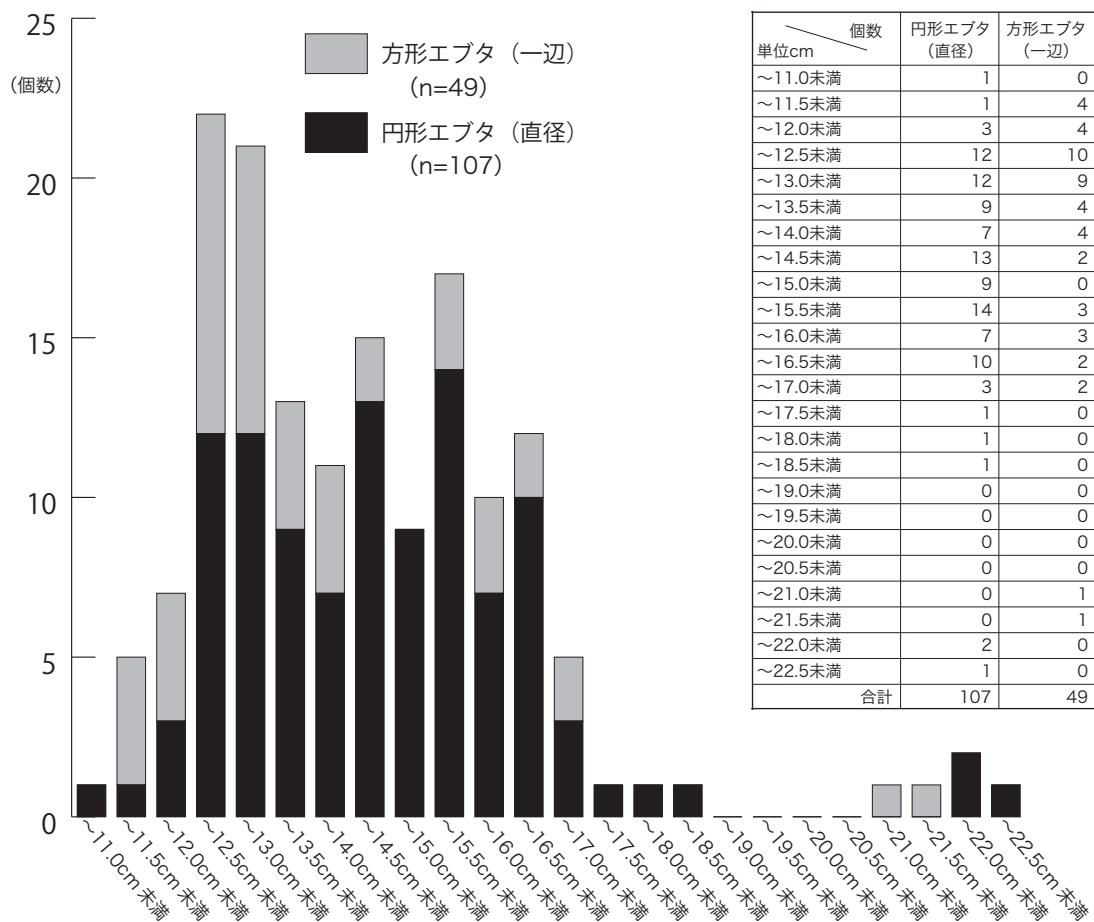


図 33 エブタの計測値分布

12～14cm 未満、中型 14～16.5cm 未満、大型 16.5～18.5cm 未満、特大型 21.5cm 以上とすると、ほとんどが小型・中型サイズに含まれる。整った正円でないものも若干含まれるが、基本的には匣鉢の直径に対応している。多くが片面あるいは両面に降灰がみられ、トチ、匣鉢・製品口縁の一部が付着し、更にその上にも降灰が認められるものも少なくない。ただし極小型と特大型エブタは付着物などがほとんどみられず再利用度は低い。少量生産の器種に対応したものと思われる。

基本的な成形方法は「板づくり」の要領で円柱状の粘土塊から円板を切り出す技法であり、切り離しの痕跡が残る。ただ刻書をもつ 417,418 では、団子状の粘土を押し潰したのち周縁部を少し整形したと考えられるようなものがみられる。

円形のエブタで刻書をもつ資料は 7 点が確認されている。417 は両面にあり、一方に家紋状の文様、もう片方には四行に分けて「東叡山 青龍院内 栗田源二郎 源盛方」と先の細い工具で焼成前に刻まれている。418 は片面全体を使って人の顔が描かれたものである。中心に鼻がくるように正面向きの人物の顔が配されている。丸みを帯びた大きな鼻に細い眼と眉、口が描かれ、両耳はやや大きく、頭髮も細かく表現されている。何を表すものか不明であるが顎の下複数の線がみられる。421 は片面に細く浅い凹みで「栗田」と刻まれている。422 は判読不明であるが、425 の「柳」に筆致が類似する。423 は片面の中央に花、その左脇に「月方画」と刻まれている。426 は二行に文字があり、中央付近のものは「於柳口柳」と読める。試し書きであろうか。

方形のエブタも厚さ約 2.0～2.5cm の粘土板を切り出して成形したもので、四隅の角を丸く整形したものが多い。一辺が 11～17cm のものと少量ではあるが 20cm 以上の特大のものがある。前者は再利用されたものが多く両面に降灰がみられる。トチ、匣鉢・製品口縁の一部などが付着し、その上にさらに降灰が認められるものなどがある。449,450 などは特徴的な加工痕がみられるものであり、焼成後に四辺のそれぞれ中程を縁がやや内彎するほど集中的に打ち欠いている。こうした加工は一辺が 12.6cm 前後の小型サイズに多く、全面に降灰が認められる。

【匣鉢】(図 39,E-419,420, 図 44,E-461～477)

物原の遺物の多くを占める。基本的に形状は円形凸底であり、変形によりほぼ平底に近い形状となったものもみられる。外面凸部は布目の痕跡がみられるもの、糸切痕が残るものがある。布目が細かく整ったものと、粗い外面底部に刻書がみられる資料が 2 点あり、419 は「栗」、420 は欠損しているが「栗田」であった可能性が高い。エブタの大きさ(図 33)が口径の分布とほぼ対応していると考えられる。端反碗と広東碗に対応する 11.0～17.0cm が主体であり、その他のサイズのものは極端に少ないため抽出し易い。器高の低いものは蓋または小型の皿の焼成用と思われる。

【トチ・ハリ(ニギリ)】(図 46,E-478～498)

ヨリ土片とともに物原の遺物の多くを占める。ヨリ土とトチは胎土に砂粒を多く含む。トチは円形板状のもの(478～480)と環状の輪トチ(487～493)とがある。両者とも上面は水平で、匣鉢の内面凹部に接する下面が曲面となる。上面には製品の痕跡が環状の浅い凹みとして残るものが多い。494～498 は匣鉢間の固定に用いられたハリ(ニギリ)であり、短いものとやや長いものがみられる。

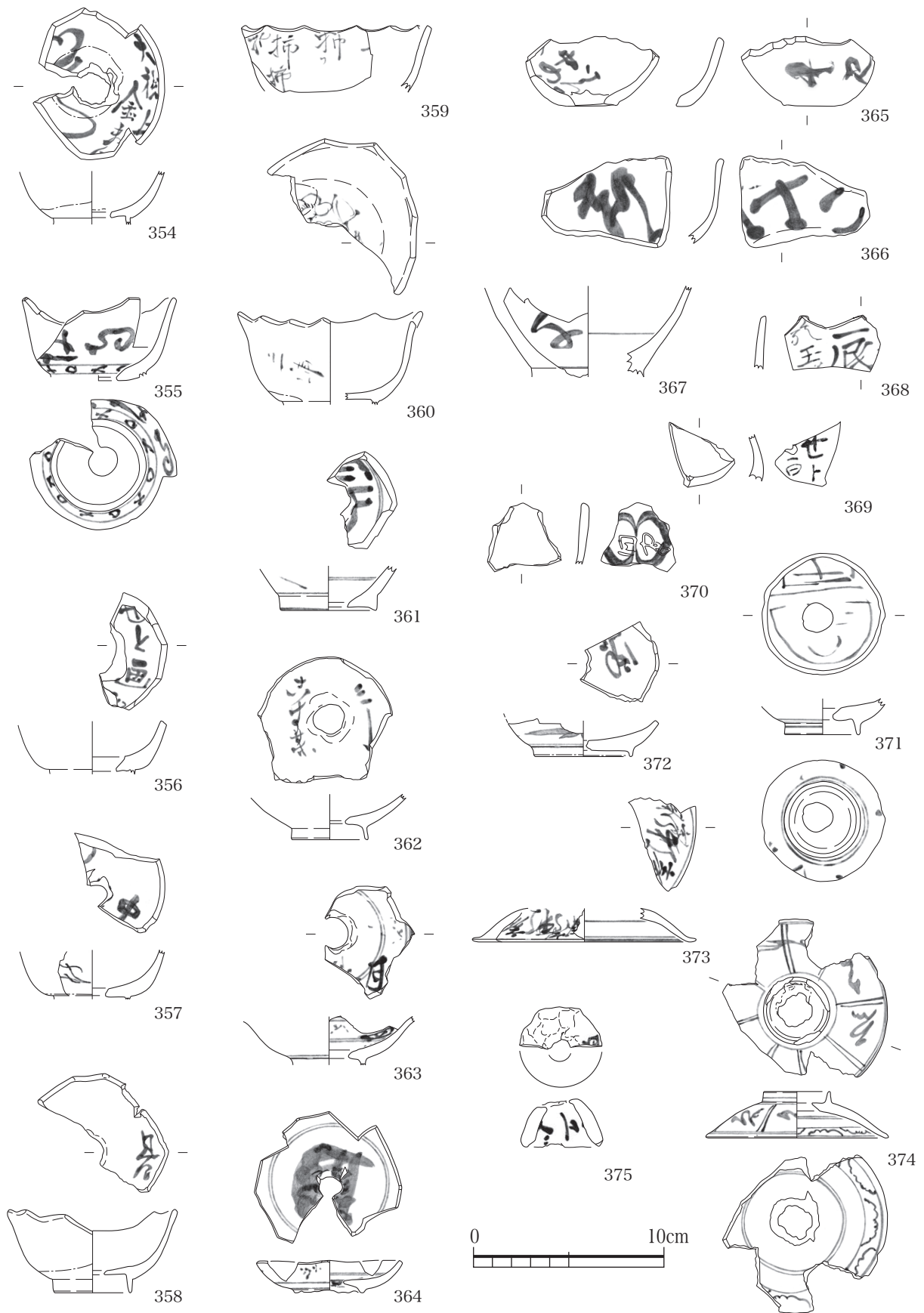


図 34 窯道具 1 (S=1/3)

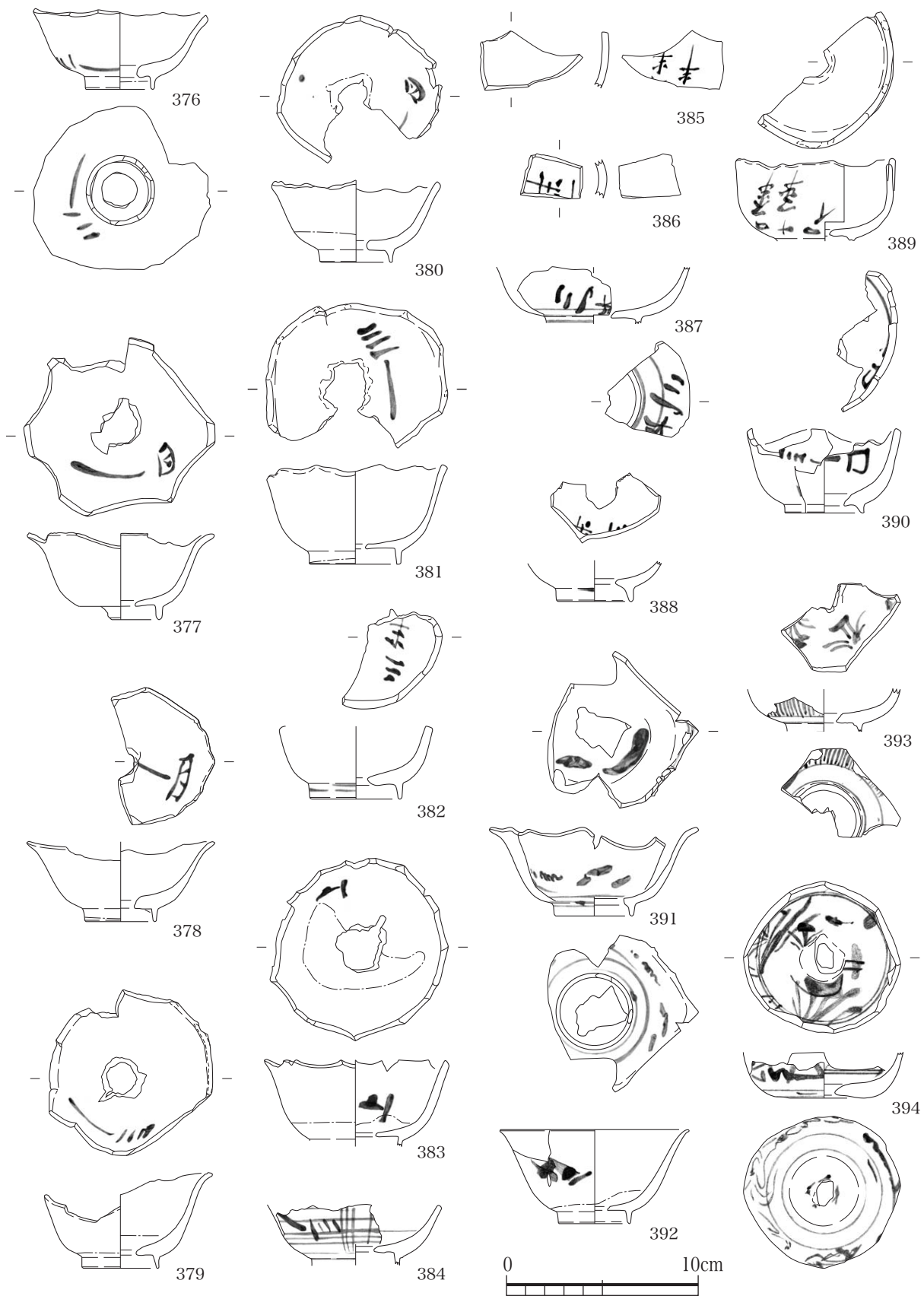


図 35 窯道具 2 (S=1/3)

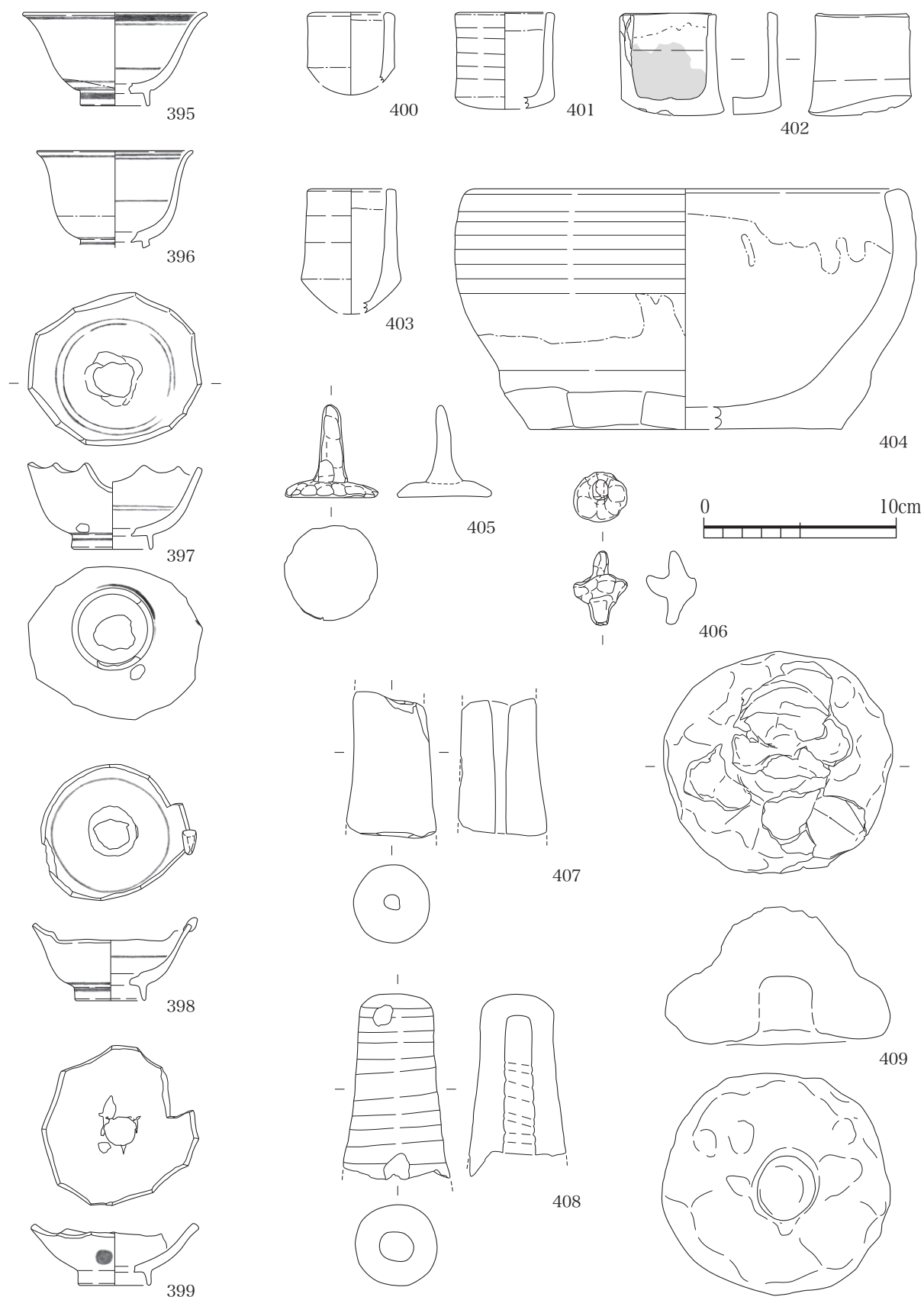


図 36 窯道具 3 (S=1/3)

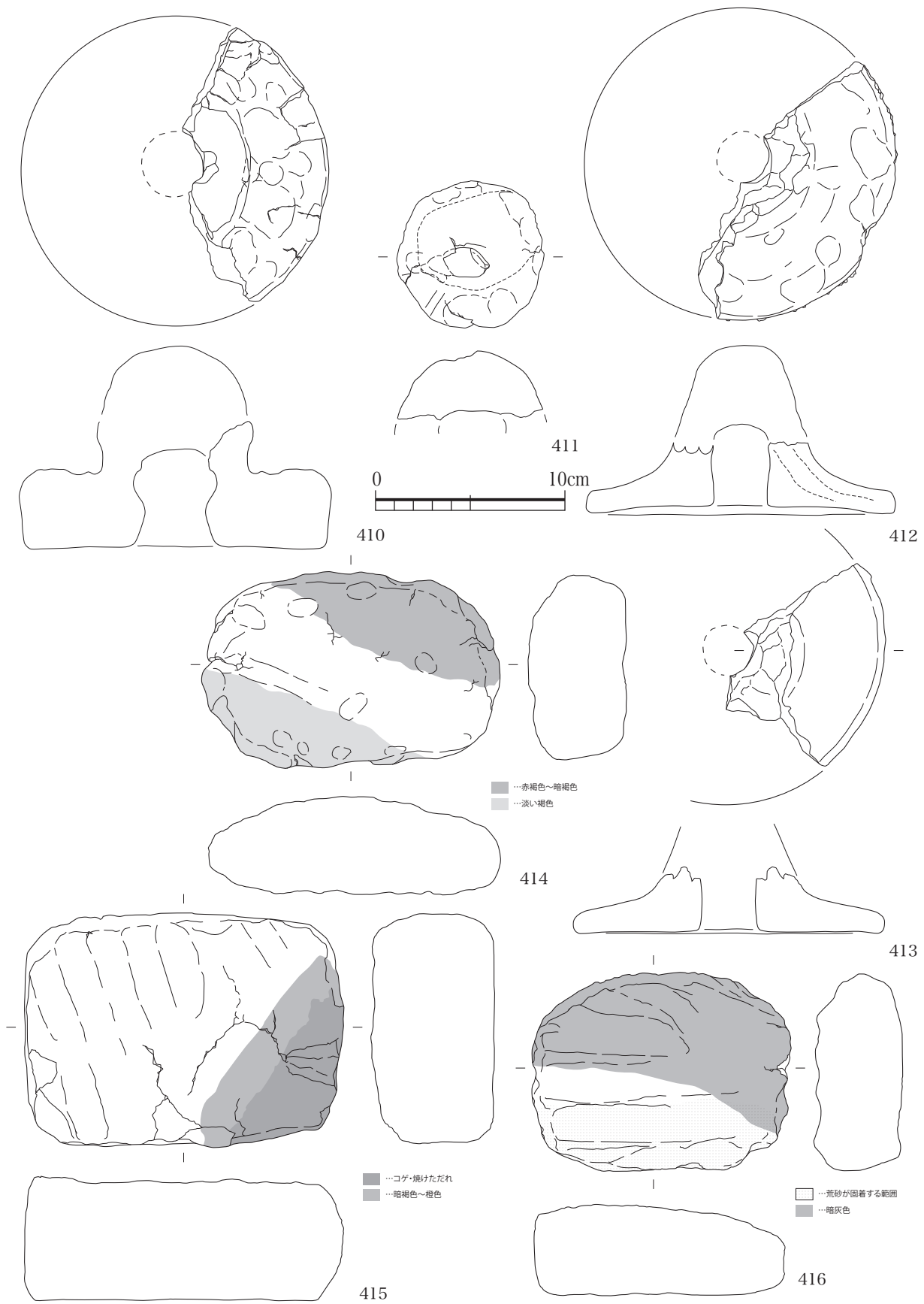
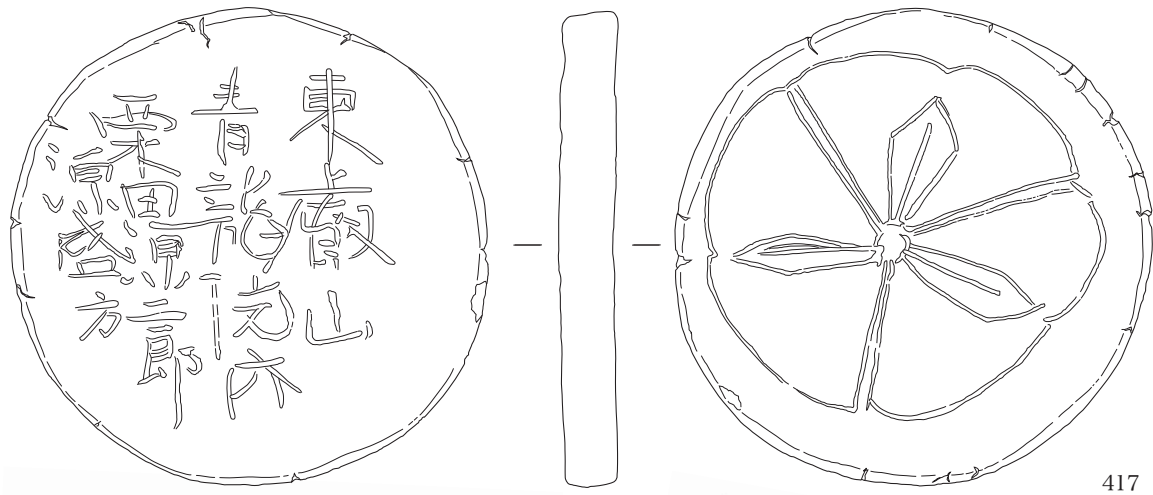
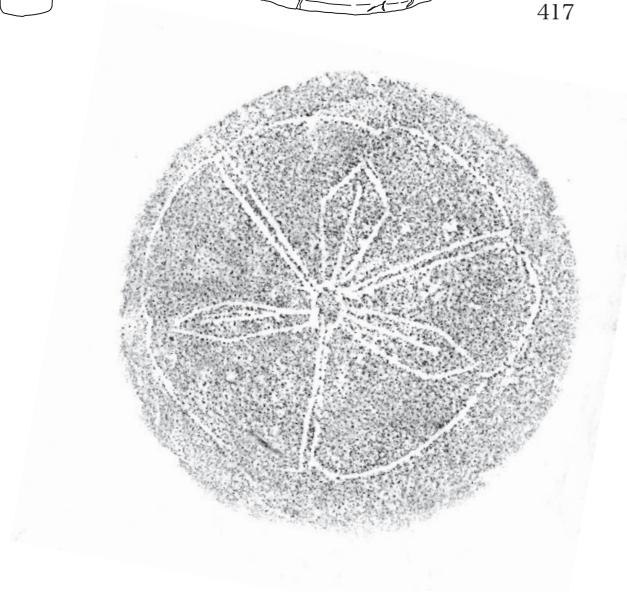
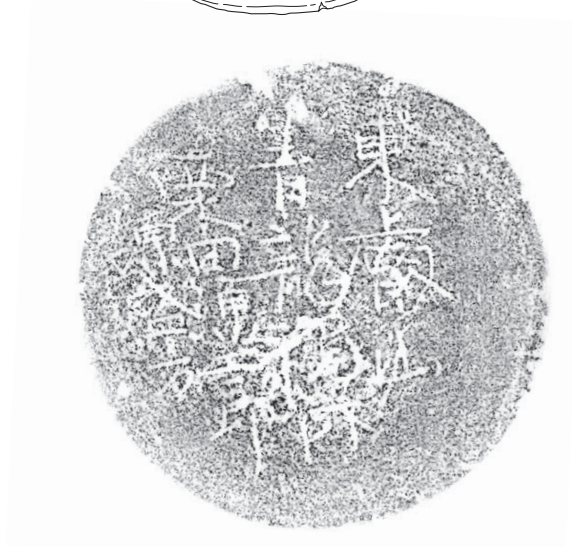


図 37 窯道具 4 (S=1/3)



417



418



図 38 窯道具 5 (S=1/2)

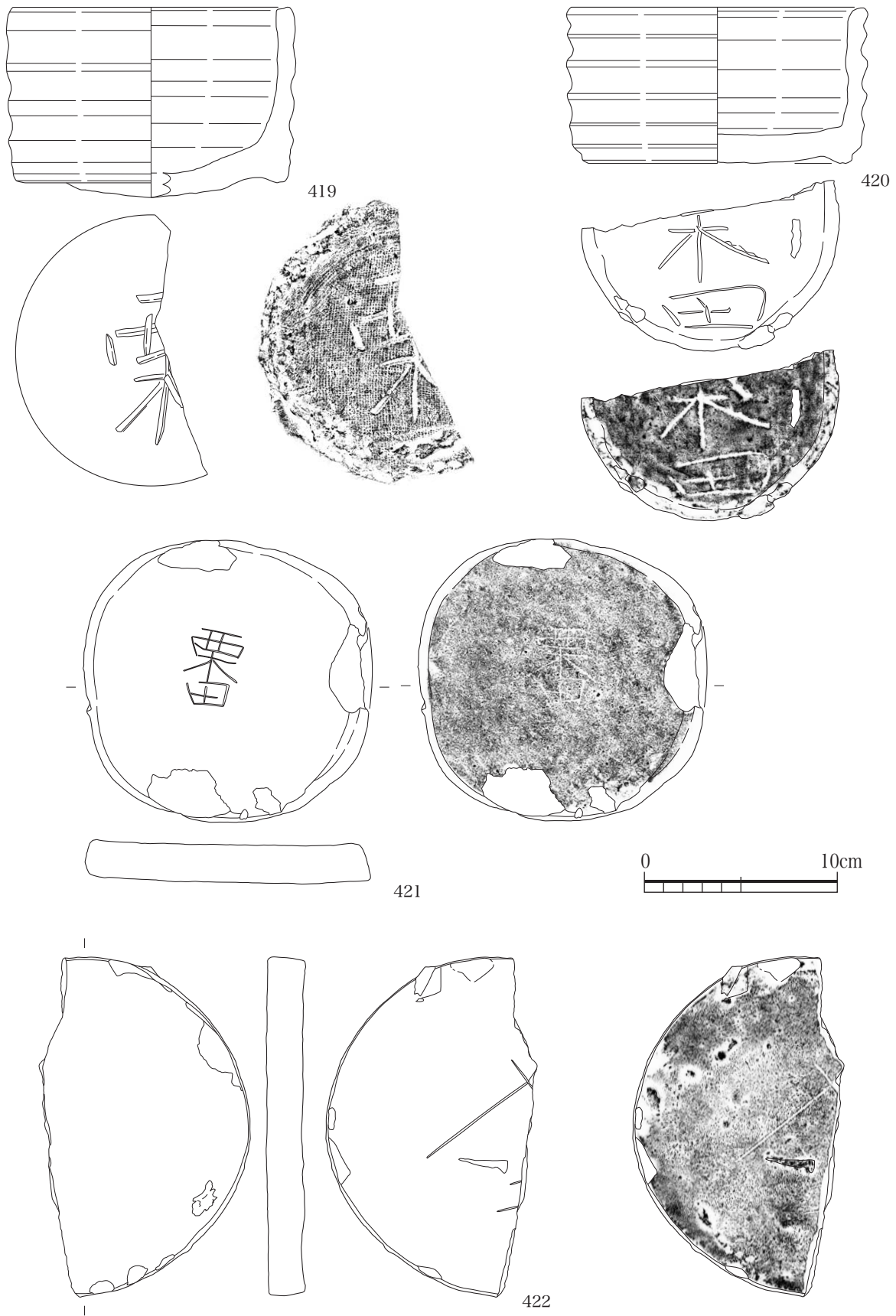


図 39 窯道具 6 (S=1/3)

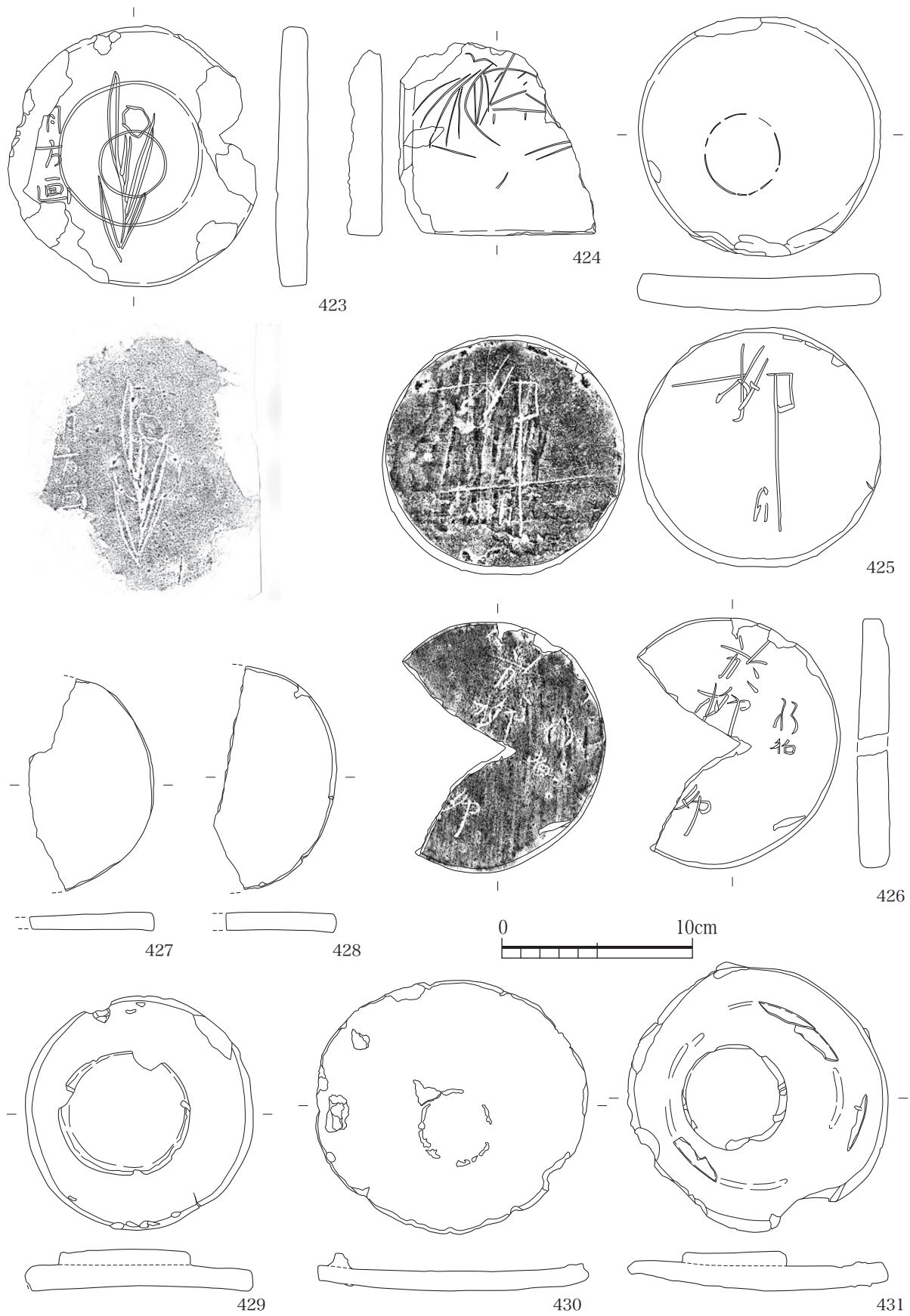


図 40 窯道具 7 (S=1/3)

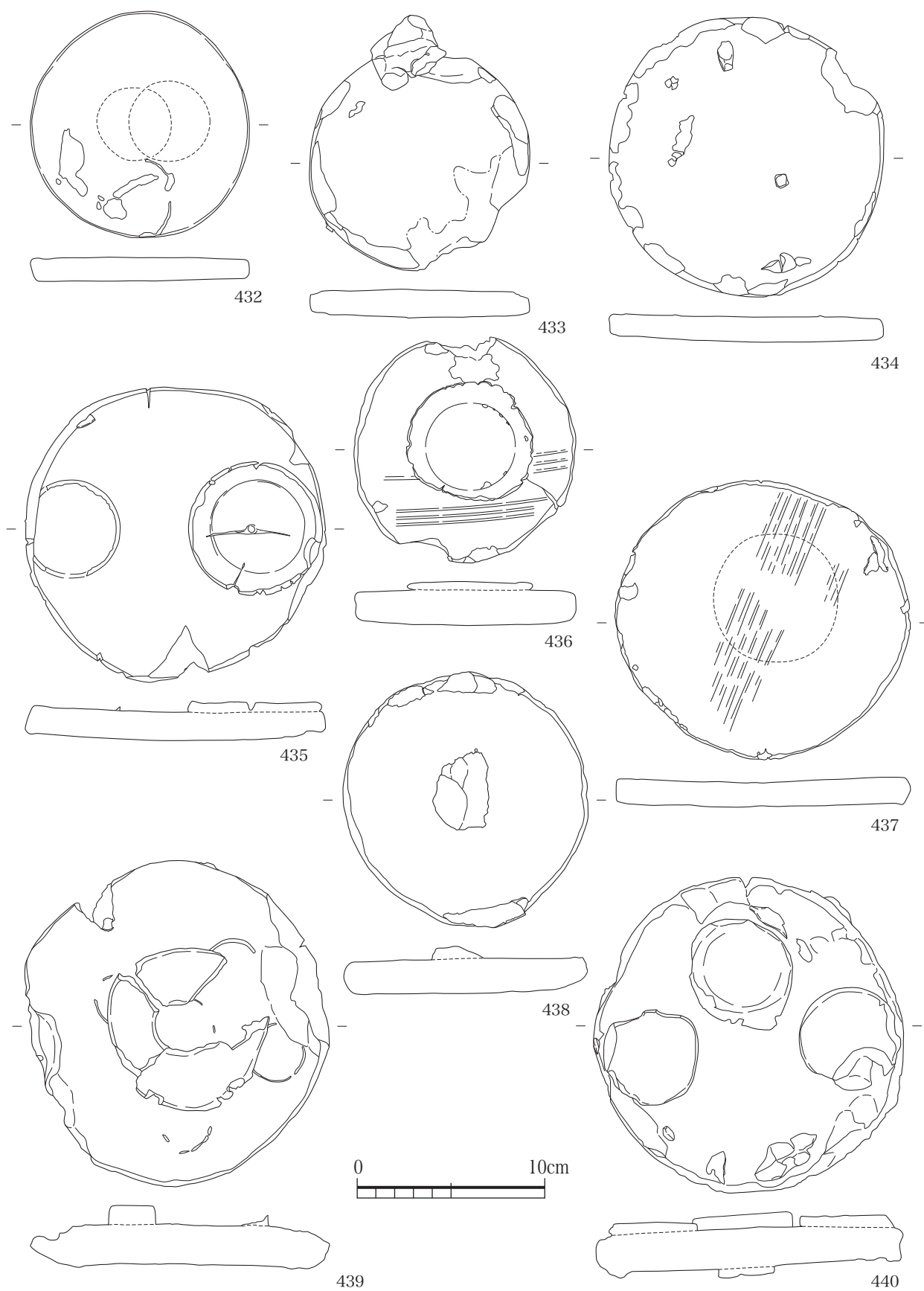


図 41 窯道具 8 (S=1/3)

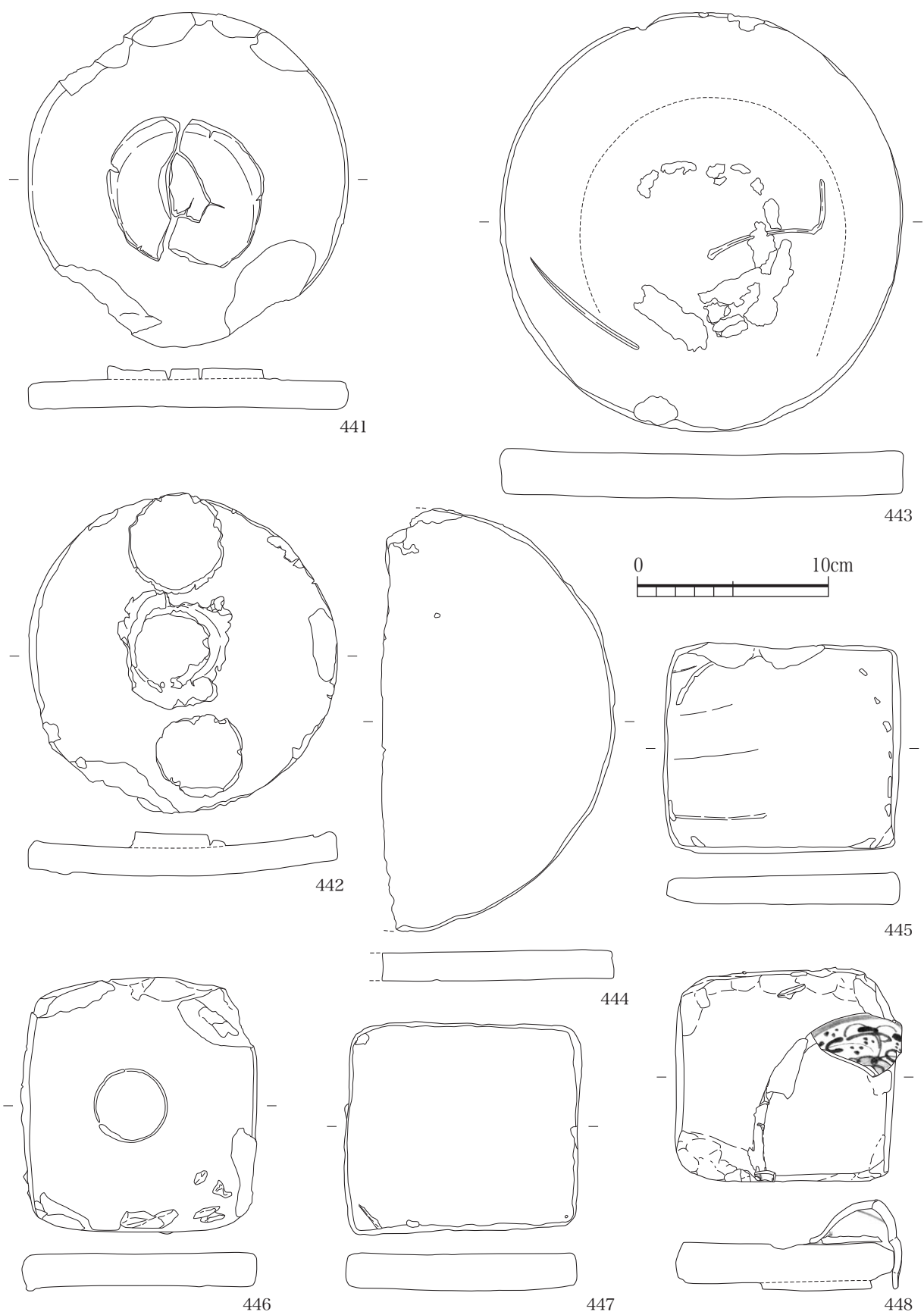


図 42 窯道具 9 (S=1/3)

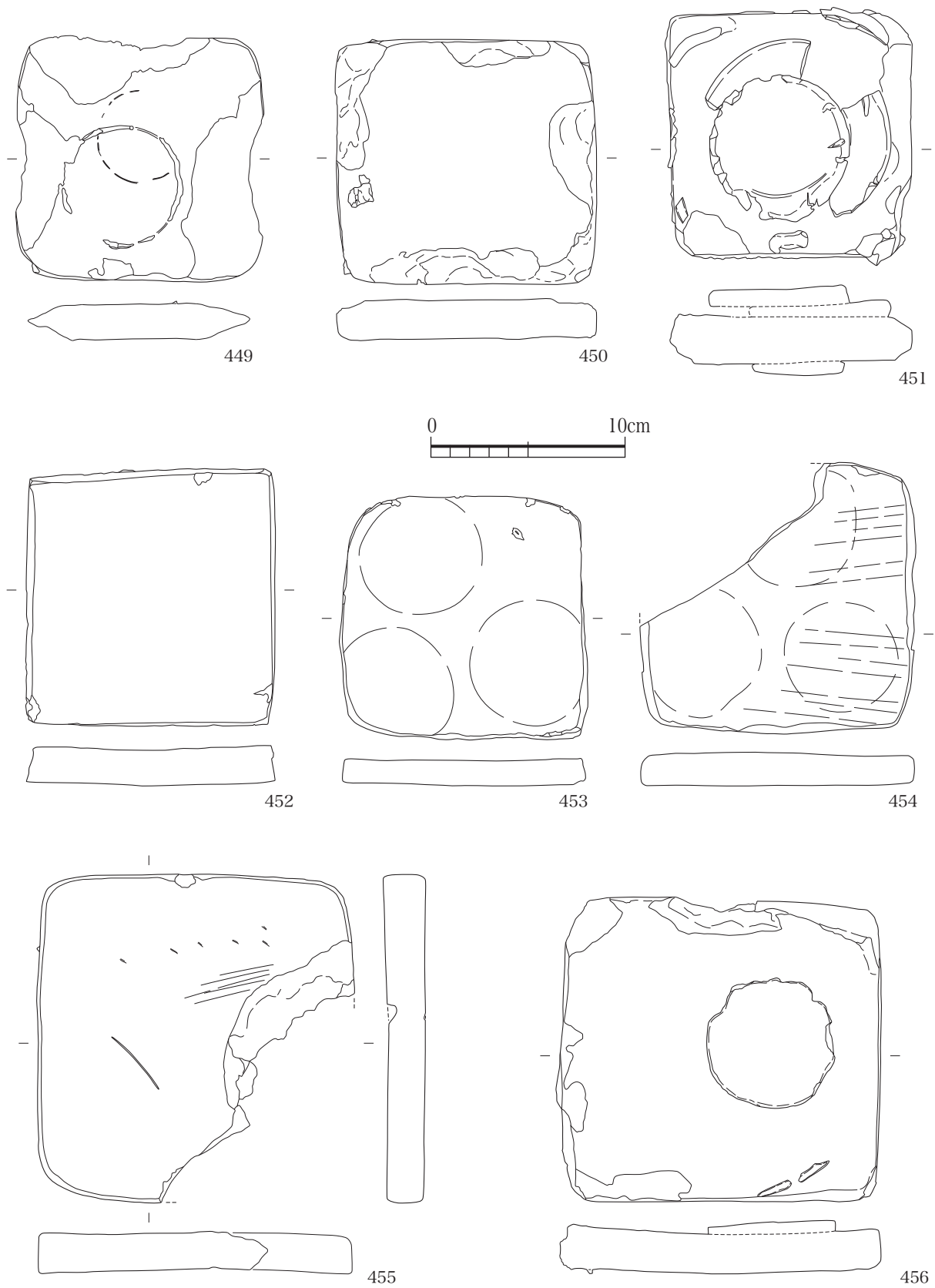


図 43 窯道具 10 (S=1/3)

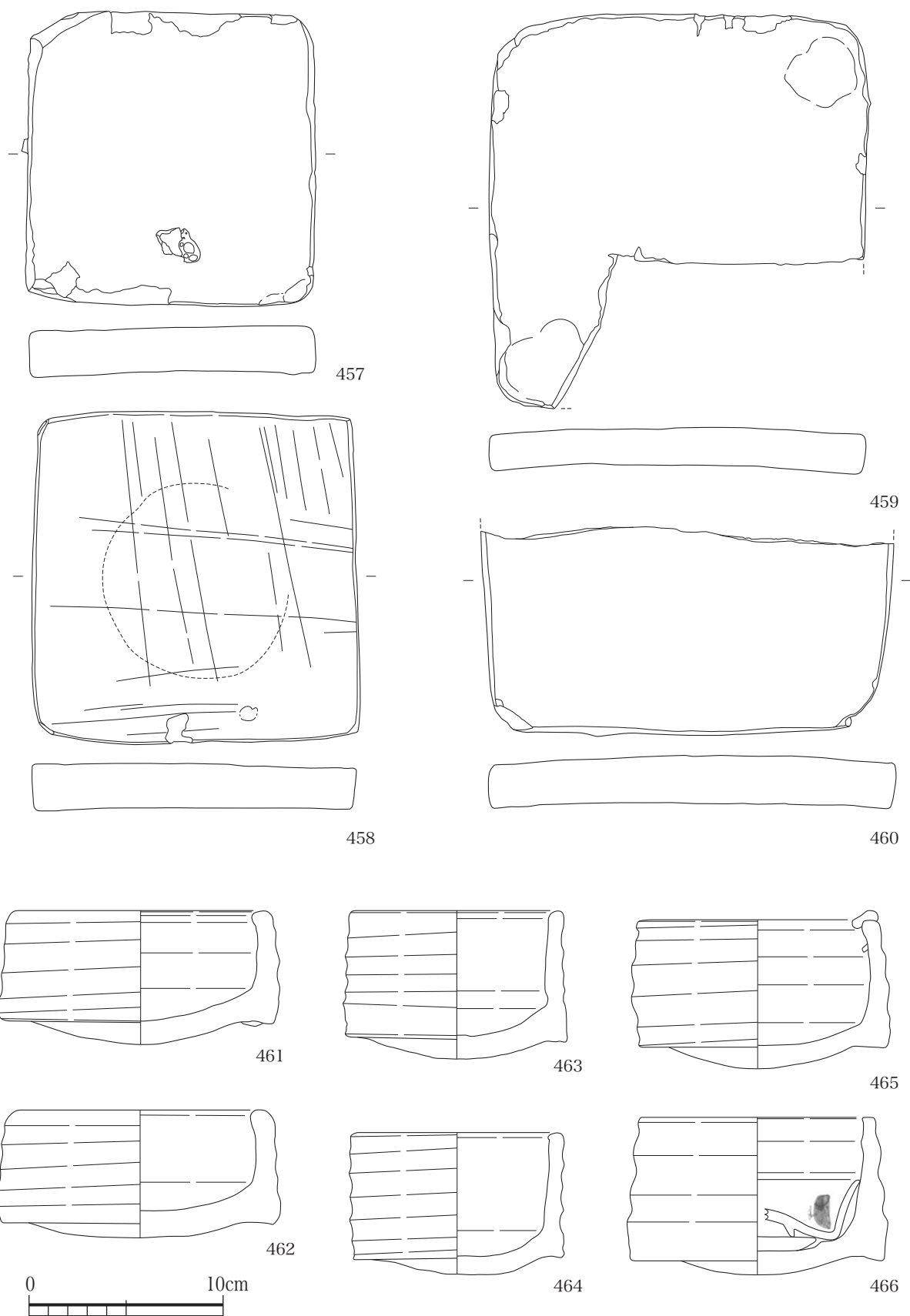


図 44 窯道具 11 (S=1/3)

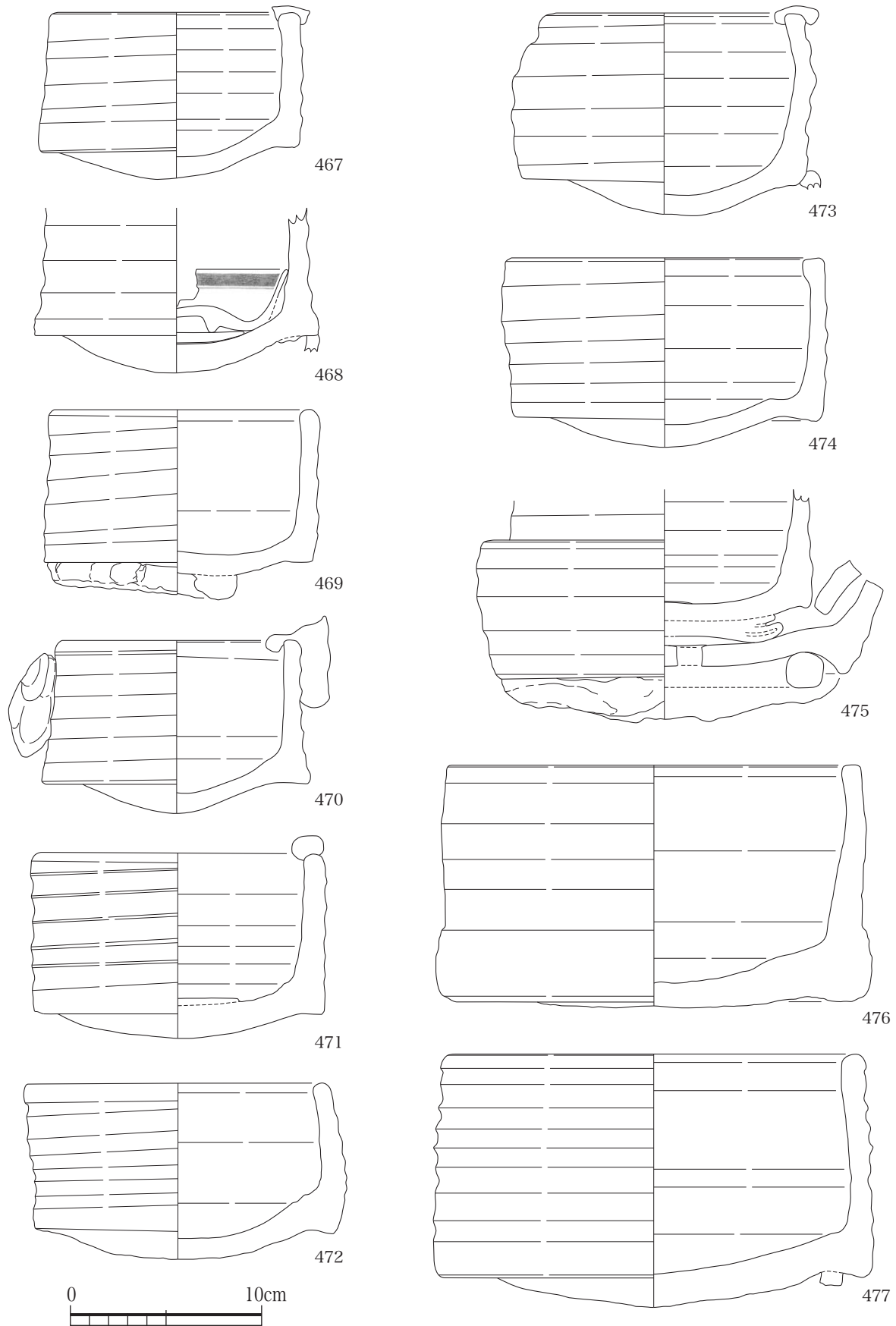


図 45 窯道具 12 (S=1/3)

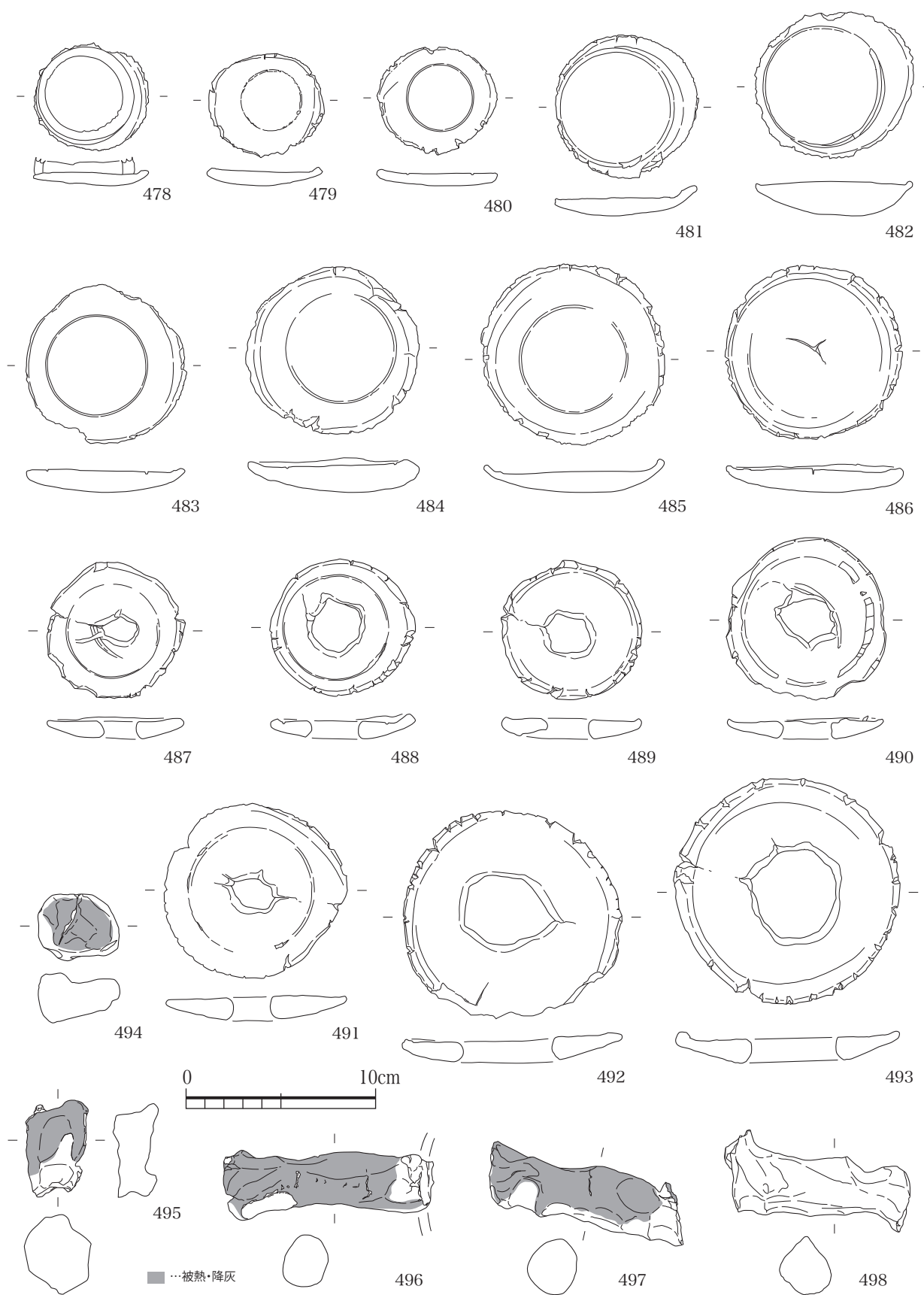


図 46 窯道具 13 (S=1/3)

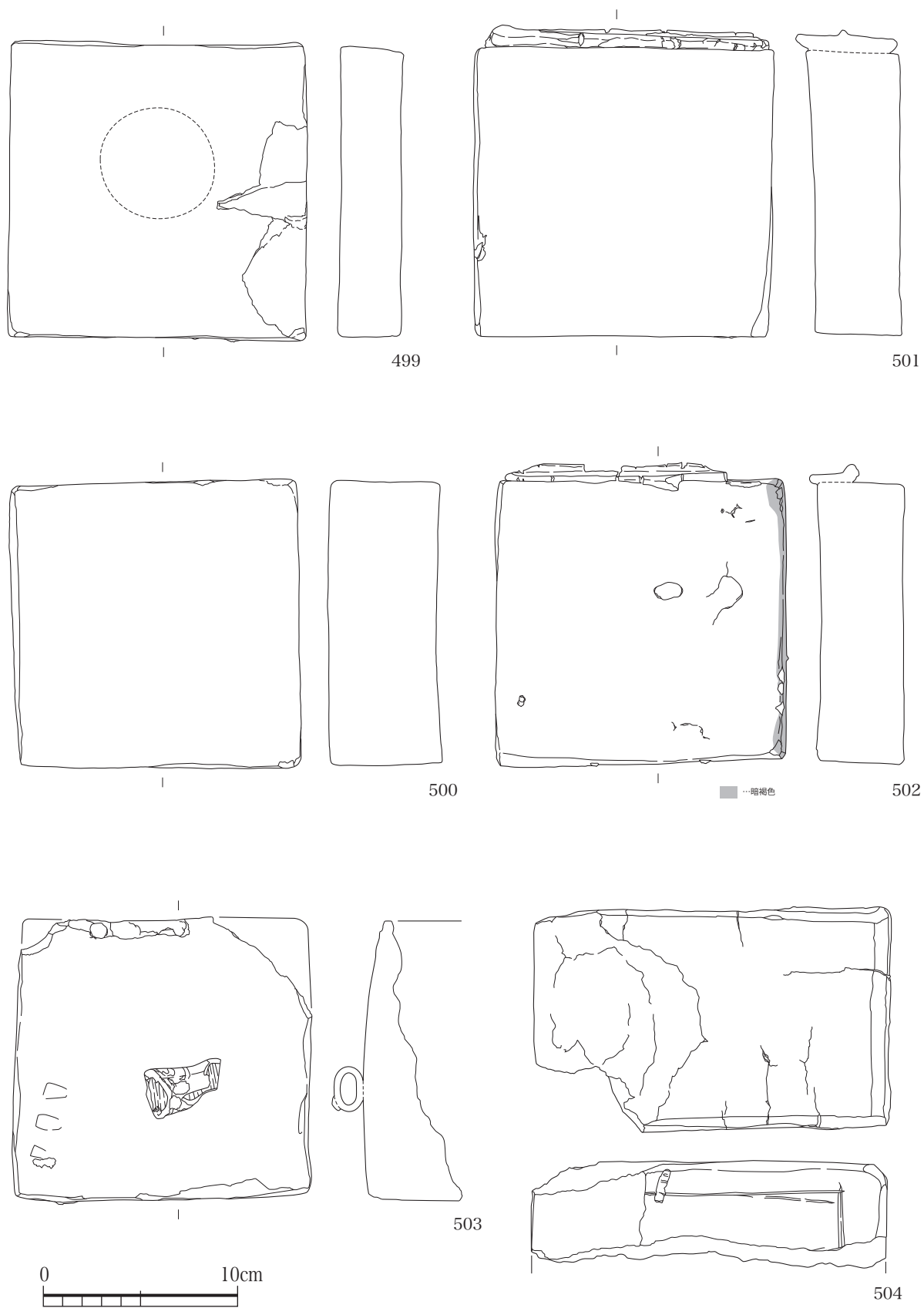


図 47 窯道具 14 (S=1/3)

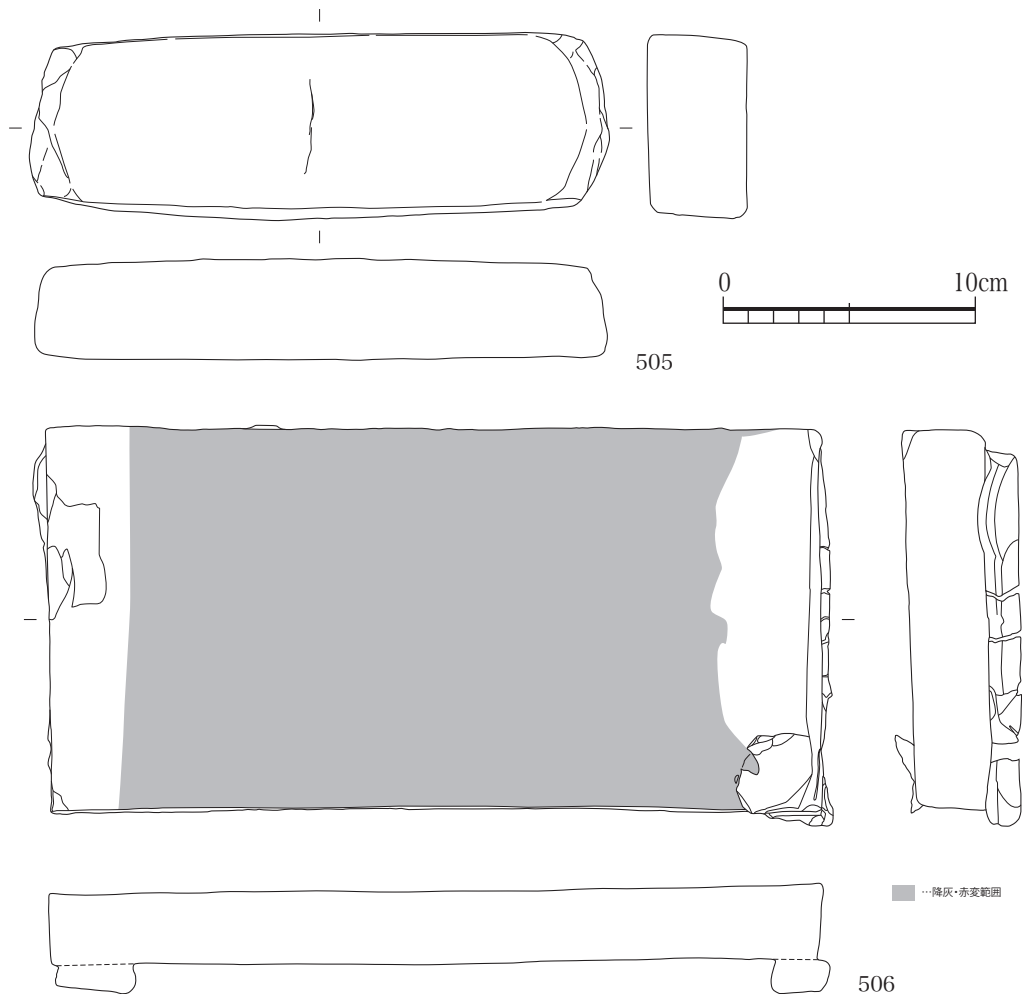


図 48 窯道具 14 (S=1/3)

6. その他の出土遺物

図 50,51 は近世の搬入品である。509,511 ～ 517 は肥前系と思われる磁器製品である。細い筆描きによる精緻な染付文様は滝町古窯の焼成品とは明瞭に区別される筆致であり、器壁も全体に薄くつくる。511 は黒色釉を全面に施した磁器端反碗であり、特に器壁が薄い。高台内に銘款あるいは文字がみえるが判読できない。518 は瀬戸・美濃窯産の陶胎染付の蓋、519 も同じく陶胎染付の皿で内面周縁に花唐草文、見込に帆掛船を描き、高台内中央を円形に削り込みむ。520 は直径 29.1cm の肥前系染付磁器の皿。521,522 は肥前産の京焼風陶器碗と皿である。523 は小瓶であり、扁平な胴部をもち肩部に細い筆描きの笹文がみられる。524 は全体が暗褐色を呈する焼締陶器の急須である。525 は軟質の土器で外面に透明釉が掛けられる。直径 13.8cm で蓋受けをもつ器形である。526 ～ 530 は瀬戸・美濃窯産の陶器鉄釉搦鉢であり、いずれも使用痕が認められる。526 は口 25.5cm と小型で口縁端部を内側に折り返す。近世瀬戸窯登窯編年の第 5 小期、17 世紀の末頃と考えられる。527,529 は同編年の第 8 ～ 9 小期、18 世紀後半～ 19 世紀初め頃と考えられる。531,532 は土器内耳鍋。533 は焼締の皿、534 は鉄釉の灯明皿。535 はロクロ成形の無釉の皿であり、内面全体にス

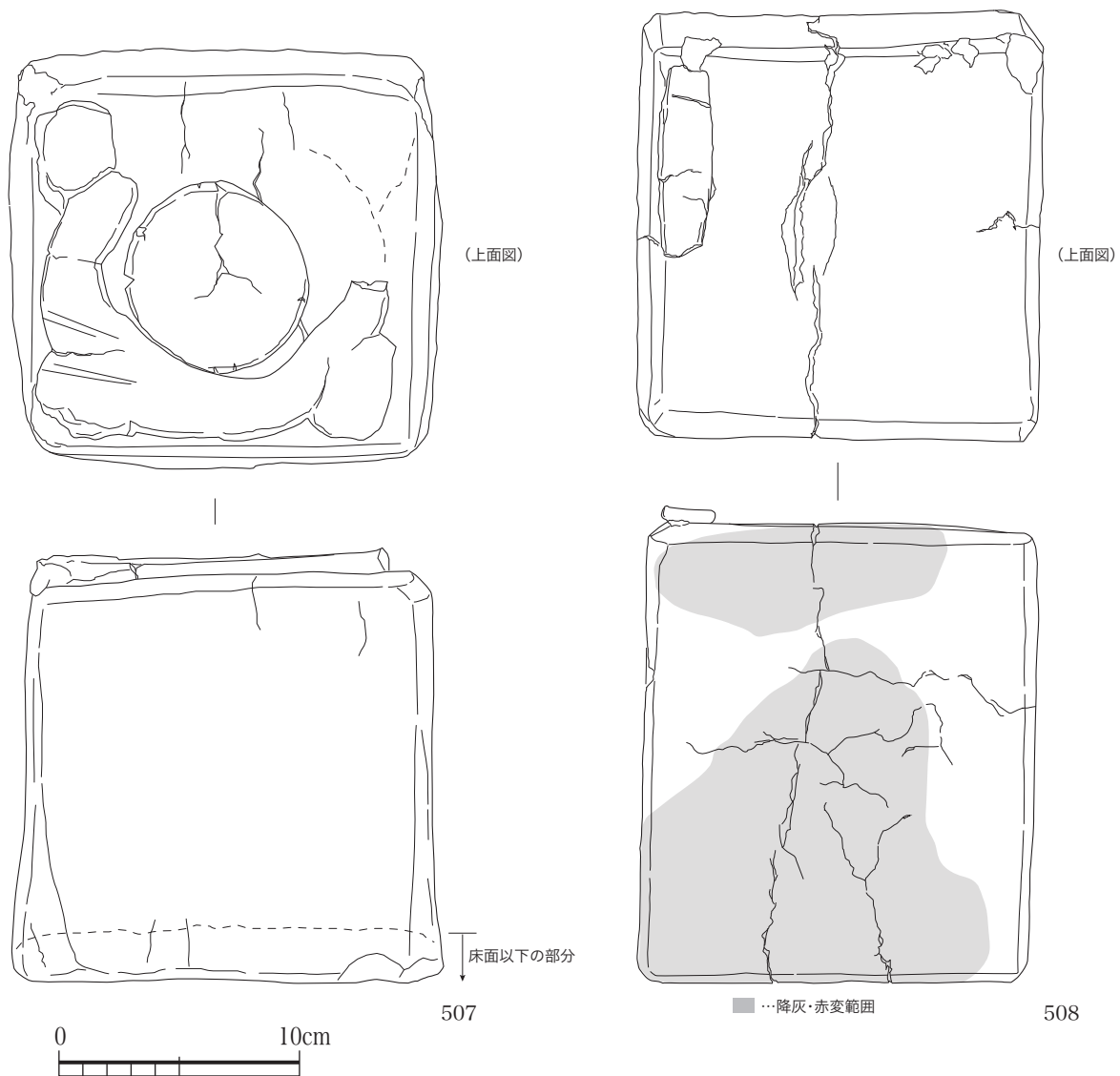


図 49 窯道具 15 (S=1/3)

が付着する。536 は長の、灰釉の陶器湯呑で外面に呉須で梅花文を描く。537 は透明釉を総掛けした小型の陶器鉢。断面はやや赤みを帯びる。538 は筒形容器。内面は灰釉が、外面は高台周辺に鉄錆釉、体部に厚く鉄釉がかかる。539 は鉄釉の筒型容器、半胴。高台端部が著しく摩滅しており底部には穿孔がみられる。

540 ～ 542 は山茶碗と小皿。尾張型第 7 型式、13 世紀後半。

543 ～ 547 は近代の資料である。543 はやや大振の陶器碗か鉢であり、高台は外傾して開いて付く。内外に染付文様がみられる。544 は磁器端反碗。染付文様は淡い水色の発色で、外面に草花文、見込は圏線にくずし「寿」字。545 は磁器染付小杯で、外面に蓮弁文、口縁内側に雷文繫ぎ文。546, 547 はやや軟質の磁器、白色無地の皿。548 は断面等暗灰色を呈する須恵質の焼成であり、脚部と推定した。時期・器形等不明である。549 は口縁端部を外へ折り返す甕であり、断面は暗褐色を呈し硬質の焼成である。口縁直下から肩口に緑釉を流し掛けする。550 は練鉢である。口縁部は外折した部分が密着して端部は内傾し、削り込み内反り高台。肩口に緑釉を流し掛けする。551 は瓶掛で印花文が 2

段にみられ、上半部に緑釉、下半部に錆釉が掛け分けられる。胴部上の欠損部は角が丸く削られており、再利用されていたとみられる。552 は筒形の鉄釉風炉で、底部外面三カ所に半球～円柱状の足が付く。

553～563 は土製品である。焙烙（553,554）は使用痕がみられる。火鉢（556,557,558）は表面に型押しの文様がみられるもので、556 は表面に雲母が認められる。560,559 は火消し壺と蓋であり、蓋の上部は型押しで凹凸が、胴部には文様が彫刻で表現されている。文様部分以外の表面は磨きが施され平滑に仕上げられており、一部には朱漆のような塗料が残る。561,562 は焜炉内に使われるサナの一部である。563 の焜炉は表面に型押しの文様が施され、底部外面には丸に「土 303」の統制番号がみられる。556,563 の胎土はやや粗雑で軟質の焼成である。逆に 557～560 の胎土は精良であり比較的丁寧なつくりである。

図 55 の磁器飯碗は、端反形（544,564,581～585）、丸形（566～568）、平形（565）、腰張形（569）、深形（571～574,577～580）、子ども茶碗（586）に大別できる。装飾技法は手描き（564,565,583～585）、型紙摺絵（566,567）、銅版転写（568,569,573,580）があり、また吹き絵（570～572）は碗蓋セットであり、ほかに粗雑な転写とゴム印技法（577,578）のものがみられる。580,581,587 は高台内に統制番号がつく戦時統制品である。586 にプリントされた絵は昭和 31 年～37 年まで南極観測船として航行した観測船「宗谷」と思われる。575 は銅版転写の丸皿、576 は上絵転写の鉢、587 は湯呑、589 は洋食器皿、青色圏線のある硬質陶器の平皿である。590 は白色の磁器の洋皿で口縁付近に上絵付文様の痕跡が残る。591,592 は表面がクリーム色を呈する無地硬質陶器のカップ受皿である。588 は陶器の型打の鉢であり表面には布目痕を残し、高台周辺を除き全体に銅緑釉が掛けられる。593 は長さ 28.5cm、幅 15.7cm の陶器製の湯たんぽである。ほぼ全面に鉄釉系の赤褐色釉が掛かり、その上に白濁釉を流し掛けて文様を付けている。

【註・参考文献】

（註 1）竹原弘展「滝町古窯出土磁器付着物の自然科学分析」株式会社パレオ・ラボ

（註 2）出土資料はほぼ全面に被熱の痕跡があり、焼成室の狭間柱手前に敷かれる板床の部材とは考えられない。同様の形態のレンガは、萬古焼の窯跡で多用されている。（竹内弘光,2005『名谷 A 遺跡・名谷 B 遺跡範囲確認調査概要報告書 森有節窯跡範囲確認調査』朝日町教育委員会）

1981,『瀬戸市史 陶磁史篇二』

1998,『瀬戸市史 陶磁史篇六』

信楽町教育委員会,2003『信楽焼古窯跡群分布調査報告書』信楽町文化財報告書第 11 集

堀木真美子・武部真木,2012「近代洋皿と青色釉分析」研究紀要第 13 号（公益）愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

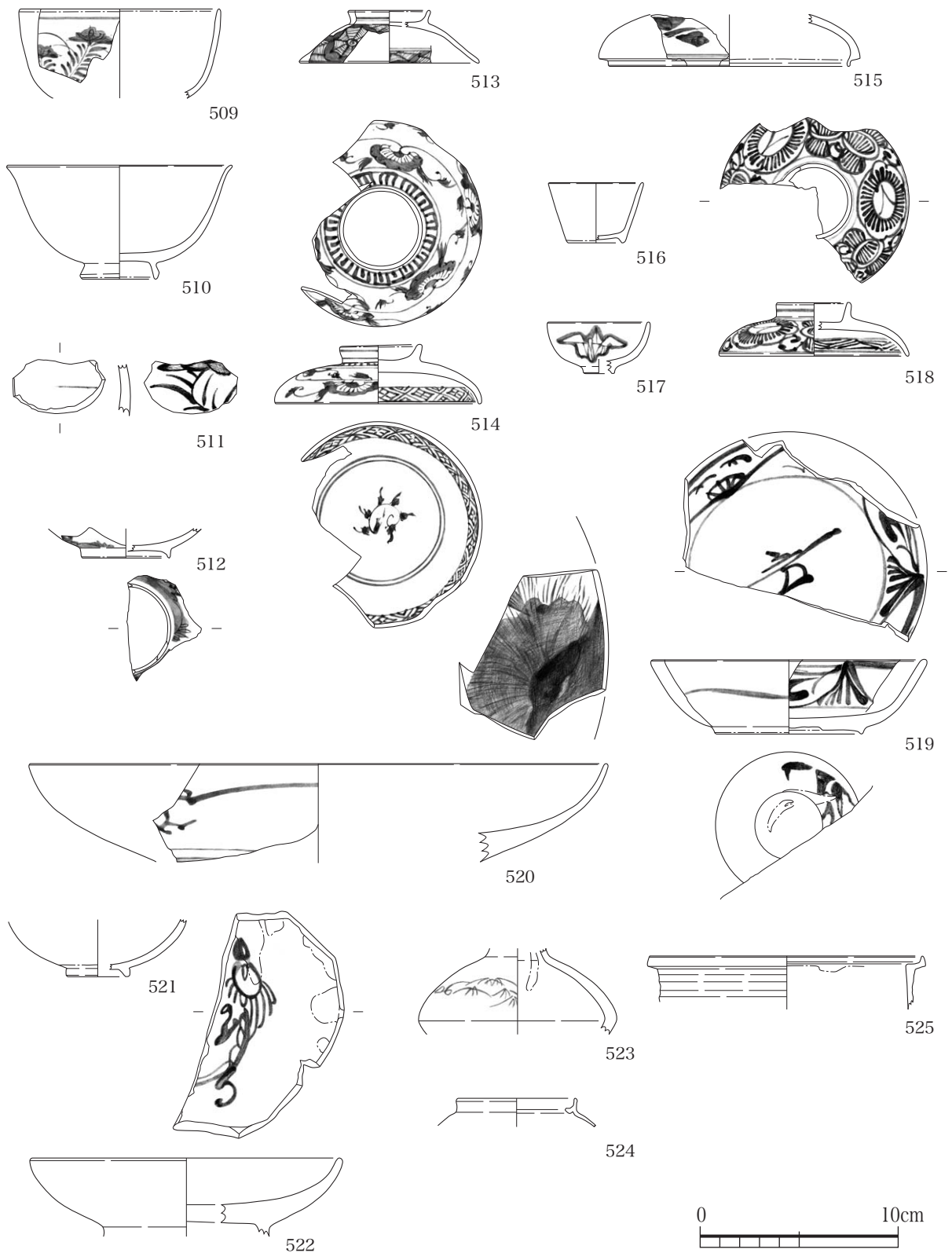


図 50 その他出土遺物 1 (S=1/3)

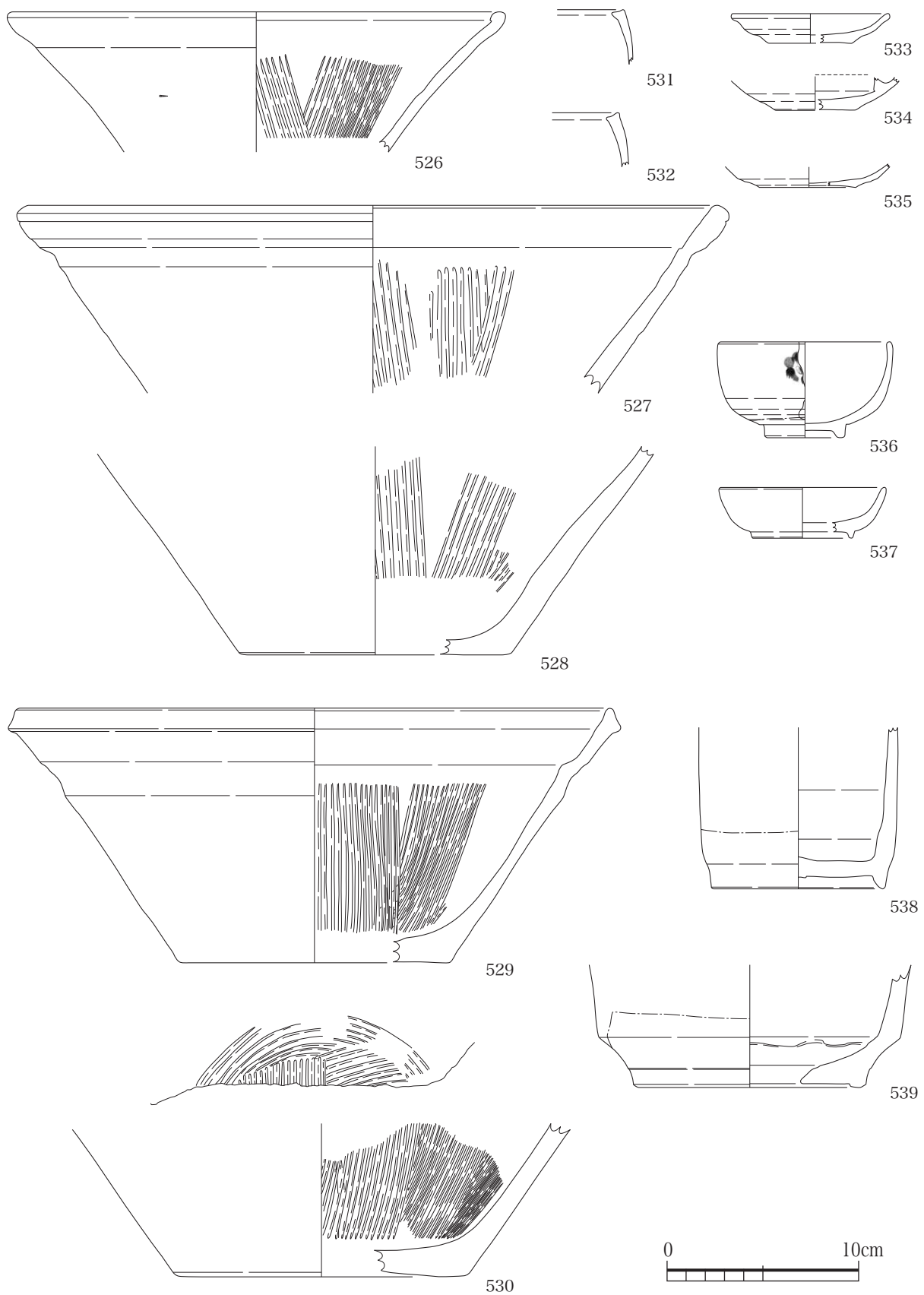


図 51 その他出土遺物 2 (S=1/3)

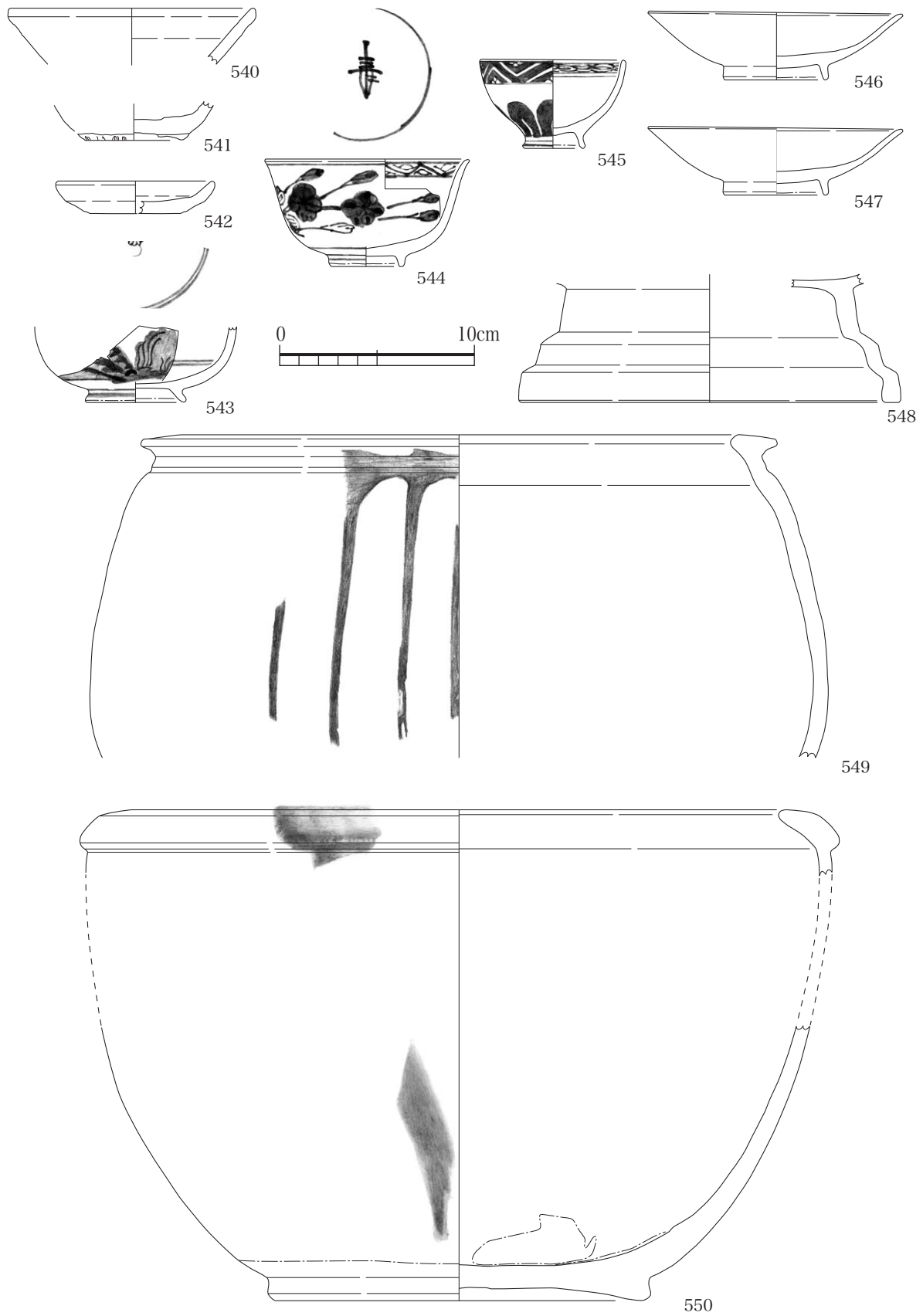


図 52 その他出土遺物 3 (S=1/3)

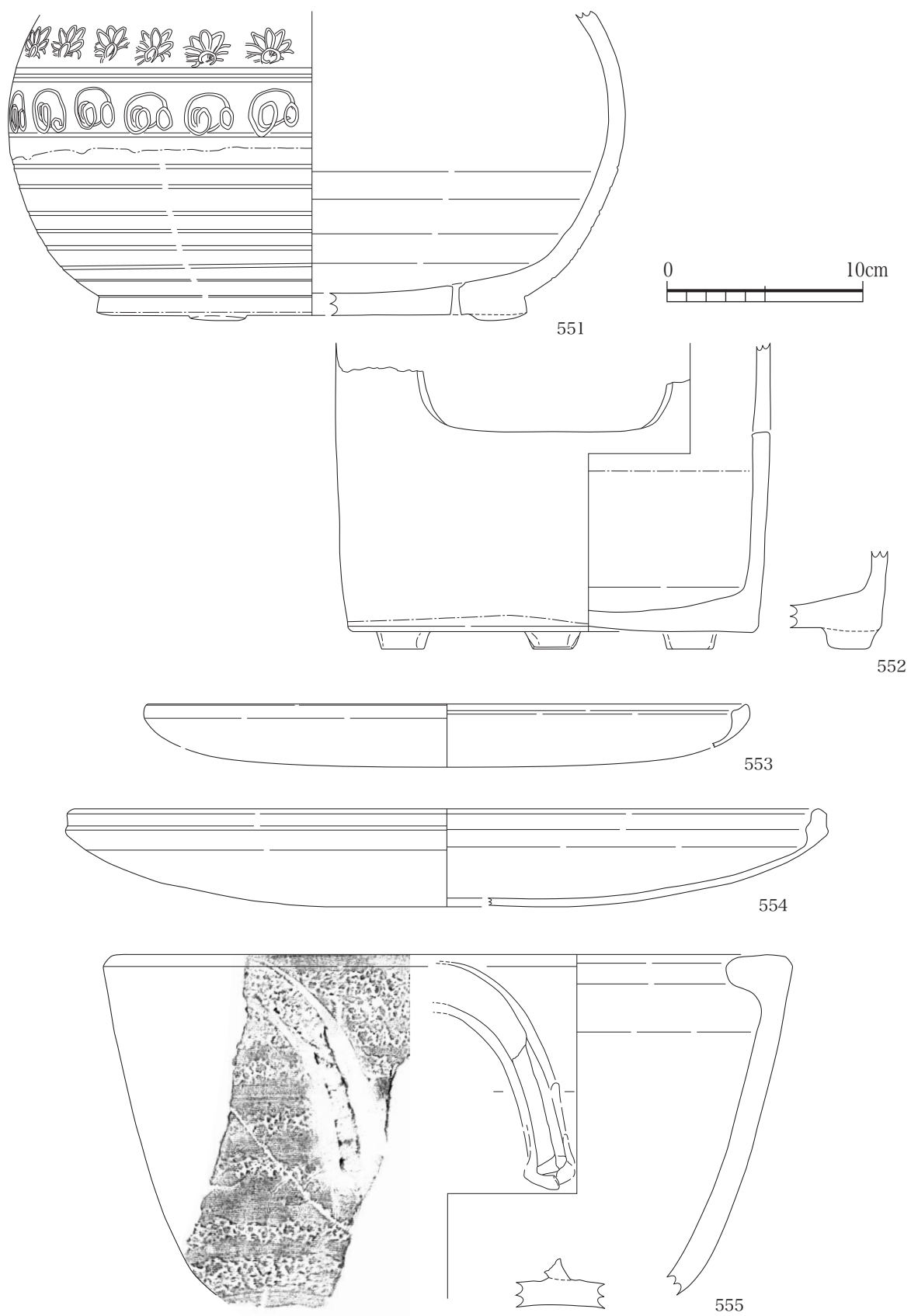


図 53 その他出土遺物 4 (S=1/3)

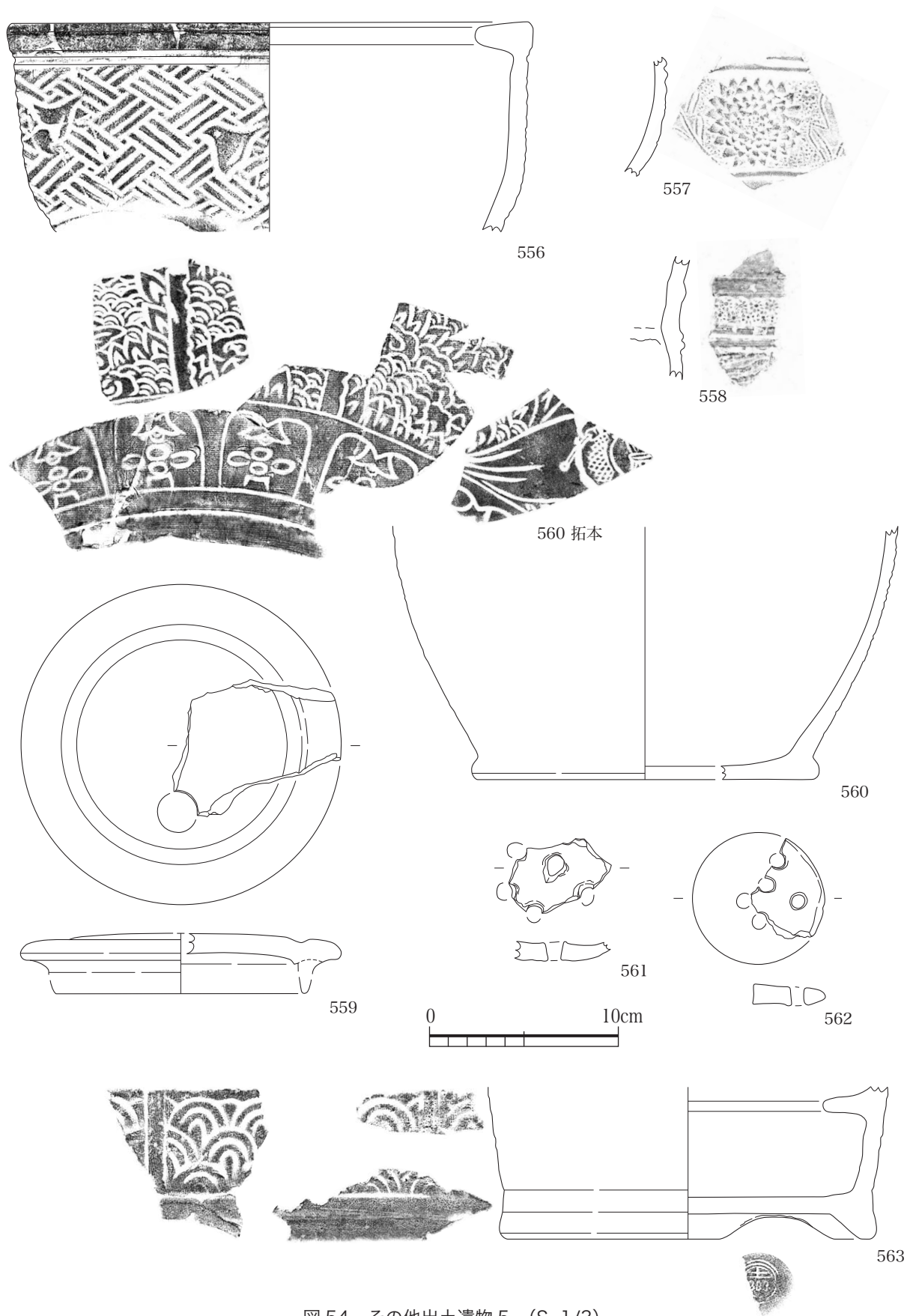


図 54 その他出土遺物 5 (S=1/3)

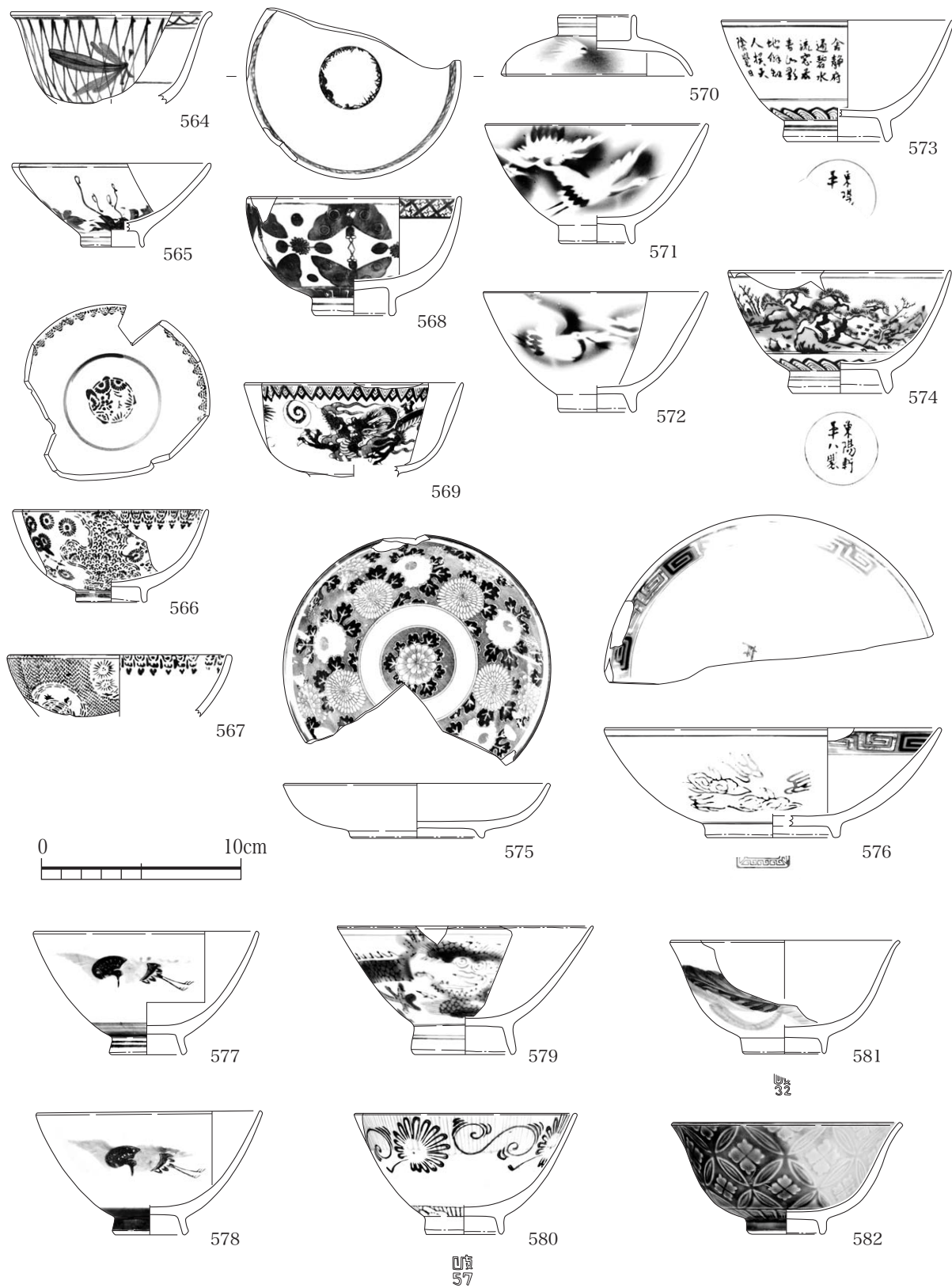


図 55 その他出土遺物 6 (S=1/3)

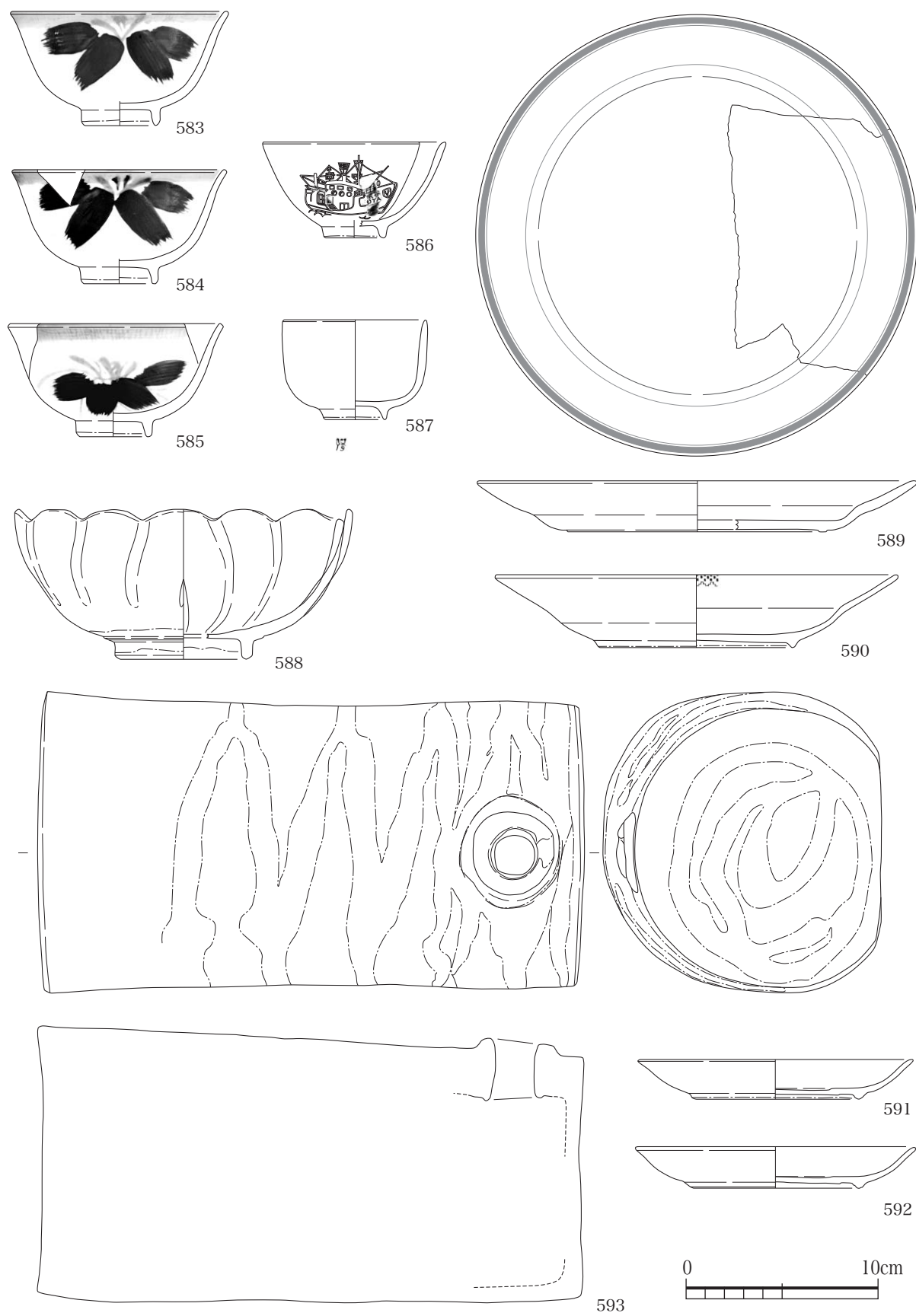


図 56 その他出土遺物 7 (S=1/3)

第4章 自然科学分析

染付の呉須の分析

堀木真美子・武部真木

1. はじめに

瀬戸窯で磁器生産が始まったのは19世紀初頭である。瀬戸窯ではすぐさま尾張藩による蔵本制度など流通体制が整備されたこともあり、まもなく生産は盛期をむかえる。各地で出土する消費地遺跡の陶磁器類の産地別組成の比較からは、江戸都市部をはじめ販路を急激に拡大していく様子が明らかとなってきている。

岡崎市滝町古窯は、当該期の瀬戸・美濃窯産磁器の主力製品であった小型の碗類を主体的に生産した。近世磁器焼成窯の良好な調査例となったばかりでなく、製品の特徴や窯体構造を含む焼成技術の系譜、生産の体制などにもやはり瀬戸・美濃窯との関連性が強くうかがわれつつも、生産の中心地からは離れた場所で操業したという点で注目される資料である。

本報告では主に染付部分を取りあげて成分分析を行った。東濃地域や瀬戸市域は窯業原料のほか、天然呉須を産出する地として知られている。また現在、市販されている呉須については、産地による成分値が求められている。そこで今回の分析では、焼成後の製品を用いて呉須の産地推定の可能性、使用の実態について探ることを目的とした。

表6 試料一覧

登録番号	器 種	時期	備 考
E-063	磁器端反碗	江戸	「栗」 滝町古窯
E-067	磁器端反碗	江戸	滝町古窯
E-092	磁器端反碗	江戸	滝町古窯
E-103	磁器端反碗	江戸	滝町古窯
E-120	磁器端反碗	江戸	滝町古窯
E-132	磁器端反碗	江戸	滝町古窯
E-143	磁器端反碗	江戸	滝町古窯
E-156	磁器端反碗	江戸	滝町古窯
E-166	磁器端反碗	江戸	滝町古窯
E-184	磁器端反碗	江戸	滝町古窯
E-190	磁器端反碗	江戸	滝町古窯
E-241	蓋	江戸	
E-326	陶器広東碗	江戸	滝町古窯?
E-338	磁器蕎麦猪口	江戸	滝町古窯?
E-339	陶器皿	江戸	滝町古窯?
E-340	陶器皿	江戸	滝町古窯?
E-509	磁器碗	江戸	搬入
E-511	磁器碗	江戸	搬入
E-514	磁器蓋	江戸	搬入
E-517	磁器小杯	江戸	搬入
E-518	陶器蓋	江戸	搬入(瀬戸美濃)
E-519	陶器皿	江戸	搬入(瀬戸美濃)
E-520	磁器皿	江戸	搬入
E-564		近代	初期
E-565		近代	初期
E-566		近代	初期
E-567		近代	初期
E-568		近代	初期
E-569		近代	初期
1	磁器広東碗	江戸	経塚山西窯
2	磁器広東碗	江戸	経塚山西窯
3	磁器端反碗	江戸	経塚山西窯
4	磁器端反碗	江戸	経塚山西窯
5	磁器碗	江戸	経塚山南窯
6	磁器碗	江戸	経塚山南窯
7	磁器碗	江戸	経塚山南窯
8	磁器碗	江戸	経塚山南窯
9	飯茶碗	近代	経塚山南窯
10	飯茶碗	近代	経塚山南窯
11	飯茶碗	近代	経塚山南窯
12	飯茶碗	近代	経塚山南窯
13	湯呑	近代	経塚山南窯

2. 分析試料および分析方法

表6に示した43点である。江戸時代の試料として、滝町古窯で生産されたもの16点、他の地域から搬入されたもの7点、瀬戸市経塚山西窯で生産されたもの4点、同じく瀬戸市の経塚山南窯で生産されたもの4点の合計31点。近代の試料として、経塚山南の試料が5点、その他の地域のもものが7点の合計12点。近世と近代を合わせて43点の試料を分析した。

分析の方法は、断面における釉の青色部分・白色部分・素地部分、表面における釉の白色部分・青色部分の5種類の部分について、各々3カ所ずつの測定を行った。これは青色の染付が透明な釉薬の施釉前に描かれることから、表面からの測定では、透明釉を通した青色部分の測定となり、青色部分の正確

表 7 試料断面の釉（青色部分）で確認できた元素

登録番号	器種	時期	備考	測定箇所	測定力所	Al	Si	S	K	Ca	Ti	Cr	Mn	Fe	Co	Ni	Cu	Zn	As	Rb	Sr	Ba	Pb	Zr
E-063	磁器端反碗	江戸	「栗」滝町古窯	断面—青	3	●	●	○	●	●	○		●	●	△			●		○	△	△		
E-067	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—青	3	●	●	●	●	●			●	●	●			●		○		●		
E-092	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●					●	●			
E-103	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●					●	●			
E-120	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—青	3	●	●		●	△	●		●	●	●			△		●			△	
E-132	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●			△		○	○			
E-143	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—青	3	●	●	○	●	●	●		●	●	●					●	○			△
E-156	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—青	3	●	●	○	●	●	●		●	●	●	△				●	●			
E-166	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—青	3	●	●	○	●	●	●		●	●	●			△		●				
E-184	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●			●		●	●			
E-190	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●					●		○		
E-326	陶器広東碗	江戸	滝町古窯?	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●					●	●			●
E-338	陶器蕎麦猪口	江戸	滝町古窯?	断面—青	3	●	●	●	●	●			●	●	●	△	△	●				●		
E-339	陶器皿	江戸	滝町古窯?	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●			○		●	●			
E-340	陶器皿	江戸	滝町古窯?	断面—青	3	●	●	△	●	●	●		●	●	○	●				●	●			
E-509	磁器碗	江戸	搬入	断面—青	3	●	●	○	●	●	△		●	●	●	△	○			●	○	○	△	△
E-511	磁器碗	江戸	搬入	断面—青	3	●	●	○	●	●	○	△	●	●	●				●			△		
E-514	磁器蓋	江戸	搬入	断面—青	3	○	●	△	●	●	●		●	●	●	○	○	△		△	○			
E-518	陶器蓋	江戸	搬入(瀬戸美濃)	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●			△		●	●			
E-519	陶器皿	江戸	搬入(瀬戸美濃)	断面—青	3	●	●	○	●	●	●		●	●	●			△	●				△	
E-520	磁器皿	江戸	搬入	断面—青	3	●	●	△	●	●	●		●	●	●			△		●	○			
E-564		近代	初期	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●			●		●	●			
E-565		近代	初期	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●			●		●	●			
E-566		近代	初期	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●					●				△
E-567		近代	初期	断面—青	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			△		●				
E-568		近代	初期	断面—青	6	●	●	●	●	●	●	△	●	●	●					●	●			
E-569		近代	初期	断面—青	6	●	●	●	●	●	●		●	●	●				●		●			
1	磁器広東碗	江戸	経塚山西窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●	●		
2	磁器広東碗	江戸	経塚山西窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●					●	●			
3	磁器端反碗	江戸	経塚山西窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	△		●	●	●					●	●	○		
4	磁器端反碗	江戸	経塚山西窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●			●	●		●	●		
5	磁器碗	江戸	経塚山南窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●	○			●	●	●			
6	磁器碗	江戸	経塚山南窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●			●		●	●	●		
7	磁器碗	江戸	経塚山南窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●			●		●	●	●		
8	磁器碗	江戸	経塚山南窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●			●		●	●			
9	飯茶碗	近代	経塚山南窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●					●	●			
10	飯茶碗	近代	経塚山南窯	断面—黒	2	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	△				△	○		
11	飯茶碗	近代	経塚山南窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●					●	●			
12	飯茶碗	近代	経塚山南窯	断面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●					●	●			
13	湯呑	近代	経塚山南窯	断面—青	2	○	○	○	○	○	○		○	○	○					○				

な測定が出来ないと考えたためである。ただし試料の状況によっては、断面の測定や各色の部分の測定が実施できないものもあった。測定点では、研磨等の処理は行わず付着物の除去のみを行った。測定機器は（株）堀場製作所製 XGT-5000 を用いた。測定条件は、X 線管電圧 30kV、測定時間 500 秒、照射径 100 μ m、雰囲気は大気である。

3. 分析結果

表 7 ～ 11 に各部位別の測定結果を示す。検出された元素は、Al（アルミニウム）、Si（珪素）、S（硫黄）、K（カリウム）、Ca（カルシウム）、Ti（チタン）、Cr（クロム）、Mn（マンガン）、Fe（鉄）、Co（コバルト）、Ni（ニッケル）、Cu（銅）、Zn（亜鉛）、As（ヒ素）、Rb（ルビジウム）、Sr（ストロンチウム）、Ba（バリウム）、Pb（鉛）、Zr（ジルコニウム）である。断面での青色部分の測定ができた試料は、40 試料 124 カ所。白色部分は 42 試料 131 カ所である。素地部分では 41 試料 129 カ所、表面の青色部分は 42 試料 136 点、白色部分は 42 試料 133 カ所となった。表中の●は 3 測定点以上で確認された元素を示す。○は 2 測定点、△は 1 測定点でのみ確認された元素を示す。各部分毎の元素の組成をみると、いずれの部分においても、時期や産出地による違いは明確に把握できなかった。ただし、各部分を比較すると、含まれる元素に違いが存在する。違いの見られた元素は、コバルト、マ

表 8 試料断面の釉（白色部分）で確認できた元素

登録番号	器種	時期	備考	測定箇所	測定力所	Al	Si	S	K	Ca	Ti	Cr	Mn	Fe	Co	Ni	Cu	Zn	As	Rb	Sr	Ba	Pb	Zr
E-063	磁器端反碗	江戸	「栗」滝町古窯	断面—白	1	△	△	△	△		△			△						○				
E-067	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●			●	●			
E-092	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—白	3	●	●	△	●	●	●	○	●	●			△			●	●			
E-103	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●				△	●	●	●			△
E-120	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—白	3	●	●	○	●	●	●	△	●	●				△	●	●	●			△
E-132	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●	●			△
E-143	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●	●			
E-156	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●	●			
E-166	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	△	●	●			△	○		●	●			△
E-184	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●	●			
E-190	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	△	●			
E-326	陶器広東碗	江戸	滝町古窯?	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●			●
E-338	陶器蕎麦猪口	江戸	滝町古窯?	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	△			
E-339	陶器皿	江戸	滝町古窯?	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●	●			○
E-340	陶器皿	江戸	滝町古窯?	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	△	●	●			○	△		●	●			○
E-509	磁器碗	江戸	搬入	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●	●			
E-511	磁器碗	江戸	搬入	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	△	●	●						●	●			
E-514	磁器蓋	江戸	搬入	断面—白	3	●	●	△	●	●	●	●	●	●			●			●	●			
E-517	磁器小杯	江戸	搬入	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●	●			
E-518	陶器蓋	江戸	搬入(瀬戸美濃)	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●			△			●	●			
E-519	陶器皿	江戸	搬入(瀬戸美濃)	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	○	●	●				○		●	●			
E-520	磁器皿	江戸	搬入	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●	●			
E-564		近代	初期	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●		○	●	●			
E-565		近代	初期	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	○	●	●			△	△	△	●	●			△
E-566		近代	初期	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●	●			
E-568		近代	初期	断面—白	6	●	●	●	●	●	●	○	●	●			△	○		●	●			
E-569		近代	初期	断面—白	6	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●			
E-567		近代	初期	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●			●	○			
1	磁器広東碗	江戸	経塚山西窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●				△		●	●			
2	磁器広東碗	江戸	経塚山西窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●			△	○	△	●	●			
3	磁器端反碗	江戸	経塚山西窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	○	●	●					△	●	●			
4	磁器端反碗	江戸	経塚山西窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●	●			
5	磁器碗	江戸	経塚山南窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●			△	○		●	●			
6	磁器碗	江戸	経塚山南窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●				△	○	●	●			
7	磁器碗	江戸	経塚山南窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●	●			
8	磁器碗	江戸	経塚山南窯	断面—白	3	●	●	△	●	●	●	●	●	●						●	●			
9	飯茶碗	近代	経塚山南窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	△	●	●			○			●	●			
10	飯茶碗	近代	経塚山南窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●	●			
11	飯茶碗	近代	経塚山南窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●			●	●			●
12	飯茶碗	近代	経塚山南窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●	●			
13	湯呑	近代	経塚山南窯	断面—白	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●	●			

ンガン、ストロンチウムである。

○コバルトについて

コバルトは、青色の染付の材料である呉須の主成分であることはよく知られている。このコバルトの分析結果を見える。断面の青色部分では、すべての試料で確認されている。断面の白色部分では、E-326、E-518、E-568、E-569、2の5点でコバルトが確認されている。断面の素地部分では、E-511にのみコバルトが確認されている。表面における測定結果では、青色の部分でコバルトが確認できない試料が4点(E-156、E-190、E-338、E-340)。また表面の白色の部分でコバルトを確認した試料が5点(E-184、E-511、6、10(白色)、10(灰色)、E-569)あった。コバルトは青色の染付の材料である呉須に含まれている元素のため、青色部分でのみ確認される元素と考えられる。そのコバルトが表面の青色部分の測定で確認できなかった4試料については、白色部分が厚く青色部分の測定に至っていないものとする。表面の白色部分でコバルトを確認した3試料(E-184、6、10(白色))については、その断面の白色部分ではコバルトが確認されていない。

○マンガンとストロンチウムについて

断面の測定結果から、釉と素地の比較をすると、マンガンとストロンチウムに若干の違いが認めら

表 9 試料表面の釉（青色部分）で確認できた元素

登録番号	器種	時期	備考	測定箇所	測定力所	Al	Si	S	K	Ca	Ti	Cr	Mn	Fe	Co	Ni	Cu	Zn	As	Rb	Sr	Ba	Pb	Zr
E-063	磁器端反碗	江戸	「栗」滝町古窯	表面—青	3	●	●		●	●			●	●	●					○	○	●		
E-067	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—青	3	●	●		●	●	●		●	●	○		△			●	●			
E-092	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—青	3	●	●	●	●	●			●	●	●	○				●	●			
E-103	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—青	3	●	●		●	●	●		●	●	●	●				●	●			
E-120	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—青	3	●	●	○	●	●	●		●	●	●	●		△		●	●			
E-132	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—青	3	●	●		●	●	●		●	●	●	△		○		●	●			
E-143	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—青	3	●	●		●	●	●		●	●	●			●		●	●			
E-156	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—青	2	○	○		○	○	△		○	○		○				○	○			
E-166	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—青	3	●	●	○	●	●	●		●	●	●	●				●	●			
E-184	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—青	3	●	●		●	●	●		●	●	●			●		●	●			
E-190	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●			○		●	●			
E-241	蓋	江戸	滝町古窯	表面—青	3	●	●		●	●	●		●	●	●			△		●	●			△
E-326	陶器広東碗	江戸	滝町古窯?	表面—青	3	●	●	●	●	●	△		●	●	●	●				●	●			
E-338	陶器蕎麦猪口	江戸	滝町古窯?	表面—青	3	●	●		●	●	△		●	●	○	△	○	●		●	●		○	
E-339	陶器皿	江戸	滝町古窯?	表面—青	3	●	●		●	●	●	●	●	●	○	△				●	●			
E-340	陶器皿	江戸	滝町古窯?	表面—青	2	○	○		○	○	○		○	○		○	○			○	○			
E-509	磁器碗	江戸	搬入	表面—青	3	●	●		●	●	●		●	●	●	●	●			●	●			
E-511	磁器碗	江戸	搬入	表面—青	3	●	●	○	●	●	●	△	●	●	●				○	●	●			
E-514	磁器蓋	江戸	搬入	表面—青	3	●	●		●	●	●		●	●	●	●				●	●			
E-517	磁器小杯	江戸	搬入	表面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●			●	●			
E-518	陶器蓋	江戸	搬入(瀬戸美濃)	表面—青	3	●	●	△	●	●	●		●	●	△	○	△			●	●			
E-519	陶器皿	江戸	搬入(瀬戸美濃)	表面—青	3	●	●		●	●	○		●	●	●		●	●		●	●			
E-520	磁器皿	江戸	搬入	表面—青	3	●	●		●	●	○		●	●	△					●	●		△	●
E-564		近代	初期	表面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●				●	●			
E-565		近代	初期	表面—青	6	●	●		●	●	●		●	●	●	●		●		●	●			
E-566		近代	初期	表面—青	6	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		○		●	●			
E-567		近代	初期	表面—青	3	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●				●	●			
E-568		近代	初期	表面—青	6	●	●		●	●	●		●	●	●	●				●	○		△	
E-569		近代	初期	表面—青	6	●	●	△	●	●	●		●	●	●	●		●		●	△			
E-589		近代	初期	表面—青	3	●	●		●	●	●		●	●	●	●		●		●	●			
1	磁器広東碗	江戸	経塚山西窯	表面—青	3	●	●		●	●	●		●	●	●	●				●	●			
2	磁器広東碗	江戸	経塚山西窯	表面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●		●	●			
3	磁器端反碗	江戸	経塚山西窯	表面—青	3	●	●		●	●	●		●	●	●	●				●	●			
4	磁器端反碗	江戸	経塚山西窯	表面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●				●	●			
5	磁器碗	江戸	経塚山南窯	表面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●				●	●			
6	磁器碗	江戸	経塚山南窯	表面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●				●	●			
7	磁器碗	江戸	経塚山南窯	表面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●				●	●			△
8	磁器碗	江戸	経塚山南窯	表面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●				●	●			
9	飯茶碗	近代	経塚山南窯	表面—青	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●				●	●			
10	飯茶碗	近代	経塚山南窯	表面—黒	3	●	●		●	●	●		●	●	●	●				●	●			
12	飯茶碗	近代	経塚山南窯	表面—青	3	●	●		●	●	●		●	●	●	●				●	●			
13	湯呑	近代	経塚山南窯	表面—青	3	●	●	△	●	●	●		●	●	●	●			△	●				

れる。ともに、釉部分で確認され、素地の部分では確認されない元素である。断面の部分では E-063 の白色部分以外のすべての試料でマンガンが確認された。一方、素地部分では 23 点の試料でマンガンが認められなかった。ストロンチウムは、青色部分で確認できない試料は 9 点 (E-067、E-120、E-166、E-190、E-338、E-511、E-566、E-567、13)、白色部分では 3 点 (E-063、E-566、E-568) であるのに対し、素地部分では 26 点もの試料でストロンチウムが確認されなかった。また、表面の測定結果では、青色部分と白色部分ともに、マンガンとストロンチウムは、大半の試料に確認されている。これらのことから、マンガンとストロンチウムは、主に釉薬に関わる元素であると思われる。

○カルシウムについて

カルシウムが確認されていないのは、断面の素地部分の測定結果のうち 11 試料 (E-067、E-156、E-326、E-509、E-511、E-514、E-517、E-518、E-520、E-564、E-565) である。他の分析結果はすべての部分でカルシウムが確認されている。このカルシウムが確認されない試料のうち、6 点 (E-509、E-511、E-514、E-517、E-518、E-520) が搬入品であった。

表 10 試料表面の釉（白色部分）で確認できた元素

登録番号	器種	時期	備考	測定箇所	測定力所	Al	Si	S	K	Ca	Ti	Cr	Mn	Fe	Co	Ni	Cu	Zn	As	Rb	Sr	Ba	Pb	Zr
E-063	磁器端反碗	江戸	「栗」滝町古窯	表面—白	2	○	○		○	○	○		○	○						△	△			
E-067	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—白	3	●	●		●	●	●		●	●			△			●	●			
E-092	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—白	3	●	●	●	●	●	●		●	●				○		●	●			
E-103	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—白	3	●	●		●	●	●		●	●						●	●			
E-120	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—白	3	●	●	△	●	●	●		●	●				△		●	●			
E-132	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—白	3	●	●		●	●	●		●	●				△		●	●			
E-143	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—白	3	●	●		●	●	●		●	●				△		●	●			
E-156	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—白	3	●	●		●	●	△	△	●	●		△		△		●	●			
E-166	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—白	3	●	●	●	●	●	●		●	●						●	●			
E-184	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—白	3	●	●		●	●	●		●	●	●					●	●			
E-190	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	表面—白	3	●	●	●	●	●	●		●	●				△		●	●			
E-241	蓋	江戸		表面—白	2	○	○		○	○	○		○	○				○		○	○			
E-326	陶器広東碗	江戸	滝町古窯?	表面—白	3	●	●		●	●	●		●	●		●				●	●			
E-338	陶器蕎麦猪口	江戸	滝町古窯?	表面—白	2	○	○		○	○			○	○						○				
E-339	陶器皿	江戸	滝町古窯?	表面—白	3	●	●		●	●	●	●	●	●		●				●	●			
E-340	陶器皿	江戸	滝町古窯?	表面—白	2	○	○	○	○	○	○		○	○				△		○	○			
E-509	磁器碗	江戸	搬入	表面—白	3	●	●		●	●	●		●	●		△				●	●			
E-511	磁器碗	江戸	搬入	表面—白	3	●	●		●	●	○		●	●	●		△			●				△
E-514	磁器蓋	江戸	搬入	表面—白	3	●	●		●	●	●		●	●			○			●	●			
E-517	磁器小杯	江戸	搬入	表面—白	3	●	●	●	●	●	●		●	●			●			●	●			
E-518	陶器蓋	江戸	搬入(瀬戸美濃)	表面—白	2	○	○		○	○	○		○	○		○	△			○	○			
E-519	陶器皿	江戸	搬入(瀬戸美濃)	表面—白	3	●	●		●	●	○		●	●						●	●			△
E-520	磁器皿	江戸	搬入	表面—白	3	●	●		●	●	●		●	●		○	●			●	●	●	●	
E-564		近代	初期	表面—白	3	●	●	●	●	●	●	△	●	●						●	●			△
E-565		近代	初期	表面—白	6	●	●	△	●	●	●		●	●		●	●	●		●	△			
E-566		近代	初期	表面—白	6	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●			●	●			
E-567		近代	初期	表面—白	3	●	●		●	●	●		●	●						●	●			
E-568		近代	初期	表面—白	6	●	●		●	●	●		●	●		△	△			●	○			
E-569		近代	初期	表面—白	6	●	●		●	●	●		●	●	●	●	●	●		●	●			●
1	磁器広東碗	江戸	経塚山西窯	表面—白	3	●	●		●	●	●		●	●		●	●	●		●	●			
2	磁器広東碗	江戸	経塚山西窯	表面—白	3	●	●	●	●	●	●		●	●						●	●			
3	磁器端反碗	江戸	経塚山西窯	表面—白	3	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●			●	●			
4	磁器端反碗	江戸	経塚山西窯	表面—白	3	●	●		●	●	●		●	●			●	●		●	●			
5	磁器碗	江戸	経塚山南窯	表面—白	3	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●			●	●			
6	磁器碗	江戸	経塚山南窯	表面—白	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●		●	●		●	●			
7	磁器碗	江戸	経塚山南窯	表面—白	3	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●			●	●			
8	磁器碗	江戸	経塚山南窯	表面—白	3	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●			●	●			
9	飯茶碗	近代	経塚山南窯	表面—白	3	●	●		●	●	●		●	●		●	●			●	●			
10	飯茶碗	近代	経塚山南窯	表面—白	3	●	●		●	●	●		●	●	●		●	●		●	●			
10	飯茶碗	近代	経塚山南窯	表面—灰	3	●	●	●	●	●	●		●	●	●					●	●			
12	飯茶碗	近代	経塚山南窯	表面—白	3	●	●		●	●	●		●	●		△				●	●			
13	湯呑	近代	経塚山南窯	表面—白	3	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●			●	●			

4. 考察

○青色部分の成分分析

青色の染付に用いられる絵の具は、呉須と呼ばれるものがよく知られている。この呉須については、瀬戸市や名古屋市、岐阜県瑞浪市等に分布する東海層群矢田川累層もしくは土岐砂礫層中に産することが知られている。また、天然の呉須については、化学組成の分析が多くなされている（加藤 1978, 芝崎ほか 1984, 倉地ほか 2001）。中国産の呉須と瀬戸市から産出した呉須について、化学成分の比較を芝崎ほか（1984）が行っている。それによると、瀬戸産の呉須は中国産の呉須に比べ、アルミニウムを比較的多く含んでいること、中国産の呉須はアルミニウムと鉄が多く含まれているとされる。また瀬戸産の呉須は、結晶性が良いことやリチウムやコバルトの含有量が高いことから、含コバルトマンガン土が再結晶化作用を受けたものとされている。また X 線回折から瀬戸産呉須は、結晶性のよいリシオホライトであるとされる（加藤 1978, 芝崎ほか 1984）。

このような分析結果から、今回の分析結果を用いて、青色部分の酸化コバルト - 酸化鉄 - 酸化マンガンの 3 成分の三角ダイアグラムを作成する。アルミニウムは、長石に多く含まれることから、白色

表 11 試料断面（素地部分）で確認できた元素

登録番号	器種	時期	備考	測定箇所	測定力所	Al	Si	S	K	Ca	Ti	Cr	Mn	Fe	Co	Ni	Cu	Zn	As	Rb	Sr	Ba	Pb	Zr
E-067	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●			●						●				
E-092	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—素地	3	●	●	△	●	●	●			●						●				
E-103	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●			●						●				△
E-120	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—素地	3	●	●	○	●	○	●		△	●						●				
E-132	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—素地	3	●	●	△	●	●	●			●						●				
E-143	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—素地	3	●	●	△	●	○	●			●						●				
E-156	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●	△		●						●				
E-166	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●			●			△			●				
E-184	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—素地	3	●	●	●	●	△	●			●			△			●				△
E-190	磁器端反碗	江戸	滝町古窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●			●		△		△		●				
E-326	陶器広東碗	江戸	滝町古窯?	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		●	●				●		●				●
E-338	陶器蕎麦猪口	江戸	滝町古窯?	断面—素地	3	●	●	●	●	○	●		○	●			○			●		△		△
E-339	陶器皿	江戸	滝町古窯?	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		●	●			△	△		●				●
E-340	陶器皿	江戸	滝町古窯?	断面—素地	3	●	●	○	●	●	●		●	●		●		●		●				△
E-509	磁器碗	江戸	搬入	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		●	●						●				
E-511	磁器碗	江戸	搬入	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		○	●	●	●				●				
E-514	磁器蓋	江戸	搬入	断面—素地	3	●	●	●	●	●	△	△	○	●						●		△		
E-517	磁器小杯	江戸	搬入	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		●	●						●				
E-518	陶器蓋	江戸	搬入(瀬戸美濃)	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		●	●					○		△			
E-519	陶器皿	江戸	搬入(瀬戸美濃)	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		○	●			△		○					○
E-520	磁器皿	江戸	搬入	断面—素地	3	●	●	●	●	●	△		△	●						●				○
E-564		近代	初期	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●			●						●	●			○
E-565		近代	初期	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●			●						●	●			
E-566		近代	初期	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		●	●						●	●			
E-567		近代	初期	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●			●			●			●	●			
E-568		近代	初期	断面—素地	6	●	●	●	●	●	●			●						●	○			
E-569		近代	初期	断面—素地	6	●	●	●	●	●	●			●				●		●	●			
E-589		近代	初期	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●			●						●	●		●	
1	磁器広東碗	江戸	経塚山西窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●			●						●				
2	磁器広東碗	江戸	経塚山西窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		●	●						●				
3	磁器端反碗	江戸	経塚山西窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		△	●						●				
4	磁器端反碗	江戸	経塚山西窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		●	●		●				●				
5	磁器碗	江戸	経塚山南窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		●	●			●			●				
6	磁器碗	江戸	経塚山南窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●	●		●				
7	磁器碗	江戸	経塚山南窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		●	●			△			●		○		
8	磁器碗	江戸	経塚山南窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		●	●						●				
9	飯茶碗	近代	経塚山南窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●		△	●						●				
10	飯茶碗	近代	経塚山南窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●			●						●				
11	飯茶碗	近代	経塚山南窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●			●						●		●		
12	飯茶碗	近代	経塚山南窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●			●		●				●				
13	湯呑	近代	経塚山南窯	断面—素地	3	●	●	●	●	●	●			●		●				●		●		

部分の影響を考慮して比較の対象から除外する。次にダイアグラム作成のために、断面の青色部分の測定結果から、標準試料を用いないファンダメンタルパラメータ法により、化学組成値を算出した（表12,13）。この値は、分析装置に内蔵されたデータ解析プログラムによって理論値から計算された半定量分析値であるため、他の報告にある分析値との比較には注意が必要となる。ここでは産出された数値を元に、酸化コバルト、酸化マンガン、酸化鉄の三角ダイアグラムを作成した（図57）。このグラフより、近代の呉須は酸化マンガンの比率が低いことが明らかとなった。また滝町古窯や経塚山西窯、経塚山南窯といった窯の産地による明確な違いは、把握できなかった。また経塚山南窯の試料（図58）においては、近代の試料で、明らかに酸化マンガンの比率が低いことがわかる。

○白色部分の成分分析

染付の後にかけられる透明な釉について、青色部分と同様に半定量分析を行った（表14,15）。またこの結果から、酸化カリウム—酸化アルミニウム—酸化カルシウムの三角ダイアグラムを作成した（図59）。その結果、産地や時期を特徴づけるような偏りは見られなかった。

表 12 試料断面の釉（青色部分）の組成値（1）

		Al ₂ O ₃	SiO ₂	SO ₂	K ₂ O	CaO	TiO	CrO	MnO	Fe ₂ O ₃	CoO	NiO	CuO	ZnO	As ₂ O ₅	Rb ₂ O	SrO	BaO	PbO	ZrO ₂	total
E-063	磁器端反碗	19.67	71.54	-	6.53	1.58	0.14	-	0.14	0.38	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	100.00
	江戸	17.37	71.29	0.09	5.62	5.04	0.12	-	0.17	0.28	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	100.00
	「栗」滝町古窯	11.86	73.63	0.05	3.75	7.28	-	-	1.87	0.75	0.49	-	-	-	-	-	0.03	0.30	-	-	100.01
E-067	磁器端反碗	12.86	74.81	0.20	5.81	0.38	-	-	3.81	0.80	0.66	-	-	0.02	-	0.03	-	0.58	-	-	99.96
	江戸	12.00	75.50	0.23	5.63	0.65	-	-	3.71	0.93	0.64	-	-	0.02	-	0.03	-	0.67	-	-	100.01
	滝町古窯	12.90	74.23	0.29	5.22	0.69	-	-	3.95	1.34	0.69	-	-	0.02	-	0.03	-	0.63	-	-	99.99
E-092	磁器端反碗	12.36	67.53	0.66	4.38	12.01	0.28	-	1.19	1.09	0.39	-	-	-	-	0.03	0.08	-	-	-	100.00
	江戸	10.37	76.84	0.32	4.75	0.96	0.22	-	68.73	0.95	1.17	-	-	-	-	0.02	0.00	-	-	-	164.33
	滝町古窯	11.08	72.96	0.61	4.88	5.31	0.42	-	70.55	1.65	1.02	-	-	-	-	0.03	0.02	-	-	-	168.53
E-103	磁器端反碗	16.32	73.05	0.19	5.57	3.44	0.14	-	0.53	0.54	0.16	-	-	-	-	0.03	0.02	-	-	-	99.99
	江戸	16.49	73.05	0.18	5.60	3.23	0.12	-	0.57	0.54	0.19	-	-	-	-	0.03	0.02	-	-	-	100.02
	滝町古窯	14.41	75.81	0.32	5.49	2.10	0.26	-	0.77	0.56	0.23	-	-	-	-	0.03	0.01	-	-	-	99.99
E-120	磁器端反碗	12.96	73.51	-	7.10	-	0.30	-	3.98	1.10	0.94	-	-	-	-	0.04	-	-	0.07	-	100.00
	江戸	17.32	68.73	-	8.82	-	0.28	-	3.01	1.15	0.83	-	-	-	-	0.06	-	-	-	-	100.20
	滝町古窯	13.60	70.55	-	7.31	2.41	0.36	-	3.41	1.32	0.90	-	-	0.01	-	0.05	-	-	-	-	99.92
E-132	磁器端反碗	11.39	80.26	0.09	5.06	1.17	0.12	-	1.09	0.53	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.01
	江戸	12.29	79.23	0.09	4.63	1.33	0.12	-	0.91	0.47	0.28	-	-	-	-	0.02	0.01	-	-	-	99.98
	滝町古窯	10.18	81.97	0.24	4.73	1.08	0.12	-	0.87	0.52	0.24	-	-	0.01	-	0.02	0.01	-	-	-	99.99
E-143	磁器端反碗	16.23	76.50	0.16	4.05	0.72	0.22	-	1.04	0.77	0.27	-	-	-	-	0.02	-	-	-	0.02	100.00
	江戸	13.34	73.23	-	3.96	7.50	0.16	-	0.94	0.58	0.26	-	-	-	-	0.01	0.02	-	-	-	100.00
	滝町古窯	12.86	79.22	0.11	4.15	1.52	0.14	-	1.05	0.67	0.26	-	-	-	-	0.02	0.01	-	-	-	100.01
E-156	磁器端反碗	12.70	74.42	0.15	4.80	5.50	0.08	-	1.14	0.83	0.30	-	-	-	-	0.04	0.04	-	-	-	100.00
	江戸	11.70	77.42	0.42	5.52	1.16	0.20	-	1.93	1.11	0.43	-	-	-	-	0.05	0.03	-	-	-	99.97
	滝町古窯	13.73	71.40	-	4.57	8.24	0.11	-	0.78	0.90	0.09	0.03	-	-	-	0.02	0.04	-	-	-	99.91
E-166	磁器端反碗	13.07	74.33	0.36	5.70	4.04	0.15	-	1.26	0.63	0.44	-	-	-	-	0.03	-	-	-	-	100.01
	江戸	9.72	80.98	-	4.59	0.67	0.14	-	2.45	0.62	0.81	-	-	-	-	0.03	-	-	-	-	100.01
	滝町古窯	10.13	78.92	0.11	5.34	0.79	0.20	-	2.79	0.74	0.95	-	-	0.01	-	0.02	-	-	-	-	100.00
E-184	磁器端反碗	16.57	72.07	0.15	6.60	0.81	0.16	-	2.38	0.67	0.54	-	-	0.02	-	0.03	0.01	-	-	-	100.01
	江戸	16.46	70.70	0.21	6.21	1.23	0.20	-	2.87	1.21	0.85	-	-	0.03	-	0.04	0.01	-	-	-	100.02
	滝町古窯	18.21	70.23	0.07	6.42	1.11	0.22	-	2.18	1.00	0.51	-	-	0.01	-	0.03	0.01	-	-	-	100.00
E-190	磁器端反碗	10.52	79.36	0.06	4.74	0.66	0.11	-	2.55	1.01	0.77	-	-	-	-	0.02	-	0.14	-	-	99.94
	江戸	15.71	73.78	0.08	5.28	0.58	1.30	-	1.81	0.87	0.57	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	100.00
	滝町古窯	13.32	76.48	0.06	4.98	2.23	0.12	-	1.48	0.79	0.43	-	-	-	-	0.02	-	0.11	-	-	100.02
E-326	陶器広東碗	25.79	63.39	0.12	3.98	1.34	0.74	-	2.51	1.85	0.25	-	-	-	-	0.02	0.01	-	-	-	100.00
	江戸	24.31	63.90	0.07	4.11	1.77	0.94	-	2.83	1.76	0.27	-	-	-	-	0.02	0.01	-	-	-	99.99
	滝町古窯?	24.26	64.17	0.05	4.05	1.79	0.85	-	2.71	1.81	0.28	-	-	-	-	0.02	0.01	-	-	-	100.00
E-338	陶器蕎麦猪口	15.86	74.25	0.11	5.34	1.86	-	-	1.01	1.06	0.15	0.01	0.01	0.02	-	0.03	-	0.29	-	-	100.00
	江戸	19.35	69.82	0.25	5.33	2.63	-	-	1.04	1.04	0.16	-	-	0.01	-	0.04	-	0.33	-	-	100.00
	滝町古窯?	16.42	67.77	0.29	4.81	8.03	-	-	1.29	0.87	0.17	-	-	0.01	-	0.03	-	0.28	-	-	99.97
E-339	陶器皿	26.15	63.05	0.08	3.97	1.03	0.82	-	2.20	2.24	0.38	-	-	0.01	-	0.02	0.03	-	-	-	99.98
	江戸	20.00	64.70	0.31	4.79	2.06	0.76	-	3.98	2.63	0.67	-	-	0.01	-	0.04	0.05	-	-	-	100.00
	滝町古窯?	16.99	66.31	0.46	5.47	3.51	0.54	-	3.57	2.44	0.57	-	-	-	-	0.04	0.07	-	-	-	99.97
E-340	陶器皿	15.36	71.96	-	4.82	4.99	0.21	-	1.22	1.23	0.14	-	-	-	-	0.02	0.04	-	-	-	99.99
	江戸	14.61	73.62	-	4.92	4.12	0.18	-	0.89	1.48	0.11	-	-	-	-	0.03	0.03	-	-	-	99.99
	滝町古窯?	12.89	71.67	0.35	4.54	8.34	0.16	-	0.84	1.10	-	-	-	-	-	0.03	0.08	-	-	-	100.00
E-509	磁器碗	13.33	67.21	0.39	4.04	8.53	-	-	3.86	1.43	0.81	-	0.05	-	-	0.02	-	0.24	-	-	99.91
	江戸	13.40	72.45	0.14	4.71	5.46	0.10	-	2.06	1.32	0.31	-	-	-	-	0.03	0.03	-	-	-	100.01
	搬入	18.29	65.74	-	4.14	4.82	-	-	4.16	1.28	0.78	0.08	0.05	-	-	0.02	0.06	0.43	0.13	0.02	100.00
E-511	磁器碗	9.88	77.07	0.15	5.11	4.06	-	-	1.85	0.82	0.49	-	-	-	0.37	0.02	-	0.17	-	-	99.99
	江戸	11.70	72.52	0.08	4.69	9.55	0.04	0.02	0.30	1.02	0.06	-	-	-	0.06	0.02	-	-	-	-	100.06
	搬入	14.00	74.10	-	5.96	3.28	0.13	-	1.17	0.83	0.39	-	-	-	-	0.14	0.02	-	-	-	100.02
E-514	磁器碗	-	5.14	-	9.38	35.30	0.85	-	25.77	16.07	7.02	-	0.44	-	-	-	-	-	-	-	99.97
	江戸	11.71	71.33	0.01	4.48	9.23	0.13	-	1.56	1.07	0.25	0.04	0.02	-	-	-	0.06	-	-	-	99.89
	搬入	11.93	66.46	-	4.08	9.36	0.18	-	5.49	1.89	0.65	0.14	-	0.01	-	0.02	0.10	-	-	-	100.31
E-518	陶器蓋	16.56	69.23	0.04	7.08	4.56	0.24	-	1.05	0.88	0.30	-	-	0.01	-	0.03	0.02	-	-	-	100.00
	江戸	17.52	69.32	0.08	7.01	3.64	0.25	-	0.91	0.95	0.13	-	-	-	-	0.03	0.01	-	-	-	99.85
	搬入(瀬戸美濃)	16.79	68.27	0.07	6.83	5.80	0.19	-	0.93	0.83	0.24	-	-	-	-	0.03	0.03	-	-	-	100.01
E-519	陶器蓋	12.08	76.35	-	4.79	3.24	0.80	-	1.86	1.04	0.49	-	-	0.02	-	0.01	0.01	-	0.01	-	100.70
	江戸	13.13	76.87	0.29	4.98	1.25	0.60	-	1.17	1.27	0.38	-	-	0.03	-	0.02	0.01	-	-	-	100.00
	搬入(瀬戸美濃)	11.13	75.52	0.09	4.64	3.85	0.13	-	2.42	1.40	0.70	-	0.02	0.05	-	0.02	0.02	-	-	-	99.99
E-520	磁器皿	13.81	73.37	-	3.56	5.88	0.89	-	1.40	0.84	0.18	-	-	0.01	-	0.02	0.04	-	-	-	100.00
	江戸	13.49	73.71	-	3.57	5.48	0.10	-	2.32	0.98	0.29	-	-	-	-	0.02	0.05	-	-	-	100.01
	搬入	15.95	72.18	0.06	3.78	5.15	0.15	-	1.70	0.80	0.22	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	100.01

表 13 試料断面の釉（青色部分）の組成値（2）

		Al ₂ O ₃	SiO ₂	SO ₂	K ₂ O	CaO	TiO	CrO	MnO	Fe ₂ O ₃	CoO	NiO	CuO	ZnO	As ₂ O ₅	Rb ₂ O	SrO	BaO	PbO	ZrO ₂	total
E-564	近代 初期	9.84	73.07	0.88	4.92	8.62	0.44	-	0.16	1.14	0.80	-	-	0.07	-	0.02	0.04	-	-	-	100.00
		11.96	74.20	0.27	4.20	7.23	0.27	-	0.14	0.87	0.76	-	-	0.02	-	0.02	0.05	-	-	-	99.99
		10.86	73.41	0.76	4.49	8.54	0.38	-	0.14	0.88	0.44	-	-	0.04	-	0.02	0.05	-	-	-	100.01
E-565	近代 初期	15.11	70.06	0.08	6.10	6.41	0.08	-	0.57	0.72	0.72	-	-	0.02	-	0.02	0.04	-	-	-	99.93
		14.15	71.85	0.25	5.70	5.49	0.10	-	0.68	0.70	1.01	-	-	0.02	-	0.03	0.04	-	-	-	100.02
		13.46	71.89	0.30	6.02	5.76	0.13	-	0.72	0.68	0.97	-	-	0.02	-	0.03	0.03	-	-	-	100.01
E-566	近代 初期	10.54	76.36	0.29	5.98	3.18	0.38	-	0.05	0.90	2.31	-	-	-	-	0.03	-	-	-	-	100.02
		15.88	69.89	0.24	6.60	3.73	0.31	-	0.03	0.95	2.33	-	-	-	-	0.03	-	-	-	0.01	100.00
		12.85	72.41	0.28	6.39	3.24	0.36	-	0.05	0.93	3.47	-	-	-	-	0.03	-	-	-	-	100.01
E-567	近代 初期	12.61	73.48	0.19	4.79	6.19	0.25	0.36	0.06	1.10	0.95	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	100.00
		13.81	73.85	0.10	4.31	5.49	0.24	0.38	0.05	0.88	0.85	-	0.01	-	-	0.02	-	-	-	-	99.99
		14.40	74.54	0.02	4.30	4.67	0.30	0.34	0.04	0.71	0.68	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	100.02
E-568	近代 初期	11.53	78.34	0.08	5.38	3.13	0.14	-	0.02	0.76	0.59	-	-	-	-	0.03	0.01	-	-	-	100.01
		12.28	78.23	0.06	4.96	2.95	0.10	-	0.02	0.68	0.69	-	-	-	-	0.03	0.01	-	-	-	100.01
		12.33	78.50	0.10	4.17	3.61	0.09	-	0.02	0.60	0.54	-	-	-	-	0.03	0.01	-	-	-	100.00
		10.97	75.56	0.19	6.40	4.27	0.10	-	0.03	0.87	1.55	-	-	-	-	0.03	0.01	-	-	-	99.98
		11.22	74.28	0.65	6.49	4.88	0.15	-	0.03	0.98	1.27	-	-	-	-	0.04	0.02	-	-	-	100.01
		14.07	72.46	0.12	5.92	4.31	0.17	0.05	0.02	0.75	2.14	-	-	-	-	0.02	0.01	-	-	-	100.04
		17.68	72.06	0.08	4.47	1.93	0.10	-	0.02	0.68	2.81	-	-	0.17	-	0.02	0.01	-	-	-	100.03
		14.68	76.30	0.10	4.74	1.86	0.11	-	0.01	0.53	1.27	-	-	0.06	-	0.02	0.01	-	-	-	99.69
		12.00	78.47	0.33	4.82	1.56	0.05	-	0.01	0.52	1.43	-	-	0.06	-	0.02	0.01	-	-	-	99.28
		15.36	75.78	0.80	4.74	2.02	0.13	-	0.01	0.53	1.22	-	-	0.12	-	0.02	0.01	-	-	-	100.74
E-569	近代 初期	15.13	75.42	0.16	5.06	2.22	0.14	-	0.01	0.58	1.13	-	-	0.13	-	0.02	0.01	-	-	-	100.01
		15.06	75.31	0.18	5.28	2.54	0.14	-	0.01	0.67	0.71	-	-	0.07	-	0.02	0.01	-	-	-	100.00
1	磁器広東碗 江戸 経塚山西窯	12.77	85.97	0.56	4.36	12.60	-	0.02	1.54	1.20	0.33	-	0.01	0.02	-	0.03	0.15	0.44	-	-	120.00
		14.14	67.38	0.30	4.87	11.63	-	0.02	1.59	1.23	0.33	-	0.02	0.02	-	0.02	0.09	0.37	-	-	102.01
		13.27	66.18	0.30	4.51	12.29	-	0.02	1.30	1.40	0.25	-	0.01	0.02	-	0.02	0.12	0.30	-	-	99.99
2	磁器広東碗 江戸 経塚山西窯	14.27	74.41	0.15	4.93	3.64	0.07	-	1.17	1.03	0.26	-	-	-	-	0.03	0.07	-	-	-	100.03
		12.87	75.18	0.24	4.96	3.76	0.08	-	1.55	0.95	0.34	-	-	-	-	0.03	0.04	-	-	-	100.00
		16.13	69.60	0.51	6.30	4.26	0.16	-	1.42	1.20	0.34	-	-	-	-	0.04	0.04	-	-	-	100.00
3	磁器端反碗 江戸 経塚山西窯	10.39	74.45	0.30	3.21	1.27	0.22	-	5.06	0.89	1.16	-	-	-	-	0.03	0.01	-	-	-	96.99
		11.24	70.93	0.11	4.43	9.45	-	-	2.35	0.66	0.53	-	-	-	-	0.03	0.02	0.15	-	-	99.90
		10.29	75.05	0.04	4.45	5.36	-	-	3.17	0.57	0.77	-	-	-	-	0.01	0.01	0.25	-	-	99.97
4	磁器端反碗 江戸 経塚山西窯	14.37	72.85	0.61	4.32	4.07	0.05	-	2.35	1.28	0.41	-	0.01	0.01	-	0.02	0.04	0.20	-	-	100.59
		15.86	70.16	0.02	4.91	4.27	0.05	-	2.44	1.45	0.48	-	0.01	0.01	-	0.02	0.04	0.26	-	-	99.98
		16.24	70.29	0.25	4.46	4.16	0.10	-	2.31	1.40	0.44	-	0.01	0.01	-	0.02	0.04	0.26	-	-	99.99
5	磁器碗 江戸 経塚山南窯	11.23	75.80	0.08	5.38	4.13	0.11	-	2.03	0.79	0.35	0.03	-	-	0.02	0.01	0.02	-	-	-	99.98
		14.08	70.90	0.13	4.73	5.87	0.20	-	2.52	1.06	0.42	0.03	-	-	0.02	0.01	0.03	-	-	-	100.00
		13.68	72.83	0.04	5.68	4.06	0.15	-	2.18	0.94	0.38	-	-	-	0.02	0.02	0.03	-	-	-	100.01
6	磁器碗 江戸 経塚山南窯	11.56	73.02	0.57	5.76	3.10	0.13	-	3.49	1.37	0.72	-	-	0.02	-	0.04	0.03	0.19	-	-	100.00
		11.45	76.66	0.27	6.20	2.15	0.11	-	1.73	0.89	0.32	-	-	0.01	-	0.03	0.02	0.15	-	-	99.99
		10.80	69.20	1.59	6.83	4.07	0.19	-	4.37	1.70	0.85	-	-	0.05	-	0.04	0.04	0.26	-	-	99.99
7	磁器碗 江戸 経塚山南窯	12.28	72.57	0.03	6.57	3.54	0.09	-	2.99	1.18	0.48	-	-	0.01	-	0.02	0.03	0.19	-	-	99.98
		10.78	75.28	0.16	5.41	2.15	0.11	-	4.05	1.19	0.60	-	-	0.01	-	0.01	0.01	0.23	-	-	99.99
		11.43	75.64	0.03	5.64	2.42	0.03	-	3.15	0.95	0.44	-	-	0.01	-	0.02	0.02	0.21	-	-	99.99
8	磁器碗 江戸 経塚山南窯	14.17	72.71	0.05	6.49	2.73	0.15	-	1.87	0.90	0.37	-	-	0.02	-	0.03	0.02	-	-	-	99.51
		14.18	72.81	0.06	6.01	3.45	0.11	-	1.92	1.02	0.36	-	-	0.02	-	0.03	0.02	-	-	-	99.99
		14.40	72.11	0.05	6.40	3.46	0.13	-	2.13	0.89	0.40	-	-	0.01	-	0.02	0.01	-	-	-	100.01
9	飯茶碗 近代 経塚山南窯	12.14	74.18	0.76	6.22	5.29	0.08	-	0.05	0.87	0.38	-	-	-	-	0.03	0.01	-	-	-	100.01
		11.70	76.13	0.35	5.99	4.59	0.08	-	0.04	0.77	0.30	-	-	-	-	0.03	0.02	-	-	-	100.00
		13.53	71.78	1.12	6.85	5.25	0.12	-	0.04	0.90	0.37	-	-	-	-	0.03	0.01	-	-	-	100.00
11	飯茶碗 近代 経塚山南窯	12.25	73.91	0.15	6.39	6.19	0.06	-	0.04	0.69	0.29	-	-	-	-	0.02	0.02	-	-	-	100.01
		13.01	71.77	0.22	7.30	5.97	0.09	-	0.04	0.87	0.68	-	-	-	-	0.02	0.02	-	-	-	99.99
		13.25	71.07	0.36	7.52	6.40	0.10	-	0.04	0.86	0.35	-	-	-	-	0.02	0.02	-	-	-	99.99
12	飯茶碗 近代 経塚山南窯	12.83	75.70	0.12	6.03	4.12	0.14	-	0.04	0.68	0.30	-	-	-	-	0.02	0.01	-	-	-	99.99
		11.71	76.01	0.14	6.05	5.06	0.06	-	0.03	0.68	0.22	-	-	-	-	0.03	0.01	-	-	-	100.00
		12.66	75.77	0.12	6.75	4.19	0.18	-	0.04	0.95	0.31	-	-	-	-	0.02	0.01	-	-	-	101.00
13	湯呑 近代 経塚山南窯	12.99	74.70	0.39	7.30	3.53	0.22	-	0.05	0.61	0.17	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	99.98
		15.28	75.94	0.16	5.71	2.27	0.12	-	0.02	0.42	0.05	-	-	-	-	0.03	-	-	-	-	100.00

表 14 試料断面の釉（白色部分）の化学組成（1）

		Al ₂ O ₃	SiO ₂	SO ₂	K ₂ O	CaO	TiO	CrO	MnO	Fe ₂ O ₃	CoO	NiO	CuO	ZnO	As ₂ O ₅	Rb ₂ O	SrO	BaO	PbO	ZrO ₂	total
E-063	磁器端反碗 江戸 「栗」滝町古窯	21.36	71.72	0.05	6.22		0.16			0.45						0.02					99.98
	磁器端反碗	18.43	68.47	0.08	8.93	3.08	0.16		0.20	0.60			0.01			0.03	0.01				100.00
E-067	江戸	17.39	69.88	0.27	6.58	5.08	0.15		0.04	0.57			0.01			0.02	0.02				100.01
	滝町古窯	12.98	71.05	0.34	5.86	8.85	0.09		0.07	0.70			0.01			0.02	0.03				100.00
	磁器端反碗	14.63	69.99		5.38	8.91	0.12	0.01	0.07	0.77						0.02	0.09				99.99
E-092	江戸	13.80	69.23		4.95	10.79	0.15	0.01	0.08	0.85			0.01			0.02	0.10				99.99
	滝町古窯	12.58	68.22	0.15	4.45	13.29	0.12		0.11	0.95						0.02	0.11				100.00
	磁器端反碗	15.11	70.51	0.28	5.40	7.86	0.08		0.04	0.66						0.03	0.05				100.02
E-103	江戸	13.87	72.49	0.15	4.64	7.97	0.07		0.04	0.67						0.03	0.07				100.00
	滝町古窯	13.70	73.48	0.13	5.04	6.78	0.07		0.03	0.70						0.02	0.04				99.99
	磁器端反碗	15.67	65.90	0.09	5.88	11.04	0.12		0.07	1.16				0.01		0.04	0.01				99.99
E-120	江戸	17.31	68.86	0.04	4.92	7.97	0.06	0.01	0.05	0.69			0.01	0.01		0.02	0.02		0.03		100.00
	滝町古窯	11.37	65.61		5.56	16.18	0.09		0.12	0.97				0.01		0.03	0.00				99.94
	磁器端反碗	14.40	75.15	0.14	5.13	4.36	0.08		0.04	0.64						0.03	0.03		0.01		100.01
E-132	江戸	15.91	74.43	0.11	5.34	3.23	0.13		0.03	0.76						0.03	0.03				100.00
	滝町古窯	16.18	72.87	0.20	5.86	3.96	0.13		0.04	0.69						0.03	0.04				100.00
	磁器端反碗	13.66	72.43	0.06	5.04	7.82	0.04		0.07	0.70						0.03	0.02				99.87
E-143	江戸	15.10	71.87	0.05	5.61	6.57	0.04		0.04	0.57						0.03	0.02				99.90
	滝町古窯	14.62	72.15	0.25	4.98	6.97	0.04		0.06	0.74						0.03	0.03				99.87
	磁器端反碗	16.15	69.49	0.30	6.08	6.45	0.14		0.04	1.27						0.03	0.05				100.00
E-156	江戸	15.93	68.08	0.35	5.15	9.02	0.13		0.05	1.15						0.04	0.09				99.99
	滝町古窯	13.33	69.90	0.13	4.61	10.95	0.07		0.04	0.88						0.02	0.06				99.99
	磁器端反碗	17.25	69.85	0.39	5.74	6.01	0.17		0.02	0.52						0.03	0.03				100.01
E-166	江戸	15.59	71.78	0.21	5.75	6.01	0.09		0.02	0.47			0.01			0.03	0.05				100.01
	滝町古窯	14.38	67.84	0.07	4.70	12.01	0.08	0.01	0.04	0.73		0.01	0.01			0.02	0.04		0.05		99.99
	磁器端反碗	14.44	69.59	0.11	6.01	8.63	0.09		0.09	0.95						0.03	0.06				100.00
E-184	江戸	14.76	71.00	0.10	6.29	6.67	0.09		0.07	0.93						0.03	0.05				99.99
	滝町古窯	15.07	70.84	0.34	5.33	7.12	0.13		0.08	1.00						0.03	0.07				100.01
	磁器端反碗	13.55	65.36	2.37	5.58	11.24	0.61	0.01	0.04	1.03			0.01	0.01		0.06	0.12				99.99
E-190	江戸	14.93	69.32	0.31	5.99	8.31	0.19	0.01	0.03	0.76			0.01	0.02		0.04	0.08				100.00
	滝町古窯	14.49	71.22	0.05	5.35	7.84	0.05	0.01	0.03	0.81			0.01	0.01	0.01	0.04	0.08				100.00
	陶器広東碗	16.68	70.58		5.22	3.02	0.51		1.90	1.82	0.21					0.03	0.02		0.03		100.02
E-326	江戸	17.08	71.07		5.40	2.55	0.18		1.90	1.41	0.18					0.03	0.02		0.19		100.01
	滝町古窯?	18.76	69.70		5.23	2.66	0.25		1.62	1.52	0.15					0.03	0.02		0.05		99.99
	陶器蕎麦猪口	16.36	65.79	0.18	4.26	12.38	0.07	0.02	0.05	0.82		0.01	0.01	0.02		0.02	0.01				100.00
E-338	江戸	15.94	66.02	0.09	4.04	12.93	0.07	0.01	0.05	0.79		0.01	0.01	0.01		0.02	0.01				100.00
	滝町古窯?	16.31	65.32	0.02	4.22	13.05	0.06	0.01	0.05	0.90		0.01	0.01	0.01		0.02	0.01				100.00
	陶器皿	18.61	70.51	0.24	5.00	3.60	0.22		0.16	1.57						0.03	0.05				99.99
E-339	江戸	19.74	71.13	0.04	4.86	2.13	0.34		0.11	1.58						0.03	0.05				100.01
	滝町古窯?	16.58	70.54	0.08	4.97	5.65	0.15		0.29	1.65						0.03	0.06				100.00
	陶器皿	16.42	71.38	0.04	4.59	5.81	0.14		0.17	1.29		0.01	0.01			0.04	0.08		0.03		100.01
E-340	江戸	19.72	70.95	0.07	4.54	3.00	0.19		0.09	1.25			0.01			0.10	0.03				99.95
	滝町古窯?	15.30	71.72	0.09	4.30	6.66	0.09	0.01	0.25	1.39		0.01	0.01			0.04	0.01		0.03		99.91
	磁器碗	11.07	74.86	0.14	3.82	9.10	0.06		0.07	0.82						0.03	0.04				100.01
E-509	江戸	10.81	73.18	0.09	3.32	11.50	0.08		0.08	0.87						0.03	0.05				100.01
	搬入	12.87	75.29	0.12	4.27	6.38	0.07		0.05	0.88						0.03	0.03				99.99
	磁器碗	13.74	72.93	0.05	5.41	6.62	0.09		0.03	1.10						0.02	0.01				100.00
E-511	江戸	14.85	71.83	0.07	5.21	6.77	0.15		0.03	1.05						0.02	0.01				99.99
	搬入	12.83	71.04	0.27	5.39	8.86	0.12	0.02	0.05	1.39						0.02	0.01				100.00
	磁器碗	11.82	69.55	0.07	3.94	13.22	0.13		0.11	1.05			0.02			0.02	0.07				100.00
E-514	江戸	11.53	71.55		3.92	11.69	0.11		0.10	0.98			0.02			0.02	0.05				99.97
	搬入	11.81	71.99		4.24	10.68	0.10		0.11	0.95			0.02			0.02	0.07				99.99
	磁器小杯	11.39	67.03	0.05	3.06	17.24	0.08		0.15	0.92						0.02	0.08				100.02
E-517	江戸	11.26	67.90	0.08	3.23	16.28	0.08		0.15	0.92						0.02	0.07				99.99
	搬入	11.32	70.32	0.07	3.59	13.56	0.08		0.11	0.81						0.03	0.12				100.01
	陶器蓋	17.19	67.98	0.11	7.38	5.38	0.23		0.55	0.99	0.13					0.03	0.03				100.00
E-518	江戸	15.78	70.25	0.04	7.49	5.17	0.21		0.14	0.86						0.03	0.02				99.99
	搬入(瀬戸美濃)	15.35	69.23	0.06	7.17	6.97	0.21		0.22	0.73						0.03	0.03				100.00
	陶器蓋	11.67	78.28	0.25	5.07	3.08	0.40	0.01	0.03	1.14			0.01			0.03	0.03				100.00
E-519	江戸	13.31	75.80	0.07	5.11	4.56	0.11	0.01	0.04	0.92			0.01			0.02	0.02				99.98
	搬入(瀬戸美濃)	13.80	75.46	0.19	5.52	3.43	0.49		0.03	1.03						0.02	0.02				99.99
	磁器皿	12.11	73.03	0.27	3.63	10.15	0.05		0.06	0.46						0.04	0.20				100.00
E-520	江戸	13.44	68.57	0.17	2.56	14.34	0.06		0.07	0.59						0.03	0.18				100.01
	搬入	12.44	72.23	0.21	3.44	10.88	0.06		0.07	0.47						0.03	0.17				100.00

表 15 試料断面の釉（白色部分）の化学組成（2）

		Al ₂ O ₃	SiO ₂	SO ₂	K ₂ O	CaO	TiO	CrO	MnO	Fe ₂ O ₃	CoO	NiO	CuO	ZnO	As ₂ O ₅	Rb ₂ O	SrO	BaO	PbO	ZrO ₂	total
E-564	近代 初期	10.58	73.83	0.41	4.46	9.10	0.38	0.02	0.15	0.97		0.01		0.02		0.02	0.07				100.02
		11.09	75.58	0.41	4.72	6.87	0.28	0.01	0.09	0.86		0.01				0.01	0.05				99.98
		8.98	77.75	0.31	4.71	6.77	0.29	0.01	0.14	0.95		0.01		0.01		0.02	0.05				100.00
E-565	近代 初期	12.58	71.28	0.12	6.75	8.22	0.09	0.02	0.14	0.67		0.01	0.01	0.01		0.04	0.06				100.00
		14.35	66.39	0.41	7.43	10.20	0.14	0.01	0.16	0.72						0.06	0.09		0.04		100.00
		12.19	72.35	0.29	6.60	7.65	0.09		0.12	0.59						0.05	0.02				99.95
E-566	近代 初期	18.28	67.66	0.13	7.32	5.41	0.20	0.01	0.05	0.90						0.03	0.01				100.00
		18.08	67.91	0.20	7.22	5.28	0.25	0.01	0.03	0.97						0.04	0.01				100.00
		16.65	67.41	0.17	7.61	6.89	0.17	0.02	0.07	0.97						0.03	0.01				100.00
E-567	近代 初期	11.57	77.23	0.16	4.54	5.90	0.07		0.02	0.49		0.01				0.01	0.01				100.01
		12.72	73.33	1.03	4.73	6.99	0.14		0.04	0.95		0.02				0.01	0.01				99.97
		11.44	75.76	0.34	4.87	6.82	0.05		0.02	0.67		0.01				0.01					99.99
E-568	近代 初期	15.55	74.62	0.18	4.81	3.78	0.16		0.02	0.85						0.03	0.01				100.01
		11.90	78.84	0.14	5.25	2.99	0.11		0.02	0.72						0.02	0.01				100.00
		14.34	76.43	0.11	5.07	3.21	0.17		0.02	0.62						0.03	0.01				100.01
		9.21	81.33	0.05	4.72	4.05	0.06		0.02	0.52		0.01				0.02	0.01				100.00
		10.82	77.62	0.11	5.49	5.13	0.09	0.01	0.02	0.66		0.01				0.02	0.01				99.99
		9.70	78.20	0.78	5.46	4.93	0.12	0.01	0.02	0.59	0.14					0.03	0.01				99.99
		13.34	78.62	0.06	4.77	2.37	0.09		0.01	0.58	0.10			0.03		0.02	0.01				100.00
E-569	近代 初期	12.48	79.57	0.13	4.77	2.13	0.07		0.01	0.61	0.18			0.03		0.02	0.01				100.01
		13.36	78.49	0.11	4.79	2.41	0.08		0.01	0.57	0.11			0.03		0.02	0.01				99.99
		12.48	77.68	0.12	5.57	3.19	0.04		0.02	0.74			0.01	0.10		0.04	0.02				100.01
		12.23	78.35	0.26	5.69	2.51	0.04		0.01	0.68			0.01	0.08		0.04	0.02				99.92
		11.95	78.05	0.35	5.45	3.09	0.06		0.02	0.87			0.01	0.01		0.04	0.02				99.92
		21.00	71.88	0.35	5.72	0.27	0.15		0.01	0.60						0.02	0.01				100.01
1	磁器広東碗 江戸 経塚山西窯	22.21	70.69	0.24	5.68	0.37	0.16		0.02	0.61						0.02	0.01				100.01
		22.57	69.30	0.46	6.51	0.34	0.05		0.02	0.64			0.01			0.03	0.06				99.99
		12.73	75.42	0.40	5.90	4.21	0.05		0.11	1.07			0.01			0.03	0.06				99.99
2	磁器広東碗 江戸 経塚山西窯	13.10	74.66	0.19	5.90	4.36	0.06		0.14	1.43				0.04		0.05	0.08				100.01
		13.56	74.75	0.21	5.38	4.04	0.06		0.84	0.93	0.17		0.01			0.02	0.03				100.00
		20.18	69.78	0.07	8.77	0.44	0.11			0.61						0.03	0.01				100.00
3	磁器端反碗 江戸 経塚山西窯	19.12	69.74	0.13	9.58	0.37	0.14		0.01	0.85				0.02		0.04	0.01				100.01
		20.53	69.93	0.10	8.40	0.27	0.12		0.01	0.61						0.03	0.01				100.01
		15.75	70.98	0.11	5.07	6.50	0.05		0.13	1.42						0.02	0.06				100.09
4	磁器端反碗 江戸 経塚山西窯	13.74	75.86	0.34	4.62	4.24	0.10		0.08	0.94						0.02	0.06				100.00
		13.25	75.26	0.14	4.75	5.08	0.06		0.21	1.18						0.01	0.05				99.99
		13.13	71.45	0.14	5.97	7.98	0.07		0.17	0.97		0.01	0.02			0.03	0.05				99.99
5	磁器碗 江戸 経塚山南窯	13.78	72.77	0.20	5.70	5.80	0.23		0.13	1.30			0.02			0.03	0.05				100.01
		16.70	71.12	0.09	6.14	5.00	0.10		0.07	0.72						0.03	0.03				100.00
		15.19	70.42	0.06	5.90	7.10	0.10		0.16	0.99			0.01			0.02	0.05				100.00
6	磁器碗 江戸 経塚山南窯	14.48	64.70	1.21	7.73	9.54	0.23		0.26	1.66				0.05		0.04	0.08				99.98
		15.49	69.96	0.25	7.31	5.45	0.11		0.13	1.17				0.01		0.04	0.06				99.98
		11.30	77.07	0.08	6.41	3.99	0.06		0.08	0.93						0.03	0.03				99.98
7	磁器碗 江戸 経塚山南窯	11.42	76.94	0.07	6.55	3.99	0.06		0.08	0.83						0.03	0.03				100.00
		11.24	75.35	0.32	6.89	5.14	0.07		0.09	0.86						0.02	0.02				100.00
		14.53	72.66		7.12	4.46	0.08		0.10	1.00						0.02	0.02				99.99
8	磁器碗 江戸 経塚山南窯	14.77	72.53		6.93	4.60	0.05		0.12	0.94						0.03	0.03				100.00
		14.20	73.18	0.14	6.77	4.47	0.06		0.11	1.01						0.03	0.03				100.00
		11.09	74.01	0.27	6.40	7.10	0.10		0.06	0.91		0.01				0.03	0.01				99.99
9	飯茶碗 近代 経塚山南窯	11.52	74.18	0.16	5.76	7.28	0.08	0.01	0.06	0.89		0.01				0.02	0.01				99.98
		13.11	74.70	0.20	6.15	4.85	0.10		0.04	0.81						0.02	0.01				99.99
		13.31	75.47	0.29	6.42	3.69	0.01		0.01	0.65						0.02	0.01				99.88
10	飯茶碗 近代 経塚山南窯	12.55	76.89	0.15	6.63	3.04	0.10		0.01	0.60						0.02	0.01				100.00
		13.68	73.32	0.48	7.70	3.95	0.11		0.01	0.72						0.02	0.02				100.01
		10.68	76.70	0.49	6.35	4.91	0.09		0.02	0.67			0.01			0.03	0.02		0.02		99.99
11	飯茶碗 近代 経塚山南窯	10.99	72.96	1.22	6.75	7.08	0.12		0.03	0.77			0.01			0.03	0.03		0.01		100.00
		10.66	73.89	0.80	6.77	6.88	0.11		0.03	0.68			0.01			0.03	0.03		0.01		99.90
		10.87	78.66	0.13	6.27	2.83	0.04		0.04	1.10						0.03	0.01				99.98
12	飯茶碗 近代 経塚山南窯	11.19	78.24	0.10	6.38	2.90	0.05		0.03	1.07						0.03	0.01				100.00
		14.14	73.74	0.22	7.87	2.84	0.10		0.03	1.04						0.03	0.01				100.02
		21.47	62.77	0.45	7.86	6.12	0.19		0.03	1.05						0.04	0.01				99.99
13	湯呑 近代 経塚山南窯	16.68	69.59	0.38	7.00	4.92	0.19		0.03	1.15						0.05	0.02				100.01
		17.84	69.56	0.04	6.94	4.65	0.15		0.02	0.77						0.03	0.01				100.01

5. まとめ

滝町古窯出土試料を中心に、江戸時代から近代にかけての染付のある遺物について蛍光 X 線分析による成分分析を行った。1つの遺物について、断面の青色部分、白色部分、素地部分、表面の青色部分、白色部分の5つの部分ごとに、それぞれ3カ所ずつ X 線を照射する方法で分析を行った。5つの部分すべてにおいて、遺物の出土地による元素の違いは見られなかった。ただし部分ごとによる元素の違いは、すべての出土地に共通してみられた。断面の青色部分でコバルトが含まれ、青色と白色の釉薬にはマンガンとストロンチウムが含まれるのに対し素地部分には含まれなかった。また断面の青色部分の半定量分析の結果、近世と近代でコバルトの割合が変化すること確認できた。このことは経塚山南窯から出土した近世と近代の遺物でも同様であり、産出地による違いではないと確認できた。今回の分析では、産出地による呉須の成分の違いを明確に捉えることはできなかった。

【参考文献】

- 加藤悦三（1978）瀬戸産呉須（ごす）の再発見．化学と工業，31,992-994.
 芝崎靖雄・堀尾正和・前田武久・延谷宏治・金丸文一（1984a）瀬戸産呉須と中国産呉須の比較．名古屋工業技術試験所報告，33（7），241-245.
 芝崎靖雄・金岡繁人・堀尾正和・渡村信治・延谷宏治・金丸文一（1984b）瀬戸産「呉須」（磁器染付用顔料）．窯業協会誌，92[4],195-200.
 倉地辰幸・荒木次夫・山田義和（2001）瀬戸産染付顔料の特性試験．愛知県瀬戸窯業技術センター報告，30,18-21.
 伊藤賢次・丹羽智子・山田義和（2000）瀬戸染付焼に関する研究．愛知県瀬戸窯業技術センター報告，29,21-24.
 水野雄二郎・青木本吉（2004）江戸期の美濃・瀬戸と染付呉須とのかかわり．東濃西部歴史民俗資料館 瑞浪陶磁資料館 研究紀要第10号，159-176.
 瀬戸市（1998）『瀬戸市史 陶磁史篇 六』

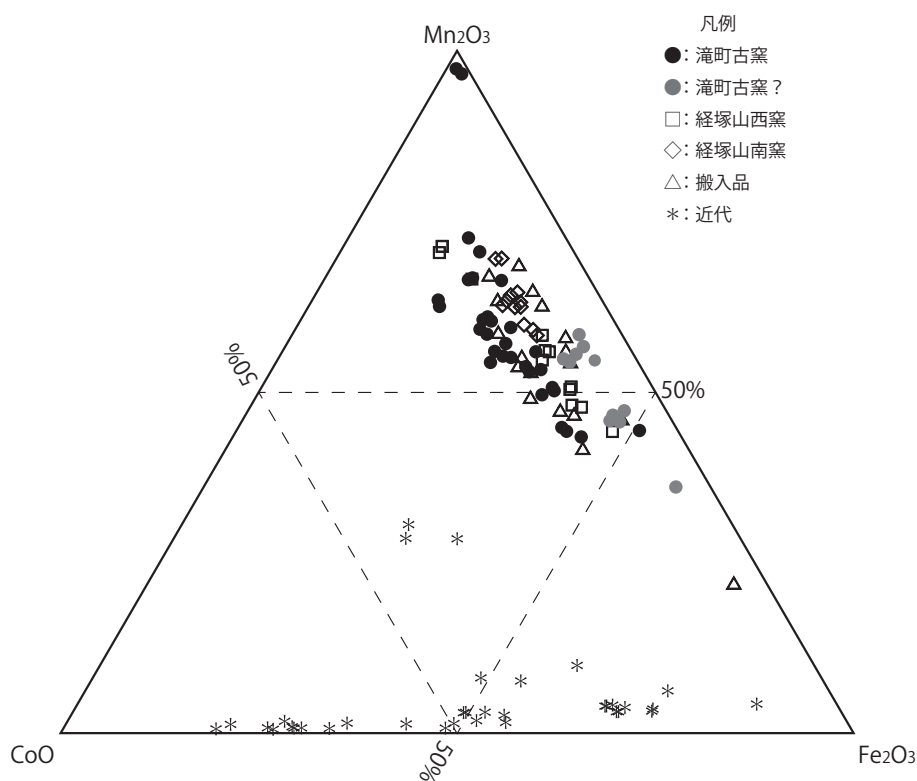


図 57 青色部における Mn_2O_3 - CoO - Fe_2O_3 図

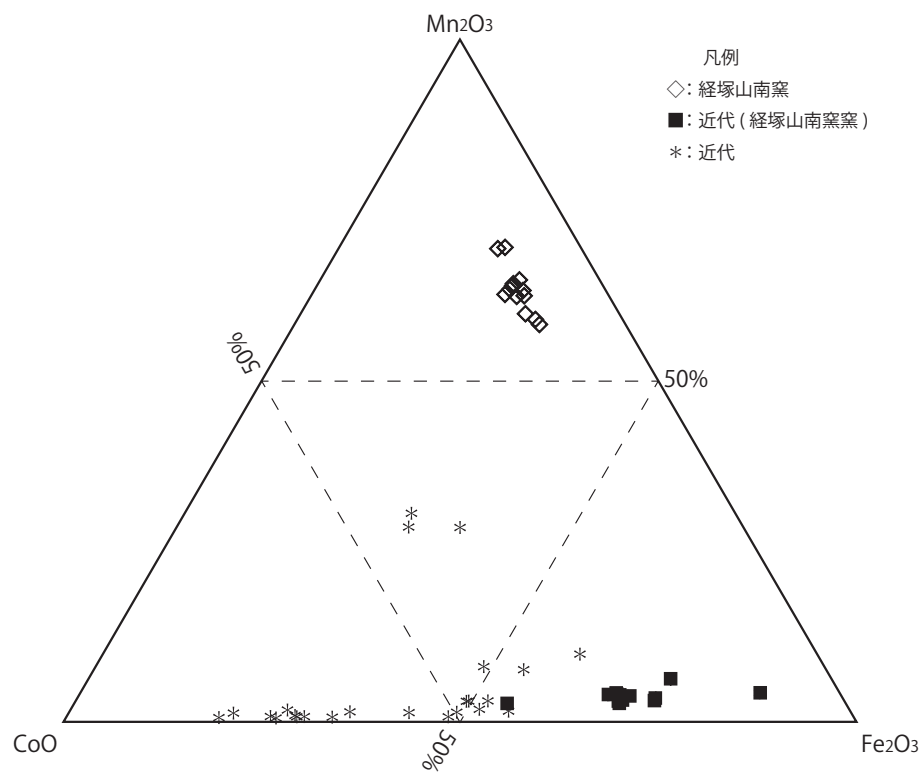


図 58 経塚山南窯の試料と近代試料の Mn_2O_3 - CoO - Fe_2O_3 図

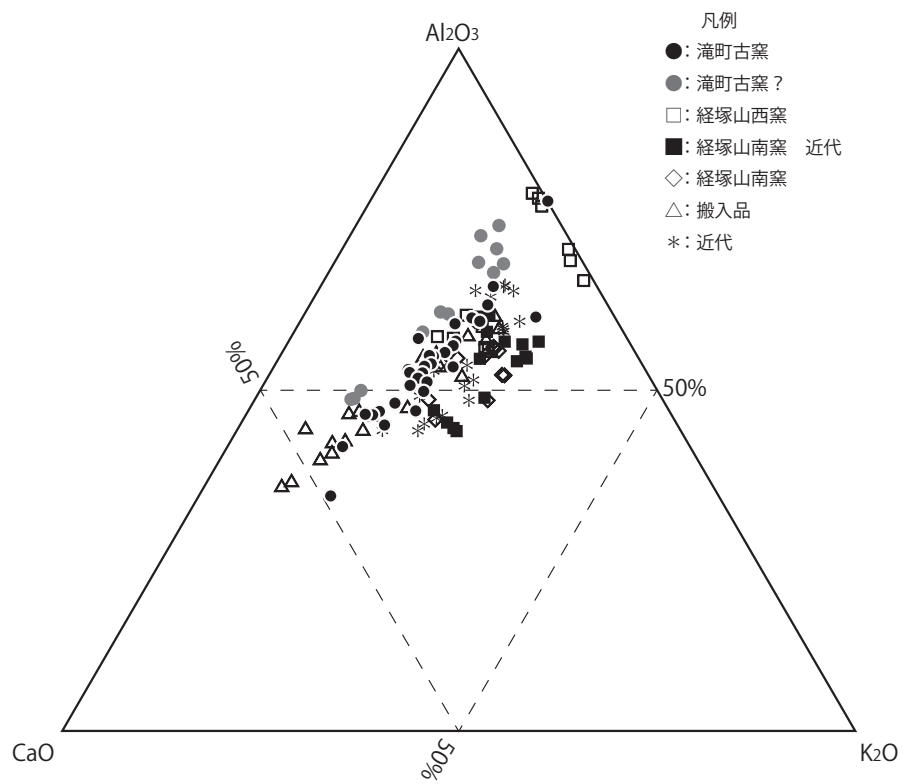
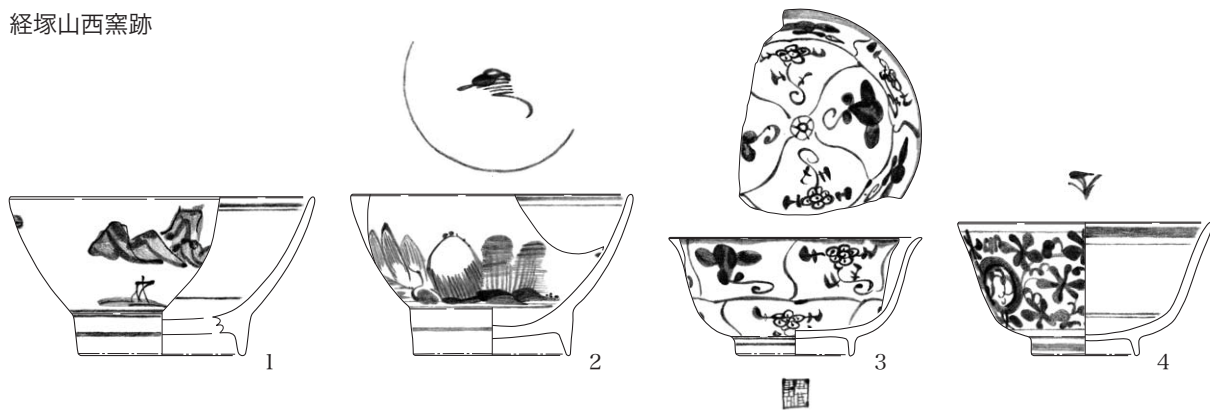
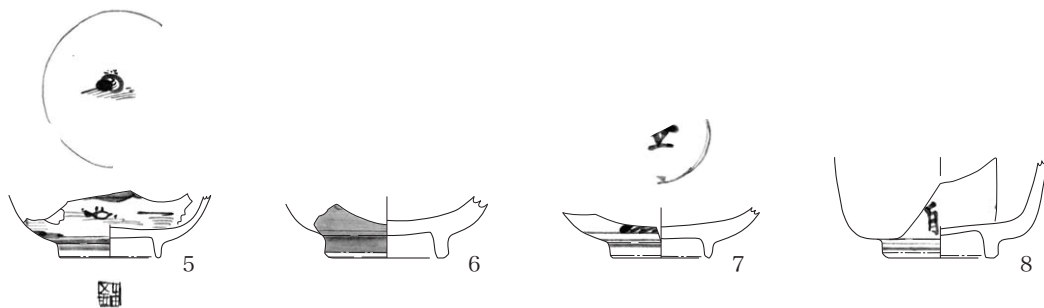


図 59 白色部における Al_2O_3 - CaO - K_2O 図

経塚山西窯跡



経塚山南窯跡



経塚山南窯跡(近代)

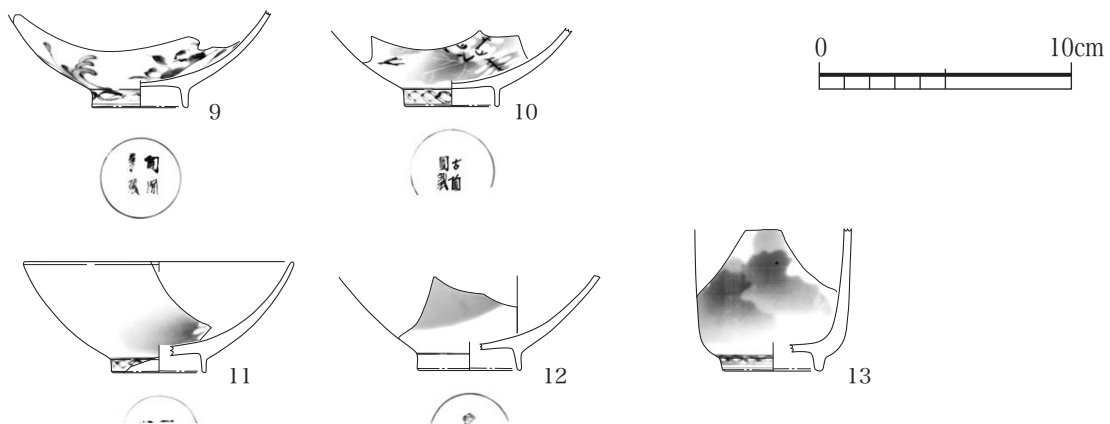


図 60 分析用資料 経塚山西窯・経塚山南窯出土品 (S = 1/3)

第5章 総 括

1. 滝町古窯の焼成技術

江戸後期から近代にかけて県内でも各地で新たな陶磁器窯が成立している。瀬戸・美濃・常滑という大窯業地を間近にもつ尾張地域だけでなく、三河地域においても八ツ面焼^{やつおもて}、深喜亭焼^{しんきてい}、楠焼、岡崎永楽（甲山焼）などの窯跡（製品）があり、それらの成立の多くに瀬戸窯の陶工が関わっていたことも伝えられている。しかしこれらのうちで安定的に磁器生産を行った窯跡となると瀬戸・美濃窯の周辺を除いてはほとんどみられず、文政9年(1826)より磁器の製造が始まった犬山城下の丸山窯（犬山焼）や、幕末から明治にかけて銅版転写の染付磁器を焼成した川名焼、明治初期の開窯となる大山窯（小牧市）などが知られているにすぎない（註1）。

ここでは、調査で明らかとなった窯体の構造や窯道具にみられる焼成技術、焼成品などの特徴を整理しつつ、当該時期の主要な生産地域であった瀬戸・美濃窯との関連性を中心に考えてみたい。

【窯体構造と築窯部材】

滝町古窯で検出された窯体は、横室型縦狭間構造をもつ連房式登窯であり、基本的な窯構造は瀬戸窯に通有の特徴を示しているといえる。主軸方向の全長11m、残存する最大幅は約4.7m、推定で最大幅5.5m程度となる縦長のプランをなす。胴木間・捨間と焼成室7房からなる（表16）。

瀬戸窯の近世後期の窯体調査例として勇右衛門窯跡があげられるが、こちらは陶器を専焼した本業焼の窯であり、焼成室後方の7房が確認されている。この連房式登窯の窯壁・狭間柱など築窯部材、

表 16 滝町古窯 窯体各房の計測値と特徴

部位	状態	奥行 (m)	内幅 (m)	外幅 (m)		狭間穴数	備 考
焚口							ニギリグレ充填
胴木間	一部欠	狭間奥まで1.6	狭間柱前で推定1.9			推定6（検出5）	床前上部は掘られ下がっている。狭間孔床は傾斜し平坦でなく曲面。
捨間	床一部残存	平坦部分は0.45,狭間孔後方間は0.78	狭間柱前で推定2.3			推定7（検出6）	砂床（白色砂粒）
一の間	削平	-	-			不明（検出6）	やや黒ずんだ浅い凹みを狭間孔と推定
二の間	完全に滅失	-	-		後室との段差(m)	-	石垣構築で破壊
三の間	床一部残存	-	-		0.63	不明（検出8）	箱グレを積み狭間柱を構築、ニギリグレを充填。側壁はニギリグレを小口積み。
四の間	一部欠	平坦部分は0.8～0.85,狭間穴後方間は1.15	狭間柱前で3.6		0.43	11	狭間上に窯壁一部残存。ニギリグレを多用。砂床
五の間		平坦部分は0.9～0.95,狭間穴後方間は1.28	狭間柱前で4.0	4.65	0.45	12	向かって左手前に出入口
六の間新	一部欠	平坦部分は推定0.95,狭間穴後方間は1.35	狭間柱前で4.0以上			推定13（検出12）	向かって左手前に出入口
六の間旧	一部欠	狭間孔後方間は1.70	狭間柱前で4.0以上			推定14（検出13）	
七の間	床面削平	狭間穴後方間は1.45	-			不明（検出4）	狭間後方に窯壁充填土の境界あり
（八の間？）	焼土面（赤化）						存在も含めて不明

焼成室床面の形状、匣鉢積みする窯詰め方法などはすべて滝町古窯と共通している。ただし、残存長で13.7m、最大幅8.1m、最後室の狭間穴19個もの規模をもつ大型の窯であるためか、滝町古窯にはない天井支柱が存在し、出入口は焼成室の両側に設けられている。焼成室間の段差は約50cm、奥行(前方狭間穴の後ろから後方狭間柱前までの距離)は仕切り状施設のある第7室を別にすれば1.5m前後であり、こちらの規模の違いは極端なものではない。焼成室房数の増加と横幅の拡張という形で床面積の確保を図っており、同構造の窯では奥行の大きさに共通性が看取される。

比較的小規模の窯体の調査事例では、美濃市に所在する亀蔵庵窯と権蔵窯がある(図61)。幕末から明治にかけて主に陶器を焼成した縦狭間構造の連房式登窯であり、まず亀蔵庵窯は胴木間と焼成室6房が検出され、全長8.74m、最大幅5.5mの規模をもつ。窯壁は高さ20cm程度の長方形クレや窯道具片、角礫などをうい粘土で固めたもので、厚さは30cm程度である。胴木間床面は傾斜が小さく全体に平坦な面をなしており、中央寄りの部分に方形板状のクレを積重ねて粘土で固定した2本の分焰柱がある。狭間柱は床に敷いた扁平な方形板の上に高さ30cmの角柱状クレを置き、柱間上部はこれを横に渡して狭間穴を形成している。第2,3,4室の床面手前側の火床は砂床、狭間柱前には扁平板状のクレを敷いた板床となっている。次に権蔵窯であるが、全長約8.7m、最大幅約5.0mを測る。胴木間と焼成室6房からなる。側壁は内面には扁平クレが整然と積み重ねられ強固に構築されている。半円形プランの燃焼室には2本の分焰柱があり、第1,2室に板床の痕跡が認められる。焼成室間の段差は、亀蔵庵窯では35～50cm、権蔵窯は第5室までは40～45cm程度であり、第5,6室の間のみ60cmとなっている。焼成室奥行は、亀蔵庵窯では0.64～1.5mがあり、第1室が狭く、後方の房ほど大きくなる傾向がみられる。権蔵窯は0.9～1.0mであり、第1室(捨間)のみ0.56m

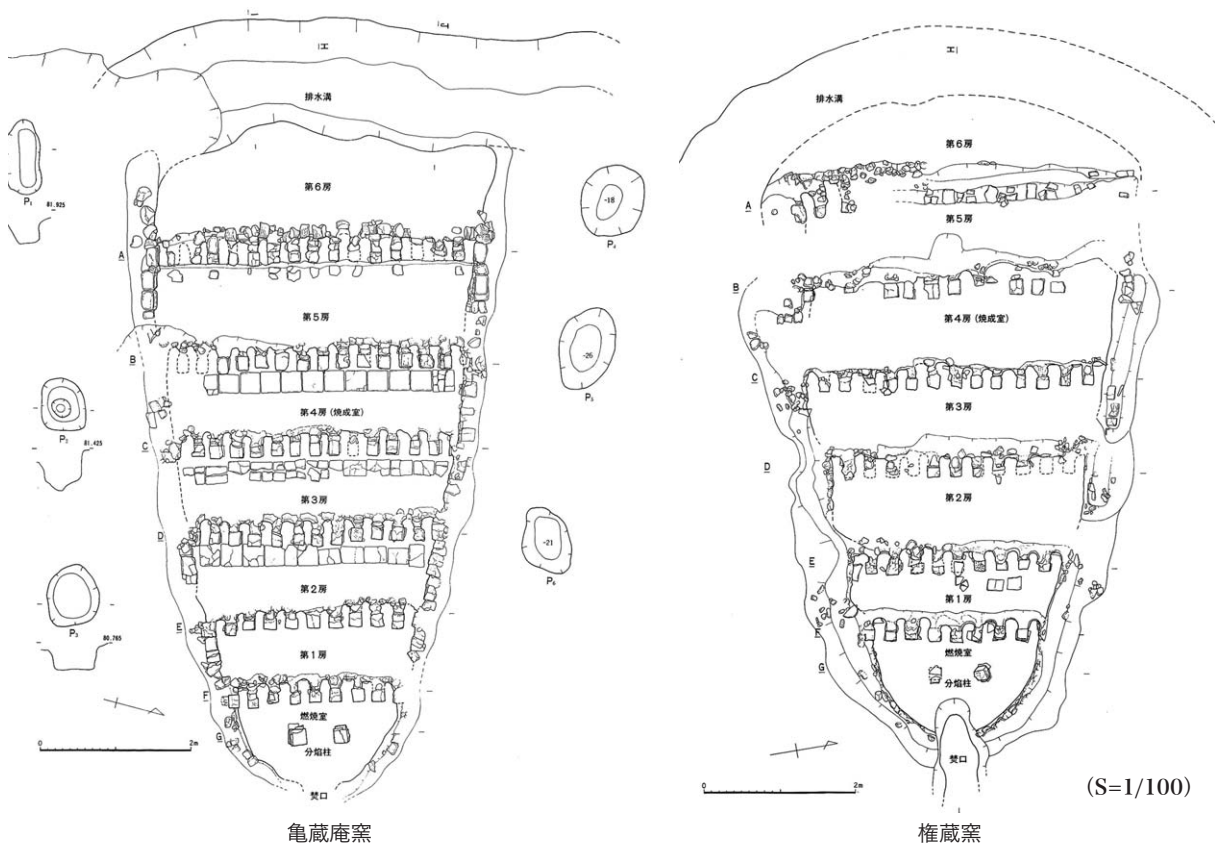


図61 美濃市西南部古窯址群 近世末の連房式登窯

と狭くなっている。なお、窯が築かれた近世大矢田村は尾張藩領に属し、亀蔵庵窯は地元の素封家であった小森家が経営したとの伝承がある。

その他の地域の窯体調査事例として、まず洗馬焼 和兵衛窯跡（長野県塩尻市洗馬元町）があげられる。遺跡は奈良井川左岸段丘上に立地し、西側を画する標高 953.6m の長興寺山の東麓、長興寺の北東にあり、窯跡は丘陵の先端部付近に築かれている。ここでは縦狭間構造をもつ連房式登窯 2 基と関連する土坑、細工場などが検出されており、このうち 1 号窯が磁器を焼成している（図 62）。規模は 1 号窯が全長が 8.8m、最大幅は 4.0m あり、2 号窯が同じく 13.2m、4.5m であり、どちらも平面形は後方にかけて開く形状である。1 号窯は胴木間、捨間と左側に出入口をもつ 5 房の焼成室、2 号窯は胴木間、捨間と 7 房の焼成室からなり、全体の規模・形状などは滝町古窯と比較的近い。1 号窯の焼成室床面は幅に対し奥行が狭く、段差をつくらずほぼ水平につくる。胴木間の床面は狭間に向かって勾配をもつこと、狭間柱に箱グレを用いることなどは滝町古窯と共通している。ただ詳細にみると、胴木間奥壁の狭間柱は円筒型のクレが用いられ、そのほかの狭間柱では箱グレだけでなく柵板を組合せている。柵板はそのほか窯壁にも多用されており、幅 90cm もの厚さに達する側壁には、築窯部材としてニギリグレのほか箱グレ、匣鉢が多く使われている。焼成室間の段差は、1 号窯の第 1,2,3 室間までは 30～35cm と比較的小さく、第 3,4,5 室間では 50cm である。2 号窯は第 6 室までは 34cm 前後、第 6,7,8 室間は 40～50cm、第 8 室とコド（煙道部）の間は 70cm である。焼成室奥行は 1 号窯の第 1 室（捨間）と第 5 室はともに 1.1m 前後と広く、その間の第 2,3,4 室は 0.7

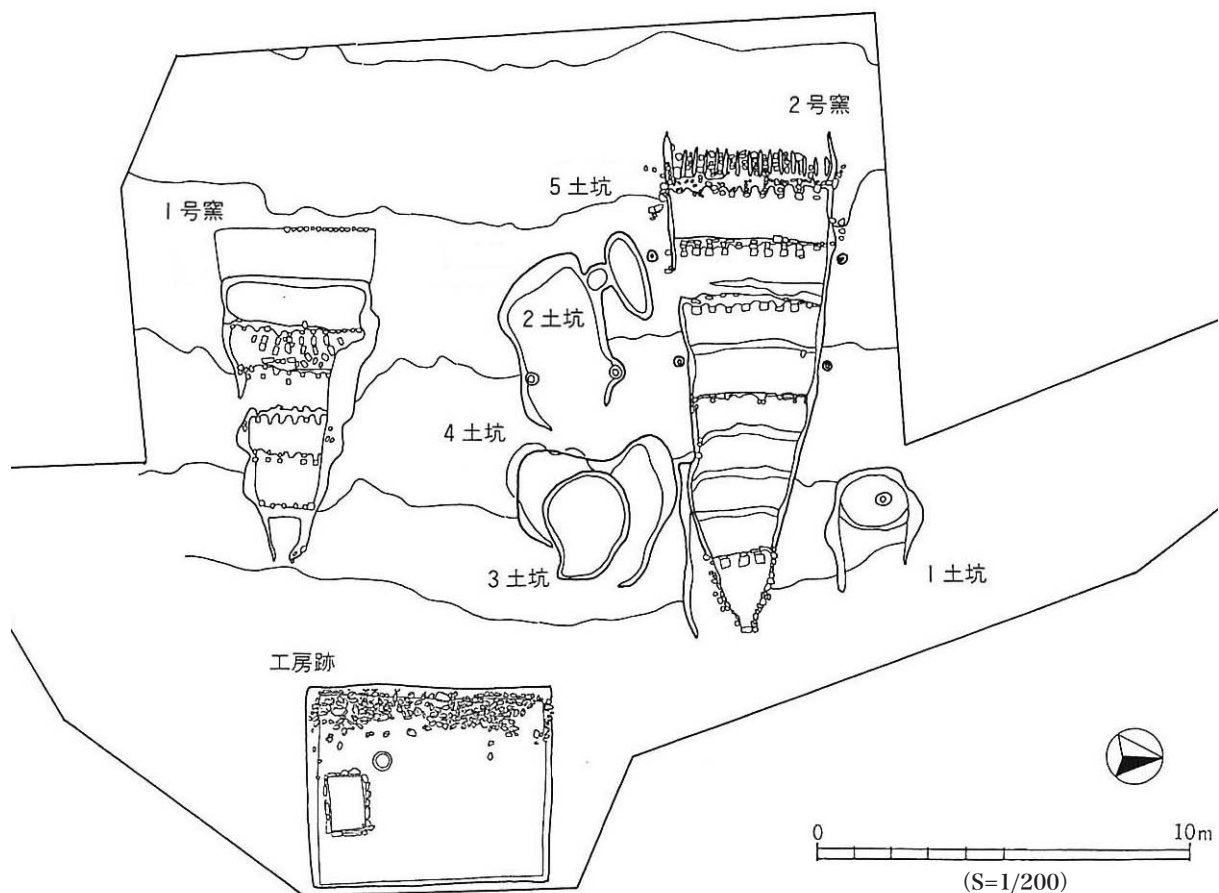


図 62 洗馬焼 和兵衛窯跡（長野県塩尻市，報告書図版を一部改変）

～0.9m 程度である。最後部の第 6 室は 1.3m 前後と広がっているが、ここはやや特殊な構造となっている。2 号窯の奥行は第 1 室から第 4 室、第 6 室が 0.7～0.9m、第 5 室と第 7,8 室が 1m 前後と推定され、後方の 2 房が特に広がっている。

和兵衛窯の操業は、関連する史料の存在から天保 11 年 (1841) を少し遡る頃から安政 6 年 (1859) 以前までの間の時期と考えられ、1 号窯での磁器焼成の開始は天保 11 年という年代が与えられている。報文では築窯技法は信楽および瀬戸美濃系であり、素焼き資料の存在などから製品制作には信楽系の職人の関与が想定されている。

藤沢窯跡 (長野県上高井郡高山村) は幕末の安政 5,6 年頃開窯し、明治初期までに操業を終えたとされる窯跡であり、主に磁器製品を焼成した。窯体は縦狭間構造の連房式登窯であり、全長は約 8.0m、最大幅 4.4m を測り、胴木間と 4 房の焼成室、段がなく狭間で繋がらない最後部の 1 室 (すて窯) からなる。側壁は丸みをもった「俵状レンガ」と箱グレが用いられ、胴木間部分では「俵状レンガ」が小口ではなく長手が見える向きで積まれている。胴木間に 2 本の分焰柱があり、床面は緩やかな勾配をもつ。狭間柱は幅 15cm、高さ 20cm 程度の箱グレを 2 個積み重ねてつくられる。焼成室間の段差は 40～55cm、奥行は第 1,2,3 室が 0.73～0.87m、第 4 室が 1.0m 程度である。

では近代に入ってから磁器焼成窯とではどのような差異がみられるのであろうか。瀬戸市菱野町で調査された赤重窯跡 (註 2) は縦狭間構造をもつ連房式登窯であり、操業期間は 19 世紀第 4 四半期～20 世紀初頭とされる。窯体はほぼ同様の構造を保持したまま規模のみ変更された 4 次の変遷が確認されている。最も古い段階の 1 次窯は推定全長 9.4m、最大幅 (内法) 6.7m の縦長のプランをなし、胴木間・捨間と 4 房の焼成室からなる。焼成室各房の床面の段差は 50～60cm と推定されるが、最終段階の 4 次窯では段差は 90cm 程度となっている。奥行 (前方狭間穴の後ろから後方狭間柱前までの距離) では 1 次窯で約 1.2m、4 次窯では約 1.4m 程度となり、やや広がっている。近代の「古窯」の特徴は、比較的急勾配で 2～4 房の焼成室をもつ小規模なものであること、「急火式」で小器を焼成するのに適した構造であり、しかも「古窯」の変遷のなかで焼成室間の勾配が変化していったとされる。赤重窯跡でみられた変遷は、まさにこの状況を伝えるものといえる。

滝町古窯の窯体構造は瀬戸・美濃窯の技術系統に連なるものであり、少なくとも当該期の比較的規模の小さい窯では、磁器の焼成も本業窯とほぼ同様の構造の窯で行っていたとみることができる。より安定的な磁器生産の技術が確立されるまでには、赤重窯跡で行われたような幾度もの試行的な改造が必要とされたのであろう。

【製品の特徴】

滝町古窯の主な製品は広東碗、端反碗を中心とした染付碗類である。近世瀬戸村産磁器の分類 (註 3) と比べると広東碗は C 類と D 類に近い形態のものが多く、端反碗では少量の B 類と C, D 類、E 類などに類似する形態が多くみられる。これらは近世瀬戸窯の登窯第 3 段階、編年の第 9・10・11 小期に位置付けられる型式である。また滝町古窯で箱形湯呑はほとんどみられず、筒形湯呑が存在するという器種構成からも、第 10 小期を中心としてその前後を少し含む時期の型式がみられることになる。したがって、概ね窯の操業は 19 世紀の第 2 四半期を中心とした時期と考えられる。

さて、今回染付文様のパターンを分類してみたところ、経塚山西窯資料とよく類似するものが比較的多く認められた。滝町古窯製品の主体となる型式は操業期間に幅をもつ経塚山西窯にも存在するものの、経塚山南窯や幸右衛門窯で主体となるより新しい段階の器形に、古手あるいはやや丁寧な文様

が施されているといった印象を受ける。文様パターンと器種レベルでの組合せは把握することができたが、細分した形態では組合せが一気に多様化する。ひとつには長く使用される汎用性の高いパターンが存在すること、見込文様が職人個人の指標となるならば、同時に多様な製品が作りわけられていた可能性などが考えられる。素地成形と絵付工程などの分業の実態を考える上で興味深い。色見片にみられた文字「せと画」(356,369)とは、伝統的な瀬戸窯の文様のパターン、あるいは瀬戸の絵付をする職人を指すものかなどと様々に想像される。また線刻のあるクレ(424)は染付文様と同じ海浜風景の落書きのようなものであり、職人が手本を試し書きでもしたのであろうか、そのような細工場での光景が浮かびあがる。いずれにせよ瀬戸窯かその製品との関連を直接に示す資料であろう。文様パターンが同時併焼された確率を測る指標となり得るとすれば、単純な見込文様の比較に手掛かりの一端があるのかもしれない(註4)。

呉須の分析においては明瞭な差異は見いだせなかったが、同時に行った素地(胎土)の分析結果では瀬戸窯のグループとは一致せず、明らかに区別されるデータが示されている。製品の外観は瀬戸・美濃窯製品と区別が困難なほど近似したものであるが、窯業原料の調達については明確な関係性は見いだせない。

陶器小碗類と急須や行平など、胎土が緻密で器壁も薄く、碗類では梅花文丸碗や面取碗など京・信楽系の製品を模した器形に限定されるなど瀬戸窯の陶器製品とは異なる特徴をもつ。素焼に近い生焼けの状態の資料が窯体内から、また床面に近い位置でも検出されており、これらの焼成は操業の最終段階に近い時期と考えられる。

2. 瀧山寺の関与について

滝町古窯はその立地からして、近世瀧山寺との強い結びつきが想像される。またエブタにみられた「東叡山 青龍院内 栗田源二郎 源盛方」の刻書は、上野寛永寺の青龍院との関連を記す内容のものであるが(註5)、実質的な意味としては瀧山寺の関係で使用する器の焼成が行われたことを示す資料であり、「栗」や「青」「龍」と文字の入る碗類などがそのような特注品であったと考えられる。操業期間中に含まれる天保4(1833)年に東照宮修復の記録もあり、この際の法要にむけて茶碗類が準備されたのかもしれない。ただし、量産された製品は一般に流通していた瀬戸・美濃窯産と同様の広東碗と端反碗であり、これに少量の特注品と陶器類を同時に焼成するという形態で生産が行われたとみられる。

江戸時代中期以降、瀬戸村の窯屋は地縁的結合関係を基にした「窯仲間組織」を形成していたと考えられている。磁器生産については、享和元年(1801)から文政5年(1822)の間に86名の本業窯屋が染付焼に転職しており、文化末期には本業窯屋の数を上回りピークに達している。以降天保期にかけては生産も安定して行われていた時期でもあり(註6)、滝町古窯はこうした背景の中で成立している。滝町古窯の築窯から製陶、絵付など技術をもつ職人等は主に瀬戸窯から招かれた可能性が高いと考えられる。加えて操業期の終り近くには京・信楽産陶器を模した薄手の製品がつくられるなど、別の窯業地の技術が誘致された可能性も考えられる。ちょうど瀬戸・美濃地域での磁器生産が最盛期を迎えている頃であり周辺では磁器を焼成する窯は増加している。これらと岡崎との距離をどう捉えるかも問題となるが、西三河の地には単独で開窯したことになり、地方窯の成立という動きの中では少し早い段階に位置付けられよう。そうした面からも瀧山寺の存在が大きな役割を果たしていたとみるべきであり、この点については今後の文献史料などによる検証が俟たれる。

【註・参考文献】

(註 1) 江崎 武,1982「尾張・三河のやきもの」『日本やきもの集成 2 東海・甲信越』平凡社／県内でも岐阜県土岐市、瑞浪市などに隣接する豊田市北部は陶土採掘が盛んに行われていた。小原地区などでは美濃窯と関係を持ちつつ製造を始めた幕末から近代の窯があり、未調査ではあるが窯体の遺存が確認されている。

(註 2) 京焼の名家 11 代永楽和全の用いた印に酷似する「永楽」印のある炆器質陶器、白磁素地も焼成している。永楽和全は明治 6 年から 10 年まで岡崎に滞在して作陶を行い、その後は職人らによって明治 20 年頃まで操業が行われた。明治 22 年から 25 年までは「甲山焼」として操業が続けられた。赤重窯製品と同範の印が甲山焼窯跡資料にみられることから、「岡崎永楽焼」のコピー品、上絵付用の白磁素地を制作していたと考えられる。(佐野 元編,1996『赤重窯跡』財団法人 瀬戸市埋蔵文化財センター)

(註 3) 第 1 章 第 9 節 一、主要器種の変遷 (『瀬戸市史 陶磁史篇六』)

(註 4) 職人個人の判別が可能であるとすれば、文様や器形の同時性や作業環境の復元などを考える上で有効な手だてのひとつとなろう。添付 CD-ROM に見込文様部分の画像を収録した。

(註 5) 上野寛永寺の境内地、青龍院付近の出土資料に瀬戸・美濃窯産の磁器製品は散見されるが、本窯との関連については不明である。(『東叡山寛永寺護国院』『上野忍岡遺跡』など)

(註 6) 第 1 章 第 5 節 2 瀬戸村の状況 (『愛知県史別編窯業 2』)

服部 郁,1994「近世瀬戸窯における磁器生産の開始と展開」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第 2 輯

安藤 裕・松本義信,1978「長野県上高井郡高山村藤沢焼について」上田女子短期大学紀要第 6 号

森本 伊知郎,2009『近世陶磁器の考古学—出土遺物からみた生産と消費』椋山女学園大学研究叢書 35

財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター,2004『江戸時代の瀬戸・美濃窯』企画展図録

朝日町博物館,2005『よみがえる萬古不易—有節の桜色と萬古古窯—』平成 17 年度特別展図録

松本信義・関 孝一,1985『藤沢焼—長野県上高井郡高山村藤沢窯跡発掘調査報告書』上高井郡高山村教育委員会

吉田英敏編,1989『美濃市西南部古窯址群』美濃市教育委員会

竹内弘光,2005『名谷 A 遺跡・名谷 B 遺跡範囲確認調査概要報告書 森有節窯跡範囲確認調査』朝日町教育委員会

瀬戸市歴史民俗資料館,1987 西茨第 1・2 号窯発掘調査報告『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要 VI』

小林康男・小口達志,1996『洗馬焼 和兵衛窯跡 発掘調査報告書』塩尻市教育委員会

中嶋 隆・坪井裕司・浅野友昭,1997『大山窯発掘調査報告書』小牧市教育委員会

瀬戸市,1981『瀬戸市史 陶磁史篇 二』

瀬戸市,1993『瀬戸市史 陶磁史篇 五』

瀬戸市,1998『瀬戸市史 陶磁史篇 六』

愛知県,2007『愛知県史 別編 窯業 2』中世・近世・瀬戸系

愛知県,2012『愛知県史 別編 窯業 3』中世・近世・常滑系

愛知県埋蔵文化財センター,2009『年報 平成 20 年度』

登録遺物一覧表 (1)

E-no.	器種	器形分類	外面文様	内面文様	遺構	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考 (数値単位cm)	グリッド
1	磁器 広東碗	A	001	B5	001SX物原層	10.8	5.9	6.5		7B13d
2	磁器 広東碗	A	001	B6	サプトレ	11.6	5.6	7.2	焼成不良	7B16d
3	磁器 広東碗	A	001	B5	001SX物原層	10.9	5.9	6.3		7B13d
4	磁器 広東碗	A	001	B6	001SX物原層	11.7	6.2	6.4		7B13d
5	磁器 広東碗	A	001	B5	001SX物原層	11.3	5.8	6.2		7B13d
6	磁器 広東碗	B	001	B1	001SX物原層	-	6.1	*4.6		7B13d
7	磁器 広東碗	B	001	B2	001SX物原層	11.1	6.0	6.3		7B13d
8	磁器 広東碗	B	001	B2	整地土	-	5.6	*3.9		7B14e,d
9	磁器 広東碗	-	001	B1	001SX物原層	-	5.9	*5.9	ひずみ大	7B13d
10	磁器 広東碗・色見	-	001	-	トレンチ	-	-	*3.4	穿孔孔径1.7	7B14d
11	磁器 広東碗	-	001	C2	窯体埋土胴木間	-	*5.4	*5.1	ひずみ大	7B15d
12	磁器 広東碗	A	001	C1	物原	-	5.9	*6.8		7B15,16d
13	磁器 広東碗	A	001	C1	001SX物原層	11.9	6.0	6.1		7B13d
14	磁器 広東碗	-	001	C2	物原	-	-	*3.0	ひずみ大	7B14e
15	磁器 広東碗	-	001	C1	005SX	-	5.7	*2.6		7B15f
16	磁器 広東碗	-	018	-	001SX包含層	11.8	-	*3.5		7B14d
17	磁器 広東碗	C	018	C2	物原層a	-	5.5	*5.1		7B13d
18	磁器 広東碗	C	018	B1	001SX物原層	10.8	6.2	6.4		7B13d
19	磁器 広東碗	-	なし	-	004SX物原層	11.8	-	*4.2		7B14e
20	磁器 広東碗	D	039	C2	整地土	-	5.4	*3.9		7B14e
21	磁器 広東碗	C	016	-	001SX物原層	10.6	5.3	5.7		7B13d
22	磁器 広東碗	C	016	B1	004SX物原層	-	6.5	*5.1	輪トチ付着	7B14e
23	磁器 広東碗	A	022	E	001SX物原層	10.7	-	*8.5	トチ密着	7B13d
24	磁器 広東碗	A	022	E	001SX物原層	11.5	-	*7.0	トチ密着	7B13d
25	磁器 広東碗	A	022	E	001SX物原層	11.1	-	*7.7	トチ密着	7B13d
26	磁器 広東碗	A	022	E	001SX物原層	10.8	6.2	6.5		7B13d
27	磁器 広東碗	A	022	E	001SX物原層	11.5	6.4	6.5		7B13d
28	磁器 広東碗	A	022	E	001SX物原層	12.2	6.2	5.9	ひずみ大	7B13d
29	磁器 広東碗	B	024	-	005SX	10.7	5.1	6.2		7B15f
30	磁器 広東碗	B	024	A2	004SX物原層	-	6.0	*3.9		7B14e
31	磁器 広東碗	B	024	なし	004SX整地土	-	5.3	*5.0		7B14e
32	磁器 広東碗	D	024	B6	窯体埋土a,b,c	9.9	5.6	6.1	生焼け	7B15e
33	磁器 広東碗	D	024	B6	窯体埋土a,b,c	10.0	5.3	6.1	生焼け	7B15e
34	磁器 広東碗	C	039	A2	004SX整地土	-	6.2	*4.9		7B14e
35	磁器 広東碗	A	039	A1	001SX物原層	11.5	5.9	6.2		7B13d
36	磁器 広東碗	C	015	F	001SX物原層	10.6	5.9	6.2		7B13d
37	磁器 広東碗	C	015	F	001SX物原層	11.4	6.0	6.2		7B13d
38	磁器 広東碗	A	009	A2	001SX物原層	10.9	6.0	6.3		7B13d
39	磁器 広東碗	A	009	A2	001SX物原層	-	5.5	*4.5		7B13d
40	匣鉢・磁器 広東碗	B	010	-	001SX物原層,no.12	15.0	15.5	*14.8	底面に広東碗付着	7B13d
41	磁器 広東碗	B	010	A1	001SX物原層	10.9	5.2	6.0	ひずみ大	7B13d
42	磁器 広東碗	B	010	-	001SX物原層	11.4	5.9	6.1		7B13d
43	磁器 広東碗	B	010	H	001SX物原層	10.5	5.9	6.4		7B13d
44	磁器 広東碗	B	010	-	008SX	-	5.5	*3.8	内面に付着物	7B14f
45	磁器 広東碗	A	001?	-	001SX物原層	10.8	6.4	6.3		7B13d
46	磁器 広東碗	A	001?	-	001SX物原層	11.2	6.1	6.2		7B13d
47	磁器 広東碗	B	013	D2	001SX物原層	11.3	-	*6.3		7B13d
48	磁器 広東碗	B	013	D2	窯体埋土a,b,c	11.1	6.0	6.7		7B19e
49	磁器 広東碗	B	013	D2	001SX物原層	-	*5.8	*5.5	ひずみ大	7B13d
50	磁器 広東碗・色見	B	039	H	001SX物原層	10.4	5.7	6.5	文字,左馬	7B13d
51	磁器 広東碗	B	なし	なし	001SX物原層	11.7	6.4	7.1		7B13d
52	磁器 広東碗	D	001?	B4	トレンチ	9.6	4.5	5.0		7B14d
53	磁器 広東碗	D	024	A2	004SX整地土	9.3	4.8	5.2		7B14e
54	磁器 広東碗	D	024	-	005SX	9.5	4.6	5.2		7B15f
55	磁器 広東碗	D	024	A2	005SX	9.2	4.9	5.1		7B15f
56	磁器 広東碗	D	013	D6	001SX物原層	-	4.9	*3.7		7B13d
57	磁器 広東碗	D	024	-	001SX物原層	9.4	5.0	5.2		7B13d

登録遺物一覧表（2）

E-no.	器種	器形分類	外面文様	内面文様	遺構	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備 考 （数値単位cm）	グリッド
58	磁器 広東碗	-	001	-	物原層a	-	-	*3.3		7B13d
59	磁器 広東碗	-	001	-	001SX物原層	10.7	5.6	*5.2		7B13d
60	磁器 端反碗	Lサイズ	002	-	001SX物原層	11.1	-	*5.7	太縁描にカキオトシ	7B13d
61	磁器 端反碗	Lサイズ	029	-	008SX,石垣内	10.8	4.0	5.8	太縁描にカキオトシ	7B14d,15f
62	磁器 端反碗	A	028	-	物原	9.7	3.7	5.3	太縁描にカキオトシ	7B15d
63	磁器 端反碗	A	039	-	001SX物原層	10.9	4.0	5.4	瑠璃釉白抜きに「栗」	7B13d
64	磁器 端反碗	Lサイズ	039	-	001SX物原層	11.6	-	*3.8		7B13d
65	磁器 碗	-	039	F	001SX整地土	-	5.0	*2.9	丸碗か、銘款	7B13d
66	磁器 端反碗	B1	039	H	001SX物原層,004SX整地層,窯体埋土	9.2	4.1	*4.8	「奉納」「三州矢作岩善」「秋」	7B13d,14e,15e
67	磁器 丸碗・色見	-	007	-	004SX整地土	-	4.8	3.5	穿孔部径1.3	7B14e
68	磁器 端反碗	-	002	B1	トレンチ	-	4.6	*3.6	銘款	7B14d
69	磁器 端反碗・色見	-	039	-	001SX物原層	-	4.4	*3.6	穿孔部径2.0	7B13d
70	磁器 丸碗・色見	-	007	-	004SX物原層	-	4.8	*3.6	穿孔部径1.3～1.5	7B14e
71	磁器 碗・色見	-	039	-	001SXno.2層サンプル	-	-	*1.9	穿孔部径1.8	7B13d
72	磁器 丸碗・色見	-	007	-	004SX物原層	-	5.1	*4.2	穿孔部径1.8	7B14e
73	磁器 端反碗	B1	039	B1	001SX物原層	*9.7	3.9	*5.0		7B13d
74	磁器 端反碗	B2	019	G	004SX物原層	9.4	3.6	5.4		7B14e
75	磁器 端反碗・色見	B2	019	-	001SX物原層	8.7	3.2	5.1		7B13d
76	磁器 端反碗	-	019	G	004SX物原層	-	3.4	*3.5	ひずみ大	7B14e
77	磁器 端反碗・色見	B2	019	-	004SX整地土	9.1	3.5	5.1		7B15f
78	磁器 端反碗・色見	B2	019	-	004SX整地土	9.2	3.4	4.8	穿孔部径1.8	7B14e
79	磁器 端反碗・色見	B2	019	-	004SX物原層	*9.0	3.2	5.1	穿孔部径1.7～1.8	7B14e
80	磁器 端反碗・色見	-	019	-	物原	-	-	*3.5	穿孔部径1.8	7B14e
81	磁器 端反碗	B1	033	F	001SX物原層	9.5	4.2	5.6		7B13d
82	磁器 端反碗	-	034	-	001SX物原層	10.8	-	*3.7		7B13d
83	磁器 端反碗	-	034	-	トレンチ	9.9	-	*3.5		7B14d
84	磁器 端反碗	-	039	-	001SX包含層	9.0	-	*4.1		7B14d
85	磁器 端反碗	B1	035	-	物原	9.4	-	*3.5		7B14e
86	磁器 端反碗	-	036	-	005SX	9.3	-	*3.6		7B15f
87	磁器 端反碗	-	036	-	005SX	8.9	-	4.3		7B15f
88	磁器 端反碗	-	014	-	物原	9.6	-	*2.8		7B15,16d
89	磁器 端反碗	B1	014	D2	001SX物原層	8.9	3.9	4.7		7B13d
90	磁器 端反碗	B1	014	-	物原,004SX整地土	8.4	3.7	4.9		7B14f,15,16d
91	磁器 端反碗	-	014	-	物原	-	3.7	*2.4		7B15,16d
92	磁器 端反碗	Lサイズ	011	-	006SX黄褐色土	*10.2	-	*3.7		7B16d
93	磁器 端反碗	Lサイズ	011	-	石垣内上層	10.1	-	*5.1		7B15d
94	磁器 端反碗	-	011	-	サブトレ	-	4.0	*4.7		7B15d
95	磁器 端反碗	-	011	-	物原	-	4.3	*4.1	銘款	7B16e
96	磁器 端反碗・色見	-	011	-	004SX物原層	-	-	*4.1		7B14e
97	磁器 端反碗・色見	-	011	-	004SX物原層	-	-	*3.3		7B14e
98	磁器 端反碗	B1	023	A1	001SXサブトレ	9.9	5.9	5.4		7B13d
99	磁器 端反碗・色見	-	023	-	004SX物原層	-	3.8	*2.6	穿孔部径1.3～1.5	7B14e
100	磁器 端反碗	B1	023	A1	物原	9.4	3.5	5.2	ひずみ大	7B15d
101	磁器 端反碗	B1	023	A1	試掘トレンチ	9.7	3.9	5.7		7B14e,f
102	磁器 端反碗	B1	023	A2	001SX物原層	9.8	4.2	5.2		7B13d
103	磁器 端反碗	B1	023	A1	004SX整地土	9.6	3.6	4.7		7B14e
104	磁器 端反碗	B1	023	A2	001SX整地土	8.8	3.6	5.2		7B13d
105	磁器 端反碗	B1	023	-	001SX物原層	9.1	3.2	4.8		7B13d

登録遺物一覧表 (3)

E-no.	器種	器形分類	外面文様	内面文様	遺構	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考 (数値単位cm)	グリッド
106	磁器 端反碗	C	023	A1	001SX整地土	9.0	4.1	4.4		7B13d
107	磁器 端反碗	B1	-	-	001SX物原層	9.2	3.9	*3.9		7B13d
108	磁器 端反碗	E	008	A1	001SX物原層	-	4.0	*3.7		7B13d
109	磁器 端反碗	E	008	A1	001SX物原層	9.2	4.3	4.8		7B13d
110	磁器 端反碗	D	008	A1	001SX物原層	9.6	4.2	4.7		7B13d
111	磁器 端反碗	E	009	A2	005SX	9.0	3.7	5.2		7B15f
112	磁器 端反碗・色見	E	009	-	004SX整地土	-	4.0	*3.4		7B14e
113	磁器 端反碗	C	009	A1	001SX物原層	9.0	4.0	5.0		7B13d
114	磁器 端反碗	E	009	-	004SX整地土	8.9	-	*4.6		7B14f
115	磁器 端反碗	E	009	A1	トレンチ	9.3	4.4	5.0		7B14d
116	磁器 端反碗	E	009	-	トレンチ	9.1	4.4	4.6		7B14d
117	磁器 端反碗	-	009	-	整地土	9.1	-	*4.3		7B14e
118	磁器 端反碗	E	009	-	001SX物原層	8.9	4.1	4.7		7B13d
119	磁器 端反碗	E	009	A1	001SX物原層	8.8	4.4	4.7		7B13d
120	磁器 端反碗	C	009	-	トレンチ	9.1	4.3	4.6		7B14d
121	磁器 端反碗	Lサイズ	006	-	整地土,物原	11.1	5.0	7.2		7B15,16d
122	磁器 端反碗	Lサイズ	006	A1	001SX整地層, 物原層	10.8	4.8	6.8		7B13d,14 e
123	磁器 端反碗	Lサイズ	006	-	004SX物原層	-	4.3	5.7		7B14e
124	磁器 端反碗	Lサイズ	005	-	001SX物原層	10.0	-	*4.0		7B13d
125	磁器 端反碗・色見	Lサイズ	006	-	004SX整地土	-	4.6	*4.0	穿孔部径2.0～2.4	7B14e
126	磁器 端反碗	E	006	-	001SX物原層	9.2	3.8	5.1		7B13d
127	磁器 端反碗	-	006	A1	トレンチ	-	3.7	*4.4		7B14d
128	磁器 端反碗	C	006	A1	物原	10.0	4.0	4.9		7B15,16d
129	磁器 端反碗	E	006	A1	物原	9.5	3.6	4.7		7B16d
130	磁器 端反碗	D	006	-	物原	9.4	3.9	4.6		7B16d
131	磁器 端反碗	C	006	-	石垣内上層	*9.9	3.3	4.8		7B15d
132	磁器 端反碗	D	006	A1	物原	8.9	3.7	5.1		7B14e
133	磁器 端反碗・色見	D	006	-	物原	9.8	-	*4.4	穿孔部径1.7～2.0	7B16d
134	磁器 端反碗	Lサイズ	039	B3	整地土	-	4.6	*5.7		7B14,15e
135	磁器 端反碗	Lサイズ	002	-	物原	10.8	4.2	6.9		7B15,16d
136	磁器 端反碗	-	002	B1	サブトレ	-	4.4	*5.7		7B15d
137	磁器 端反碗	-	002	B1	サブトレ	-	3.8	*5.0		7B15d
138	磁器 端反碗	Lサイズ	002	-	サブトレ	10.8	4.2	6.0		7B15d
139	磁器 端反碗	Lサイズ	002	-	001SXno.5層 サンプル	10.6	-	*5.1		7B13d
140	磁器 端反碗	Lサイズ	002	-	004SX整地土	10.6	-	*5.2		7B14e
141	磁器 端反碗	Lサイズ	002	-	サブトレ	11.1	4.5	5.7		7B15d
142	磁器 端反碗	Lサイズ	002	-	001SX物原層	11.5	4.2	*6.1		7B13d
143	磁器 端反碗	Lサイズ	002	-	001SXサブト レ	11.4	4.3	5.7		7B14d
144	磁器 端反碗	Lサイズ	002	B1	008SX	10.3	4.0	5.6		7B14f
145	磁器 端反碗	C	002	B2	001SX物原層	9.6	3.9	5.0		7B13d
146	磁器 端反碗	C	002	-	001SX物原層	9.2	3.6	5.4		7B13d
147	磁器 端反碗	Lサイズ	002	-	001SX物原層	10.0	3.8	5.6		7B13d
148	磁器 端反碗	Lサイズ	002	B1	001SX物原層	9.6	3.8	5.6		7B13d
149	磁器 端反碗	A	002	H	001SX物原層	9.7	3.8	5.4		7B13d
150	磁器 端反碗	B1	002	-	トレンチ	9.6	3.4	5.2		7B14d
151	磁器 端反碗・色見	B2	002	-	004SX整地土	*9.7	3.2	4.8	ひずみ大	7B14e
152	磁器 端反碗	-	002	B1	サブトレ	-	3.6	*3.5		7B15d
153	磁器 端反碗	-	002	B1	001SX包含層	-	3.7	*3.4		7B14d
154	磁器 端反碗	B1	002?	-	001SX物原層	9.2	4.0	4.9		7B13d
155	磁器 端反碗	E	002	B2	001SX物原層	9.3	3.8	4.9		7B13d
156	磁器 端反碗	Lサイズ	039	-	001SX物原層, 整地土	10.7	-	*3.2		7B13d,14 e,d,15,16 d
157	磁器 端反碗	Lサイズ	032	H	001SX物原層	11.0	4.4	6.4		7B13d

登録遺物一覧表 (4)

E-no.	器種	器形分類	外面文様	内面文様	遺構	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考 (数値単位cm)	グリッド
158	磁器 端反碗	Lサイズ	030	-	001SX物原層	11.3	4.8	6.1		7B13d
159	磁器 端反碗・色見	-	026	-	物原	-	3.9	*3.4	穿孔部径2.0～2.4	7B14e
160	磁器 端反碗	D	026	-	001SX物原層	9.0	4.1	5.0		7B13d
161	磁器 端反碗	E	026	-	001SXサブトレ	9.6	4.2	5.2		7B14d
162	磁器 端反碗・色見	D	026	-	001SX物原層	-	3.8	*4.6	穿孔部径1.8～2.0	7B13d
163	磁器 端反碗	Lサイズ	024	D3	001SX物原層	11.2	4.6	6.3		7B13d
164	磁器 端反碗	Lサイズ	024	D3	001SX物原層	10.5	5.4	5.9		7B13d
165	磁器 端反碗	Lサイズ	024	-	001SX物原層	11.8	5.7	5.0		7B13d
166	磁器 端反碗	E	024	A1	001SX物原層	9.1	4.4	4.8		7B13d
167	磁器 端反碗	E	024.5	D1	001SX物原層	9.5	4.4	5.2		7B13d
168	磁器 端反碗	E	024.5	D1	トレンチ	-	4.9	*3.7		7B14d
169	磁器 端反碗	E	024.5	-	001SX物原層	9.4	4.2	5.3		7B13d
170	磁器 端反碗	D	012	D4	001SX物原層	9.3	3.6	5.4		7B13d
171	磁器 端反碗	E	012	D4	トレンチ	-	3.9	*4.9		7B14d
172	磁器 端反碗	E	012	D4	整地土	9.0	3.8	4.9		7B14e
173	磁器 端反碗	D	012	D4	001SX物原層	8.8	3.6	4.8		7B13d
174	磁器 端反碗・色見	-	012	-	005SX	-	4.0	*4.2	穿孔部径1.8～2.1	7B15f
175	磁器 端反碗	-	012	-	004SX物原層	-	3.8	*2.9		7B14e
176	磁器 端反碗	B1	039	なし	001SX物原層	8.9	3.4	4.8		7B13d
177	磁器 端反碗	C	なし	-	005SX	9.9	4.0	5.3		7B15f
178	磁器 端反碗	E	なし	-	001SX物原層	9.4	4.9	5.0		7B13d
179	磁器 端反碗・色見	E	037	-	001SX物原層	9.3	4.4	5.4		7B13d
180	磁器 端反碗	-	004	-	整地土	-	4.8	*5.3		7B14d
181	磁器 端反碗	D	025	C2	004SX整地土	8.6	3.5	5.5		7B14e
182	磁器 端反碗	E	025	C1	001SX物原層	9.5	4.0	5.2		7B13d
183	磁器 端反碗	-	025	C1	石垣内上層	-	4.0	*4.1		7B15d
184	磁器 端反碗	E	025	C1	001SXno.5層 サンプル	9.4	4.1	4.6		7B13d
185	磁器 端反碗	E	025	-	001SXサブトレ	9.1	4.1	4.8		7B13d
186	磁器 端反碗・色見	-	025	-	トレンチ	-	3.8	*4.9		7B14d
187	磁器 端反碗	C	025	-	001SX物原層 北端サブトレ	8.4	3.6	4.8		7B13d
188	磁器 端反碗	D	020	D7	001SX物原層	9.6	4.0	5.1		7B13d
189	磁器 端反碗	D	020	D7	トレンチ	8.9	4.2	4.7		7B14d
190	磁器 端反碗	D	020	D7	001SX物原層	8.6	3.4	4.8		7B13d
191	磁器 端反碗	D	020	D7	001SX整地土	9.1	4.0	4.9		7B13d
192	磁器 端反碗	D	020	-	001SX物原層	9.2	3.9	4.7		7B13d
193	磁器 端反碗	-	039	B7	物原	-	4.0	*3.1		7B15d
194	磁器 端反碗	E	020	H	整地土, トレンチ	9.0	4.0	4.6		7B14e,d
195	磁器 端反碗	E	020	D7	001SX物原層	8.9	3.8	4.9		7B13d
196	磁器 端反碗	E	020	D7	トレンチ	-	3.7	*3.4		7B14d
197	磁器 端反碗	E	020	-	001SX物原層	9.0	3.5	5.1		7B13d
198	磁器 端反碗	E	020	D7	サブトレ	9.5	4.1	5.0		7B14d
199	磁器 端反碗	-	038	-	001SX物原層	8.5	-	*4.0		7B13d
200	磁器 端反碗・色見	-	039	-	001SX物原層	*8.3	-	*5.2		7B13d
201	磁器 端反碗・色見	-	021	H	004SX物原層	-	3.4	*3.0	穿孔部径1.4～1.8	7B14e
202	磁器 端反碗	D	039	A1	001SX物原層	7.5	3.3	4.5	Sサイズ	7B13d
203	磁器 端反碗	B1	039	B1	001SX物原層	7.2	3.3	4.4	Sサイズ	7B13d
204	磁器 鉢	A	003	H	001SXサブトレ	10.1	5.4	5.7	銘款	7B13d
205	磁器 鉢	A	003	H	排土一括	9.2	4.8	5.5		
206	磁器 鉢	A	003	H	001SXサブトレ, 006SX	10.9	4.8	5.5	銘款	7B13d, 15d
207	磁器 鉢	A	003	H	001SX物原層	10.7	-	*4.4		7B13d
208	磁器 鉢	A	027	-	004SX整地土	9.6	4.0	6.2		7B14e
209	磁器 鉢・色見	A	027	-	001SXトレンチ, 整地土	-	-	*4.9	穿孔部径1.6	7B13d, 15e

登録遺物一覧表 (5)

E-no.	器種	器形分類	外面文様	内面文様	遺構	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考 (数値単位cm)	グリッド
210	磁器 鉢・色見	A	027	-	石垣内,トレン チ	-	-	*5.7		7B14d
211	磁器 鉢・色見	A	027	-	001SX物原層	*8.9	4.6	*5.7		7B13d
212	磁器 湯呑	A	瑠璃釉	-	物原	6.8	-	*3.4		7B15,16d
213	磁器 湯呑	A	瑠璃釉	-	001SX物原層	7.2	-	*5.3		7B13d
214	磁器 湯呑	A	瑠璃釉	なし	物原	-	3.9	*4.6		7B16d
215	磁器 湯呑・色見	A	瑠璃釉	-	004SX物原層	-	3.2	*2.5		7B14e
216	磁器 碗	-	瑠璃釉	-	004SX物原層	-	4.9	*4.8	丸碗か,焼成不良	7B14e
217	磁器 碗	-	瑠璃釉	-	004SX整地土	-	4.8	*3.9	丸碗か	7B14e
218	磁器 湯呑	A	039	-	物原	7.6	-	*3.9		7B14d
219	磁器 湯呑	A	039	D2	001SX物原層	-	3.6	*4.7	「保久」	7B13d
220	磁器 湯呑	B	039	-	004SX物原層, 整地土	7.7	-	*4.4	「青」「龍」	7B14e
221	磁器 碗・色見	-	039	-	006SX黄褐色 土	-	3.8	*2.8		7B16d
222	磁器 湯呑	A	028	D1	004SX整地土	-	3.6	*2.8		7B14f
223	磁器 湯呑	A	039	D2	石垣内	-	3.4	*3.1		7B14d
224	磁器 湯呑	A	039	D2	005SX	-	3.8	*3.1		7B15f
225	磁器 碗	-	なし	-	トレンチ	-	3.8	*3.7		7B14d
226	磁器 小杯	A	039	なし	001SX物原層	7.6	4.2	3.8		7B13d
227	磁器 腰折碗・色見	-	なし	-	整地土	-	4.0	*3.5		7B14d
228	磁器小杯	A	039	-	物原	7.4	-	*3.5		7B15,16d
229	磁器 丸碗	A	031	-	物原	*9.6	-	*4.8		7B15d
230	磁器 丸碗	B	017	B5	001SX物原層	10.8	5.1	6.6		7B13d
231	磁器 丸碗	B	017	-	001SX物原層	11.0	5.3	6.1		7B13d
232	磁器 丸碗	C	なし	なし	004SX整地土	10.1	-	*5.4		7B14e
233	磁器 蓋	B	006	-	001SX物原層	9.6	紐径3.6	3.4		7B13d
234	磁器 蓋	B	006	A1	トレンチ	9.8	紐径3.6	3.4	銘款	7B14d
235	磁器 蓋・色見	B	006	-	006SX	-	紐径3.5	*2.6	穿孔部径1.5～1.7	7B15d
236	磁器 蓋	B	006	-	物原	9.6	紐径3.6	3.1		7B15,16d
237	磁器 蓋	B	011	-	物原	9.3	紐径3.5	2.9	銘款	7B15,16d
238	磁器 蓋	B	011	A1	サブトレ	10.0	紐径3.7	3.2	銘款	7B15d
239	磁器 蓋	B	011	-	整地土	10.2	紐径3.4	2.9	銘款	7B14e,d
240	磁器 蓋	B	011	A1	001SX物原層	-	紐径3.4	*2.7	銘款	7B13d
241	磁器 蓋	B	011	A1	サブトレ	10.4	紐径3.6	1.5	ひずみ大,銘款	7B15d
242	磁器 蓋	B	011	A1	005SX	9.5	紐径3.5	3.0		7B15f
243	磁器 蓋	B	011	A1	サブトレ	-	紐径3.8	*1.6		7B15d
244	磁器 蓋	B	002	B3	物原	9.4	紐径3.1	3.1	銘款	7B15,16d
245	磁器 蓋	B	002	B3	トレンチ	9.6	紐径3.6	3.0	銘款	7B14d
246	磁器 蓋	B	002	B1	整地土	8.8	紐径3.4	2.8	銘款	7B14e,d
247	磁器 蓋	B	002	B1	001SX整地 土,004SX物原 層	-	紐径4.0	*1.4	ひずみ大,銘款	7B13d,14 e
248	磁器 蓋	B	002	B3	004SX整地上	9.7	紐径3.1	2.9	銘款	7B14e
249	磁器 蓋	A	001?	C1	整地土	11.0	紐径5.5	*1.3	ひずみ大,銘款	7B15e
250	磁器 蓋	A	001?	C2	004SX物原層	-	紐径5.3	*1.5	ひずみ大,銘款	7B14e
251	磁器 蓋	A	001?	C2	001SXno.2層 サンプル	-	-	*1.5	ひずみ大,銘款	7B13d
252	磁器 蓋	B	002	B1	001SX物原 層,no.5層サン プル	9.4	紐径3.6	2.6		7B13d
253	磁器 蓋	B	002	B3	001SXno.2層 サンプル	9.8	紐径3.6	3.3		7B13d
254	磁器 蓋	B	002	-	001SX物原層	9.6	紐径3.8	3.3		7B13d
255	磁器 蓋	B	002	-	001SX物原層	9.2	紐径3.8	2.8		7B13d

登録遺物一覧表 (6)

E-no.	器種	器形分類	外面文様	内面文様	遺構	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考 (数値単位cm)	グリッド
256	磁器 蓋・色見	B	002	-	整地土	-	紐径3.4	*2.3	穿孔部径1.3～1.5	7B14,15e
257	磁器 蓋	B	002	B1	001SX物原層	9.6	紐径3.6	2.6		7B13d
258	磁器 蓋	B	002	-	整地土,物原	10.0	紐径3.2	3.1		7B15,16d
259	磁器 蓋	B	002	B1	整地土	9.2	紐径3.0	3.2		7B14e
260	磁器 蓋	B	002	-	004SX整地土	10.0	紐径2.9	*4.1	ひずみ大	7B14e
261	磁器 蓋	B	002	-	004SX整地土	9.6	紐径3.9	3.0		7B14e
262	磁器 蓋	C	002	-	整地土	9.4	紐径3.4	2.8		7B14d
263	磁器 蓋	C	002	-	001SX整地土	9.8	紐径3.8	2.9		7B13d
264	磁器 蓋	B	039	-	物原	9.3	-	*2.1		7B15,16d
265	磁器 蓋・色見	B	002	-	物原	10.0	-	*2.8		7B14e
266	磁器 蓋・色見	B	039	-	物原	10.0	-	*2.4		7B14e
267	磁器 蓋・色見	B	032	-	001SX物原層	9.8	紐径3.5	2.4	穿孔部径1.3～1.5	7B13d
268	磁器 蓋・色見	C	030	-	001SX物原層	9.7	紐径3.8	2.2	穿孔部径1.9～2.5	7B13d
269	磁器 蓋	C	030	D5	004SX整地土	9.9	紐径3.6	3.3		7B14e
270	磁器 蓋	C	024	D3	001SX物原層	9.4	紐径4.1	2.7		7B13d
271	磁器 蓋	C	024	-	窯体埋土胴木間	9.9	紐径4.4	3.1		7B15d
272	磁器 蓋	C	024	D3	001SX物原層	9.7	紐径3.9	3.0		7B13d
273	磁器 蓋	C	024	-	008SX	9.3	紐径3.2	2.6		7B15f
274	磁器 蓋	A	001?	-	物原	9.4	紐径4.9	2.8		7B14d
275	磁器 蓋	A	001?	C1	整地土	9.6	紐径4.8	2.5		7B14d
276	磁器 小杯	B	039	H	窯体埋土c	8.9	3.0	3.7		7B15e
277	磁器 小杯	B	なし	H	表採	-	3.7	*3.0		-
278	磁器 小杯	C	039	なし	001SX物原層	-	3.2	*3.1		7B13d
279	磁器 小杯	C	001?	なし	004SX物原層, 排土一括	*8.0	3.0	3.6		7B14e
280	磁器 小杯	C	001?	なし	001SX物原層	9.0	-	*2.7		7B13d
281	磁器 小杯	C	なし	H	窯体埋土c	9.3	3.6	3.2		7B15e
282	磁器 小皿	B	F	003	001SX物原層	10.0	5.2	2.8		7B13d
283	磁器 小皿	B	039	003?	整地土	8.4	4.5	2.5		7B14e
284	磁器 皿	B	003	なし	001SX整地土	-	-	*3.1		7B13d
285	磁器 丸皿	A	039	H	窯体埋土c	9.7	4.7	2.7	蓋か	7B15e
286	磁器 鉢	D	039	なし	整地土,物原	9.0	-	*3.5		7B15,16d
287	磁器 型打皿	C	039	H	001SX物原層	-	-	2.3		7B13d
288	磁器 碗	-	なし	なし	004SX整地土	10.0	-	*4.9	全面に透明釉	7B14f
289	磁器 器種不明	-			001SX物原層	11.6	-	*4.8	無釉	7B13d
290	磁器 鉢	C2			物原	-	-	*3.7		7B14d
291	磁器 鉢	-			整地土	-	-	*3.5		7B14d
292	磁器 鉢	-			整地土	-	7.0	*3.0		7B14d
293	磁器 鉢	D			001SX物原層	-	6.3	*4.0		7B13d
294	磁器 鉢	C1			004SX整地土	21.0	-	*4.4		7B15f
295	磁器 鉢	C2			サブトレ	19.8	-	*3.6		7B15d
296	磁器 皿	B1			窯体埋土	14.0	9.0	3.8	生焼け,絵付	7B15e
297	磁器 鉢	B2			物原層a,包含層	17.2	10.9	5.0		7B13,14d,14e
298	陶器 面取碗	A			窯体埋土d	8.8	3.9	5.2		7B15e
299	陶器 面取碗	A			窯体埋土d	8.3	3.9	4.9		7B15e
300	陶器 面取碗	A			窯体埋土 a,b,c,e左壁	8.6	4.1	5.3		7B15e
301	陶器 面取碗	A			窯体埋土e	8.8	4.0	5.1		7B15e
302	陶器 面取碗	A			004SX整地土, 包含層,試掘ト レンチ,窯体埋 土c	8.7	4.3	4.9	軟質,焼成不良	7B14e,15d
303	陶器 丸碗	B			004SX整地土, 窯体埋土d,T7	8.9	4.3	5.3	「乾山」銘,軟質, 焼成不良	7B14,15e

登録遺物一覧表 (7)

E-no.	器種	器形分類	外面文様	内面文様	遺構	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考 (数値単位cm)	グリッド
304	陶器 丸碗	B			窯体左側,窯体埋土abc,物原	8.6	4.0	5.8	「乾山」銘,花文,イッチン技法,軟質,焼成不良	7B14d,15e
305	陶器 丸碗	B			窯体埋土d	8.1	4.1	5.5	「乾山」銘,花文,イッチン技法,	7B15e
306	陶器 丸碗	B			窯体埋土d	8.8	4.2	5.5	花文,イッチン技法,	7B15e
307	陶器 丸碗	B			窯体埋土a,b,c	8.9	4.0	5.4	軟質,焼成不良	7B15e
308	陶器 丸碗	B			006SX赤褐色土,表土	8.8	4.0	5.4	軟質,焼成不良	7B15,16d
309	陶器 丸碗	B			007SY	-	4.1	*4.5		7B15d
310	陶器 丸碗	B			サブトレ	-	4.4	*3.4	軟質,焼成不良	7B15d
311	陶器 箱形湯呑	D			窯体左側	7.4	4.1	5.0	生焼け	7B15e
312	陶器 腰折碗	C			物原	-	3.7	*2.7	軟質,焼成不良	7B15d
313	陶器 腰折碗	C			005SX,物原	-	3.7	*3.6	軟質,焼成不良	7B14d,15f
E-no.	器種	遺構		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考 (数値単位cm)			グリッド
314	陶器 平向付	物原		*8.4	4.8	1.9	扇面			7B13d
315	陶器 平向付	001SX物原層		*11.7	5.4	2.5	馬			7B13d
316	陶器 器種不明	001SX整地土		-	-	*5.7	建水か			7B13d
317	磁器 蓋	004SX整地土,005SXサンプル5層		17.4	-	4.7	ひずみ大			7B14e,15f
318	磁器 行平	001SX整地土		13.4	6.7	8.1				7B13d
319	磁器 行平蓋	001SX整地土		12.3	-	2.3				7B13d
320	磁器 行平	004SX整地土,005SX,石垣内,包含層		-	8.4	*2.7				7B14e,d,15e,f
321	陶器 把手	007SY		長さ*6.15	幅2.8	高さ2.8				7B15d
322	陶器 把手	001SX包含層		長さ*7.0	幅3.1	高さ2.6				7B14d
323	磁器 把手	005SXサンプル5層		長さ*6.15	幅4.0	高さ5.6				7B15f
324	広東碗	窯体埋土d		11.2	-	*5.8	半磁器?			7B15e
325	陶器 広東碗	004SX整地土		10.7	5.7	6.4				7B14e
326	広東碗	001SX物原		9.8	5.3	5.3	半磁器?			7B13d
327	広東碗	001SX物原層		-	5.8	*3.9	半磁器?			7B13d
328	広東碗	整地土		-	6.3	*2.4	半磁器?			7B14,15e
329	広東碗か	物原層		-	5.8	*5.0	半磁器? 文様釘彫り			7B13d
330	陶器 丸碗	004SX物原層		11.0	-	*3.9				7B14e
331	陶器 丸碗	001SX物原層		10.4	3.7	4.6				7B13d
332	磁器 碗	004SX整地土,試掘トレンチ		-	-	*4.0	ひずみ大,文様釘彫り			7B14e,f
333	陶器 丸碗	石垣内上層		8.6	-	*3.6	半磁器?			7B15d
334	陶器 湯呑	物原		-	4.0	*3.5	文様釘彫り			7B16d
335	陶器 湯呑	004SX整地土		7.8	-	*3.2				7B14e
336	陶器 湯呑	001SX,no.2層サンプル		7.6	3.7	4.3				7B13d
337	腰折碗か	004SX整地土		-	4.2	*2.4	半磁器?			7B14e
338	陶器猪口	001SX北端サブトレ		7.7	5.0	5.4	ひずみ大,蟹			7B13d
339	陶器 皿	物原		9.8	5.8	2.2	陶胎染付			7B16d
340	陶器 皿	トレンチ		9.8	4.8	2.6	陶胎染付,「壽」			7B14d
341	陶器 皿	窯体床c		16.3	-	*2.8				7B15e
342	盃台か	004SX		5.0	最大径10.0	*1.2	生焼け			7B14e
343	陶器 器種不明	004SX物原層		-	7.2	*2.5				7B14e
344	陶器 筒型容器	001SX北端サブトレ		-	10.4	*3.1				7B13d
345	陶器 筒型容器	トレンチ		-	10.2	*2.6	半磁器?			7B14d
346	陶器 筒型容器	整地土,物原		-	10.2	*3.5	半磁器?			7B15,16d

登録遺物一覧表 (8)

E-no.	器種	遺構	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考 (数値単位cm)	グリッド
347	陶器 筒型容器	001SX物原層	-	10.8	*6.7	軟質,焼成不良?	7B13d
348	磁器 筒型容器	004SX整地土, 包含層	-	-	*3.0	ひずみ大	7B14e
349	陶器 壺か	整地土,物原	-	-	*4.9	無釉	7B15,16d
350	磁器その他	物原	-	-	-		7B15d
351	磁器 急須	物原	-	5.8	*2.5		7B15d
352	陶器土瓶	試掘トレンチ	-	8.0	*2.2		7B14e,f
353	陶器 器種/天地不明	006SX黄褐色 土	10.0	*幅12.0	*18.4	生焼け破片と接合	7B15,16d
354	磁器碗・色見	005SX	-	-	*2.7	「大極上金ま□」	7B15f
355	磁器碗・色見	004SX物原層	*7.8	-	*4.4	穿孔部径1.4～1.6,文字	7B14e
356	磁器・色見	001SX物原層	-	-	*2.8	「せと画」	7B13d
357	磁器・色見	001SX物原層	-	-	*2.4	穿孔部径1.1,「中」	7B13d
358	磁器・色見	001SX物原層	-	3.9	4.4	「□左」?	7B13d
359	磁器・色見	001SX物原層	*10.0	-	*3.5		7B13d
360	磁器 端反碗・色見	001SX物原層	11.8	-	*4.6		7B13d
361	磁器 広東碗?・色見	物原	-	5.0	*2.2	穿孔部径1.6	7B15,16d
362	磁器 碗・色見	006SX黄褐色 土	-	3.8	*1.9	「三」「こす□」	7B16d
363	磁器 碗・色見	004SX物原層	-	-	*2.6	穿孔部径1.6,「四」	7B14e
364	磁器 碗・色見	004SX物原層	-	-	*1.7	穿孔部径1.1～1.2	7B14e
365	磁器 碗・色見	001SX整地土	-	-	*3.7	穿孔部径1.5,「いろ□」「中の□」	7B13d
366	磁器 碗・色見	001SX物原層	-	-	*4.6	「けこ」「新□」?	7B13d
367	磁器 広東碗・色見	001SX物原層	-	-	*4.8	文字	7B13d
368	磁器・色見	物原	-	-	*2.8	「於玉」「辰」	7B15,16d
369	磁器・色見	001SX物原層	-	-	-	「せと画」	7B13d
370	磁器・色見	001SX物原層	-	-	-	刻書	7B13d
371	磁器 碗・色見	サブトレ	-	3.8	*1.9	穿孔部径1.5～1.6,「□田」	7B16d
372	磁器 碗・色見	物原	-	5.0	*1.9	「御□」	7B15,16d
373	磁器 蓋・色見	物原	*11.3	-	*1.8	「新」試し書き	7B15,16d
374	磁器 蓋・色見	001SX物原層	9.6	-	2.4	文字	7B13d
375	磁器 色見	試掘トレンチ	-	*4.2	2.5	文字	7B14e
376	磁器 端反碗・色見	001SX物原層	-	3.5	4.2	穿孔部径1.6～1.8	7B13d
377	磁器 端反碗・色見	004SX整地土	*9.4	4.0	4.5	穿孔部径1.8,「四」	7B14e
378	磁器 端反碗・色見	001SX物原層	-	3.6	4.2	穿孔部径*1.5,「四」	7B13d
379	磁器 端反碗・色見	001SX物原層	-	3.9	5.0	穿孔部径1.4～1.6	7B13d
380	磁器 端反碗・色見	004SX整地土	-	3.7	*4.2	穿孔部径1.5,「四」	7B14e
381	磁器 端反碗・色見	001SX物原層	-	4.6	5.2	穿孔部径1.6～2.5	7B13d
382	磁器 碗・色見	001SX物原層	-	4.6	3.8	「三半」	7B13d
383	磁器 端反碗・色見	001SX物原層	-	-	*4.5	穿孔部径1.9～2.3,「上」	7B13d
384	磁器 端反碗・色見	001SX物原層	-	-	*3.2	-	7B13d
385	磁器・色見	001SX物原層	-	-	-		7B13d
386	磁器・色見	004SX物原層	-	-	-	「一半」	7B14e
387	磁器 碗・色見	004SX物原層	-	-	*2.9		7B14e
388	磁器 碗・色見	001SX	-	3.8	*2.1	穿孔部径1.5～1.7,「三半」	7B14f
389	磁器 丸碗・色見	001SX物原層	8.5	3.4	4.5		7B13d
390	磁器 碗・色見	004SX整地土	-	4.1	*4.4		7B14e,f
391	磁器 端反碗・色見	004SX整地層	-	-	*4.6	穿孔部径1.4～2.7,試し描き	7B14f
392	磁器 端反碗・色見	004SX整地 土,005SX	9.9	3.7	4.9		7B14e,15f
393	磁器 碗・色見	001SXno.5層 サンプル	-	-	*2.3	試し描き	7B13d
394	磁器 碗・色見	物原	-	-	*2.4	試し描き	7B14e
395	磁器 端反碗・色見	整地土	9.5	3.4	4.9		7B14e
396	磁器 端反碗・色見	001SX物原層, トレンチ	8.0	-	*5.0		7B13,14d
397	磁器 端反碗・色見	窠体外南	*8.65	4.0	4.5	穿孔部径1.6～2.0	7B16e
398	磁器 端反碗・色見	004SX物原層	*8.0	3.6	*4.0	穿孔部径1.5～1.9	7B14e
399	磁器 碗・色見	004SX	-	3.6	3.2	穿孔部径1.6	7B14e
400	乳棒の先	表土	3.8	-	*3.7	磁器	

登録遺物一覧表 (9)

E-no.	器種	遺構	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考 (数値単位cm)	グリッド
401	乳棒の先	001SX物原層	4.6	-	5.0	磁器	7B13d
402	乳棒の先	001SX物原層	4.6	-	5.2	磁器,内側に呉須 (粉)	7B13d
403	乳棒の先	001SX物原層,no2	4.0	-	6.5	磁器	7B13d
404	乳鉢	001SXno.2層 サンプル	22.2	16.3	12.5	磁器	7B13d
405	灯心押え?	001SX物原層,no11	-	4.9	4.8	陶器,底面を除き施釉	7B13d
406	ヨリ土?	004SX物原層	-	-	3.4		7B14e
407	トチオサエ?	005SX	-	-	*7.2	軟質,焼成不良	7B15f
408	トチオサエ	001SXサブトレ	-	-	*9.7	無釉	7B13d
409	栓	物原層	11.6	-	6.9		7B13d
410	栓	001SX物原層	*16.0	-	*6.6		7B13d
411	栓	トレンチ	-	-	*3.6		7B14d
412	栓	001SX物原層	16.4	-	*3.9		7B13d
413	栓	004SX整地土	16.4	-	*3.5		7B14e
414	ニギリグレ	001SX物原層	長さ15.8	幅10.3	5.2		7B13d
415	ニギリグレ	窯体e左壁	長さ16.8	幅12.4	6.5		7B15e
416	ニギリグレ	窯体aライン	長さ13.2	幅10.4	4.8		7B15f
417	エブタ (刻書)	005SX				「東叡山…」	7B15f
418	エブタ (刻書)	001SX物原層				人面/家紋	7B13d
419	匣鉢 (刻書)	001SX物原層	14.4	13.0	9.9	「栗」	7B13d
420	匣鉢 (刻書)	001SXno.2層 サンプル	15.2	13.3	8.1	「(栗?) 田」	7B13d
421	エブタ (刻書)	001SX整地土	14.6~15.4	-	2.0	円形,「栗田」	7B13d
422	エブタ (刻書)	004SX整地層	17.7	-	2.0	円形	7B14e
423	エブタ (刻書)	007SX	13.7	-	1.7	円形,「月方画」花	7B15d
424	箱グレ (刻書)	001SX包含層	10.3~ 11.2	-	*1.8	海浜風景	7B13d
425	エブタ (刻書)	窯体埋土d	12.5~ 12.7	-	1.7	円形,「柳」?	7B15e
426	エブタ (刻書)	窯体埋土e,石垣内 (中層)	12.5~13.1	-	1.7	円形,「□□」「於柳□柳?」	7B15d
427	エブタ	トレンチ	11.2	-	0.9	円形	7B14d
428	エブタ	004SX整地土	11.8	-	1.0	円形	7B14e
429	エブタ	窯体埋土d	11.9~12.5	-	1.3	円形,高台痕跡径6.2	7B15e
430	エブタ	005SX	13.3~14.4	-	1.0	円形,高台痕跡径3.9	7B15f
431	エブタ	表土	13.0~13.8	-	1.2	円形,高台痕跡径5.5	7B15d
432	エブタ	07試掘T-6	11.8~12.1	-	1.4	円形,置き痕2個,径4.0と4.3	-
433	エブタ	窯体埋土 (桐木間)	11.6~12.0	-	1.4	円形	7B15d
434	エブタ	窯体埋土d	14.6~15.0	-	1.3	円形	7B15e
435	エブタ	物原	15.6~16.2	-	1.5	円形,高台痕跡径5.3,トチ付着	7B14e
436	エブタ	トレンチ	11.6~12.0	-	1.9	円形,トチ付着	7B14d
437	エブタ	001SX物原層	14.5~15.0	-	1.4	円形,置き痕径6.8	7B13d
438	エブタ	物原	12.9~13.5	-	1.8	円形	7B14e
439	エブタ	001SX物原層,物原層a	16.5~17.3	-	2.1	円形,輪トチ付着	7B13d
440	エブタ	物原	16.0~16.8	-	2.0	円形,トチ3ヶ付着	7B14e
441	エブタ	石垣内上層	16.8~17.5	-	1.5	円形,輪トチ付着	7B15d
442	エブタ	004SX整地土	16.0~16.5	-	1.5	円形,トチ3ヶ付着	7B14e
443	エブタ	物原	21.3~22.1		2.3	円形	7B14e
444	エブタ	001SX物原層	22.2	-	1.5	円形	7B13d
445	エブタ	物原	10.7×12.3	-	1.7	方形	7B14e
446	エブタ	006SX	12.2×13.3	-	1.8	方形,高台痕跡径3.8	7B15d
447	エブタ	001SX物原層	10.4×11.0	-	2.0	方形	7B13d
448	エブタ	001SX物原層	11.2	-	2.1	方形,製品とトチ付着	7B13d
449	エブタ	包含層	12.7	-	1.8	方形,高台痕跡径6.0,置き痕径4.6,四辺を打ち欠き	7B14f

登録遺物一覧表 (10)

E-no.	器種	遺構	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考 (数値単位cm)	グリッド
450	エブタ	包含層	12.6×13.3	-	2.0	方形,四辺を打ち欠き	7B14f
451	エブタ	物原	12.7	-	2.4	方形,トチ2ヶ,輪トチ付着	7B14e
452	エブタ	005SX	12.7×13.1	-	1.9	方形	7B15f
453	エブタ	表土	12.5	-	1.3	方形,置き痕3個,径約6.0	7B15d
454	エブタ	石垣内上層	13.8×14.1	-	1.7	方形,置き痕3個,径5.5～6.0cm	7B15d
455	エブタ	004SX物原層	16.2×16.9	-	2.2	方形	7B14e
456	エブタ	試掘トレンチ	15.8×16.5	-	2.2	方形,トチ付着	7B14e
457	エブタ	整地土,窯体内埋土a,b,c	14.7×15.1	-	2.5	方形	7B14,15e
458	エブタ	004SX物原層	16.6×17.2	-	2.3	方形,置き痕径10.0	7B14e
459	エブタ	005SX,001SX物原層	19.4×20.0	-	2.2	方形	7B13d,15f
460	エブタ	004SX物原層	21.2	-	2.4	方形	7B14e
461	匣鉢	001SX物原層	13.0	13.4	6.9		7B13d
462	匣鉢	表採	12.0	13.9	6.6		
463	匣鉢	006SX	10.4	11.0	7.7	小型	7B15d
464	匣鉢	表採	10.2	10.5	7.3	小型	-
465	匣鉢	001SX物原層,no.10	11.1	12.7	7.6		7B13d
466	匣鉢	001SX物原層	12.0	13.0	8.1	製品溶着	7B13d
467	匣鉢	サブトレ	12.3	13.1	8.7		7B15d
468	匣鉢	001SX物原層	-	14.8	*8.6	製品溶着	7B13d
469	匣鉢	004SX物原層	13.8	14.0	*9.9	外面に輪トチ付着	7B14e
470	匣鉢	001SX物原層	11.8	13.7	9.1		7B13d
471	匣鉢	004SX物原層	14.1	14.8	9.7	内面にトチ付着	7B14e
472	匣鉢	001SX物原層,d-no.4	15.3	15.4	9.2		7B13d
473	匣鉢	001SX物原層,d-no.6	12.1	14.2	10.5		7B13d
474	匣鉢	001SX物原層,d-no.7	16.2	15.8	9.9		7B13d
475	匣鉢	001SX物原層	-	-	*12.3	匣鉢,製品,ヨリ土付着	7B13d
476	匣鉢	整地土	21.0	20.7	12.7	大型	7B13d
477	匣鉢	005SX	20.8	21.8	13.3	大型	7B15f
478	トチ	005SX	6.1	-	0.6	径5.3の広東碗高台付着	7B15f
479	トチ	005SX	5.3～6.2	-	0.8	高台痕跡の径3.3	7B15f
480	トチ	物原	5.5～6.1	-	0.6	高台痕跡の径3.5	7B13d
481	トチ	005SX	7.2～7.6	-	1.0	高台痕跡の径6.0	7B15f
482	トチ	001SX物原層	7.6～8.2	-	1.8	高台付着径6.4	7B13d
483	トチ	005SX	8.3	-	1.2	高台痕跡径5.4	7B15f
484	トチ	005SXサンプル2層	8.6～9.1	-	1.4	高台痕跡径5.8	7B15f
485	トチ	005SX	9.3～9.8	-	1.2	高台痕跡径5.7	7B15f
486	トチ	004SX物原層	9.4	-	1.2		7B14e
487	輪トチ	005SX	6.8～7.1	-	1.0	高台痕跡径4.9	7B15f
488	輪トチ	005SX	7.1～7.6	-	1.0	高台痕跡径5.6	7B15f
489	輪トチ	005SX	7.0	-	1.0		7B15f
490	輪トチ	004SX物原層	8.0～8.6	-	1.1	高台痕跡径6.9	7B14e
491	輪トチ	004SX物原層	9.0～9.6	-	1.2	高台付着径6.7	7B14e
492	輪トチ	004SX整地土	11.1	-	1.2		7B14f
493	輪トチ	004SX物原層	11.8	-	1.7		7B14e
494	ハリ (ニギリ)	004SX整地土	長さ4.3	-	-		7B14e
495	ハリ (ニギリ)	004SX整地土	長さ3.1	-	-		7B14e
496	ハリ (ニギリ)	004SX整地土	長さ11.1	-	中央太さ2.5～2.8		7B14e
497	ハリ (ニギリ)	004SX整地土	長さ10.4	-	中央太さ2.6～2.9		7B14e
498	ハリ (ニギリ)	004SX整地土	長さ9.8	-	中央太さ2.7～3.0		7B14e
499	クレ (板状)	整地土	長さ15.1	幅14.8	厚さ3.2		7B14e,d

登録遺物一覧表（11）

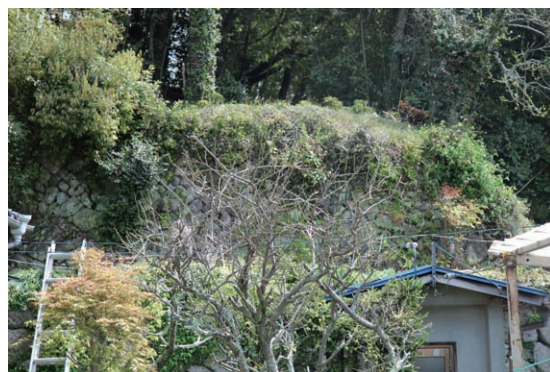
E-no.	器種	遺構	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備 考 （数値単位cm）	グリッド
500	クレ（板状）	004SX物原層	長さ14.6	幅14.4	厚さ5.7		7B14e
501	クレ（板状）	整地土	長さ15.1	幅14.6	厚さ4.7		7B14e,d
502	クレ（板状）	004SX物原層	長さ14.7	幅14.4	厚さ4.8		7B14e
503	クレ（板状）	004SX物原層	長さ15.1	幅14.5	厚さ5.2		7B13d
504	箱グレ	007SY	長さ18.0	幅10.8	厚さ*5.3	線刻	7B15d
505	クレ（半切）	物原層	長さ23.0	幅7.3	厚さ4.0		7B14e
506	棚板	004SX整地土	長さ30.3	幅15.1	厚さ3.0		7B14e
507	箱グレ	四の間狭間柱	奥行15.9	幅16.5～17.7	高さ16.8	e7下	
508	箱グレ	001SX整地土	奥行16.2	幅16.1	高さ18.6		7B15e
509	磁器 丸碗	表採	10.0	-	*4.5	草花文	
510	磁器 端反碗	006SX	11.3	3.7	5.8	全面に黒色釉	7B15f
511	磁器 碗か	001SX物原層	-	-	-	草花文	7B13d
512	磁器 皿	物原	-	4.4	*1.5	染付	7B15d
513	磁器 碗蓋	物原	9.1	-	2.6	染付,蜘蛛の巣	7B15d
514	磁器 碗蓋	整地土	10.5	-	3.0	染付	7B14,15e, d
515	磁器 容器蓋	整地土	12.1	-	*2.6	染付	7B15e
516	磁器 小杯	001SX物原層 no.9	4.7	2.8	3.1	無地白色	7B13d
517	磁器 小杯	整地土	5.0	1.4	2.6	染付,折り鶴	7B14e
518	陶器 蓋	004SX整地土	9.5	-	2.7	陶胎染付	7B15,16e
519	陶器 皿	整地土	13.8	7.3	3.8	陶胎染付	7B15e
520	磁器 皿	006SX黄褐色 土,物原	29.1	-	*5.0	染付	7B16d
521	京焼風碗	整地土	-	3.0	*2.8		7B14,15e
522	京焼風皿	004SX整地土	15.4	-	*4.0	呉須絵,獅子文?	7B14e
523	陶器 小壺	物原	-	-	*4.4	呉須絵,笹文	7B16e
524	焼締陶器 急須	物原	5.9	-	*1.4		7B15d
525	土器 鍋	001SX包含層	13.8	-	*2.7	軟質,一部施釉	7B13d
526	鉄釉擂鉢	001SX物原層 d-no.8	25.5	-	*7.3	使用痕不明瞭	7B13d
527	鉄釉擂鉢	石垣内中層	36.0	-	*9.8	使用痕顕著	7B15d
528	鉄釉擂鉢	整地土	-	14.2	*10.9	使用痕顕著	7B14,15e
529	鉄釉擂鉢	001SX物原層 d-no.3	30.8	14.1	13.3	使用痕不明瞭	7B13d
530	鉄釉擂鉢	石垣内	-	15.0	*8.0	使用痕顕著	7B14d
531	土師質 内耳鍋	表土	-	-	*2.8		7B13f
532	土師質 内耳鍋	表土	-	-	*2.9		7B13f
533	焼締陶器 小皿	001SX包含層	8.2	4.4	1.6		7B14d
534	鉄釉灯明皿	004SX整地土	-	4.2	*1.8		7B14f
535	陶器小皿	整地土	-	5.0	*1.1	全面にスス付着	7B14e
536	陶器丸碗	005SX,001SX サブトレ	8.9	3.9	5.0		7B13d,15f
537	陶器小皿	物原	8.6	5.2	2.7		7B15,16d
538	陶器 筒型容器	004SX整地土	-	8.8	*8.5	鉄釉	7B16e
539	陶器 筒型容器	004SX整地土	-	11.6	*6.4	鉄釉,植木鉢転用	7B14e
540	山茶碗	001SX物原層	12.6	-	*2.9		7B13d
541	山茶碗	整地土	-	5.0	*2.0		7B14,15e
542	山茶碗小皿	004SX整地土	8.0	4.4	1.7		7B16e
543	陶器? 鉢	006SX	-	5.0	*3.9		7B15d
544	磁器 飯茶碗	窯体埋土	10.4	3.6	5.5	端反形	7B15e
545	磁器 小碗	表土	7.3	3.0	4.6		7B13e
546	磁器 皿	004SX整地土	13.2	5.3	3.5		7B14e
547	磁器 皿	004SX物原層	13.1	5.3	3.5		7B14e
548	器種不明	001SX物原層	-	19.4	*6.6	無釉,須恵質	7B13d
549	陶器 甕	001SX物原層	28.6	-	*16.6	胎土密,暗灰色	7B13d
550	陶器 練鉢	004SX整地土, 表土	33.6	18.9	*25.2	灰釉,銅緑釉	7B14f,15,1 6e
551	陶器 火鉢	整地土	-	22.0	*15.8	緑釉,鉄釉,再利用	7B15e

登録遺物一覧表（12）

E-no.	器種	遺構	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備 考 （数値単位cm）	グリッド
552	陶器 風炉	001SX物原層 d-no.5	-	20.4	*15.7	鉄軸	7B13d
553	土器 焙烙	表土層	42.4	-	*3.1		7B13f
554	土器 焙烙	表土	38.0	-	5.0		7B14g
555	陶器 火鉢	表土	32.6	-	*17.4		7B13d
556	土器 火鉢？	表土	27.3	-	*11.2		7B14g
557	土器 火鉢？	001SXサブト レ	-	-	*6.4		7B13d
558	土器 火鉢？	001SX物原	-	-	*6.2		7B13d
559	土器 火消し壺蓋	表土	17.0	-	*3.2		7B14g
560	土器 火消し壺	005SX,表土	-	18.0	*13.4		7B15f
561	サナ	001SX物原層	-	-	厚1.0		7B13d
562	サナ	001SX物原層	7.0	-	厚1.1		7B13d
563	土器 焔炉	表土	-	19.7	*8.1		7B14g
564	磁器 飯茶碗	整地土	10.0	-	*4.6	端反形	7B15e
565	磁器 飯茶碗	表採	9.8	3.0	4.2	平形	7B15f
566	磁器 飯茶碗	試掘T-5	9.7	3.2	4.6	丸形	
567	磁器 飯茶碗	001SX包含層	11.0	-	*3.1	丸形	7B13d
568	磁器 飯茶碗	001SX物原層	10.6	4.0	6.0	丸形	7B13d
569	磁器 飯茶碗	表土	10.8	-	*4.7	腰張形	7B14g
570	磁器 蓋	001SX包含層	9.6	-	3.0		7B13d
571	磁器 飯茶碗	表土	11.0	3.6	6.0	深形	7B14g
572	磁器 飯茶碗	005SX	11.1	3.7	6.0	深形	7B15f
573	磁器 飯茶碗	表土層	11.6	5.0	6.1	深形	7B15f
574	磁器 飯茶碗	表土層	11.1	4.8	6.1	深形	7B15f
575	磁器 皿	表土	13.2	6.5	2.7		7B14g
576	磁器 鉢	表採	16.8	6.5	5.5		7B14g
577	磁器 飯茶碗	表土	11.1	3.6	6.2	深形	7B14g
578	磁器 飯茶碗	表土	11.2	3.5	6.2	深形	7B14g
579	磁器 飯茶碗	表土	12.8	4.9	6.4	深形	7B14g
580	磁器 飯茶碗	表土	11.0	3.8	6.1	深形	7B14g
581	磁器 飯茶碗	表採	11.4	4.0	5.7	端反形	-
582	磁器 飯茶碗	表土	11.3	3.8	5.6	端反形	7B14g
583	磁器 飯茶碗	表土	11.1	3.7	5.9	端反形	7B14g
584	磁器 飯茶碗	表土	10.9	3.7	5.9	端反形	7B14g
585	磁器 飯茶碗	表土	10.9	3.6	5.9	端反形	7B14d,g
586	磁器 飯茶碗	005SX	9.4	3.1	5.0	子ども茶碗	7B15f
587	磁器 湯呑	005SX	7.4	3.1	5.2	統制番号「岐19」	7B15f
588	陶器 鉢	表採	17.6	6.6	7.8	緑釉	
589	硬質陶器平皿	試掘T-5	23.0	13.2	2.7	青色圈線	
590	磁器皿	表土	20.8	10.0	3.8		7B14g
591	硬質陶器受皿	005SX	14.2	8.5	2.0		7B15f
592	硬質陶器受皿	005SX,表土	14.2	8.6	2.1		7B14,15f
593	湯たんぼ	試掘T-6一括	長さ28.5	幅15.7	14.5		



遺跡遠景 （上）西から・（下）北西から



(左上) 県道より調査区を望む

(左下) 調査区より瀧山寺仁王門を望む

(右上下) 調査前風景



完掘状況（調査区東側、窠体より後方の部分）



調査区全景（窯体付近）



窯体完掘状況
(右中) 六の間付近、(右下) 六の間 北から撮影



(左上) 胴木間および捨間 西から撮影

(左下) 焚口内側の閉塞状態 東から撮影

(右上) 胴木間付近 南から撮影

(右中上) 五の間 右側壁の断面

(右中下) 五の間 前方の狭間と窯壁 南から撮影

(右下) 五の間 前方の狭間穴



(左上) 三の間後方、四の間と奥壁狭間、右側壁
西から撮影

(左中上) 四の間奥壁の狭間 北西から撮影

(左中下) 三の間奥壁の狭間 西から撮影

(左下) 三の間奥壁の狭間と右側壁

(右上) 四の間奥壁の狭間と窯壁 西から撮影

(右下) 窯体後方から焚口方向を望む

右頁 窯体主軸方向断面





(左上) 物原 001SX 掘削状況

(左中) 物原 001SX 掘削範囲全景

(左下) 下位平坦面検出状況

表土を除去した面、白線より手前が基盤層

(右上・中) 物原 001SX 断面と堆積物

(右下) 物原 001SX に含まれる製品の出土状況



(左上) 窯体胴木間付近と石垣 北から撮影

(左中) 石垣を除去した状態, 整地土の下に窯壁片などの堆積物がみえる

(左下) 008SU, 窯体の左後方に広がる遺物集積範囲

(右上) 上位平坦面東側の地形, 右下石積の内部が 005SX

(右中上) 005SX 堆積物, トチと灰を多く含む層

(右中下) 005SX 断面 北から撮影

(右下) 004SX 断面 北から撮影

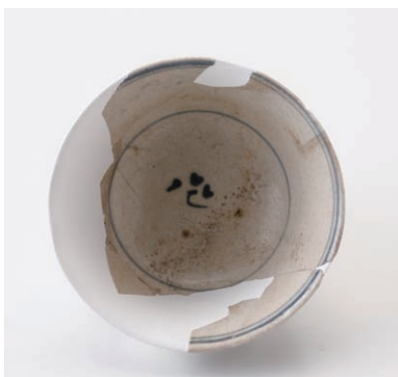




(左上から) 010SK・011SK・013SK







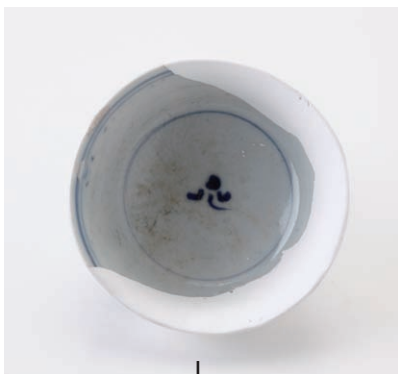
163



101



149



164



106



135



89



166



137



128



110



74



122



118



160



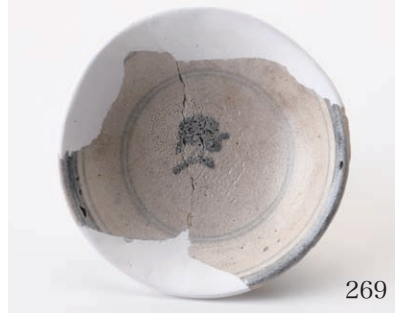
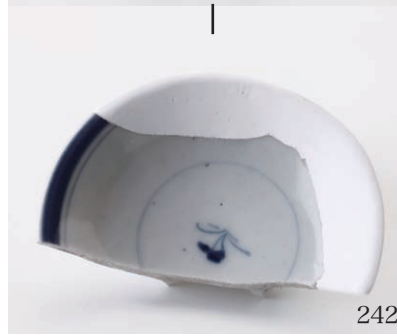
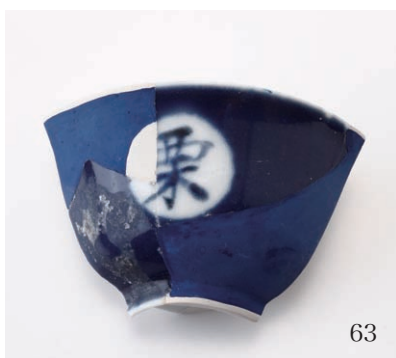
130



184

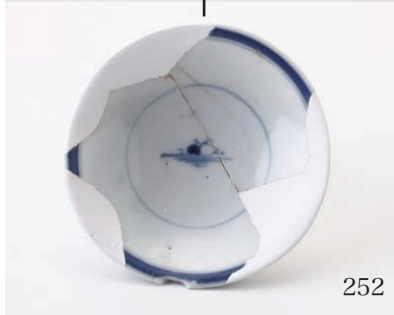


157





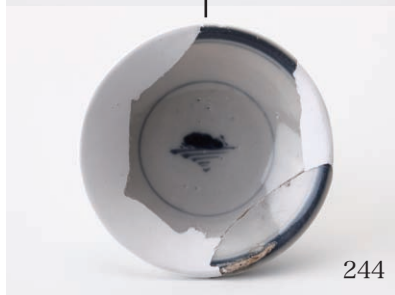
247



252



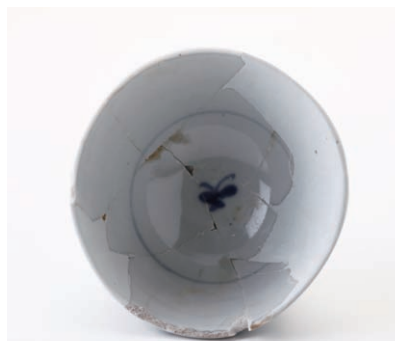
261



244



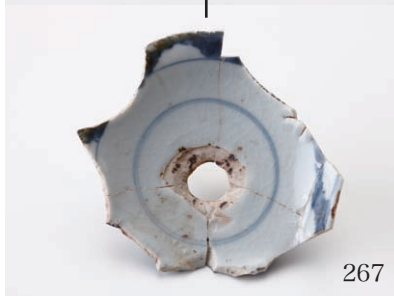
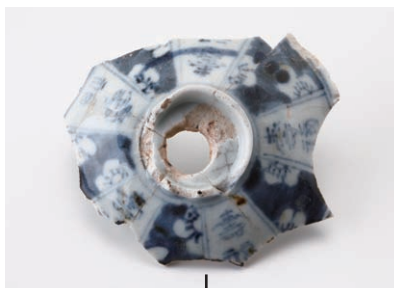
234



36



249



267



37



3



1



5



15



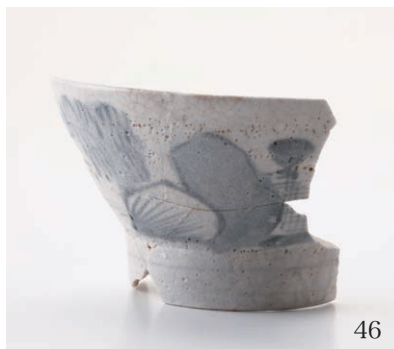
13



34



14



46



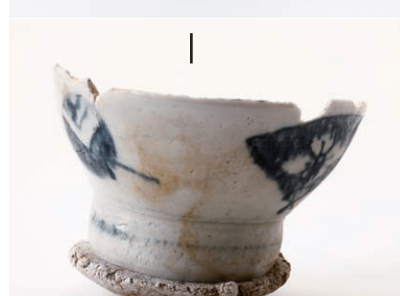
50



24



25



23



55



33



18



54



29



38



67



47



79



377



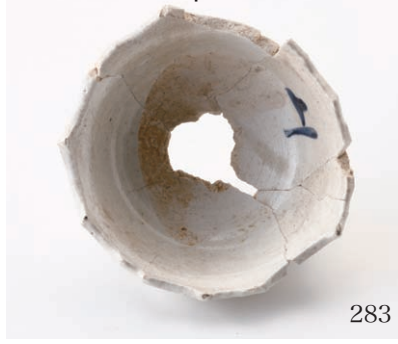
41



209



51



283



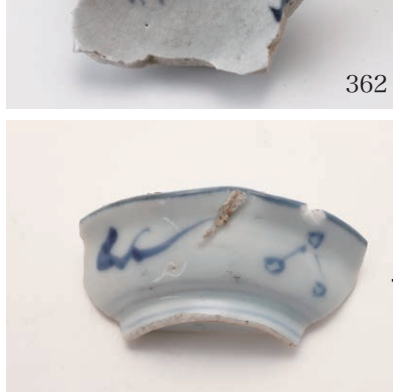
235

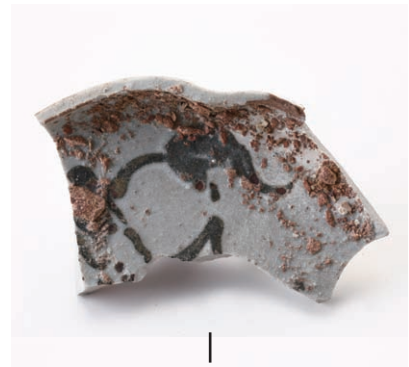
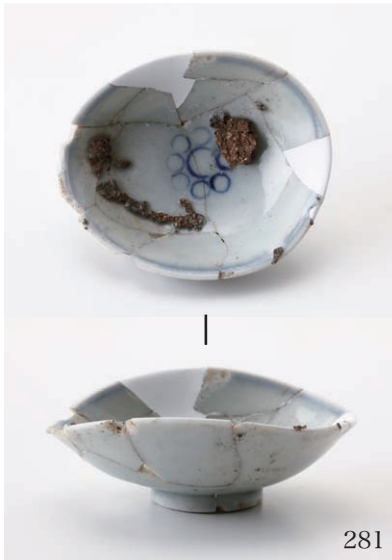


374



389

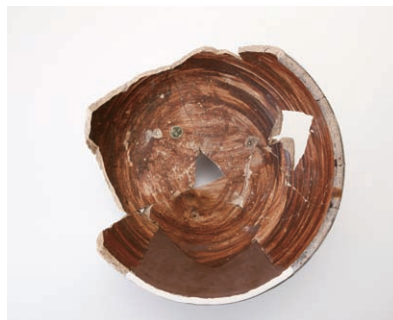
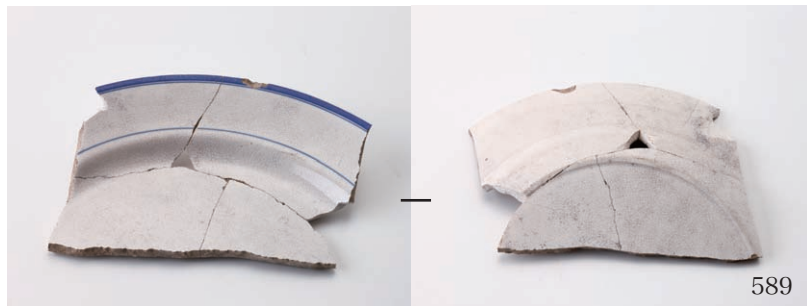












ふりがな	たぎちようこよう						
書名	滝町古窯						
副書名							
巻次							
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号	第180集						
編著者名	武部真木(編集)・堀木真美子						
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161						
発行年月日	西暦2013年3月31日						

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たぎちようこよう 滝町古窯	あいちけんおかざきし 愛知県岡崎市 たぎちよう 滝町	232025	510330	34度 59分 4秒 (世界測地系による)	137度 12分 1秒	2008.4 ～2008.10	400	急傾斜地 崩壊対策 事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
滝町古窯	窯跡	江戸時代	窯体(1基) 物原	近世陶磁器・窯道具類	「東叡山」刻書のある エブタなど

文書番号	発掘届出(20埋セ第1号) 通知(20教生第204号) 終了届(20埋セ第74号) 発見届・保管証(20埋セ第74号) 監査結果通知(20教社第722-1号)
------	---

要約	19世紀第2四半期頃に操業した窯跡の調査。連房式登窯(1基)と物原の一部を確認した。磁器の小型の碗類を中心に焼成しており、製品の特徴や焼成技術などは瀬戸地域の窯跡と共通する部分が多い。天台宗瀧山寺の領内にあり、この寺院が経営に関与していた可能性が高い。
----	--

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第180集

滝町古窯

2013年3月31日

編集・発行 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛 知 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

印 刷 サンメッセ株式会社

